

ハンディターミナル

BT シリーズ

BT 開発・運用ツール

操作マニュアル

Version 2.33



目次

はじめに	7
ソフトウェアの使用許諾契約について	8
用語について	9
関連マニュアル	9
 1. BT 開発・運用ツールの概要	10
1.1. BT-H1A・BT-SH1A に含まれるソフトウェア	10
1.2. 接続構成	10
1.3. 使用環境	11
 2. 開発前の準備	12
2.1. BT 開発・運用ツールのインストール	12
2.2. USB ドライバーのインストール	14
2.2.1. BT-W70/W80/W100 シリーズ	14
2.2.2. BT-1000 シリーズ	16
2.2.3. BT-600 シリーズ	17
 3. 開発の流れ（操作してみましょう）	18
3.1. ハンディアプリの開発方法	18
3.1.1. テンプレート選択	18
3.1.2. 画面レイアウト設定	19
3.1.3. 端末設定	22
3.1.4. シミュレート	23
3.1.5. アプリ転送	24
3.1.6. ハンディアプリの使用方法	26
3.2. PC アプリの開発方法	28
3.2.1. 運用設定	28
3.2.2. PC アプリ編集	30

3.2.3. PC アプリ起動	32
3.2.4. PC アプリ出力	36
3.2.5. PC アプリの使用方法	37

4. BT 開発・運用ツールの操作方法.....39

4.1. BT 開発・運用ツールの各部名称.....39

4.2. 作業フロー.....41

4.2.1. ファイル.....	41
4.2.2. 画面編集・画面遷移.....	43
4.2.3. 端末設定.....	44
4.2.4. シミュレート.....	48
4.2.5. アプリ転送.....	50
4.2.6. 運用設定.....	55
4.2.7. PC アプリ編集.....	61
4.2.8. PC アプリ起動	62
4.2.9. PC アプリ出力	64
4.2.10. オプション	65
4.2.11. サポートページ	69

4.3. 画面リスト（ハンディアプリ）70

4.3.1. テンプレート.....	70
4.3.2. 画面.....	71
4.3.3. ツリー表示	71
4.3.4. サムネイル表示.....	72

4.4. 画面編集・画面遷移（ハンディアプリ）74

4.4.1. 画面編集.....	74
4.4.2. 画面遷移.....	77

4.5. コントロール（ハンディアプリ）78

4.5.1. 入力順	78
4.5.2. 入力完了.....	79
4.5.3. データ出力フォーマット.....	86
4.5.4. ファンクションキー	89
4.5.5. コントロールの追加.....	96

4.6. ライブラリ（ハンディアプリ）97

4.7. プロパティ（ハンディアプリ）98

4.8. 画面リスト (PC アプリ)	99
4.9. 画面編集 (PC アプリ)	101
4.10. ライブラリ (PC アプリ)	108
4.11. プロパティ (PC アプリ)	109

5. ハンディアプリパーツの使用法 110

5.1. ラベル.....	110
5.1.1. ラベル	110
5.1.2. 共有パラメーターラベル.....	115
5.1.3. システムパラメーターラベル.....	119
5.2. ボックス.....	123
5.2.1. テキストボックス	123
5.2.2. 日付入力ボックス	135
5.2.3. ドロップダウンボックス.....	142
5.2.4. チェックボックス	149
5.2.5. ラジオボックス.....	153
5.2.6. ルックアップボックス	158
5.3. ボタン.....	161
5.3.1. ボタン	161
5.3.2. ストップウォッチ	172
5.3.3. 外部アプリ実行ボタン	174
5.4. ビュー.....	183
5.4.1. ピクチャービュー	183
5.4.2. テーブルビュー	186
5.5. コントロール.....	191
5.5.1. アイテム数入力コントロール.....	191
5.5.2. 照合コントロール	193
5.5.3. 検索／表示コントロール.....	198
5.5.4. マスター照合コントロール	207
5.5.5. データファイル送信コントロール	214
5.5.6. マスターファイル受信コントロール.....	216
5.5.7. ブザーコントロール.....	218
5.5.8. LR1 データ出力コントロール	220
5.5.9. カスタムコントロール	223

5.6. ウィンドウ	226
5.6.1. 新規ウィンドウ	226
5.6.2. データファイル送信ウィンドウ	228
5.6.3. マスターファイル受信ウィンドウ	230
5.6.4. 履歴データ表示ウィンドウ	232
5.6.5. アイテムリスト表示ウィンドウ	235
5.6.6. 作業リスト受信ウィンドウ	238
5.6.7. LR1 接続ウィンドウ	242
5.6.8. 照合 NG ウィンドウ	245
5.6.9. トップメニューウィンドウ	248
5.6.10. 通信エラー結果ウィンドウ	254

6. PC アプリパーツの使用法 257

6.1. ラベル	257
6.1.1. ラベル	257
6.1.2. 計算ラベル	262
6.2. ボックス	267
6.2.1. 検索入力ボックス	267
6.3. ボタン	276
6.3.1. 在庫調整ボタン	276
6.3.2. ファイル出力ボタン	283
6.3.3. 帳票印刷ボタン	288
6.3.4. クリアボタン	294
6.3.5. フィルターボタン	299
6.4. ビュー	305
6.4.1. ピクチャービュー	305
6.4.2. 進捗テーブルビュー	308
6.4.3. 進捗グラフビュー	313
6.5. 画面構成要素	322
6.5.1. ウィンドウ	322
6.5.2. シート	325
6.5.3. テーブル	333
6.5.4. PC アプリ	343

7. 作成したアプリの使用法 346

7.1. ハンディアプリの使用方法	346
7.1.1. BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズ	346
7.1.2. BT-600/1000 シリーズ	349
7.2. PC アプリの使用方法	351
7.3. 通信ソフトの使用方法	353

8. テンプレートの使用方法 **366**

8.1. ポカよけ	366
8.1.1. ハンディアプリ	366
8.1.2. PC アプリ	368
8.2. 入出庫	369
8.2.1. ハンディアプリ	369
8.2.2. PC アプリ	371
8.3. 棚卸し	372
8.3.1. ハンディアプリ	372
8.3.2. PC アプリ	373
8.4. 実績収集	374
8.4.1. ハンディアプリ	374
8.4.2. PC アプリ	375
8.5. ピッキング	376
8.5.1. ハンディアプリ	376
8.5.2. PC アプリ	378

9. 技術 Tips **380**

9.1. カスタムモード	380
9.2. BT-H10W で開発したアプリケーションを呼び出す方法	382
9.3. 運用シチュエーションに応じた設定方法	383
9.3.1. 端末マスターファイルの自動更新	383
9.3.2. WakeUp モードを使用した運用	384

はじめに

本マニュアルは、ハンディターミナルで使用するハンディアプリの開発手順と、開発に使用するソフトウェアの操作方法について説明しています。ハンディターミナルで使用するハンディアプリを開発する場合には、このマニュアルをよくお読みいただき、十分に理解した上でご使用ください。

- ・ Windows、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Windows の正式名称は Windows® operating system です。
- ・ Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- ・ microSD™ は SD Card Association の商標です。
- ・ ヒラギノは株式会社 SCREEN ホールディングスの登録商標です。
- ・ 本マニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。

ソフトウェアの使用許諾契約について

本ソフトウェアは、お客様が以下のソフトウェア使用許諾契約（以下「本契約」といいます）にご同意いただけることが、ご使用の条件となっております。お客様が本ソフトウェアの全部または一部を使用または複製した場合、本契約のすべての条項にご同意いただいたものとし、本契約は成立します。

第1条（使用権の許諾）

1. お客様における本契約の遵守を条件として、株式会社キーエンス（以下「当社」といいます）は、お客様に本ソフトウェアの非独占的な使用権を許諾します。
2. お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピューターにインストールすることができます。また、本ソフトウェアをインストールした1台のコンピューターは、複数のユーザーにご使用いただくことができます。

第2条（複製の制限）

お客様は、本ソフトウェアのバックアップを保有する目的でのみ、1回に限り、本ソフトウェアを複製できます。

第3条（禁止事項）

本ソフトウェアについて、お客様における以下の行為を禁止します。

- a. 本ソフトウェアの機能の一部または全部を取り出し、複製、変更、追加する等の改変行為。ただし、当社が提供する更新プログラムや追加機能のインストール等、当社より明示的に許諾されている行為を除く。
- b. 逆コンパイルまたは逆アセンブル等、本ソフトウェアを解析するための一切のリバースエンジニアリング行為。
- c. 本ソフトウェアおよび当社より提供された本ソフトウェアのライセンスキー等を、第三者に対して再販売、譲渡、再配布、使用許諾、レンタル、リース等する行為。ただし、当社より事前に了承を得ている場合を除く。

第4条（著作権）

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアのマニュアル等に関する著作権は、当社または当社に使用許諾をしている第三者に帰属します。

第5条（免責）

当社は、本ソフトウェアを使用した結果により生じた、お客様もしくは第三者の損害に対して、いかなる責任も負いません。

第6条（サポート）

当社は本契約に基づき、本ソフトウェアに関するお客様の質問事項等について、技術サポートを提供します。ただし、当社の技術サポートによって、お客様の目的が達成されることをお約束するものではありません。

第7条（契約の終了）

1. お客様が本ソフトウェアおよび複製物を破棄する等の手段によって、本ソフトウェアの使用を中止した時点をもって、本契約は自動的に終了するものとします。
2. お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合は、当社は本契約を一方的に解除することができます。この場合、本ソフトウェアおよび複製物は、直ちに当社へ返却または破棄していただくものとします。
3. お客様が本契約に違反したことに起因して、当社に損害が生じた場合は、お客様は当該損害を当社に賠償するものとします。

第8条（根拠法令）

本契約は、日本国法に準拠するものとします。

※本製品は、マイクロソフト株式会社の再頒布可能コードが含まれています。

再頒布可能コードのご使用には以下の使用許諾にも同意して頂く必要があります。

- (i) 使用範囲を広げた再頒布可能コードに重要かつ主要な機能を追加するエンドユーザーが開発したソフトウェア製品と共におよびその一部として、その再頒布可能コードをオブジェクトコードでのみ頒布しなければなりません。
- (ii) エンドユーザーのアプリケーションの販売にあたり、マイクロソフトの商号、ロゴまたは商標を使用することはできません。
- (iii) エンドユーザーのアプリケーションに有効な著作権表示を付さなければなりません。
- (iv) エンドユーザーのアプリケーションの使用または頒布の結果から生じる紛争、または訴訟について、マイクロソフトを免責、保護、補償するものとします(弁護士費用についての免責、保護、補償も含まれます)。

エンドユーザーのアプリケーションのユーザーに、使用範囲を広げた再頒布可能コードの再頒布を許可しないものとします。

用語について

用語は以下の通りです。

開発 PC	: 開発で使用するパソコン
運用 PC	: 運用で使用するパソコン
BT シリーズ	: BT-W100 シリーズ、BT-W80 シリーズ、BT-W70 シリーズ : BT-W200 シリーズ、BT-W300 シリーズ、BT-1000 シリーズ、BT-600 シリーズ
ハンディアプリ	: ハンディターミナル上で動作するアプリケーション
PC アプリ	: データベースを閲覧、管理するための PC アプリケーション
通信ソフト	: データを送受信するための PC アプリケーション

関連マニュアル

次のマニュアルを合わせてお読みください。

マニュアルの種類	マニュアルの内容
取扱説明書	BT-W シリーズの仕様、各部名称、梱包物や使用上の注意、取り扱い方法、外形寸法などについて記述しています。
ファーストステップガイド	開発者向けに SDK インストール方法から実際に動かすまでの一連の流れや PC シミュレータ、端末リモートコントロールの操作方法を記述しています。BT-WHD1 で組み込みアプリケーションを開発する際、最初にお読みください。
ソフトウェアマニュアル	端末のソフトウェア機能について仕様を記述しています。
システムメニューマニュアル	システムメニューの説明、設定方法について記述しています。

1. BT 開発・運用ツールの概要

BT 開発・運用ツールは、ハンディターミナルで動作するアプリケーション（以下、ハンディアプリ）と PC で動作するデータ表示・閲覧用のアプリケーション（以下、PC アプリ）を簡単に作成できるソフトウェアです。BT 開発・運用ツールは BT-H1A、および BT-SH1A（試用版）に含まれています。

1.1. BT-H1A・BT-SH1A に含まれるソフトウェア

BT-H1A・BT-SH1A（試用版）には、以下のソフトウェアが含まれています。

BT 開発・運用ツール

ハンディアプリを簡単に作成できるソフトウェアです。

通信ソフト

データを送受信するためのソフトウェアです。

USB ドライバー

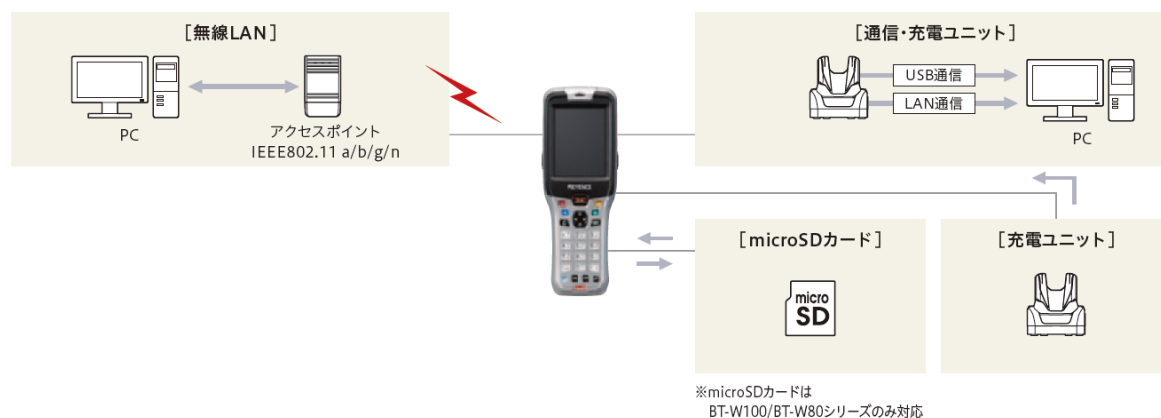
USB 通信ユニット経由で通信する場合にインストールが必要です。

BT-SH1A（試用版）には以下の制限があります。

- ・ソフトウェアのバージョンアップはできません。
- ・BT 開発・運用ツールに 30 日の使用制限があります。
- ・BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリは起動時に「このアプリケーションは試用版です。」と表示され、レジューム設定が無効、オートパワーオフは 5 分固定となります。

1.2. 接続構成

BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリは、以下の機器に接続できます。



1.3. 使用環境

BT-H1A の使用環境は、以下のとおりです。

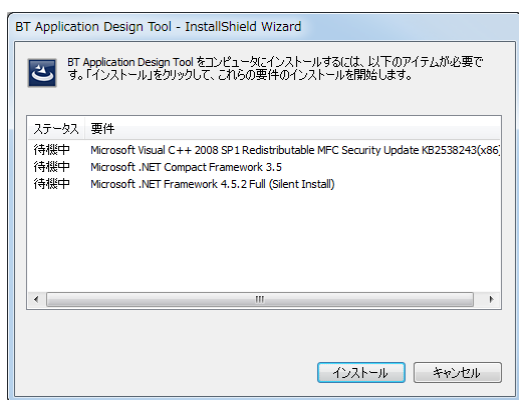
項目	内容
ハンディターミナル	BT-W300／W200 シリーズ BT-W100／W100G／W100GM／W100GW BT-W155／W155G／W155GM／W155GW BT-W80／W80G／W80GM／W80GW BT-W85／W85G／W85GM／W85GW／W85T BT-W70／W70G／W70GM／W70GW BT-W75／W75G／W75GM／W75GW → 本体ファームウェア V4.300 以上 BT-1010／1010B／1010W／1010WB／1010WBG／10110WBGM／1010WBGW BT-1550／1550WB／1550WBG／1550WBGM／1550WBGW → 本体ファームウェア V2.000 以上 ※スマートブラウザ版のファームウェアには対応していません。 BT-600／600B／600C → 本体ファームウェア V2.000 以上
開発 PC の OS	Windows 7 Professional (32bit／64bit)
	Windows 8 Professional (32bit／64bit)
	Windows 8.1 Professional (32bit／64bit)
	Windows 10 Professional (32bit／64bit)
運用 PC の OS	Windows 7 Professional (32bit／64bit)
	Windows 8 Professional (32bit／64bit)
	Windows 8.1 Professional (32bit／64bit)
	Windows 10 Professional (32bit／64bit)
	Windows Server 2008 R2 (64bit)
	Windows Server 2012／2012 R2 (64bit)
	Windows Server 2016 (64bit)
推奨 PC スペック	CPU Intel Core i5 2.60GHz 以上
	メモリー 4GB 以上
	ディスプレイ 1366×768 以上
	ハードディスク 空き容量 1GB 以上

2. 開発前の準備

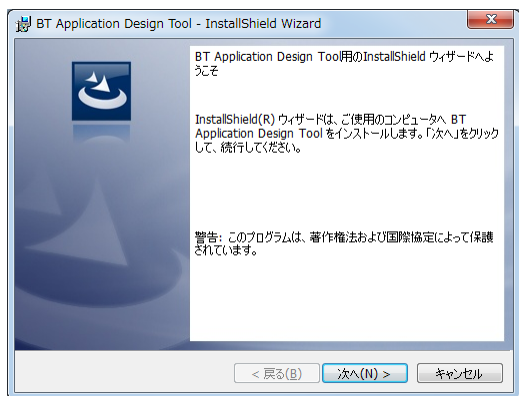
BT 開発・運用ツールを使用する前の準備について説明します。

2.1. BT 開発・運用ツールのインストール

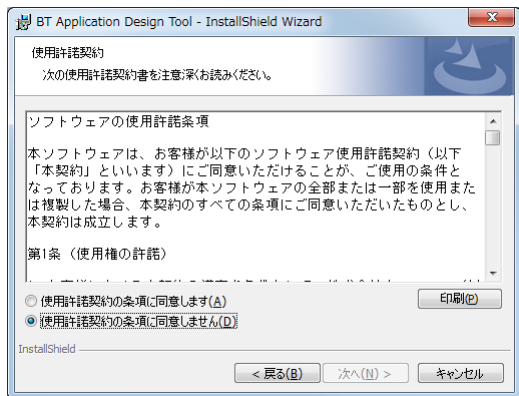
1. BT-H1A の CD 内にある BTApplicationDesignTool フォルダ内の setup.exe を実行します。
2. BT 開発・運用ツールを使用する上で必要なアイテムのインストール画面が表示されるので、「インストール」ボタンを押下します。※PC 環境によってインストールされるアイテムが異なる場合があります。



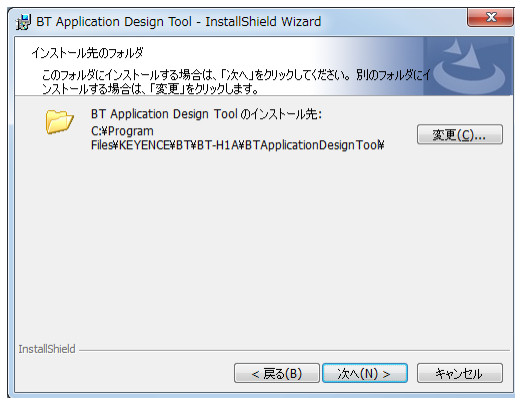
3. 下記のような画面が表示されるので、「次へ(N)>」ボタンを押下します。



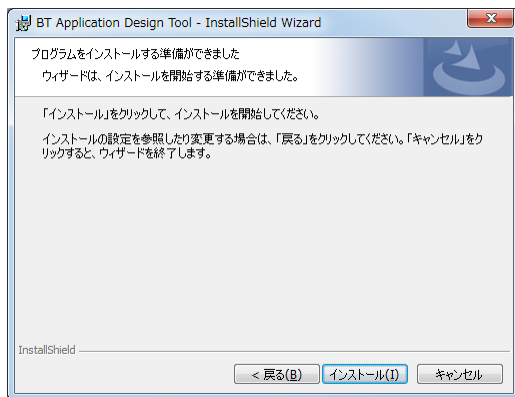
4. 使用許諾契約書の画面が表示されるので、内容を確認し同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意します(A)」にチェックを入れて「次へ(N)>」ボタンを押下します。



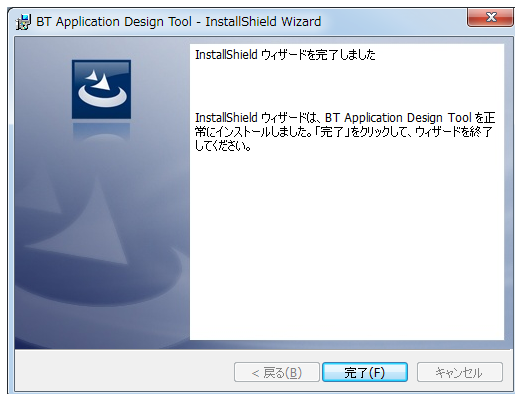
5. インストール先のフォルダーが表示されるので、必要に応じて変更して「次へ(N)>」ボタンを押下します。



6. 「インストール(I)」ボタンを押下して、インストールを開始します。



7. インストールが完了すると画面が表示されるので、「完了(F)」ボタンを押下します。



2.2. USB ドライバーのインストール

BT-H1A の V2.20 以降では、BT 開発・運用ツールのインストール時に USB ドライバーも併せてインストールされるので、下記のインストールは不要です。BT-H1A の V2.10 以前では、USB 通信ユニット経由で通信する場合に、USB ドライバーのインストールが必要ですので、以下の手順で USB ドライバーをインストールしてください。

2.2.1. BT-W70/W80/W100 シリーズ

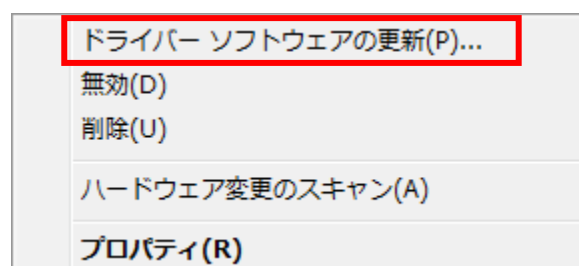
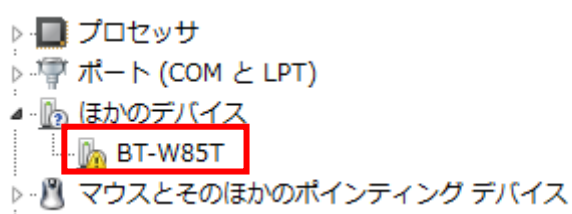
1. ハンディターミナルの通信ユニットの設定を「COM」に変更します。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」 からシステムメニューを起動します。

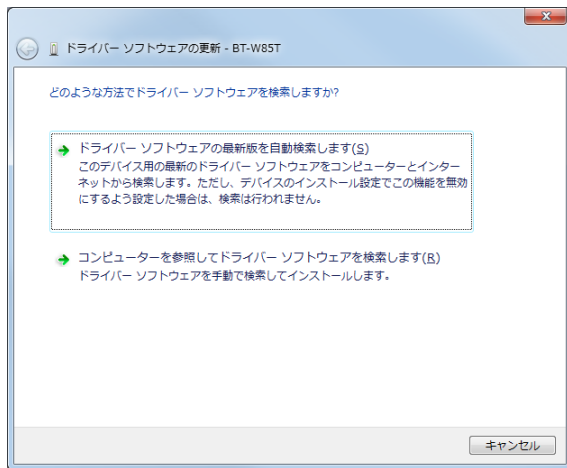
システムメニューの「2.通信設定 ⇒ 3.通信ユニット ⇒ 1.接続」から、接続タイプを 「USB 通信ユニット」の「COM」に変更して OK を押下します。



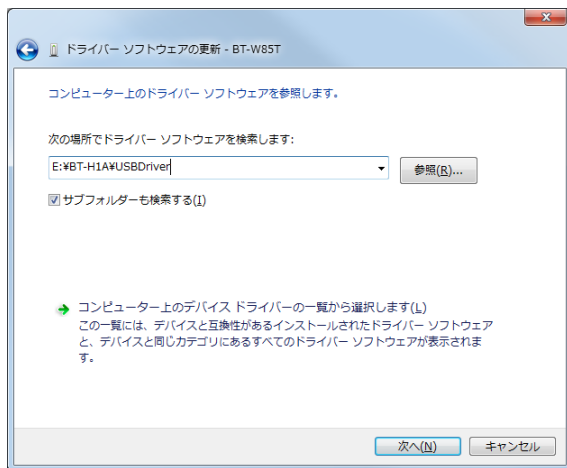
2. USB 通信ユニットにハンディターミナルを置き、USB 通信ユニットと PC を USB ケーブルで接続します。
3. デバイスマネージャーを起動します。
4. デバイスマネージャーの画面で「他のデバイス」に「BT-Wxxx (xxx:型式名)」と表示されるので、右クリックして「ドライバーソフトウェアの更新」を選択します。



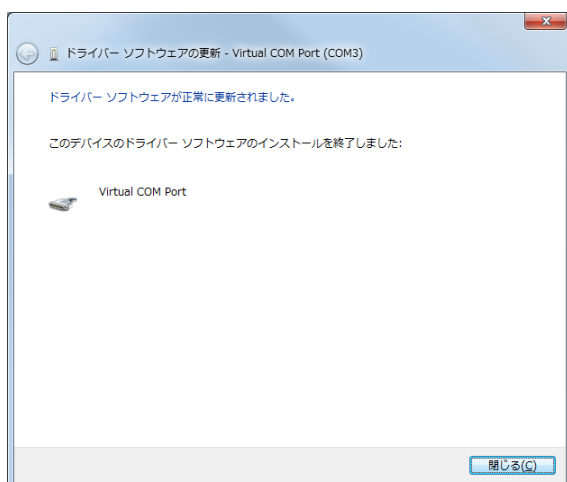
5. 「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します(R)」を選択します。



6. 「参照(R)…」をクリックして、BT-H1A 内の「USBDriver」>「BT-W70_W80_W100」フォルダーを選択し、「次へ(N)」を押下します。

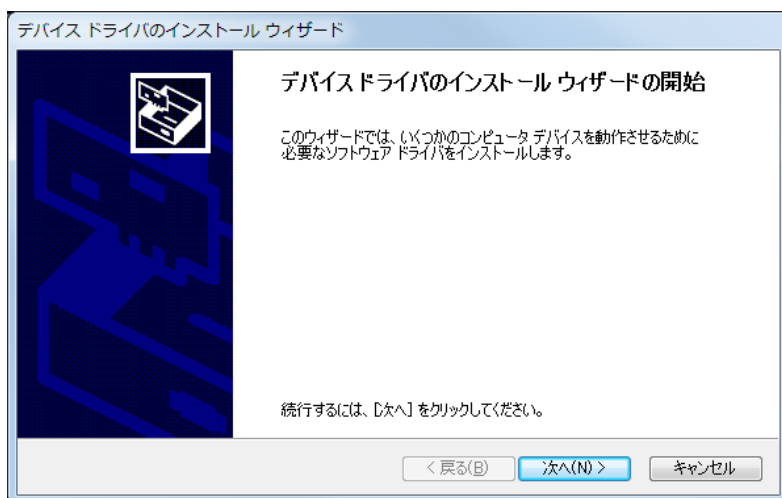


7. インストールが完了すると画面が表示されるので、「閉じる(C)」を押下します。

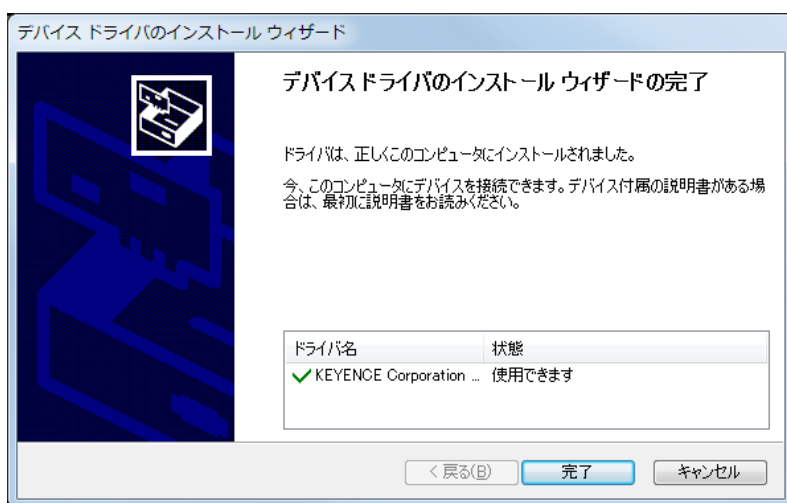


2.2.2. BT-1000 シリーズ

1. BT-H1A 内の[USBDriver]>[BT-1000_1500]フォルダーにある[Installer.bat]を実行します。
2. 下記のようなウィザードが表示されます。「次へ(N)」を押下します。



3. インストールが完了すると画面が表示されるので、「完了」を押下します。



4. USB 通信ユニットとパソコンを USB ケーブルで接続してしばらく待つと、以下のようなダイアログが表示され、インストールが完了します。

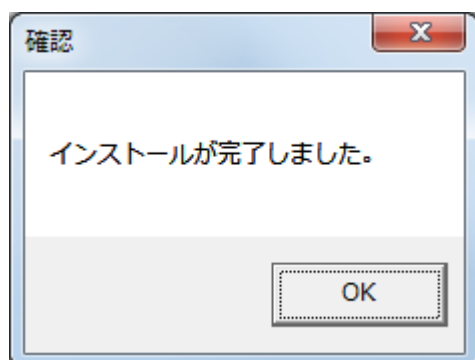


2.2.3. BT-600 シリーズ

1. BT-H1A 内の[USBDriver]>[BT-600]フォルダーにある[UC6UDriverInst.exe]を実行します。
2. 以下のようなダイアログが表示されます。USB 通信ユニットとパソコンを USB ケーブルで接続します。



3. しばらく待つと、以下のダイアログと表示されインストールが完了します。[OK]を押下します。



3. 開発の流れ（操作してみましょう）

棚卸しのテンプレートを元に、BT 開発・運用ツールを使用した大まかな開発の流れを説明します。

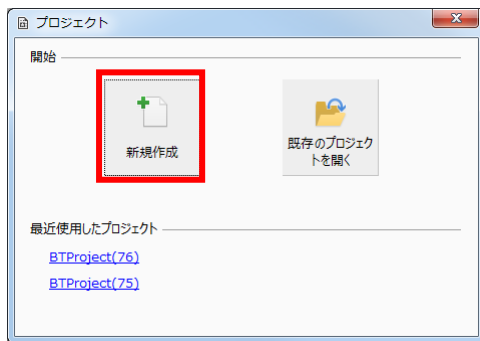
手順に沿って実際に操作してみましょう。それぞれの項目の詳細につきましては、4 章以降を参照してください。

3.1. ハンディアプリの開発方法

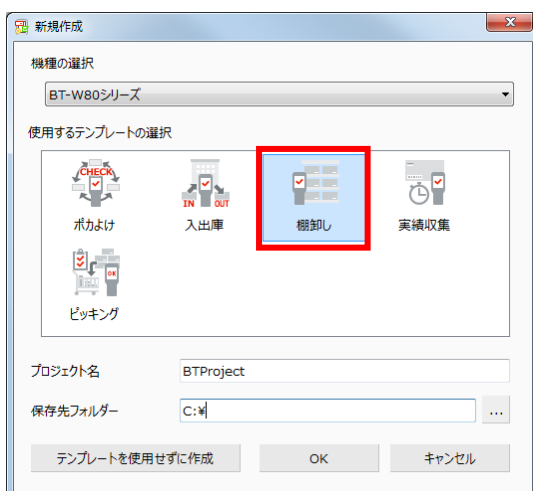
3.1.1. テンプレート選択

1. BT 開発・運用ツール（BTApplicationDesignTool）を起動します。

2. 「新規作成」を選択します。



3. 開発する対象機種と、使用するテンプレートを選択します。ここでは対象機種に「BT-W80 シリーズ」と、テンプレートに「棚卸し」を選択します。その後、プロジェクト名と保存先フォルダーを決定し、「OK」ボタンを押下します。



4. 棚卸しテンプレートが展開されます。

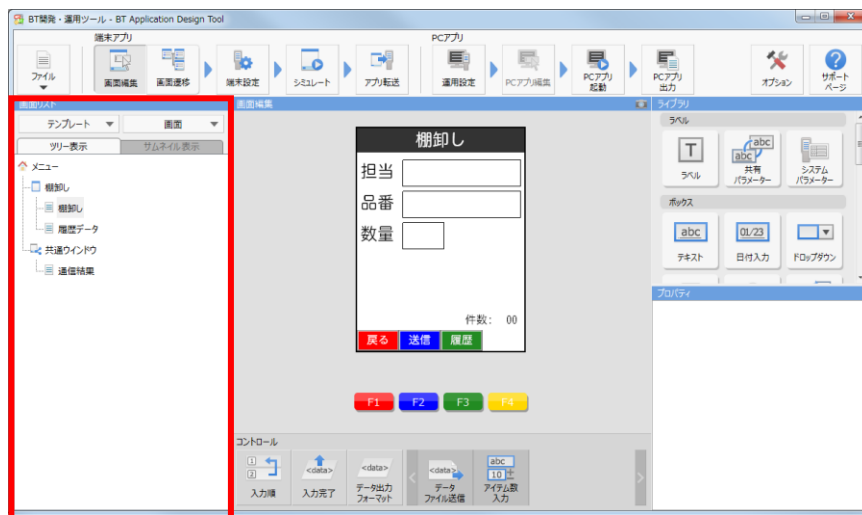
3.1.2. 画面レイアウト設定

詳細については「[4.BT 開発・運用ツールの操作方法](#)」を参照してください。

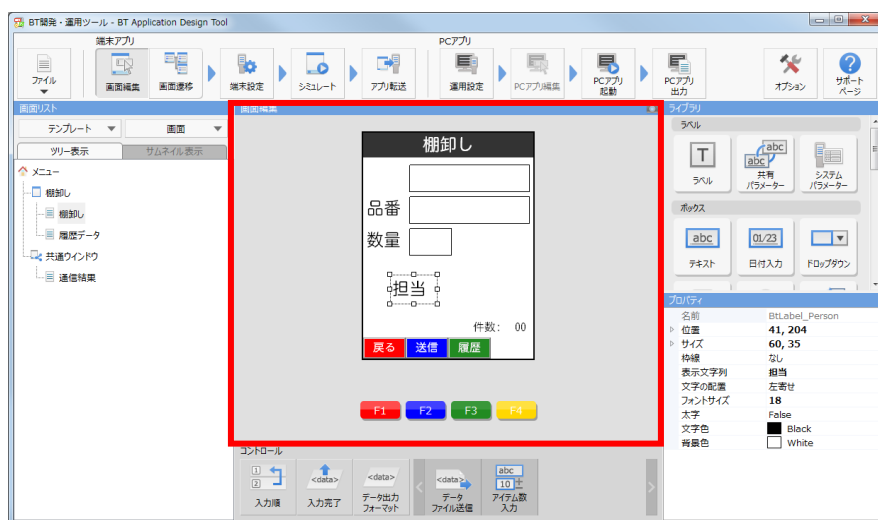
要件に応じてハンディアプリの画面や動作をカスタマイズします。

カスタマイズしない場合は、「[4.3.端末設定](#)」に進んでください。

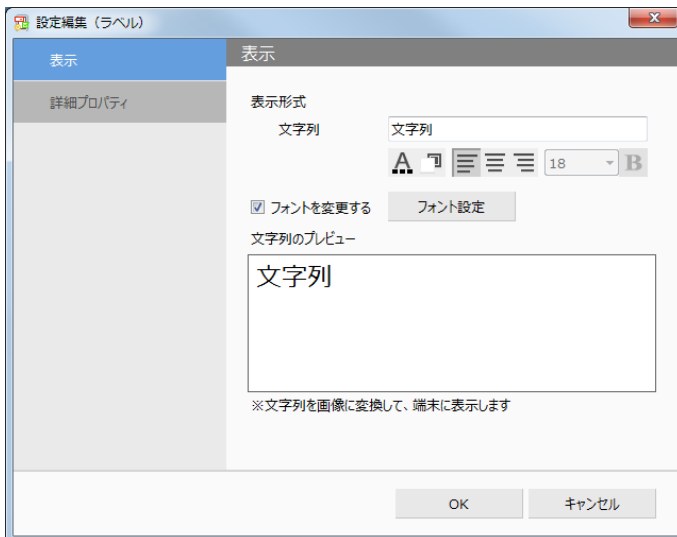
1. 「画面リスト」の「ツリー表示」で、カスタマイズする画面を選択します。



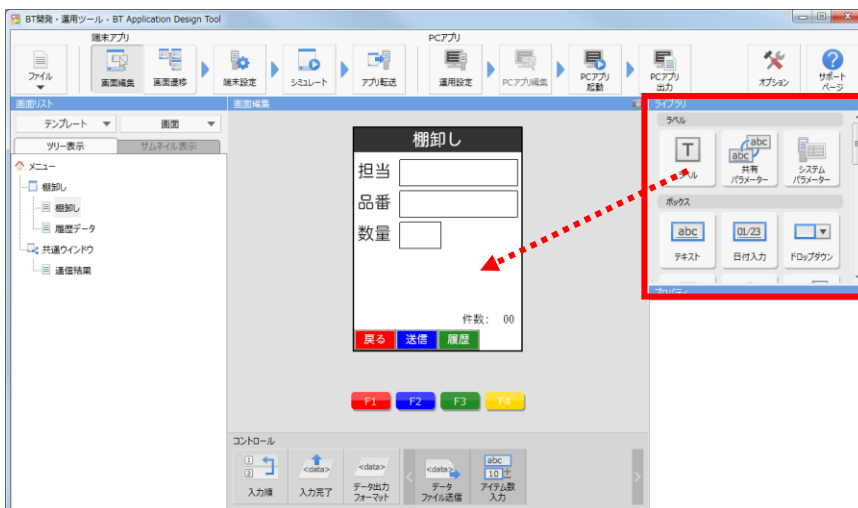
2. 「画面編集」のそれぞれの GUI パーツは、ドラッグ&ドロップで自由に移動できます。



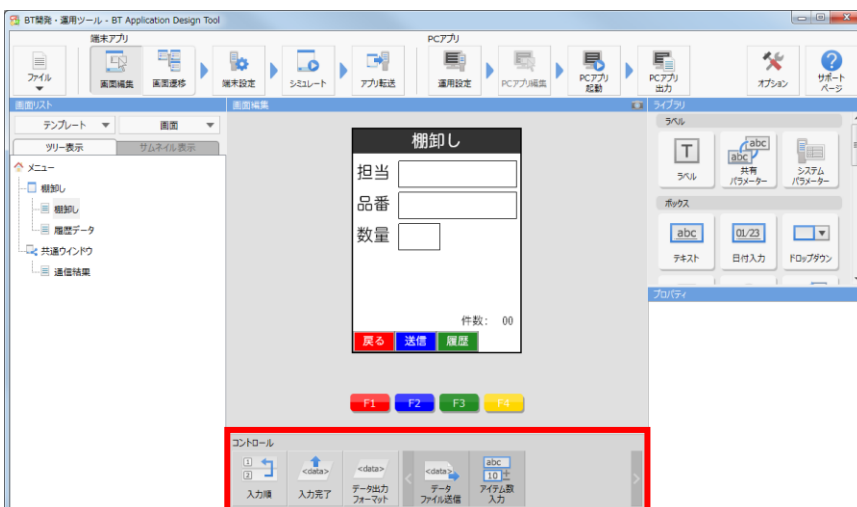
3. それぞれの GUI パーツをダブルクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示され設定編集できます。



4. 「ライブラリ」からドラッグ&ドロップでパーツを追加できます。

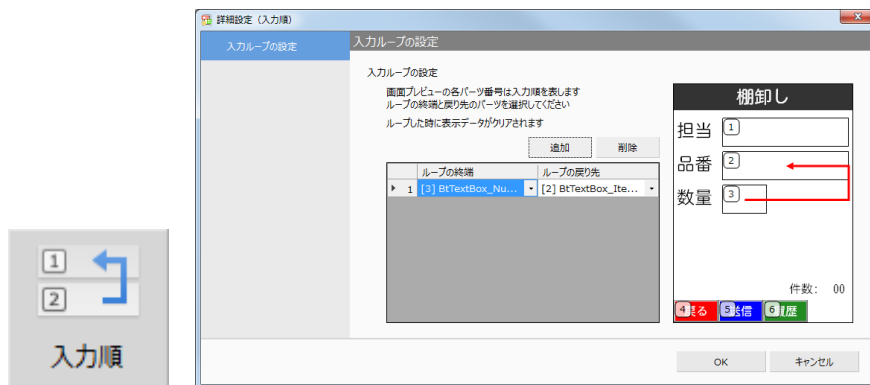


5. 「コントロール」の「入力順」「入力完了」「データ出力フォーマット」を必要に応じて設定します。



「入力順」について

連続入力するときのループ設定ができます。ループの終端と戻り先を選択します。



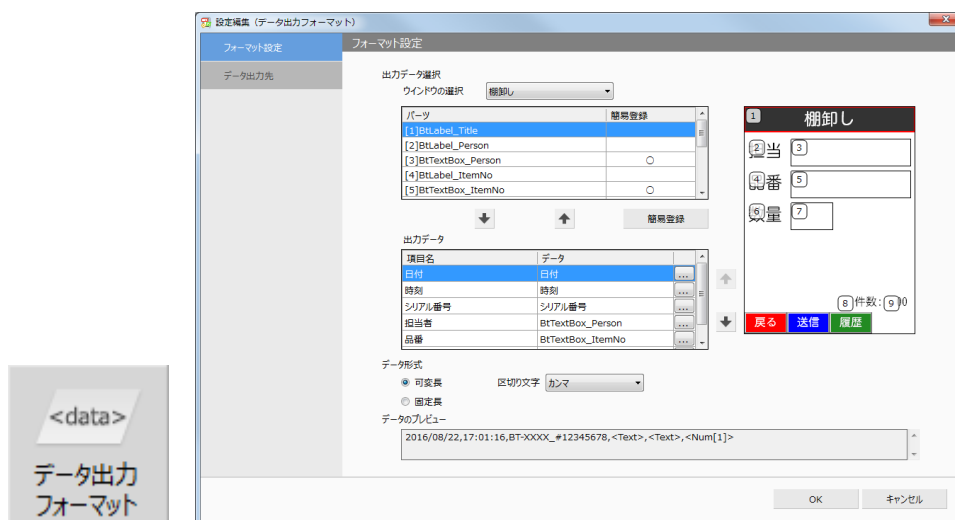
「入力完了」について

画面の入力完了時のタイミングと連動する動作を選択します。



「データ出力フォーマット」について

データを出力するときのフォーマットや、出力先を設定します。



6. 上記の設定を組み合わせ、要件に応じて画面レイアウトをカスタマイズします。

詳細設定については「[4.BT 開発・運用ツールの操作方法](#)」を参照してください。

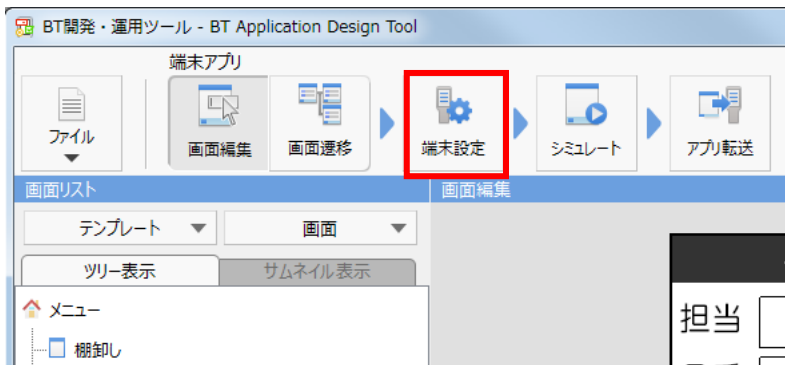
3.1.3. 端末設定

詳細については「[4.2.3.端末設定](#)」を参照してください。

要件に応じて、画面の明るさや電源オフ時の制御、通信経路などを設定します。

設定しない場合は、「[3.1.4.シミュレート](#)」に進んでください。

1. BT 開発・運用ツール上部の「端末設定」ボタンを押下します。



2. 以下のような画面が表示されるので、必要に応じて設定します。

基本設定・・・起動方法、画面の明るさ、画面の表示、電源オフ時の制御を設定します。

通信設定・・・通信先 PC の IP や、通信経路などを設定します。

動作設定・・・キー／画面タッチの操作音や、読取時の動作などについて設定します。

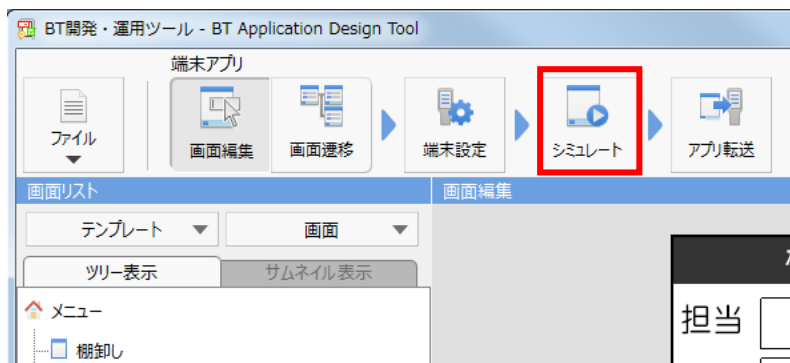


3.1.4. シミュレート

詳細については「[4.2.4 シミュレート](#)」を参照してください。

BT 開発・運用ツールで開発したハンディアプリを、PC 上でシミュレートします。

1. BT 開発・運用ツール上部の「シミュレート」ボタンを押下します。



2. 以下のような画面が表示されるので、ハンディアプリの動作を確認します。



3.1.5. アプリ転送

詳細については「[4.2.5.アプリ転送](#)」を参照してください。

BT 開発・運用ツールで開発したハンディアプリを、USB 通信ユニット経由でハンディターミナルに転送します。

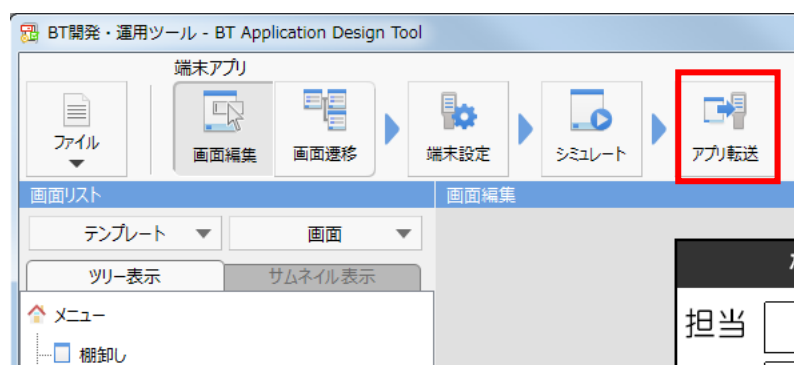
※事前に USB ドライバーのインストールが必要です。※参照「[2.2.USB ドライバーのインストール](#)」

1. ハンディターミナルを USB 通信ユニットにセットします。

2. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。システムメニューの「6.通信待受」で、通信経路を「USB 通信ユニット (COM)」、通信先ソフトの選択を「BT シリーズ データ転送ソフト」にして、「待受開始」ボタンを押下してください。

3. BT 開発・運用ツール上部の「アプリ転送」ボタンを押下します。



4. 以下のような画面が表示されるので、通信設定を「USB 通信ユニット」、プルダウンで「COM* (BT-W シリーズ)」を選択します。



5. 転送方法を選択し、「転送」ボタンを押下します。

フォルダーを開く リスト更新

☒ 端末設定/端末アプリケーション転送後に端末を再起動する

☐ 端末アプリケーション転送後に端末アプリケーションを起動する (キオスクモード推奨)

☐ 端末アプリケーションを転送する

転送 閉じる

・「**端末設定／端末アプリケーションを転送後に端末を再起動する**」

初回転送時は必ず選択します。その他は「[3.1.3.端末設定](#)」の内容を変更した場合に選択します。

・「**端末アプリケーション転送後に端末アプリケーションを起動する (キオスクモード推奨)**」

ハンディアプリを転送後、ハンディアプリを自動的に起動します。

手動ではハンディアプリを起動できないキオスクモードで使用します。

※キオスクモードは「[3.1.3.端末設定](#)」の「アプリ起動方法」で選択できます。

・「**端末アプリケーションを転送する**」

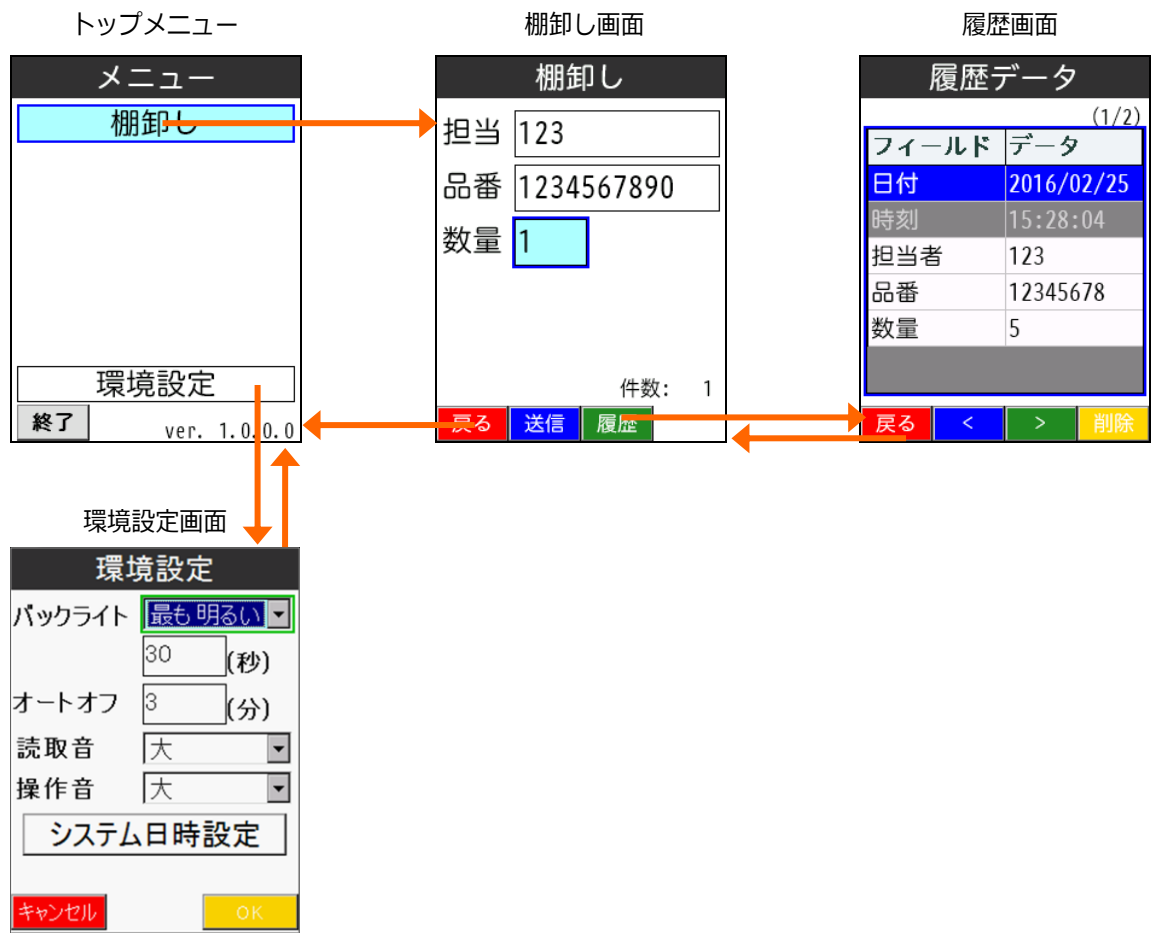
ハンディアプリを転送します。開発中の動作確認など転送に時間をかけたくない場合に使用します

3.1.6. ハンディアプリの使用方法

※詳細については「[8.3.1.ハンディアプリ](#)」を参照してください。

1. ハンディターミナルの「PW」キーを押下し、電源を起動します。
2. デスクトップ画面の「HTApplication」を起動すると、設定したハンディアプリが立ち上がります。
以下の説明を参考に動作を確認してください。

■画面遷移



■棚卸し画面

棚卸し	
担当	123 ①
品番	1234567890 ②
数量	1 ③
件数: 1	
戻る	送信 履歴

以下の順番で入力します。③を入力後、②に戻ります。

- ①担当者コードを入力
- ②品番コードを入力
- ③数量を入力

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/2)	
フィールド	データ
日付	2016/02/25
時刻	15:28:04
担当者	123
品番	12345678
数量	5

戻る
<
>
削除

出力したデータの履歴を確認できます。

画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・棚卸し画面に戻ります。

「<」・・・1 件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1 件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1 件か全件削除するか選択できます。

■環境設定画面

環境設定	
バックライト	最も明るい 30 (秒)
オートオフ	3 (分)
読取音	大
操作音	大
日時設定	

キャンセル
OK

バックライト・・・液晶のバックライトの輝度と、

省電状態になるまでの時間を設定します。

オートオフ・・・無操作時に電源オフ状態になるまでの時間を設定します。

読取音・・・バーコードをスキャンしたときの音の大きさを設定します。

操作音・・・キー操作音、タッチパネル音の大きさを設定します。

日時設定・・・ハンディターミナルの日時を設定します。

「キャンセル」・・・設定をキャンセルします。

「OK」・・・設定を確定します。

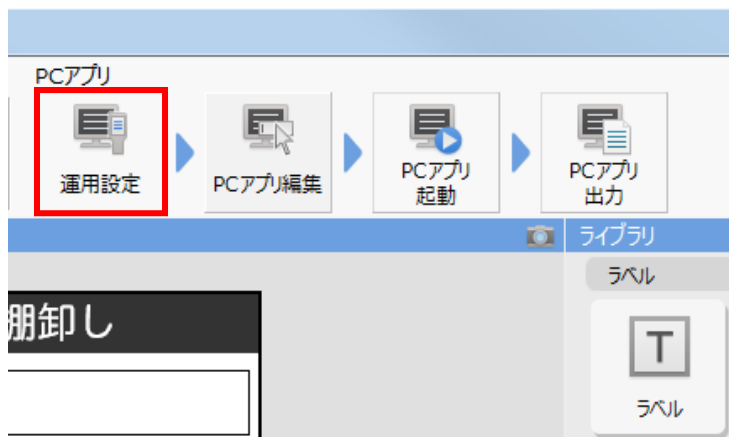
3.2. PC アプリの開発方法

3.2.1. 運用設定

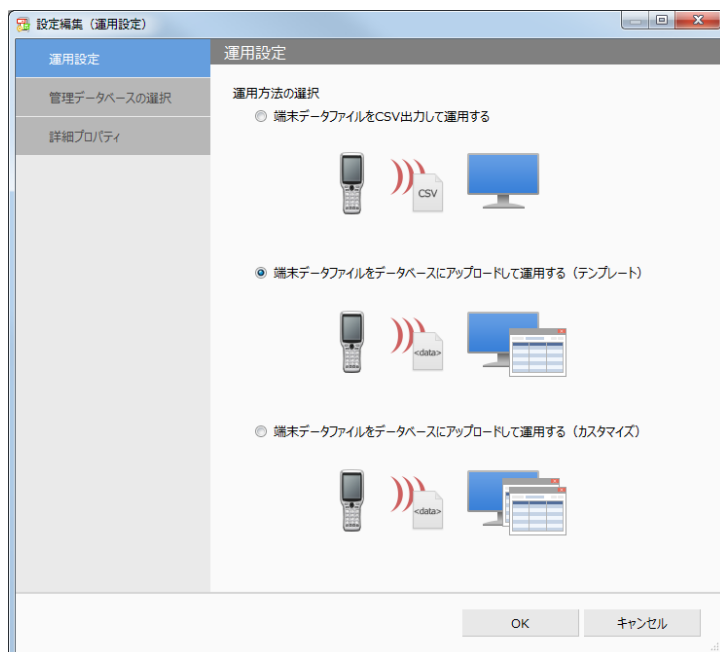
※詳細については「[4.2.6.運用設定](#)」を参照してください。

ハンディターミナルで取得したデータの運用方法を設定します。

1. BT 開発・運用ツール上部の「運用設定」ボタンを押下します。



2. 以下のような画面が表示されるので、運用方法を選択します。



■各運用設定について

端末データファイルを CSV 出力して運用する

ハンディターミナルから PC に CSV ファイルをアップロードします。

端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）

ハンディターミナルのデータは BT 開発・運用ツール専用のデータベースにアップロードされます。データは PC アプリで確認できます。テンプレートのデータフォーマットを変更していない場合や、PC アプリにパーツを追加しない場合に選択します。「PC アプリ編集」ボタンが有効になります。

端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）

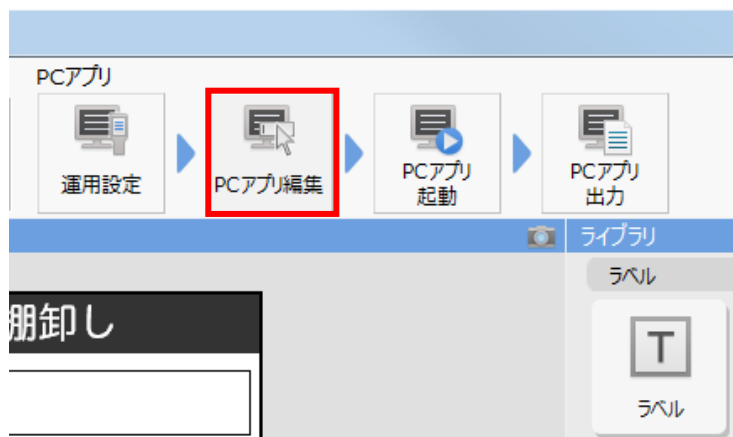
ハンディターミナルのデータは BT 開発・運用ツール専用のデータベースにアップロードされます。データは PC アプリで確認できます。テンプレートのデータフォーマットを変更した場合や、PC アプリにパーツを追加する場合に選択します。「PC アプリ編集」ボタンが有効になります。

3.2.2. PC アプリ編集

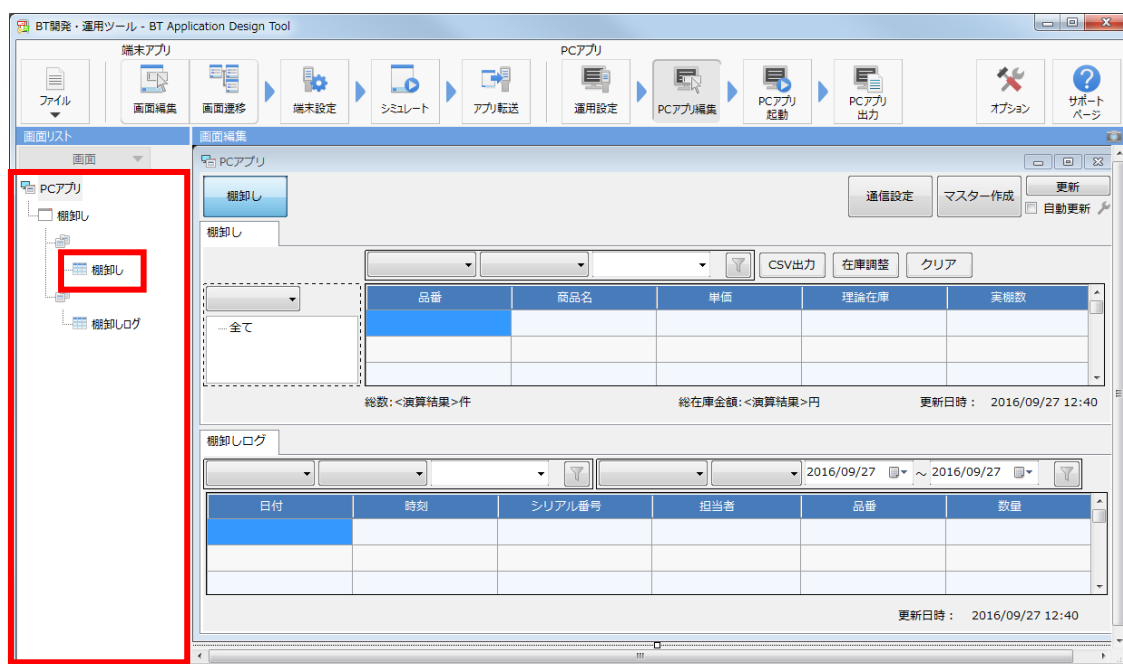
※詳細については「[4.2.7.PC アプリ編集](#)」を参照してください。

PC アプリの表示や動作などを設定します。

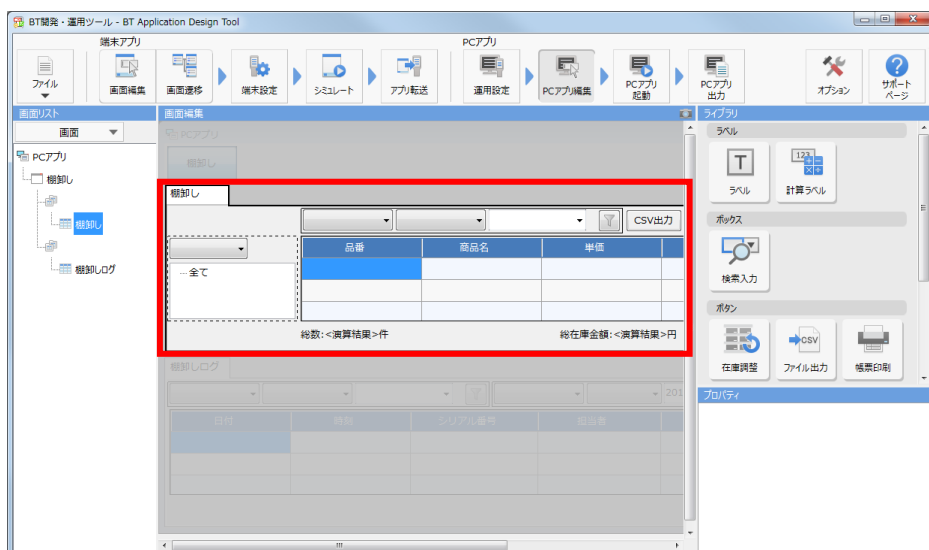
1. BT 開発・運用ツール上部の「PC アプリ編集」ボタンを押下します。



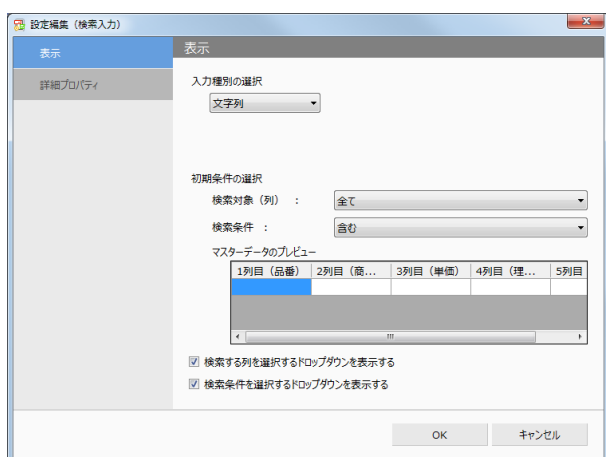
2. 「画面リスト」の「ツリー表示」でカスタマイズする画面（シート）を選択します。



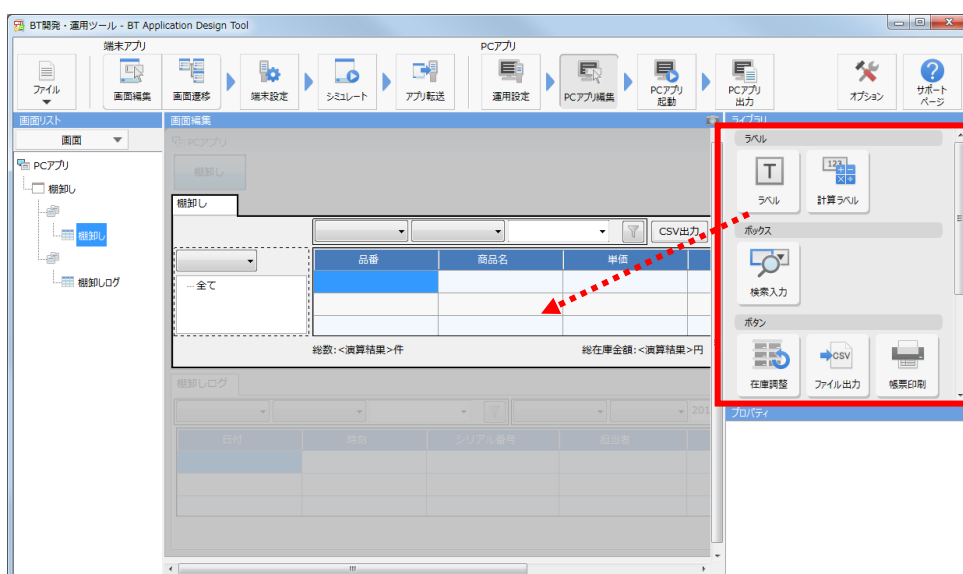
3. シート上に配置されているパーツは、ドラッグ&ドロップで自由に移動できます。



4. それぞれの GUI パーツをダブルクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示され設定編集できます。



5. 「ライブラリ」からドラッグ&ドロップでパーツを追加できます。



6. 上記の方法で、要件に応じて画面を設定していきます。詳細については「[4.9.画面編集 \(PC アプリ\)](#)」を参照してください。

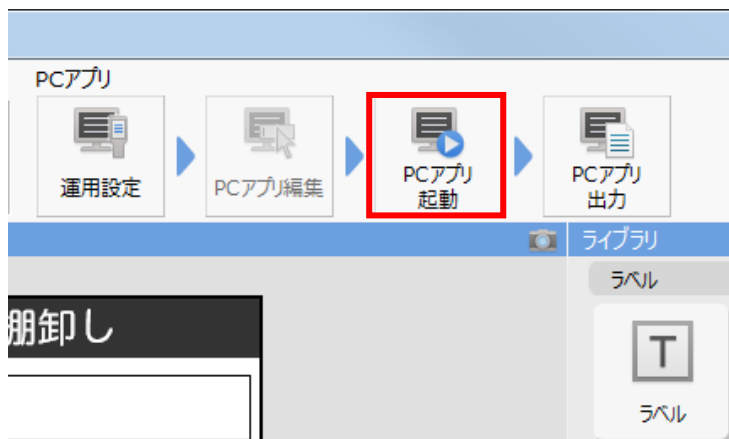
3.2.3. PC アプリ起動

※詳細については「[4.2.8.PC アプリ起動](#)」を参照してください。

ハンディターミナルに転送したハンディアプリと、通信ソフトおよび PC アプリとの、連動テストを実施する際に使用します。

■「端末データファイルを CSV 出力して運用する」を選択した場合

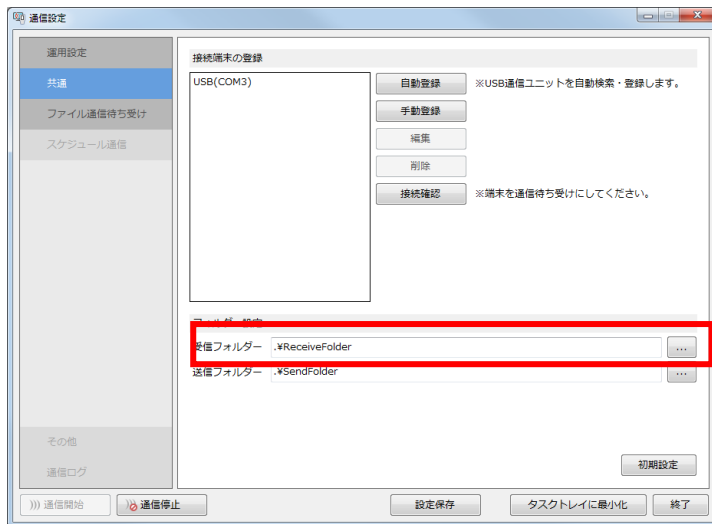
1. BT 開発・運用ツール上部の「PC アプリ起動」ボタンを押下します。



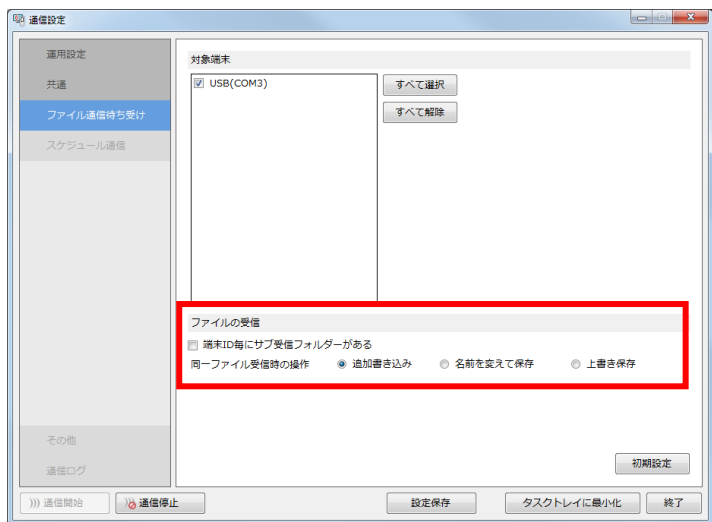
2. 通信ソフトが起動します。「端末からの通信を待ち受ける」を選択します。



3. 画面左の「共通」を選択し、CSV ファイルを受信するフォルダーを設定します。



4. 画面左の「ファイル通信待ち受け」を選択し、「同一ファイル受信時の操作」を設定します。



同一ファイル受信時の操作について

・追加書き込み

ファイルのデータの末尾に、新しいデータを追加して保存します。

・名前を変えて保存

ファイル名の末尾に数字を追加して、新しいファイルとして保存します。ファイル名を「InventoryLog.csv」とした場合、「InventoryLog~1.csv」から順番に「InventoryLog~2.csv」「InventoryLog~3.csv」・・・のようにファイル名を変えて保存します。

・上書き保存

以前のファイルに上書き保存します。

5. ハンディターミナルでデータを入力・送信します。正常にデータがアップロードされるか確認します。

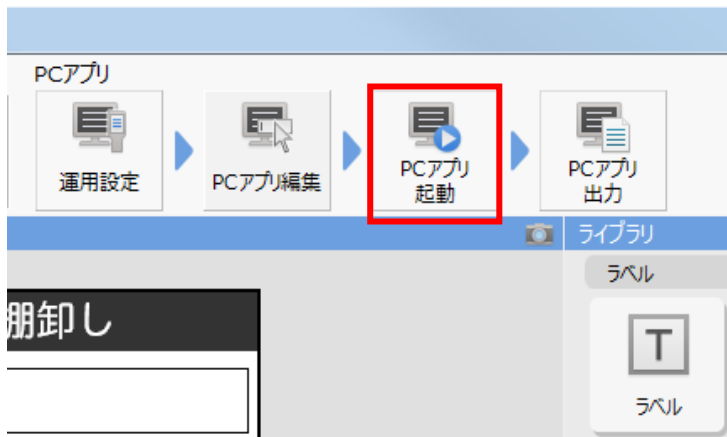
※ハンディアプリの使用方法については「[3.1.6.ハンディアプリの使用方法](#)」を参照してください。

※通信設定について

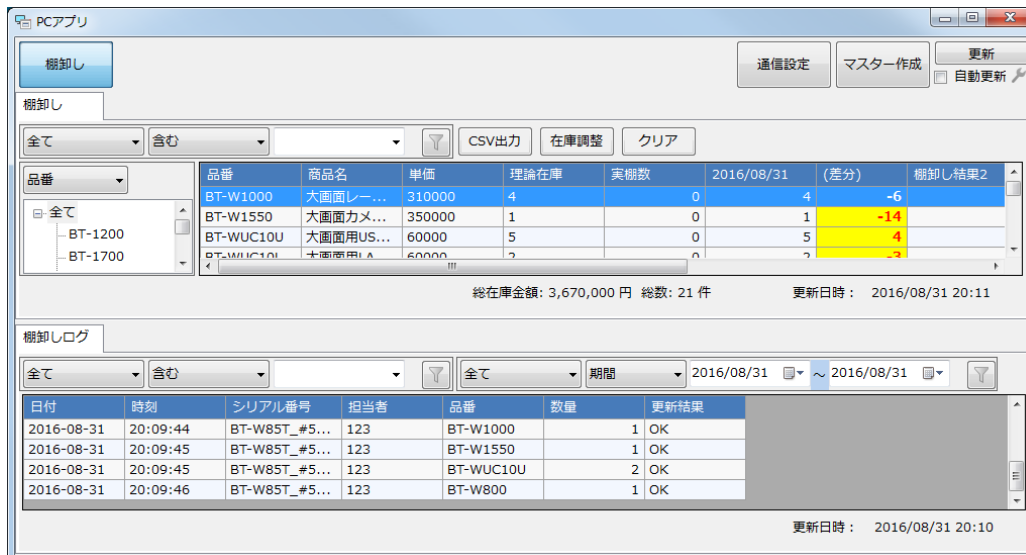
USB 通信ユニットを使用する場合、自動的に通信設定されるため、手動での通信設定は不要です。無線 LAN や LAN 通信ユニットを使用する場合は「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。

■「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」もしくは、「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合

1. BT 開発・運用ツール上部の「PC アプリ起動」ボタンを押下します。



2. PC アプリが起動します。



3. ハンディターミナルでデータを入力・送信します。

※ハンディアプリの使用方法については「[3.1.6.ハンディアプリの使用方法](#)」を参照してください。

4. 「更新」ボタンを押下すると、ログデータベースにデータを取り込まれます。正常にデータがアップロードされるか確認します。

※通信設定について

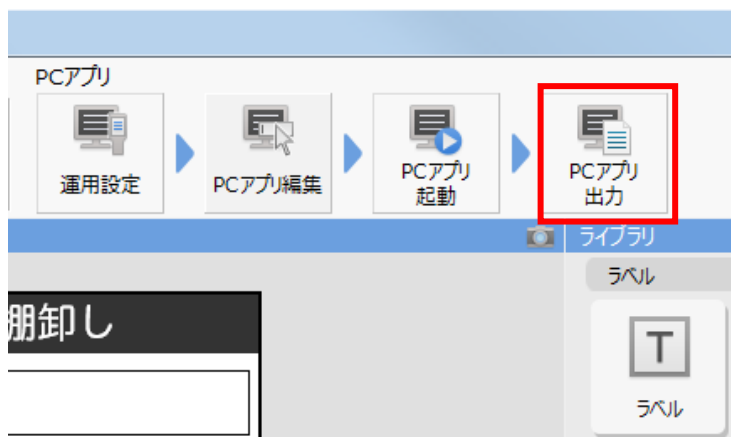
USB 通信ユニットを使用する場合、自動的に通信設定されるため、手動での通信設定は不要です。無線 LAN や LAN 通信ユニットを使用する場合は「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」参照してください。

3.2.4. PC アプリ出力

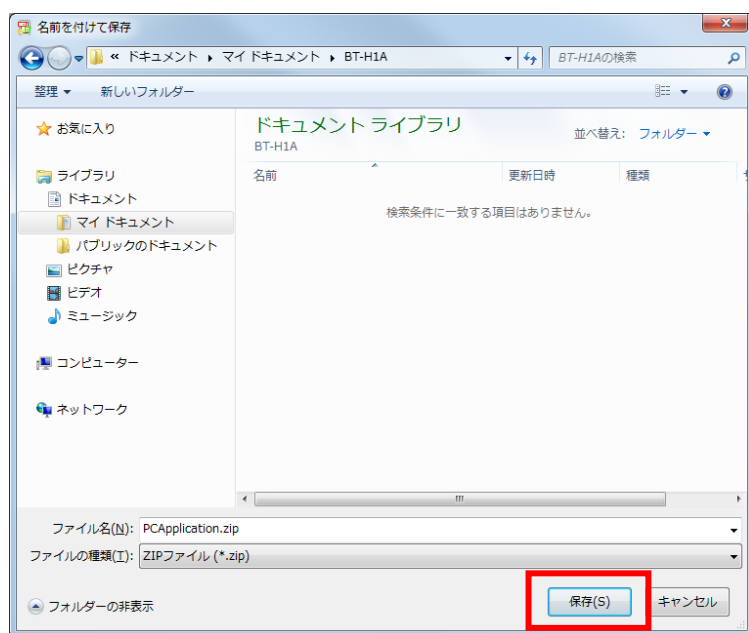
※詳細については「[4.2.9.PC アプリ出力](#)」を参照してください。

運用 PC に配布するために、通信ソフトまたは PC アプリを任意のフォルダーに出力します。

1. BT 開発・運用ツール上部の「PC アプリ出力」ボタンを押下します。



2. 通信ソフトまたは PC アプリを出力するフォルダーを選択して、「保存」ボタンを押下します。



3. 出力したファイルは、USB メモリーなどのメディアで、運用 PC に配布します。

3.2.5. PC アプリの使用方法

1. 運用 PC に「[2.2.USB ドライバーのインストール](#)」をします。
2. 「[3.2.4.PC アプリ出力](#)」で出力した ZIP ファイルを運用 PC で解凍します。
3. 解凍フォルダー内の Runtimes フォルダー内にある「.NET Framework 4.5.2」をインストールします。
NDP452-KB2901907-x86-x64-AllOS-ENU.exe を実行します。
4. 解凍フォルダー内の「PCApplication.exe」を実行すると、通信ソフトまたは PC アプリが起動します。

■「端末データファイルを CSV 出力して運用する」を選択した場合

通信ソフトが起動するので、「[3.2.4.PC アプリ出力](#)」と同様に設定します。ハンディターミナルからデータを送信すると、設定した受信フォルダーに CSV ファイルとして保存します。以下のような管理方法が一般的です。

CSV ファイルのまま PC に保存する。

最も早く簡単に導入できる管理方法です。

Excel に取り込んで管理する。

Excel を簡易的なデータベースとして活用します。Excel マクロなど用いて管理します。

他の業務アプリケーションにアップロードする。

他の業務アプリケーションに CSV ファイルのインポート機能があれば連携できます。ハンディアプリの設定で、データフォーマットは自由に変更できます。

■「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」もしくは、

「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合

PC アプリが起動するので、「[3.2.4.PC アプリ出力](#)」と同様に設定します。ハンディターミナルからデータを送信すると、データはデータベースに保存され、PC アプリから内容を確認できます。更新」ボタンを押下すると、棚卸しの結果を確認できます。

The screenshot shows the 'PCアプリ' (PC Application) window. The top section is the '棚卸し' (Inventory Adjustment) screen, which includes a '在庫調整' (Inventory Adjustment) button. Below this is a table with columns: 品番 (Item No.), 商品名 (Item Name), 単価 (Unit Price), 理論在庫 (Theoretical Inventory), 実棚数 (Actual Inventory), 2016/08/31, (差分) (Difference), and 棚卸し結果2 (Inventory Adjustment Result 2). The table lists items like BT-W1000, BT-W1550, BT-WUC10U, and BT-W85T. Below the table, it shows '総在庫金額: 3,670,000 円' (Total Inventory Amount: 3,670,000 Yen), '総数: 21 件' (Total Count: 21 Items), and '更新日時: 2016/08/31 20:11' (Update Time: 2016/08/31 20:11). The bottom section is the '棚卸しログ' (Inventory Adjustment Log) screen, which shows a table with columns: 日付 (Date), 時刻 (Time), シリアル番号 (Serial No.), 担当者 (Operator), 品番 (Item No.), 数量 (Quantity), and 更新結果 (Update Result). The log shows four entries for the date 2016-08-31, all with 'OK' results. Arrows point from the '在庫調整' button to the '在庫調整ボタン' text box, and from the log table to the 'ログデータベース' text box.

品番	商品名	単価	理論在庫	実棚数	2016/08/31	(差分)	棚卸し結果2
BT-W1000	大画面レー...	310000	4	0	4	-6	
BT-W1550	大画面カメラ...	350000	1	0	1	-14	
BT-WUC10U	大画面用US...	60000	5	0	5	4	
BT-W85T	大画面用LA...	60000	2	0	2	-2	

総在庫金額: 3,670,000 円 総数: 21 件 更新日時: 2016/08/31 20:11

日付	時刻	シリアル番号	担当者	品番	数量	更新結果
2016-08-31	20:09:44	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-WUC10U	2	OK
2016-08-31	20:09:46	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	1	OK

更新日時: 2016/08/31 20:10

在庫調整ボタン

理論在庫と実在庫の比較結果を管理データベースに記録し、理論在庫に実棚数を反映します。

管理データベース

ログデータベースに蓄積されたデータを集計して在庫状況を確認できます。

ログデータベース

今まで送信されたデータが全て蓄積されています。

4. BT 開発・運用ツールの操作方法

BT 開発・運用ツールの操作方法について説明します。

4.1. BT 開発・運用ツールの各部名称

BT 開発・運用ツールの各部の機能について説明します。



作業フロー

左から右に設定を進めていきます。ハンディアプリの開発から収集データの運用方法まで迷わず操作できます。

画面リスト (ハンディアプリ)

ハンディアプリの画面一覧を表示しています。上部のタブでツリー表示とサムネイル表示を切り換えできます。

画面編集・画面遷移 (ハンディアプリ)

ハンディアプリの画面の編集と画面遷移の確認ができます。

コントロール (ハンディアプリ)

ハンディアプリの動作や制御などを設定するためのパーツが並びます。

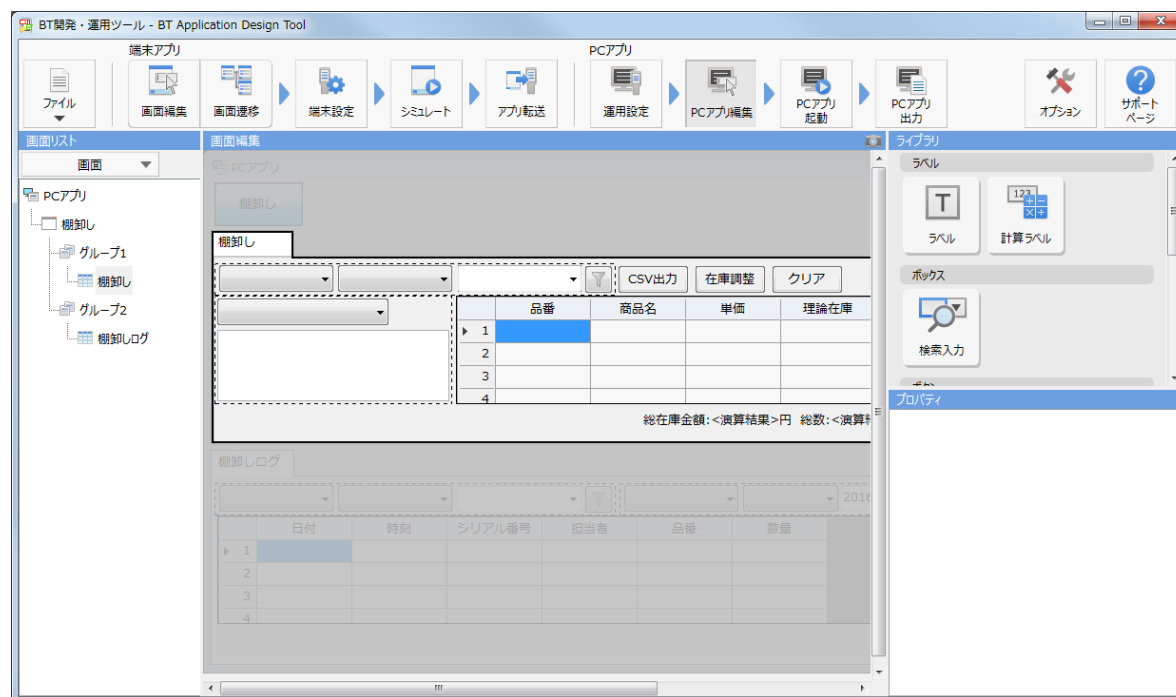
ライブラリ (ハンディアプリ)

ハンディアプリの表示・入力・コントロールパーツ群です。ドラッグ&ドロップで画面内に配置できます。

プロパティ (ハンディアプリ)

画面上の各パーツのプロパティを確認・編集できます。

作業フローの「PC アプリ編集」ボタンを押下した時の、各部の機能について説明します。



[画面リスト \(PC アプリ\)](#)

PC アプリの画面一覧をツリー表示しています。

[画面編集 \(PC アプリ\)](#)

PC アプリの画面の確認・編集ができます。

[ライブラリ \(PC アプリ\)](#)

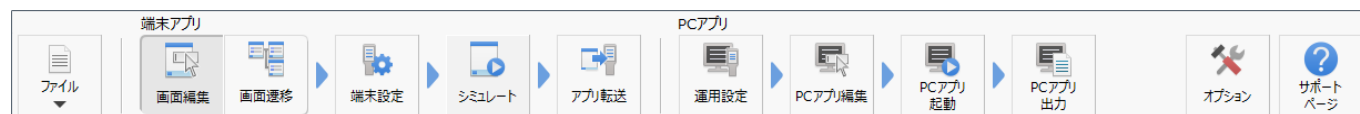
PC アプリの表示・入力パーツ群です。ドラッグ&ドロップで画面内に配置できます。

[プロパティ \(PC アプリ\)](#)

画面上の各パーツのプロパティを確認・編集できます。

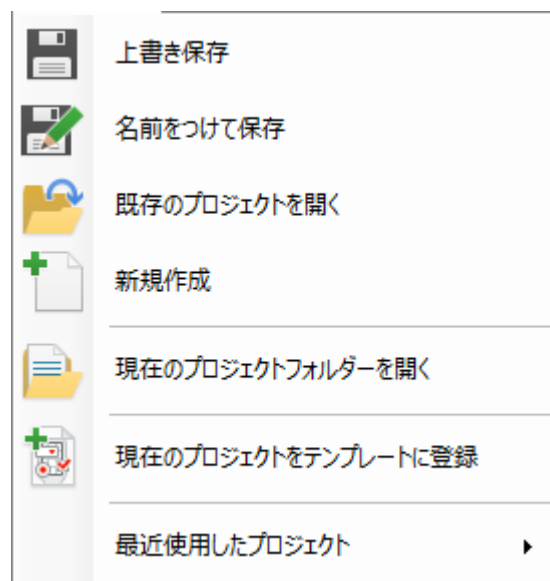
4.2. 作業フロー

作業フローに配置されているボタンの各機能について説明します。



4.2.1. ファイル

「ファイル」ボタンを押下すると、以下のメニューが表示されます。



上書き保存

現在開いているプロジェクトを上書き保存します。（ショートカットキー：[Ctrl]+[S]）

名前をつけて保存

現在開いているプロジェクトの名前を変えて保存します。

既存のプロジェクトを開く

既に作成したプロジェクトを開きます。

新規作成

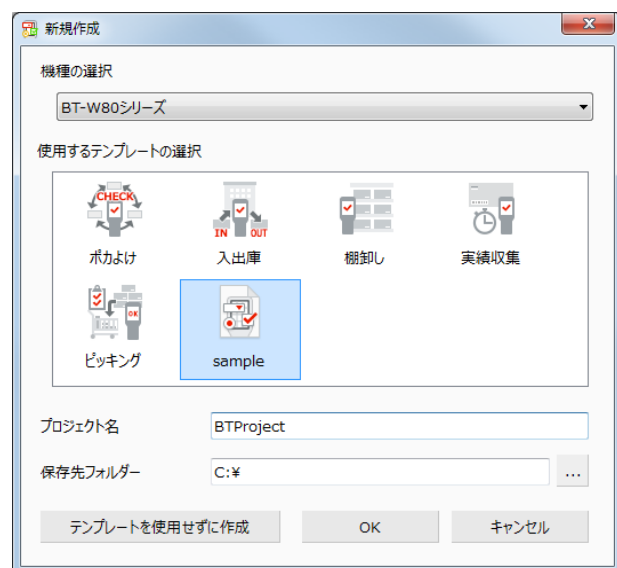
プロジェクトを新規作成します。

現在のプロジェクトフォルダーを開く

現在開いているプロジェクトを、保存しているフォルダーを開きます。

現在のプロジェクトをテンプレートに登録

現在開いているプロジェクトを登録します。登録後は以下の画面のように「[3.1.1.テンプレート選択](#)」で選択できます。



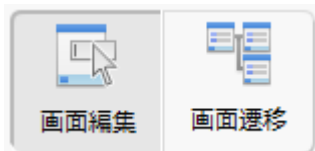
最近使用したプロジェクト

最近使用したプロジェクトを開きます。

4.2.2. 画面編集・画面遷移

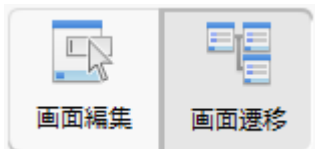
「画面編集」「画面遷移」ボタンを押下することで、BT 開発・運用ツールの中央に表示されている画面を切り換えます。

画面編集

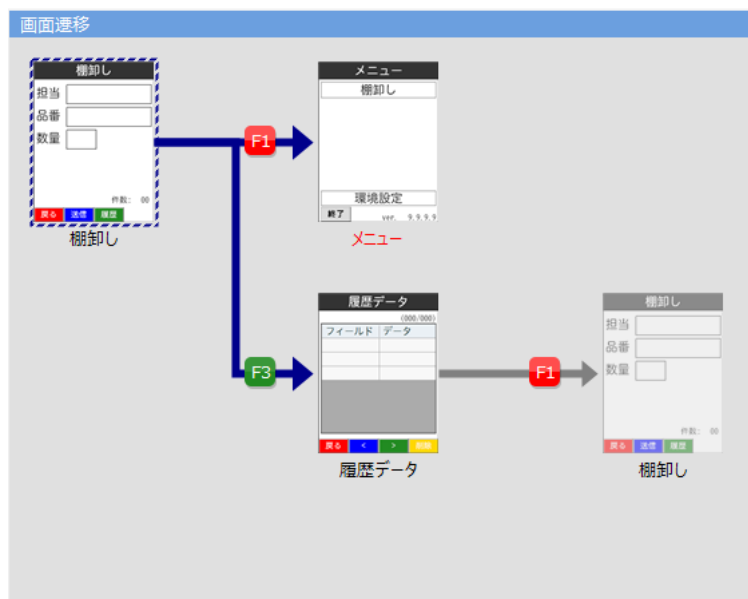


ハンディアプリの画面を編集する場合に選択します。以下のような画面が表示されます。

画面遷移



ハンディアプリの画面遷移を確認する場合に選択します。以下のような画面が表示されます。



4.2.3. 端末設定

ハンディターミナルの起動方法、電源制御、通信方式などを設定します。「端末設定」ボタンを押下すると、ダイアログボックスが表示されます。

■ 基本設定



起動方法 ※BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズのみ

・アプリ起動方法

ハンディアプリの起動方法を選択します。「デスクトップ画面からショートカット起動」を選択すると、ハンディアプリ送信時にデスクトップ上にショートカットを配置します。ショートカットを起動することでハンディアプリが立ち上がります。

「キオスクモード」を選択すると、デスクトップ画面を一切表示させないモードになります。電源の起動と同時にハンディアプリは立ち上がります。操作を簡単にして誤操作を防止します。

【選択項目】デスクトップ画面からショートカット起動／キオスクモード

※キオスクモードの注意点

「5.6.9. トップメニューウィンドウ」の設定で、終了ボタンを表示しない設定を推奨します。ハンディアプリを終了した場合は、以下のような画面になります。BT システムメニューの起動は、2 秒間[Fn]キーと[1]キーを押下してください。再起動をする場合は、2 秒間[Fn]キーと[2]キーを押下してください。



画面の明るさ

・ 操作時

ハンディターミナル操作時の画面の明るさを選択します。

【選択項目】 普通／明るい／最も明るい

・ 省電時

無操作でハンディターミナルが、省電状態になったときの画面の明るさを選択します。

【選択項目】 消灯／普通／明るい／最も明るい

・ 省電までの時間

無操作でハンディターミナルが、省電状態になるまでの時間を設定します。

【設定範囲】 1～127 秒

画面の表示

・ フォントの種類

ハンディアプリで使われるフォントの種類を選択します。

【選択項目】 MS ゴシック／MS P ゴシック／MS UI Gothic／Meiryo UI／ヒラギノ丸ゴシック／ヒラギノ角ゴシック

・ ステータスバーの表示

ハンディターミナルにステータスバーを表示の有無、表示の場所を選択します。

【選択項目】 なし／上端／下端

電源オフの制御

・ オートパワーオフ時間（分）

無操作でハンディターミナル電源が落ちるまでの時間を設定します。

【設定範囲】 0～60 分

※0 に設定した場合、オートパワーオフ設定は無効になります。

・ レジューム起動

レジューム起動の有効／無効を選択します。レジュームを有効にすると、電源起動時に電源を切る直前の画面を表示します。

レジュームを無効にすると、電源起動時にハンディターミナルをリセットします。

【選択項目】 無効／有効

・ 電源オフ時のモード

電源オフ時のモードを選択します。「待機オフモード」を選択すると内部的には通信を含めて通常動作していますが、表示やキー・タッチパネル入力が効かない状態になります。電源オフ状態でも通信する場合などに有効なモードです。

「WakeUp モード」を選択すると、「待機オフモード」の状態に加えて PC 側からの通信に自動的に反応し通信を開始するモードになります。通信ソフトでスケジュール通信を使う場合などに有効なモードです。

※スケジュール通信については「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。

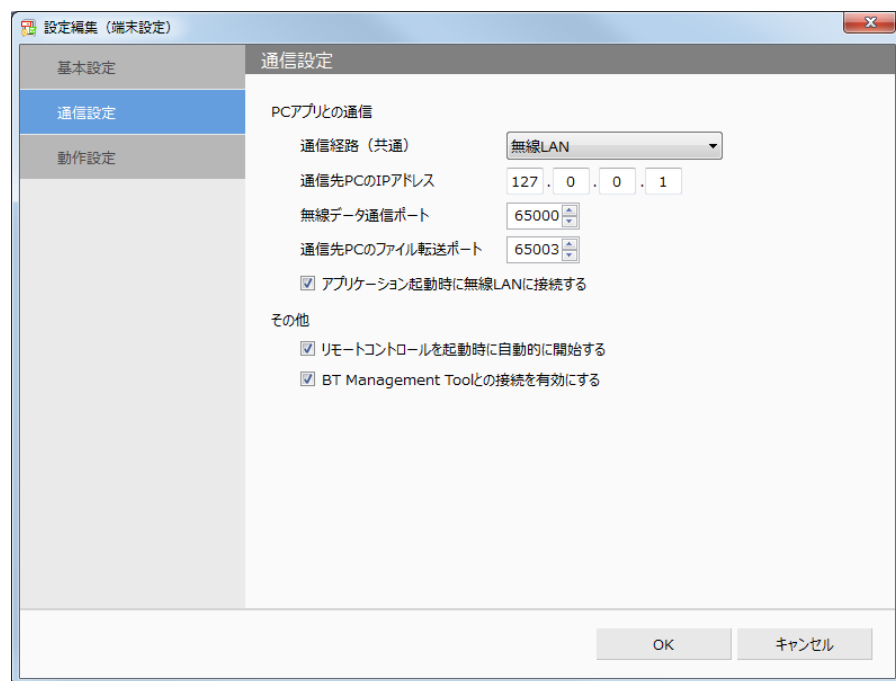
【選択項目】 通常モード／待機オフモード／WakeUp モード

・ WakeUp モードの通信経路

上記で「WakeUp モード」を選択したときのみ設定します。通信経路を選択します。

【選択項目】 USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

■通信設定



PC アプリとの通信

・通信経路（共通）

PC と通信する場合の通信経路を選択します。

【選択項目】USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

・通信先 PC の IP アドレス

通信先 PC の IP アドレスを指定します。

・無線データ通信ポート

通信先 PC の無線データ通信に使用するポートを設定します。

・通信先 PC のファイル転送ポート

通信先 PC のファイル転送に使用するポートを設定します。

【設定範囲】1～65535

・アプリケーション起動時に無線 LAN に接続する

チェックを入れると、アプリケーション起動時に無線 LAN に接続します。

その他 ※BT-W70／W80／W100／W300／W200 シリーズのみ

・リモートコントロールを起動時に自動的に開始する

チェックと入れるとリモートコントロール機能が有効になります。リモートコントロール機能を使うと、PC から遠隔でハンディターミナルを操作できます。

※PC に BT-WHD1 もしくは BT-WHM1 のインストールが必要です。

・BT Management Tool との接続を有効にする

チェックを入れると BT Management Tool との接続が有効になります。

※PC に BT-WHM1 のインストールが必要です。

■動作設定

キー／画面タッチの操作音

キー、およびタッチパネルを操作した時に鳴る音の大きさを設定します。 【選択項目】 オフ／小／中／大

読取完了時のブザー／バイブ／LED 動作

バーコード読み取りの成功時とエラー時のブザー／バイブ／LED の動作を設定します。

- ・ブザー音量 【選択項目】 オフ／大／中／小
- ・音階 【選択項目】 高／中／低
- ・鳴動回数 【設定範囲】 1～10 回
- ・鳴動間隔 【選択項目】 100ms／200ms／500ms／1000ms
- ・LED 点灯色 【選択項目】 オフ／緑／赤
- ・バイブ連動 【選択項目】 なし／あり

動作速度 (BT-W300/W200 シリーズのみ)

速度モードを設定します。高速にすると読み取り速度や OS の動作速度が向上します。【選択項目】 通常／高速

フォーカス制御 (カメラタイプ) (BT-W300/W200 シリーズのみ)

- ・フォーカスモード 読み取り時の焦点距離を指定します。 【選択項目】 オートフォーカス／固定焦点
- ・フォーカス位置 読み取り開始時の焦点距離を指定します。 【選択項目】 近距離／標準／遠距離／前回値(オートフォーカス時)

フォーカス制御 (レーザタイプ) (BT-W300/W200 シリーズのみ)

- ・フォーカス位置 レーザ幅を調整することで読み取り対象距離指定します。【選択項目】 標準／遠距離／自動

照明拡張アタッチメント (BT-W370 のみ)

照明拡張アタッチメントを装着する際に有効にします。読み取りの各種制御をアタッチメント装着状態に最適化します。

4.2.4. シミュレート

BT 開発・運用ツールで開発したハンディアプリを、PC 上でシミュレートします。

「シミュレート」ボタンを押下すると、シミュレート画面が起動します。



■メニューバー

ファイル(F)

最近シミュレートしたアプリケーションを実行したり、シミュレートを終了したりできます。

フォルダ(D)

ハンディアプリが保存されている「アプリルートフォルダ」や、「画面記録」ボタンで取得できる画像が保存されている「fig フォルダ」を開きます。

自動キー入力(A)

シミュレート上での操作を記録し、自動で連続実行できます。

ヘルプ(H)

端末ライブラリのバージョンを確認します。

■バーコードリスト

バーコードを作成し、シミュレート上のハンディターミナルでスキャンできます。リスト上で選択すると、そのバーコードがハンディターミナルの上部に表示されます。

microSD カード セット

チェックを入れると、ハンディターミナルに microSD カードを挿入した状態になります。

通信ユニット セット

チェックを入れると、ハンディターミナルを通信ユニットに挿入した状態になります。

■「画面記録」ボタン

操作した画面が自動的に記録されます。記録した画像は、メニューバーの「フォルダ」 > 「fig フォルダ」に保存されます。

■シミュレートしたハンディアプリと PC アプリとの無線通信について

以下の設定をおこなうことで、シミュレートしたハンディアプリと、同一 PC 上の PC アプリを無線通信できます。

無線でファイル送信をする場合

「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」の「接続端末の登録」で、「127.0.0.1」の IP を登録します。

無線でリアルタイムにデータを送信する場合

「[4.2.3.端末設定](#)」の「通信先 PC の IP アドレス」で、「127.0.0.1」の IP を登録します。

■実機とシミュレートの動作差異について

- ・シミュレートでは、BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズのステータスバーは表示されません。
- ・メッセージボックスの見た目が異なります。
- ・シミュレートでは、Fn、Teb、文字キーは動作しません。

4.2.5. アプリ転送

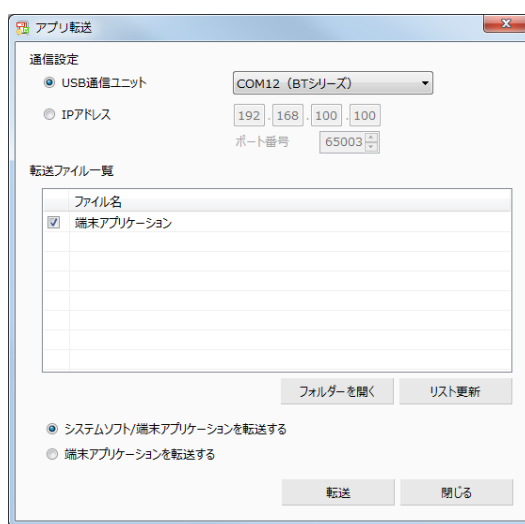
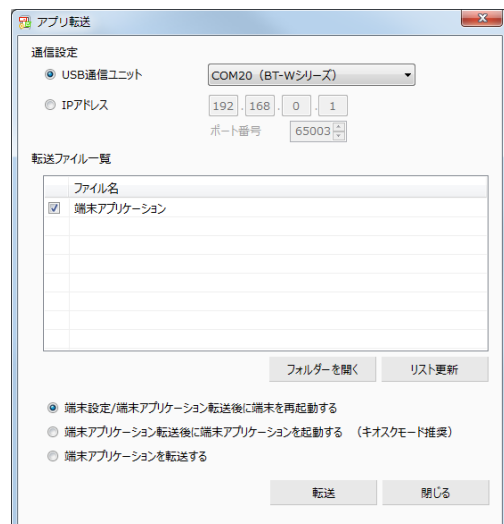
BT 開発・運用ツールで開発したハンディアプリを、ハンディターミナルに転送します。

「アプリ転送」ボタンを押下すると、ダイアログボックスが表示されます。

BT-W70/W80/W100 シリーズの場合

BT-600/1000 シリーズの場合

BT-W300/W200 シリーズの場合



通信設定

ハンディアプリをハンディターミナルに転送するときの通信経路を選択します。USB 通信ユニット経由で転送する場合は、「USB 通信ユニット」、LAN 通信ユニット、もしくは無線 LAN 経由で転送する場合は、「IP アドレス」を選択します。

・ USB 通信ユニット

表示される一覧から通信ユニットのポート番号を選択します。表示されない場合は、USB を正しく認識できていない可能性があります。[「2.2.USB ドライバーのインストール」](#)を参照してください。

・ IP アドレス

転送先のハンディターミナルの IP アドレスを入力します。

転送ファイル一覧

ハンディターミナルに転送するファイルの一覧を表示します。ハンディアプリの他に、ハンディアプリでマスターファイル、画像ファイルの参照を設定している場合はそれぞれを表示します。各ファイルを送信しない場合は、チェックをはずしてください。

・フォルダーを開く

転送するファイルを追加する場合に選択します。「フォルダーを開く」ボタンを押下するとプロジェクトフォルダー >root>BT_FILES フォルダーがエクスプローラーで開きます。「drv1」「drv2」「drv5」フォルダー内にファイルを保存することで、転送するファイルを追加できます。フォルダーと BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズの転送先は、以下のように対応しています。

「drv1」・・・¥FlashDisk¥BT_FILES¥drv1

「drv2」・・・¥RamDisk¥BT_FILES¥drv2

「drv5」・・・¥SDCard¥BT_FILES¥drv5 ※MicroSD カード挿入時

・リスト更新

転送ファイル一覧の表示を更新します。「フォルダーを開く」ボタンでファイルを追加した場合などに押下します。

転送方法（BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズ）

ハンディアプリの転送方法を選択します。初回の転送時や、[4.2.3.端末設定](#) を変更した場合には「端末設定／端末アプリケーション転送後に端末を再起動する」を選択してください。ただし再起動がとれない時間がかかるため、開発中は「端末アプリケーション転送後に端末アプリケーションを起動する（キオスクモード推奨）」、もしくは「端末アプリケーションを転送する」の選択を推奨します。

・端末設定／端末アプリケーション転送後に端末を再起動する

「端末設定」を含めてハンディアプリを転送します。初回の転送時や、[4.2.3.端末設定](#) を変更した場合に選択します。

・端末アプリケーション転送後に端末アプリケーションを起動する（キオスクモード推奨）

「端末設定」を含めません。転送後ハンディアプリを起動します。「アプリ起動方法」にキオスクモードを選択している場合は、転送後ハンディアプリを起動させる方法がないため、選択が必須となります。

・端末アプリケーションを転送する

「端末設定」を含めません。

転送方法（BT-600/1000 シリーズ）

ハンディアプリの転送方法を選択します。初回の転送時や、[4.2.3.端末設定](#) を変更した場合には「システムソフト／端末アプリケーションを転送する」を選択してください。ただし転送に時間がかかるため、開発中は「端末アプリケーションを転送する」の選択を推奨します。

・システムソフト／端末アプリケーションを転送する

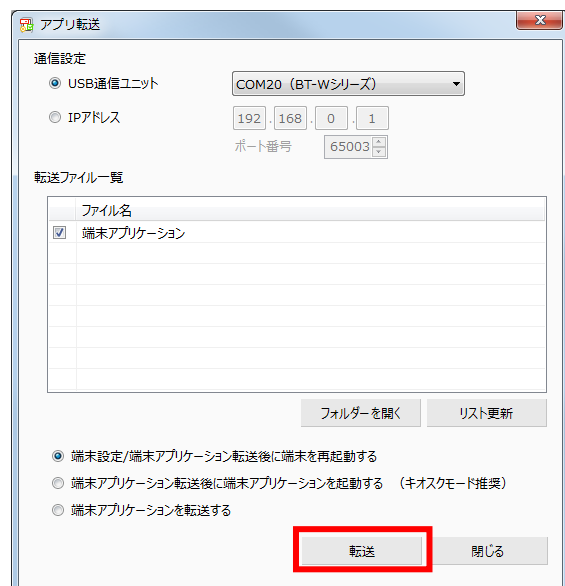
システムソフトと端末設定を含めてハンディアプリを転送します。初回の転送時や、[4.2.3.端末設定](#) を変更した場合に選択します。

・端末アプリケーションを転送する

システムソフトと端末設定を含めません。

■ハンディターミナルの操作方法（BT-W70／W80／W100／W300／W200 シリーズ）

通信経路に応じた以下の手順で、ハンディターミナルを通信待受状態にしてから「転送」ボタンを押下します。



USB 通信ユニット経由の場合 ※事前に「[2.2.USB ドライバーのインストール](#)」が必要です。

1. ハンディターミナルを USB 通信ユニットにセットします。

2. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。システムメニューの「6.通信待受」で、通信経路を「USB 通信ユニット (COM)」、通信先ソフトの選択を「BT シリーズ データ転送ソフト」にして、「待受開始」ボタンを押下してください。

LAN 通信ユニット経由の場合

1. ハンディターミナルのネットワークを設定し、PC と通信できる状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。

システムメニューの「2.通信設定 ⇒ 3.通信ユニット ⇒ 2.ネットワーク」の「LAN 通信ユニット (TCP/IP)」でネットワークを設定してください。

2. ハンディターミナルを LAN 通信ユニットにセットします。

3. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。

システムメニューの「6.通信待受」で、通信経路を「LAN 通信ユニット (TCP/IP)」にして、「待受開始」ボタンを押下してください。

無線経由の場合

1. ハンディターミナルの無線とネットワークを設定し、PC と通信できる状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。

システムメニューの「2.通信設定 ⇒ 1.無線 LAN ⇒ 2.ネットワーク」でネットワークを設定してください。

システムメニューの「2.通信設定 ⇒ 1.無線 LAN ⇒ 1.接続・認証」で無線を設定してください。

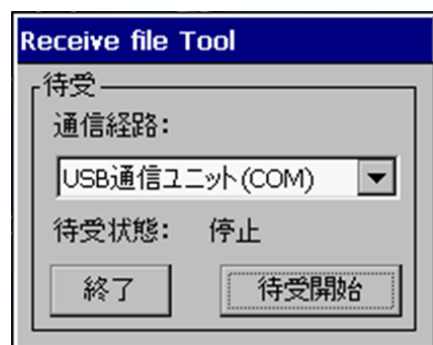
2. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。

ハンディターミナルのデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」からシステムメニューを起動します。

システムメニューの「6.通信待受」で、通信経路を「無線 LAN」にして、「待受開始」ボタンを押下してください。

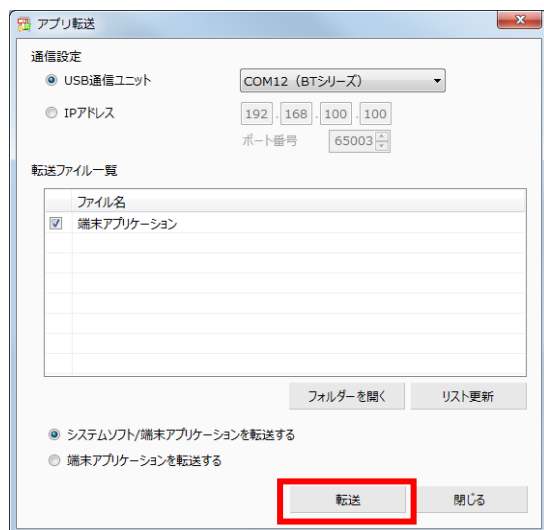
Receive file Tool について

転送方法で「端末設定／端末アプリケーション転送後に端末を再起動する」を選択して、ハンディアプリを転送するとハンディターミナルの画面上に、「Receive file Tool」というアプリケーションが配置されます。機能は BT システムメニュー「6.通信待受」と同じとなります。ハンディアプリを転送するときに、BT システムメニューを起動する手間を省けます。



■ハンディターミナルの操作方法（BT-600／1000 シリーズ）

通信経路に応じた以下の手順で、ハンディターミナルを通信待受状態にしてから「転送」ボタンを押下します。



USB 通信ユニット経由の場合 ※事前に「[2.2.USB ドライバーのインストール](#)」が必要です。

1. ハンディターミナルを USB 通信ユニットにセットします。
2. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。
電源を切った状態で、L キーと 2 キーを押しながら PW キーを押して、システムメニューを起動します。「4 通信待ち受け」で、「2 使用ポート（切替）」に「通信ユニット」を選択し、「1 待ち受け開始」を選択します。

LAN 通信ユニット経由の場合

1. ハンディターミナルを LAN 通信ユニットにセットします。
2. ハンディターミナルのネットワークを設定し、PC と通信できる状態にします。
電源を切った状態で、L キーと 2 キーを押しながら PW キーを押して、システムメニューを起動します。BT-1000 シリーズは「911 直接設定」、BT-600 シリーズは「2511 直接設定」で、ネットワークを設定してください。
3. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。
システムメニューの「4 通信待ち受け」で、「2 使用ポート（切替）」に「LAN 通信ユニット（MODE1）」を選択し、「1 待ち受け開始」を選択します。

無線経由の場合 ※BT-1000 シリーズのみ

1. ハンディターミナルの無線とネットワークを設定し、PC と通信できる状態にします。
電源を切った状態で、L キーと 2 キーを押しながら PW キーを押して、システムメニューを起動します。「21 無線 LAN」で無線、ネットワークの設定をしてください。
2. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。
システムメニューの「4 通信待ち受け」で、「2 使用ポート（切替）」に「無線 LAN（PC）」を選択し、「1 待ち受け開始」を選択します。

4.2.6. 運用設定

ハンディターミナルで取得したデータを運用 PC にアップロードした後の運用方法を設定します。「運用設定」ボタンを押下すると、ダイアログボックスが表示されます。

■ 運用設定



運用方法の選択

・ 端末データファイルを CSV 出力して運用する

ハンディターミナルから PC に CSV ファイルをアップロードします。

ダイアログボックス左側のメニューに「管理データベースの選択」は表示されません。

・ 端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する (テンプレート)

ハンディターミナルのデータは BT 開発・運用ツール専用のデータベースにアップロードされます。

データは PC アプリで確認できます。テンプレートのデータフォーマットを変更していない場合に選択します。

ダイアログボックス左側のメニューに「管理データベースの選択」が表示されます。

・ 端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する (カスタマイズ)

ハンディターミナルのデータは BT 開発・運用ツール専用のデータベースにアップロードされます。

データは PC アプリで確認できます。テンプレートのデータフォーマットを変更した場合に選択します。

ダイアログボックス左側のメニューに「管理データベースの選択」が表示されます。

■管理データベースの選択

設定編集 (運用設定)

運用設定

管理データベースの選択

詳細プロパティ

管理データベースの選択

編集

ジョブ	管理データベース
入庫	DepositoryMaster
出庫	DepositoryMaster

管理データベースのプレビュー

データの取込

データの削除

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目
-----	-----	-----	-----	-----

出力データ項目との関連付け

OK

キャンセル

管理データベースの選択

管理データベースを選択します。

「編集」ボタン

新規で作成する場合や、既存の管理データベースを編集する場合は、「編集」ボタンを押下します。ダイアログボックスが表示されます。

マスターファイルの編集

項目番号	1列目	2列目	3列目	4列目
▶ 1				
* 2				

CSV取込

列数 6

行削除

全削除

↑

↓

CSV出力

マスターファイルの保存先

☐ ドライブ1

☐ ドライブ2

☐ SDカード

☒ PCアプリ

マスターファイル名 DepositoryMaster

OK

キャンセル

セルにデータを直接入力し、管理データベースを作成、編集します。

- ・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んで管理データベースを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

- ・列数

管理データベースの列数を設定できます。

- ・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

- ・「全削除」ボタン

管理データベースのデータを全て削除します。

- ・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

- ・「CSV 出力」ボタン

作成した管理データベースを、CSV ファイルに保存します。

- ・マスターファイルの保存先

「PC アプリ」固定です。

- ・マスターファイル名

管理データベースの名前を設定します。

管理データベースのプレビュー

管理データベースのプレビューを確認できます。

「データの取込」ボタン

CSV ファイル（カンマ区切り）を管理データベースに取り込みます。

「データの削除」ボタン

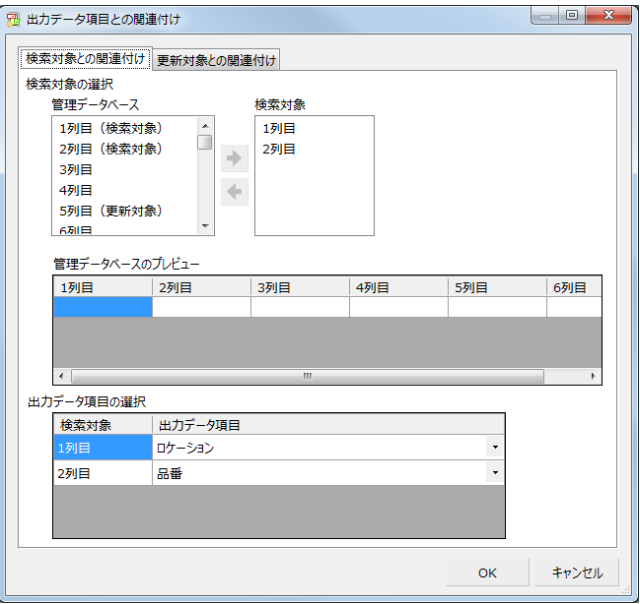
管理データベースの内容を全て削除します。

「出力データ項目との関連付け」ボタン

「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合に有効になります。

例えば、入出庫のテンプレートではアップロードされたデータを使って、管理データベースの 1 列目を「ロケーション」、2 列目を「品番」で検索して、そのレコードの 5 列目に「数量」を加算（入庫）もしくは減算（出庫）します。ハンディアプリのデータフォーマットを変更した場合には、「どの列をどのデータで検索」して、「どの列にどのデータをどのような更新処理」するか再定義が必要です。「出力データ項目との関連付け」ボタンを押下すると、「管理データベースの選択」で選択したジョブの関連付けができます。次のダイアログボックスが表示されます。

■ 検索対象との関連付け



検索対象の選択

管理データベースのどの列を検索するか選択します。選択状態で→ボタンを押すと、検索対象に追加できます。
←ボタンを押すと検索対象から削除できます。

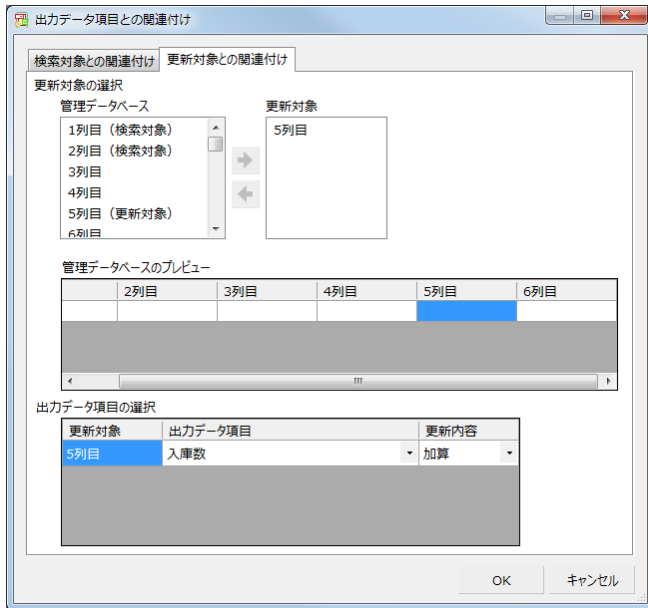
管理データベースのプレビュー

管理データベースのプレビューを確認できます。

出力データ項目の選択

「検索対象の選択」で選択した列を、ハンディターミナルで取得したどのデータで検索するか選択します。

■更新対象との関連付け



更新対象の選択

管理データベースのどの列を更新するか選択します。選択状態で→ボタンを押すと、更新対象に追加できます。
←ボタンを押すと更新対象から削除できます。

管理データベースのプレビュー

管理データベースのプレビューを確認できます。

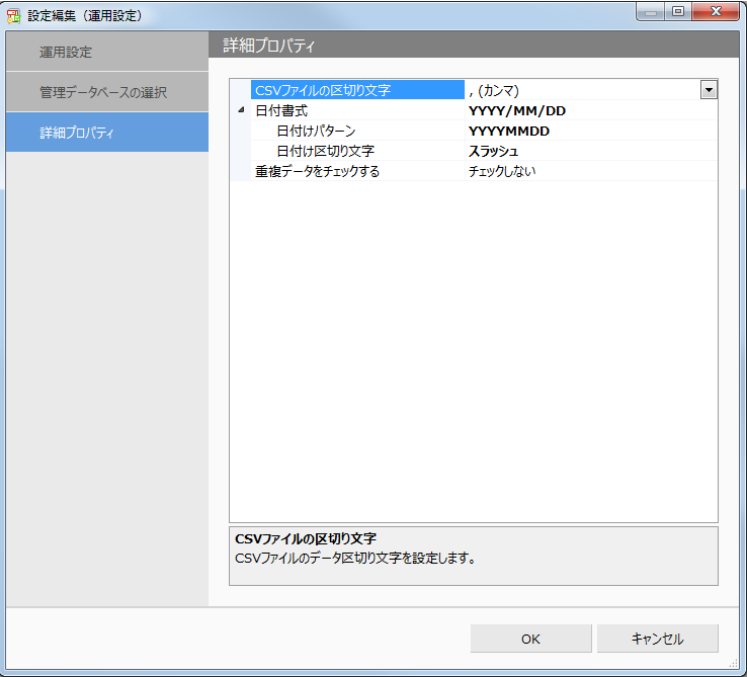
出力データ項目の選択

「更新対象の選択」で選択した列に、ハンディターミナルで取得したどのデータで更新するか選択します。またその更新内容を設定します。

【更新内容】 上書き／加算／減算

■詳細プロパティ

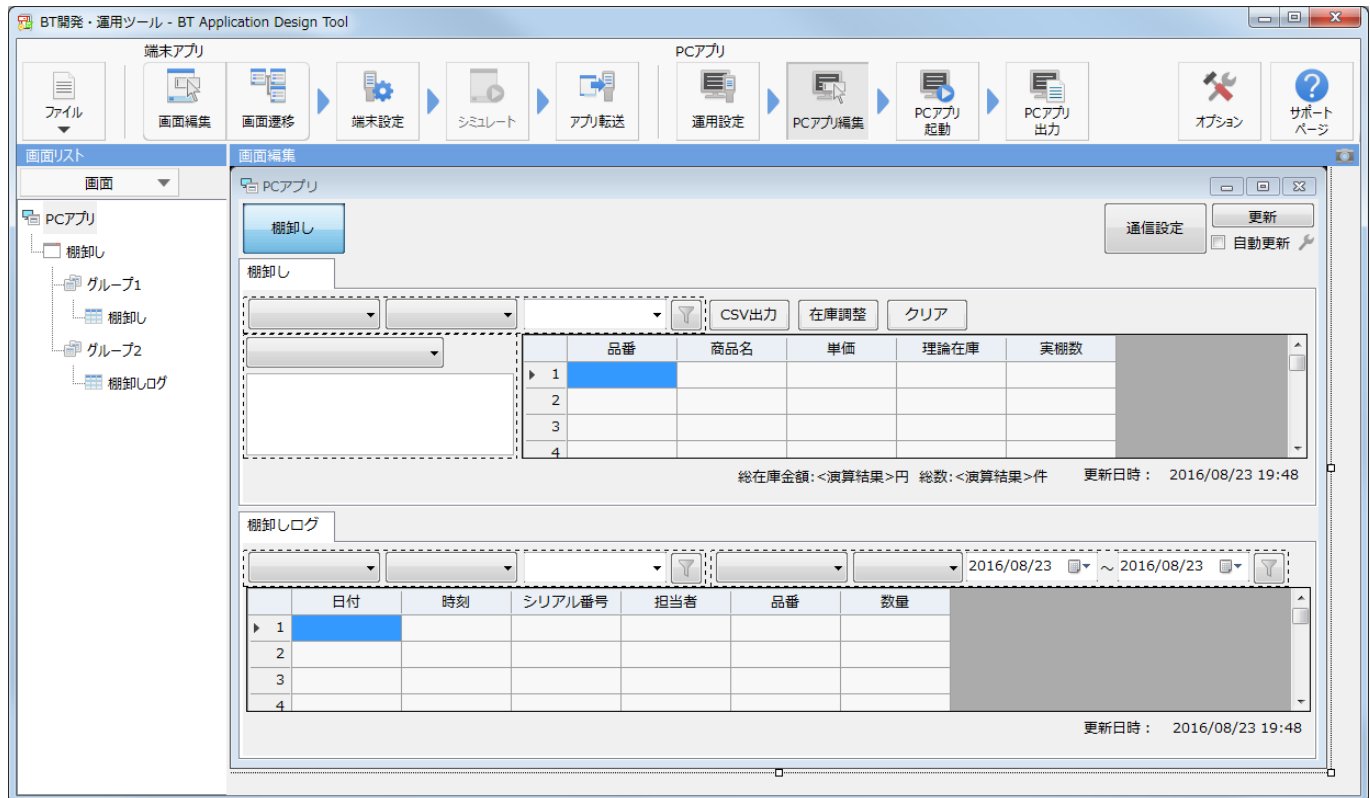
詳細設定を一覧で表示、変更できます。



CSV ファイルの区切り文字	管理データベースに取り込む CSV ファイルの区切り文字を選択します。 【選択項目】カンマ／タブ／スペース
日付書式	日付書式のプレビューを確認します。
日付けパターン	日付のパターンを選択します。 【選択項目】YYYYMMDD／YYYYMM／YYMMDD／YYMM／MMDDYYYY ／MMYYYY／MMDDYY／MMYY
日付け区切り文字	年、月、日を分ける区切り文字を選択します。 【選択項目】なし／スラッシュ／ピリオド／ハイフン／スペース
重複データをチェックする	有効にすると、ログデータベースにアップロードされたデータが重複しているかチェックし、重複分のデータを自動的に削除します。「レコードごと」を選択した場合、1 レコードごとに重複チェックをします。同一データ、日付、時刻(時分秒)まで全て一致すると、削除されるので注意してください。「受信データごと」を選択した場合、受信データと同一件数の前回レコードとの重複チェックになります。 【選択項目】チェックしない／レコードごと／受信データごと

4.2.7. PC アプリ編集

「PC アプリ編集」ボタンを押下すると、以下のように BT 開発・運用ツールの中央に PC アプリの編集画面が表示されます。「[4.2.6. 運用設定](#)」で、「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」、もしくは「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合に、ボタンが有効になります。



詳しい編集方法については「[4.9.画面編集 \(PC アプリ\)](#)」を参照してください。

4.2.8. PC アプリ起動

ハンディターミナルに転送したハンディアプリと PC アプリの連動テストを実施する際に使用します。「PC アプリ起動」ボタンを押下すると、「[4.2.6.運用設定](#)」に応じて、通信ソフトもしくは PC アプリが起動します。

■「端末データファイルを CSV 出力して運用する」を選択した場合

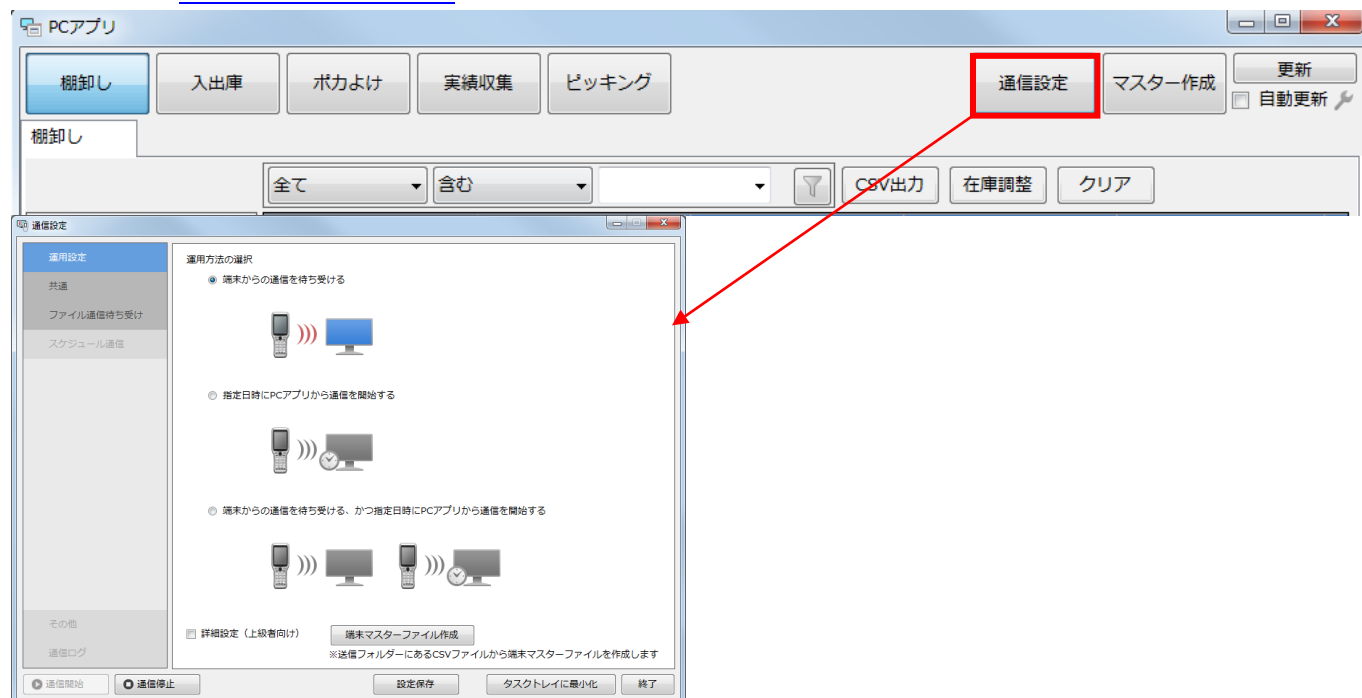
通信ソフトが起動します。通信方法の選択や、CSV ファイルの送受信フォルダーの設定、通信設定をして「設定保存」もしくは「タスクトレイに最小化」ボタンを押下します。詳細については「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。



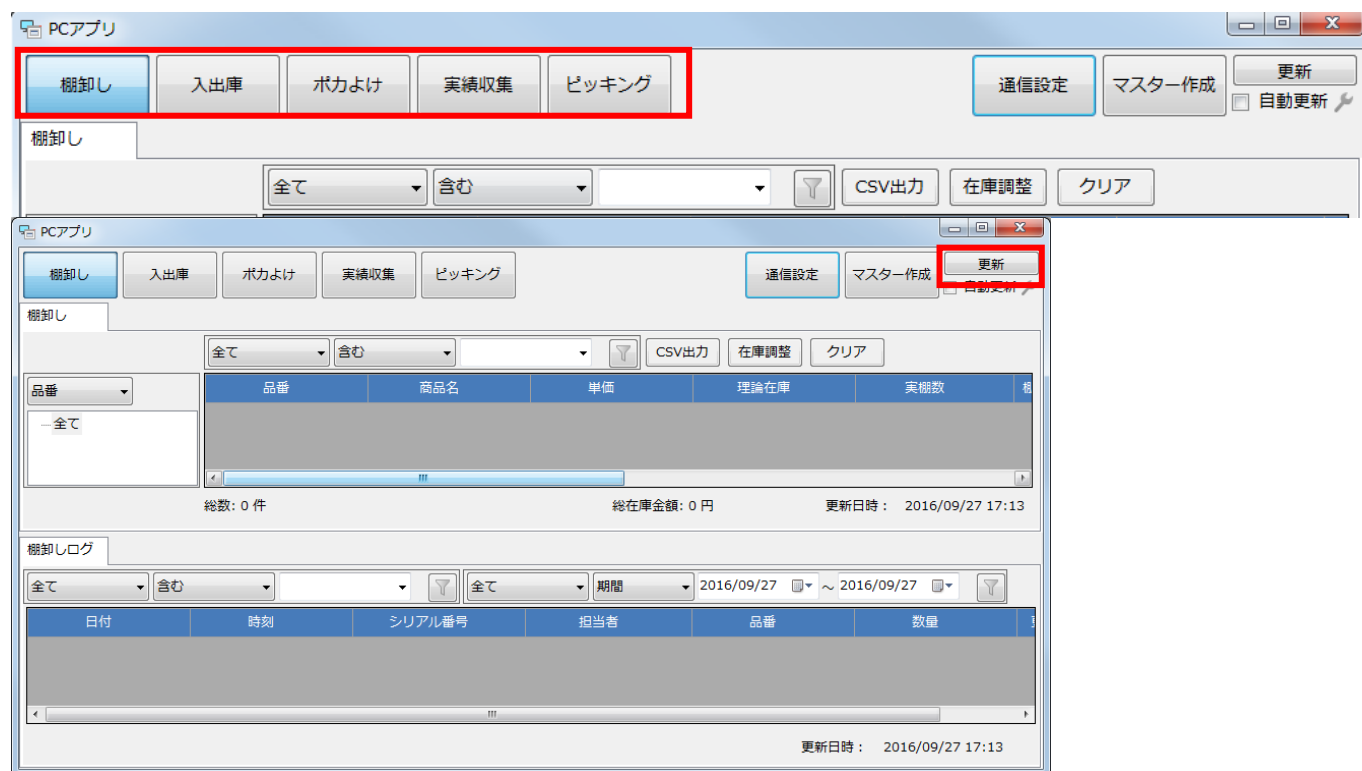
通信設定後、ハンディターミナルでデータを入力、送信します。正常にデータがアップロードされるか確認します。

■「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」もしくは
「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合

PCアプリのトップメニューが起動します。最初に「通信設定」ボタンを押下し通信方法を設定します。通信方法の選択や、CSVファイルの送受信フォルダーの設定、通信設定をして「設定保存」もしくは「タスクトレイに最小化」ボタンを押下します。詳細については「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。



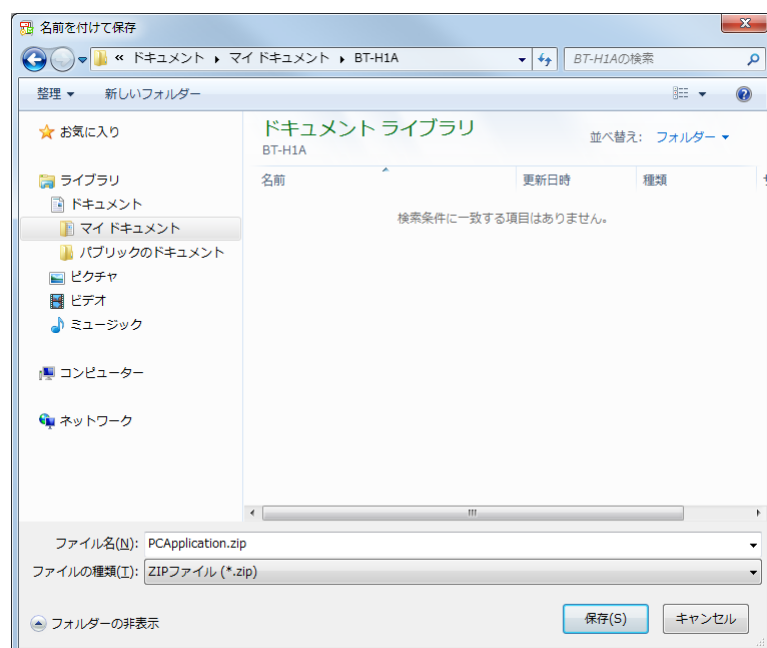
下記のボタンを押下すると、その作業に応じた管理画面を表示します。詳細については「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。



ハンディターミナルでデータを入力、送信します。「更新」ボタンを押下し、正常にデータが反映されるかを確認します。

4.2.9. PC アプリ出力

通信ソフトまたは PC アプリを運用 PC に配布するために任意のフォルダーに出力します。「PC アプリ出力」ボタンを押下すると「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

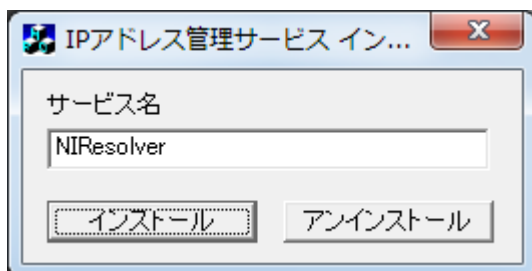


通信ソフトまたは PC アプリを出力するフォルダーを選択して、「保存」ボタンを押下します。出力したファイルは USB メモリーなどのメディアで、運用 PC に配布します。運用 PC での使い方については、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■ハンディターミナルを DHCP 環境で使用する場合について

ハンディターミナルを DHCP 環境下で使用するには NIResolver のインストールが必要です。

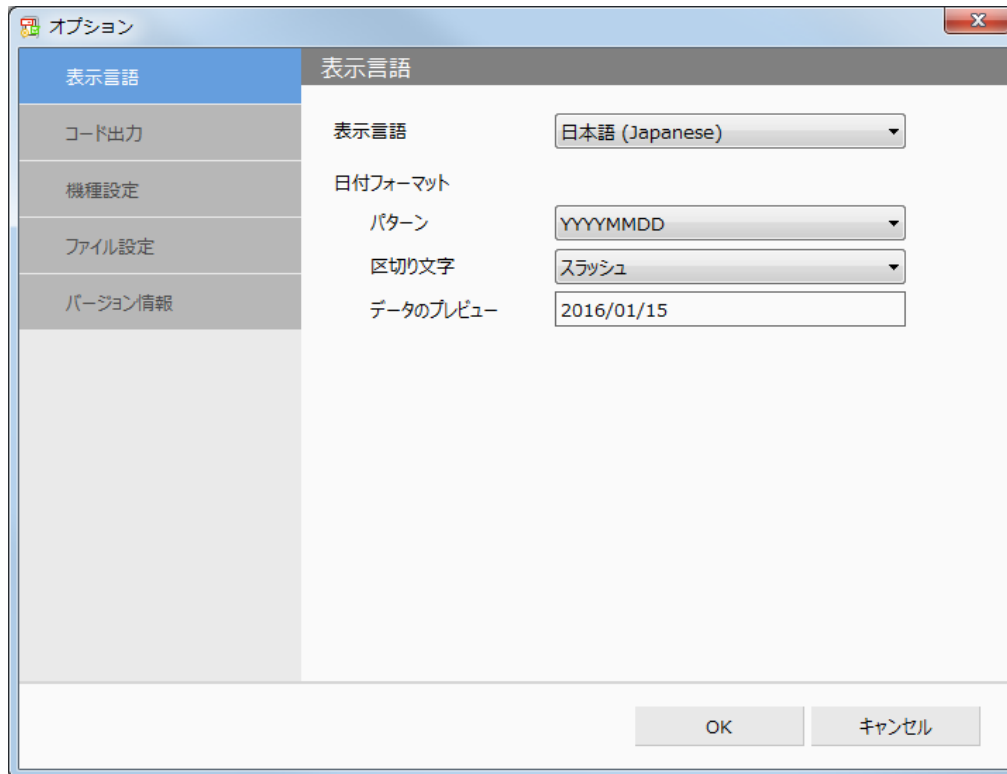
上記で出力したフォルダー内の PCApplication フォルダー内にある「ServiceInstall.exe」を起動すると、以下のアプリケーションが起動します。「インストール」ボタンを押下してください。



4.2.10. オプション

オプションを設定します。「オプション」ボタンを押下すると、ダイアログボックスが表示されます。

■機種設定



表示言語

BT 開発・運用ツールの表示言語を設定できます。

【選択項目】英語(English)／簡体字中国語(Simplified Chinese)／日本語(Japanese)

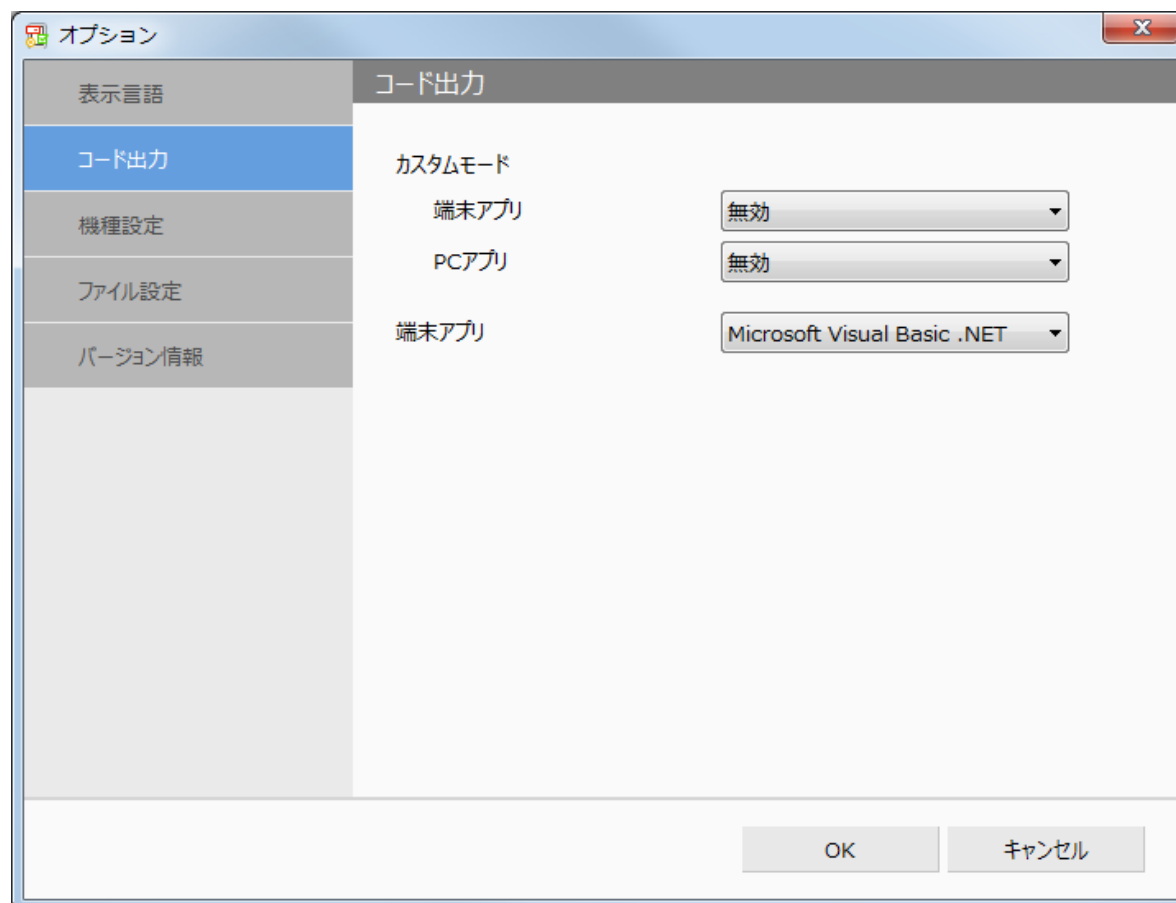
日付フォーマット

BT 開発・運用ツールの日付フォーマットを設定できます。

【パターンの選択項目】YYYYMMDD／YYYYMM／YYMMDD／YYMM／MMDDYYYY／MMYYYY／MMDDYY／
MMYY／DDMMYYYY／DDMMYY

【区切り文字の選択項目】なし／スラッシュ／ピリオド／ハイフン／スペース

■コード出力



カスタムモード

BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリ、PC アプリをコード出力して、プログラム開発するモードです。ハンディアプリ、PC アプリそれぞれで、カスタムモードの有効／無効が設定できます。

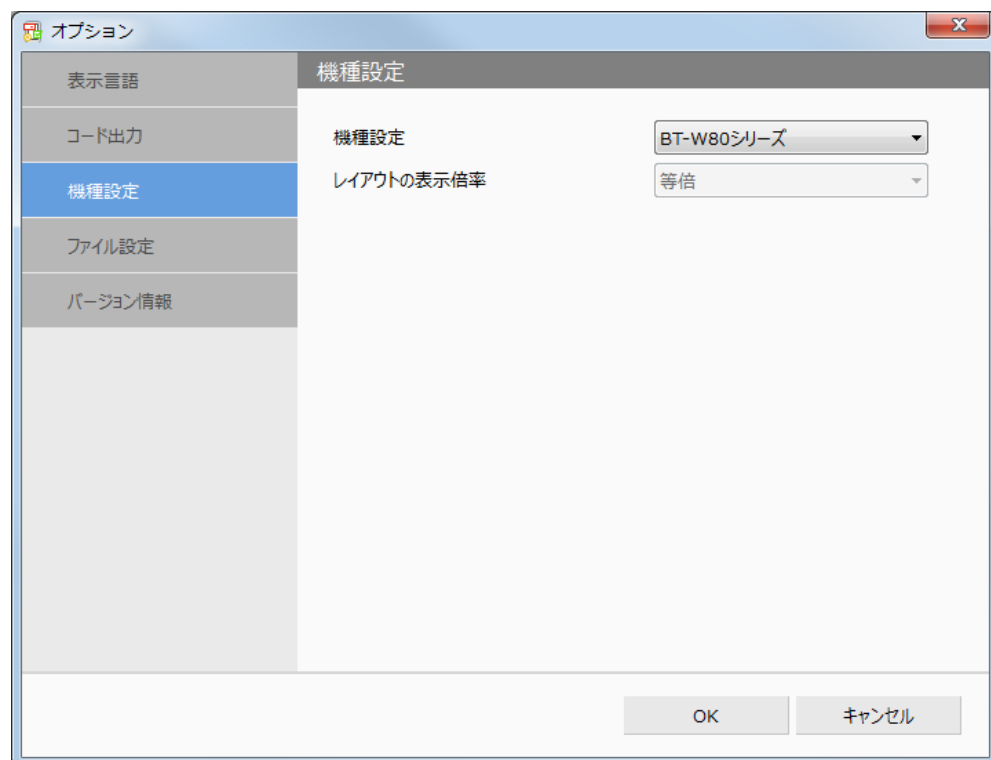
端末アプリ

ハンディアプリをカスタムモードで開発する場合の、プログラム言語を選択します。

【選択項目】キーエンススクリプト／ Microsoft Visual Basic .NET

カスタムモードの操作方法については、「[9.1.カスタムモード](#)」を参照してください。

■機種設定



対応機種

現在のプロジェクトの対応機種を表示しています。

【選択項目】BT-600 シリーズ／BT-1000 シリーズ

／BT-W70 シリーズ／BT-W80 シリーズ／BT-W100 シリーズ／BT-W200 シリーズ／BT-W300 シリーズ

レイアウト表示倍率

レイアウトの表示倍率を変更できます。

【選択項目】「1／2 倍」※BT-600 シリーズのみ／「等倍」／「2 倍」※BT-W300/W100 シリーズのみ

■ ファイル設定



端末アプリ

ハンディアプリのファイルの名前とバージョンを設定できます。

PC アプリ

PC アプリのファイルの名前とバージョンを設定できます。

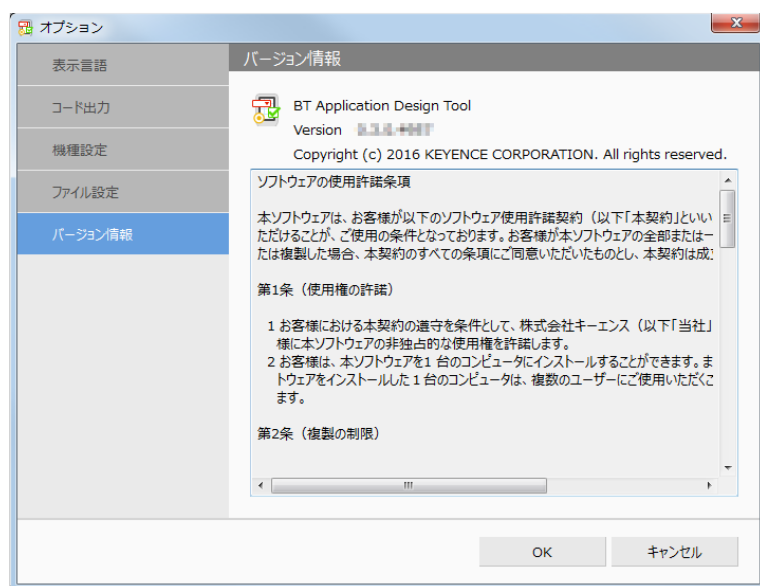
コメント

プロジェクトにコメントを保存できます。修正履歴やアプリケーションの特徴を記載するなど、自由に活用できます。

保存時に使用していないファイルリソースを対象外とする

チェックを入れると、プロジェクトで関連付けられていないマスターファイルなどを、アプリ転送「[4.2.5. アプリ転送](#)」の対象外とします。

■ バージョン情報



BT 開発・運用ツールのバージョンとソフトウェアライセンス条項を記載しています。

4.2.11. サポートページ

キーエンスの BT サポートページにリンクします。資料・ツールの各種ダウンロード、ソフトのバージョンアップ、FAQ の参照、問い合わせフォームより技術的なお問い合わせができます。

<http://www.keyence.co.jp/barcode/support/handyterminal/btus/>

KEYENCE

バーコード/2次元コード TOP | 商品情報 | HOME

ゲスト様 | 新規Web会員登録 | ログイン

ホーム > バーコード/2次元コード/RFID > BTシリーズ ユーザーサポート

BTシリーズ ユーザーサポート

BT Series User Support

資料・ツール

Download

マニュアル
サンプルプログラム
ドライバ
通信ユーティリティ
などのダウンロードはこちら

バージョンアップ

Verup

ハンディターミナル本体ファームウェア
PC用ソフトウェア
のアップデートはこちら

よくあるご質問

FAQ

お問い合わせの多いご質問や、
設定などに関する情報を掲載しています

お問い合わせ

Contact

ハンディターミナルの開発、
使用方法などに関する
技術的なお問い合わせはこちら

更新情報

2015年9月

BT-1010,1550の本体ファームウェアをバージョンアップしました。

更新履歴一覧

トピックス

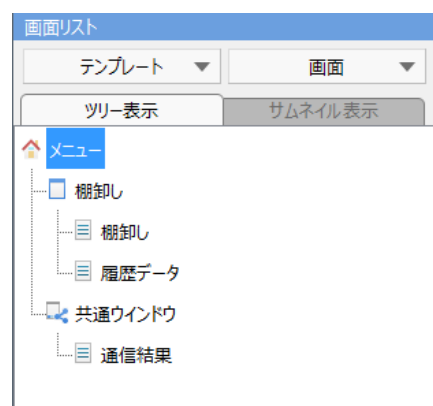
開発・運用PCをWindows7/2008Server以降に更新される方はこちら

Copyright (c) 2016 KEYENCE CORPORATION. All rights reserved.

会社概要 | お客様の情報について | サポート・お問い合わせ | サイトマップ

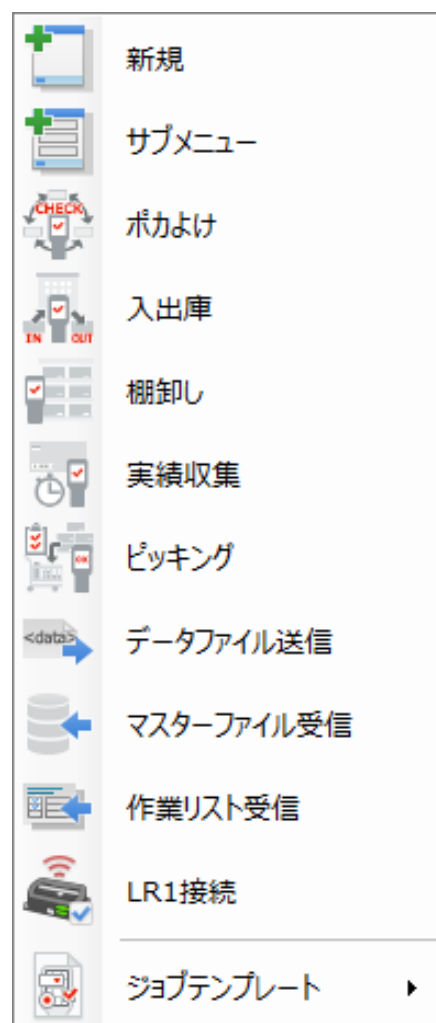
4.3. 画面リスト（ハンディアプリ）

画面リストの各部機能について説明します。



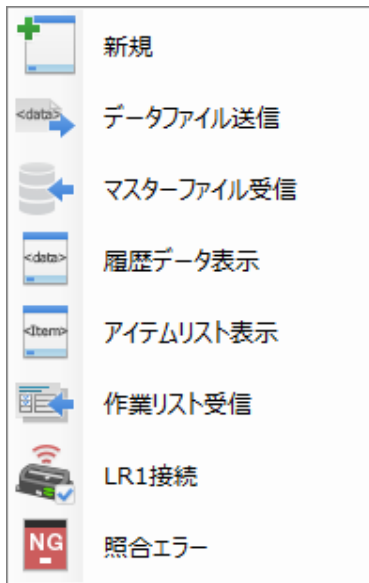
4.3.1. テンプレート

「テンプレート」ボタンを押下すると以下のように表示されます。追加するテンプレートを選択します。



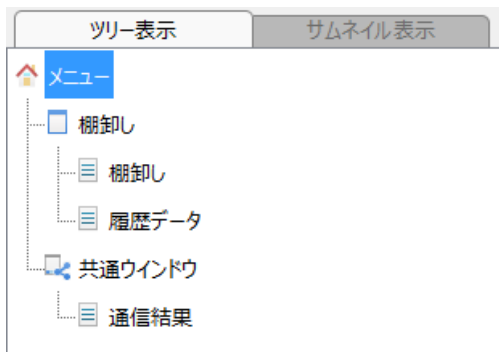
4.3.2. 画面

「画面」ボタンを押下すると、以下のように表示されます。追加する画面を選択します。



4.3.3. ツリー表示

画面の一覧をツリー表示します。ツリー表示で選択した画面が BT 開発・運用ツール中央の画面に表示されます。それぞれの項目はドラッグ&ドロップで移動できます。初めに表示する画面をジョブ内の最上段に配置してください。



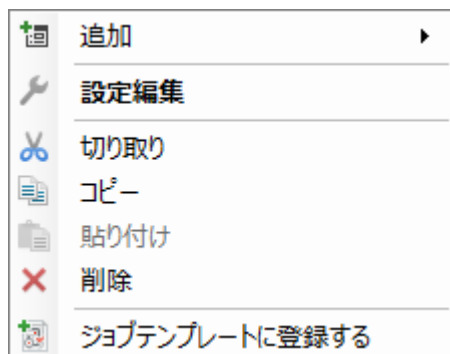
4.3.4. サムネイル表示

画面の一覧をサムネイル表示します。サムネイル表示で選択した画面が BT 開発・運用ツール中央の画面に表示されます。



画面リスト上での右クリックについて

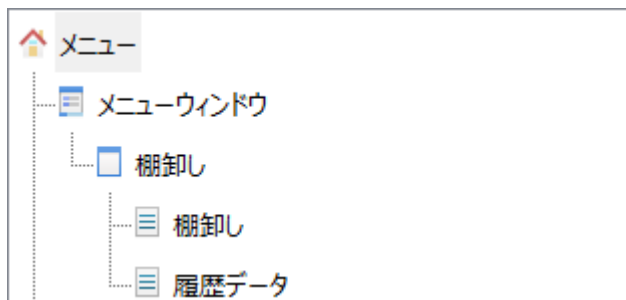
画面リスト上で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。



・追加

テンプレート、画面、サブメニューを追加できます。「[4.3.1.テンプレート](#)」「[4.3.2.画面](#)」と同じ内容を選択できます。

「メニュー」を選択されている場合に、サブメニューを追加できます。サブメニューにサブメニューを追加することはできません。



- ・設定編集

選択している項目を設定編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

- ・切り取り

選択している項目を切り取ります。(ショートカットキー：[Ctrl]+[X])

- ・コピー

選択している項目をコピーします。(ショートカットキー：[Ctrl]+[C])

- ・貼り付け

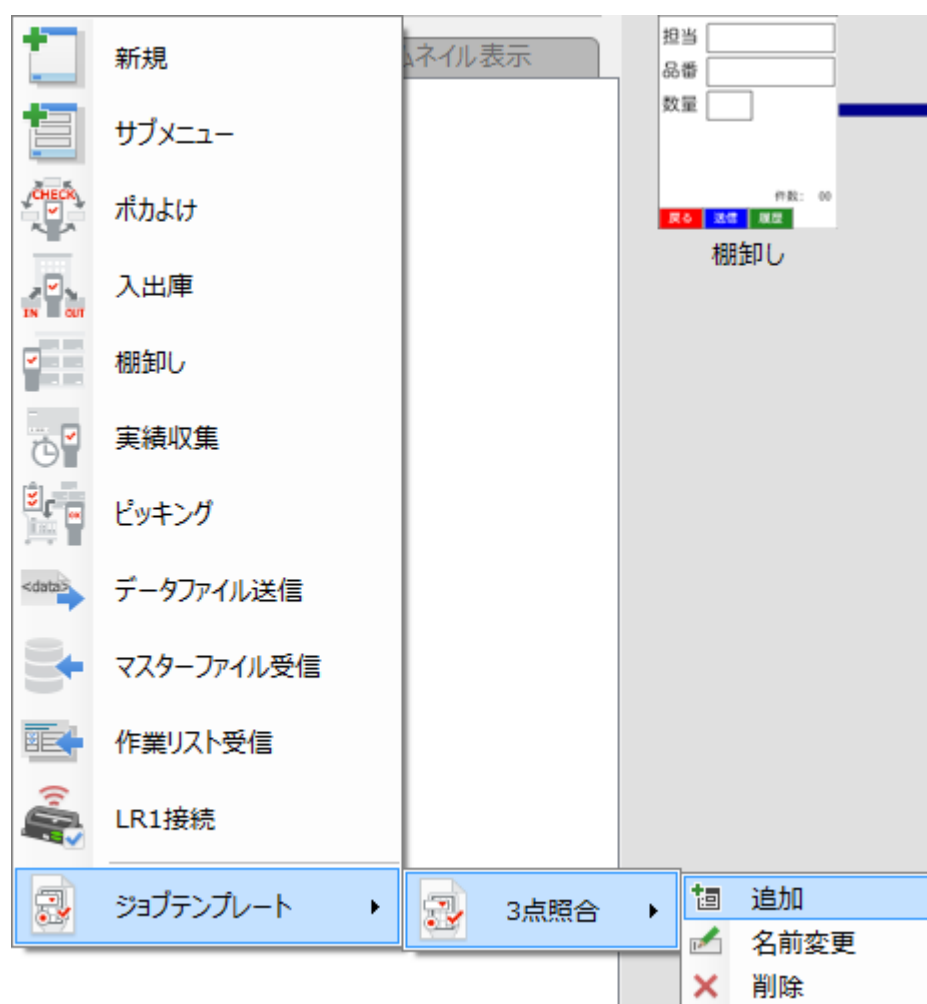
切り取りやコピーした項目を貼り付けます。(ショートカットキー：[Ctrl]+[V])

- ・削除

選択している項目を削除します。

- ・テンプレートに登録

選択されているジョブをテンプレート登録します。登録後は以下の画面のように選択できます。



4.4. 画面編集・画面遷移（ハンディアプリ）

ハンディアプリの画面の編集と画面遷移の確認ができます。

4.4.1. 画面編集

ハンディアプリの画面レイアウトを編集します。それぞれのパーツは自由に場所を変更することができます。



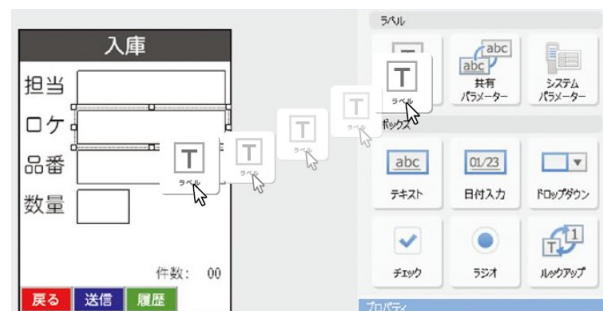
← **スクリーンショットボタン**

画面を画像としてコピーします。

作業者の方へのマニュアルを作成する際など
活用できます。

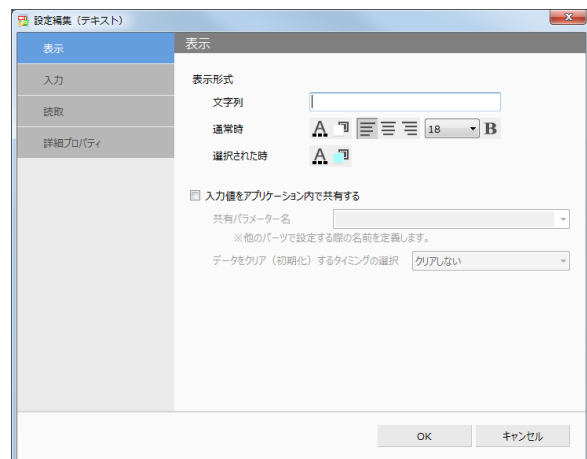
パーツの追加

ライブラリからパーツをドラッグ＆ドロップすることで追加できます。



パーツの設定

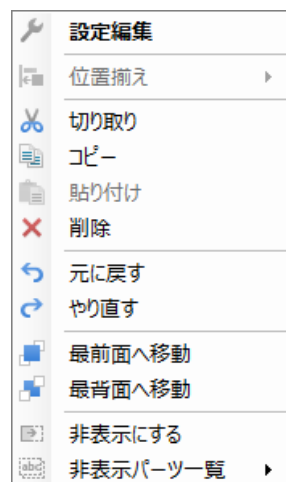
画面上のパーツをダブルクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



パーツの設定や使用方法については「[5.ハンディアプリパーツの使用方法](#)」を参照してください。

画面レイアウト上での右クリックについて

画面レイアウト上で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。



- ・ **設定編集**

パーツをダブルクリックしたときと同様に、ダイアログボックスが表示されます。

- ・ **位置揃え**

パーツを複数選択しているときに、位置を揃えます。

【選択項目】左揃え／左右中央揃え／右揃え／上揃え／上下中央揃え／下揃え

- ・ **切り取り**

選択しているパーツを切り取ります。(ショートカットキー：[Ctrl]+[X])

- ・ **コピー**

選択しているパーツをコピーします。(ショートカットキー：[Ctrl]+[C])

- ・ **貼り付け**

切り取りやコピーしたパーツを貼り付けます。(ショートカットキー：[Ctrl]+[V])

- ・ **削除**

選択しているパーツを削除します。

- ・ **元に戻す**

直前の状態に戻します。(ショートカットキー：[Ctrl]+[Z])

- ・ **やり直す**

「元に戻す」前の状態に戻します。(ショートカットキー：[Ctrl]+[Y])

- ・ **最前面へ移動**

パーツを最前面に移動します。

- ・ **最背面へ移動**

パーツを最背面に移動します。

・非表示にする

パーツを非表示にします。ラベルや共有パラメーターの値を、表示しないで照合などの参照のみ設定したい場合に使用します。

画面レイアウトの右下に、以下のようなボタンが表示されます。



ボタンを押下すると、以下のように非表示にしているパーツの一覧が表示されます。

それぞれのパーツに対して「設定編集」「再表示する」「削除」を選択できます。

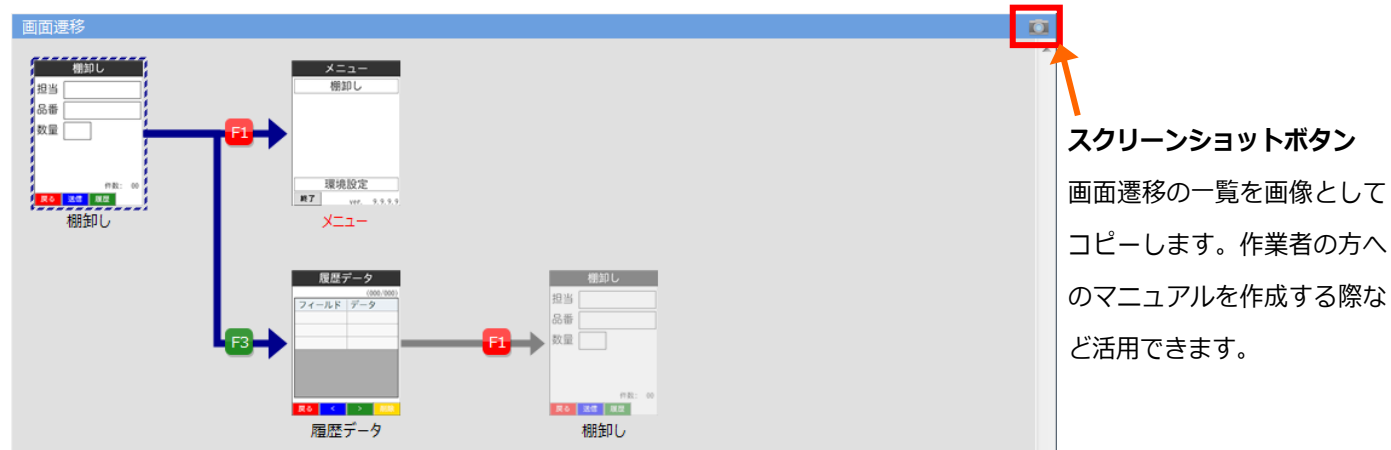
BtLabel_1	▶	
BtLabel_2	▶	
BtLabel_3	▶	 設定編集
BtLabel_4	▶	 再表示する
BtLabel_5	▶	 削除

・非表示パーツ一覧

選択すると、上記と同じ一覧が表示されます。

4.4.2. 画面遷移

それぞれのメニューの画面遷移や条件分岐を一覧で確認できます。画面をダブルクリックするとレイアウト編集画面になります。

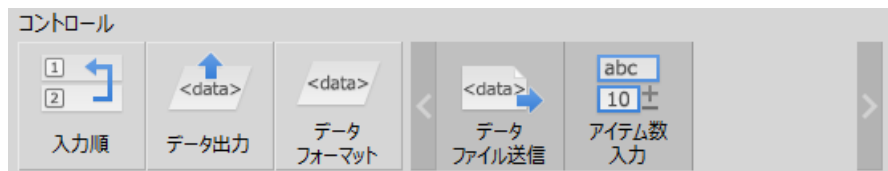


画面間の矢印やアイコンをダブルクリックすると、それぞれのコントロールのダイアログボックスが表示されます。

-  : ファンクションキーのダイアログボックス
-  : 照合コントロールのダイアログボックス
-  : データ出力コントロールのダイアログボックス

4.5. コントロール（ハンディアプリ）

ハンディアプリの動作や制御を設定するパーツをコントロールと呼びます。パーツをダブルクリックしてダイアログボックスで設定します。「入力順」「入力完了」「データ出力フォーマット」「ファンクションキー」コントロールは、画面ごとに設定が必要となります。その他のコントロールはライブラリから任意に追加できます。



4.5.1. 入力順

画面の入力順を設定します。「入力順」パーツをダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



入力ループの設定

入力ループの終端と戻り先を選択します。右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。ループを設定しない場合はプレビュー画面の各パーツ上の番号順に入力が進みます。

4.5.2. 入力完了

データ出力や画面遷移などのタイミングと、その動作を設定します。

■入力完了設定

設定編集 (入力完了)

入力完了設定

連動する動作の選択

詳細プロパティ

この画面の入力完了タイミング

- ☒ 最下段のパーツへ入力が完了した時
- ☐ 任意のパーツへ入力が完了した時
(未選択)
- ☐ なし

入力完了時の処理

- ☒ データ出力件数を表示する

棚卸し

担当 1

品番 2

数量 3

件数: 00

戻る 送信 履歴

OK キャンセル

この画面の入力完了タイミング

現在設定中の画面のどのパーツで入力完了とするか設定します。次に設定する「連動する動作」を開始するタイミングとなります。

・最下段のパーツへの入力が完了した時

画面の最下段に配置している入力パーツへの入力が完了したときになります。

・任意のパーツへ入力が完了した時

任意で選択した入力パーツへの入力が完了したときになります。

・なし

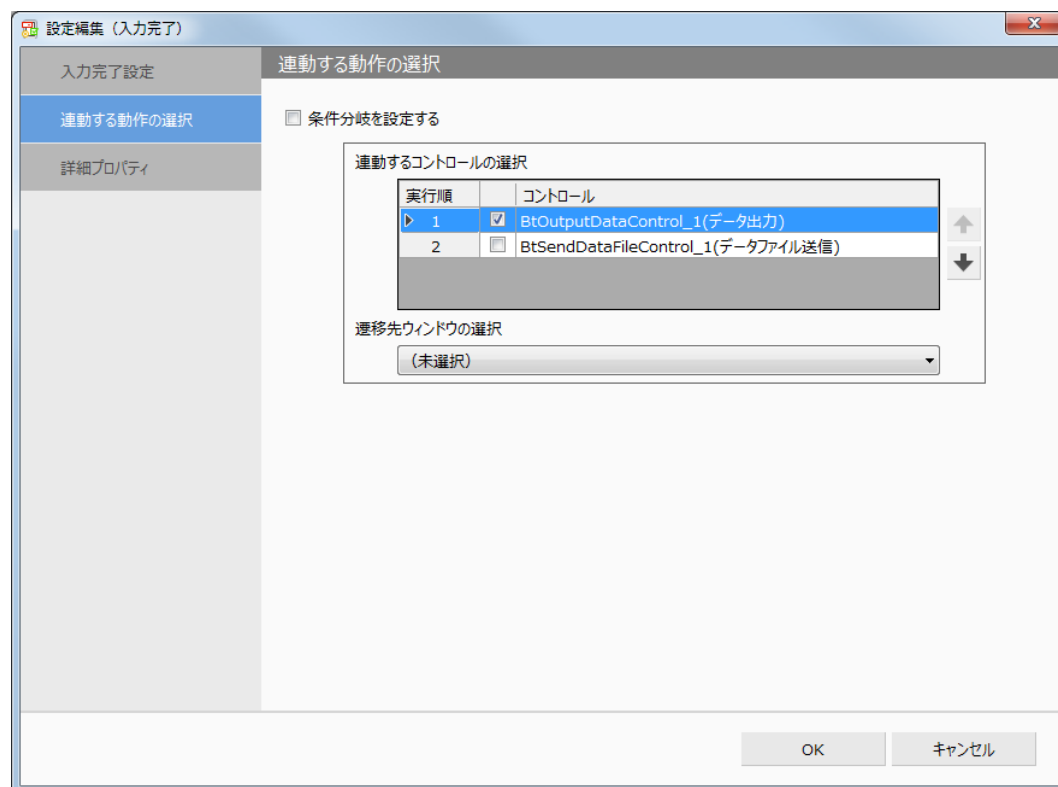
入力パーツで入力完了をしません。ボタンのみでデータ出力や画面遷移する場合などに選択します。

※入力パーツ・・・テキストボックス／日付入力ボックス／ドロップダウンボックス／チェックボックス／ラジオボックス
／ルックアップボックス

入力完了時の処理

チェックを入れると、出力したデータのレコード件数を表示するラベルが配置されます。

■連動する動作の選択



連動するコントロールの選択

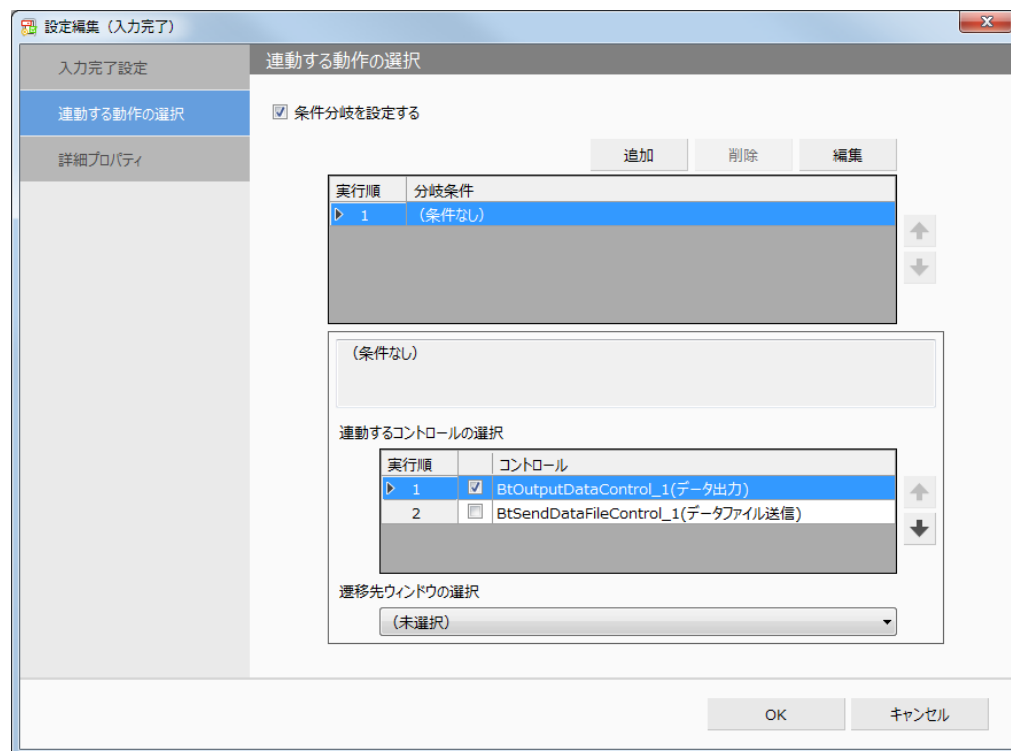
現在使用できるコントロールの一覧が表示されます。入力完了タイミングに実行するコントロールにチェックを入れます。複数同時に実行することができて、右側の矢印ボタンで実行順を変更できます。

遷移先ウィンドウの選択

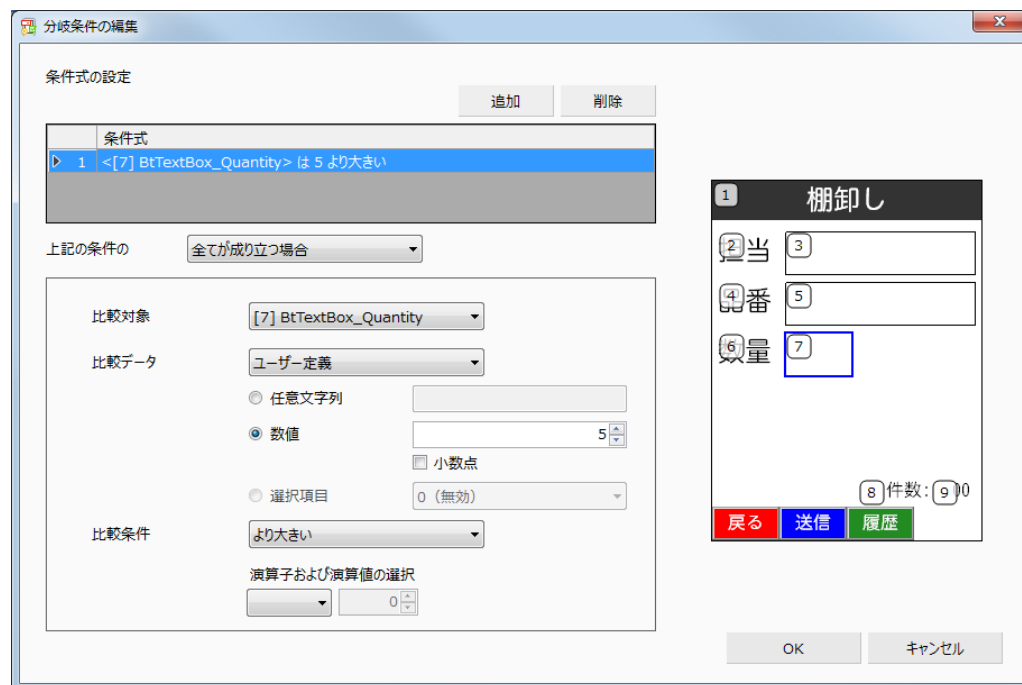
入力完了のタイミングに、画面遷移する場合に選択します。コントロールと同時に実行することができます。その場合、コントロールが先に実行されます。

条件分岐を設定する

チェックを入れた場合は以下の画面になります。連動する動作の設定に加えて、それを実行する条件を追加、削除、編集できます。「編集」ボタンを押下すると条件設定のダイアログボックスが表示されます。



「追加」ボタンを押下すると、条件を設定できます。



条件式の設定

条件式の一覧が表示されます。追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合」「いずれかが成り立つ場合」を選択します。

比較対象

条件式の比較対象となるパーツを選択します。「端末の現在日付」「端末の現在時刻」を比較対象にすることもできます。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較データ

条件式の比較データとなるパーツ、もしくは任意の値を設定します。「ユーザー定義」を選択した場合は、「任意文字列／数値／選択項目」から選択、設定します。

※「選択項目」は比較対象にラジオボックス、もしくはチェックボックスを選択した場合に有効になります。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較条件

比較条件を設定します。比較データに数値を選択した場合は、「演算子および演算値の選択」の設定が有効になります。

・文字列比較の場合

【選択項目】一致する（文字列）／一致しない（文字列）／含む

・数値比較の場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）／より大きい／より小さい／以上／以下

・比較データで「選択項目」を選択した場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）

演算子および演算値の選択

「比較対象」に演算をしてから、比較データと比較します。演算子と演算値を設定できます。

【選択項目】＋／－／×／÷

【設定例】

「棚卸し」テンプレートで入力された数量が 1 の場合は「データ出力」、2 の場合は「データファイル送信」、3 の場合は「メニュー」画面に戻るという条件分岐の場合

1. 分岐条件を 3 つ追加します。

☒ 条件分岐を設定する

追加 削除 編集

実行順	分岐条件
▶ 1	(条件なし)
2	(条件なし)
3	(条件なし)

(条件なし)

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☒ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

2. 分岐条件は以下のように設定します。下記は数量が 1 の場合なので、数量が 2 と 3 の場合は比較データの「数値」を 2 と 3 に変更してください。

分岐条件の編集

条件式の設定

追加

削除

条件式
▶ 1 <[7] BtTextBox_Quantity> は 1 と等しい

上記の条件の

全てが成り立つ場合

比較対象

[7] BtTextBox_Quantity

比較データ

ユーザー定義

任意文字列

数値

1

小数点

☐

選択項目

0 (無効)

比較条件

等しい (数値)

演算子および演算値の選択

0

1 棚卸し

2 当

3

4 番

5

6 量

7

8 件数:

9 0

戻る

送信

履歴

OK

キャンセル

3. それぞれの分岐条件で連動する動作を以下のように設定します。

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
▶ 1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 1 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
▶ 2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 2 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☐ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☒ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
▶ 3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

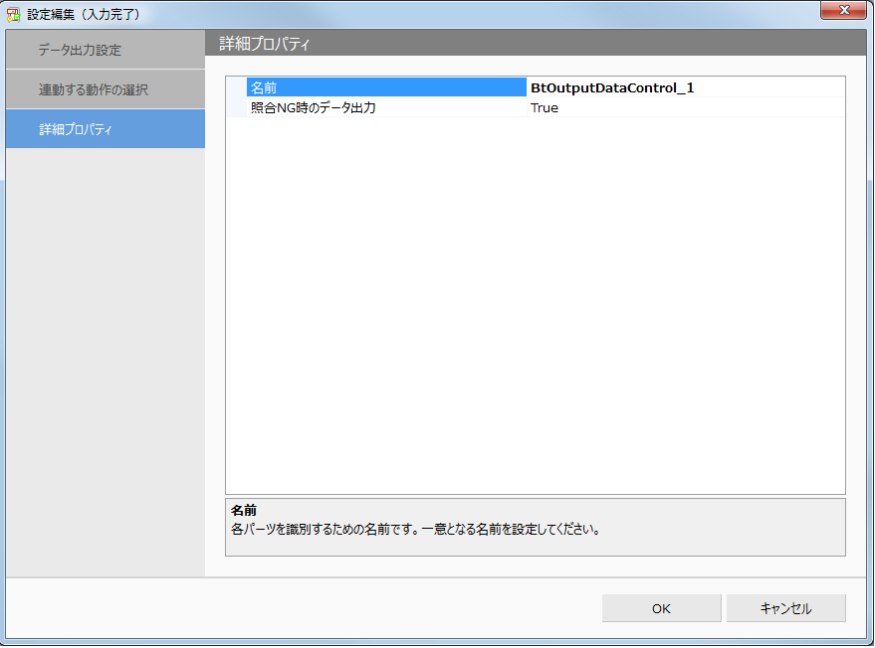
連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☐ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

メニュー

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
照合 NG 時のデータ出力	照合コントロールを使用した場合に、照合 NG 時のデータ出力を有効にするかしないかを選択します。 【選択項目】 True／False

4.5.3. データ出力フォーマット

ハンディターミナルで取得したデータを出力するときのフォーマットを設定します。

■フォーマット設定

設定編集 (データ出力フォーマット)

フォーマット設定

データ出力先

出力データ選択

ウィンドウの選択: 棚卸し

パーツ	簡易登録
[1]BtLabel_Title	
[2]BtLabel_Person	
[3]BtTextBox_Person	○
[4]BtLabel_ItemNo	
[5]BtTextBox_ItemNo	○

↓ ↑ 簡易登録

出力データ

項目名	データ	
日付	日付	...
時刻	時刻	...
シリアル番号	シリアル番号	...
担当者	BtTextBox_Person	...
品番	BtTextBox_ItemNo	...

データ形式

☒ 可変長 区切り文字: カンマ

☐ 固定長

データのプレビュー

2016/08/24,09:56:17,BT-XXXX_#12345678,<Text>,<Text>,<Num[1]>

OK キャンセル

1 棚卸し

2 当 3

4 番 5

6 量 7

8 件数: 9 0

戻る 送信 履歴

出力データ選択

画面やシステムパラメーターなどの出力データを選択します。

・ウィンドウの選択

「ウィンドウの選択」で、一覧表示しているパーツ群が変わります。

【選択項目】ジョブ内の画面／共有パラメーター／システムパラメーター／固定文字列

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

パーツ一覧の下部に表示されている↑↓ボタンは、以下のような機能となります。

↓ボタン・・・ウィンドウのパーツ群から選択状態のパーツを出力データに加えます。

↑ボタン・・・出力データから項目を削除します。

・簡易登録

「簡易登録」ボタンを押下すると、パーツ群の簡易登録欄に○が入っているパーツを一括で出力データに加えます。

出力データに加える頻度の高い入力パーツが簡易登録対象です。

※入力パーツ・・・テキストボックス／日付入力ボックス／ドロップダウンボックス／チェックボックス／ラジオボックス
／ルックアップボックス

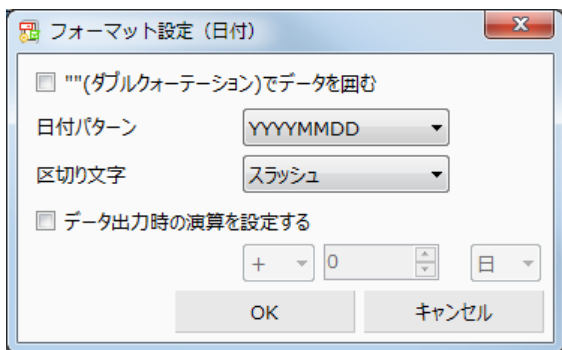
・出力データ

登録されている出力データの一覧が表示されています。項目名は任意の名前に変更できます。履歴データ表示画面に表示されます。右側の↑↓ボタンで出力データの順番を変更できます。

※項目名の重複はできません。

 ボタンを押下すると、フォーマットの詳細設定ができます。データの種類によって表示されるダイアログボックスが異なります。

・日付の場合

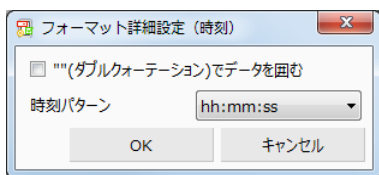


このダイアログボックスは「フォーマット設定 (日付)」と題されています。内容は以下の通りです。

- ☐ ""(ダブルクォーテーション)でデータを囲む
- 日付パターン: YYYMMDD (プルダウンメニュー)
- 区切り文字: スラッシュ (プルダウンメニュー)
- ☐ データ出力時の演算を設定する
 - 演算: + (プルダウンメニュー)
 - 値: 0 (数値入力欄)
 - 単位: 日 (プルダウンメニュー)

底部には「OK」と「キャンセル」のボタンがあります。

・時刻の場合

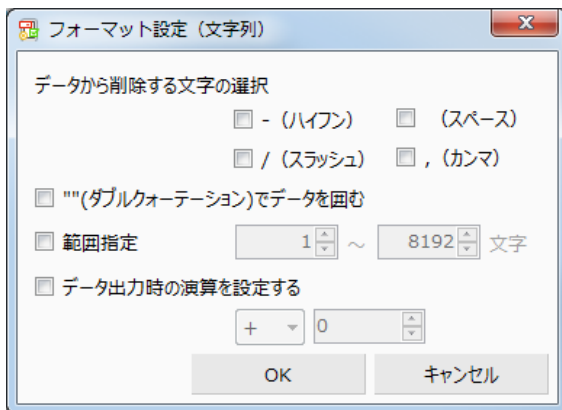


このダイアログボックスは「フォーマット詳細設定 (時刻)」と題されています。内容は以下の通りです。

- ☐ ""(ダブルクォーテーション)でデータを囲む
- 時刻パターン: hh:mm:ss (プルダウンメニュー)

底部には「OK」と「キャンセル」のボタンがあります。

・上記以外の場合



このダイアログボックスは「フォーマット設定 (文字列)」と題されています。内容は以下の通りです。

- データから削除する文字の選択
 - ☐ - (ハイフン)
 - ☐ (スペース)
 - ☐ / (スラッシュ)
 - ☐ , (カンマ)
- ☐ ""(ダブルクォーテーション)でデータを囲む
- ☐ 範囲指定: 1 ~ 8192 文字 (数値入力欄)
- ☐ データ出力時の演算を設定する
 - 演算: + (プルダウンメニュー)
 - 値: 0 (数値入力欄)

底部には「OK」と「キャンセル」のボタンがあります。

データ形式

出力データが可変長か固定長かを選択します。可変長の場合は区切り文字をカンマ／タブ／スペースから選択できます。

データのプレビュー

出力データのプレビューを表示します。設定に誤りがないか確認できます。

■データ出力先

設定編集 (データ出力フォーマット)

フォーマット設定

データ出力先

データ出力先の選択

- ☒ 端末データファイルヘデータを出力する
- ☐ PCアプリヘデータを送信する

☒ 通信エラーとなったデータを次回のデータ送信時に再送する

データファイル / データテーブル

InventoryLog.csv

☐ ファイル名の先頭に日付を付加する 例) YYYYMMDD_logdata.csv

☐ 日付変更する時刻を設定する

00 : 00 まで当日とする

OK キャンセル

データの出力先を設定します。

データ出力先の選択

・端末データファイルヘデータを出力する

ハンディターミナル内にデータを蓄積します。

・PC アプリヘデータを送信する

PC アプリにリアルタイムにデータを送信します。

通信エラーとなったデータを次回のデータ送信時に再送する。

データ出力先に、「PC アプリヘデータを送信」を選択した場合にチェックできます。データ送信が通信エラーとなった場合、次のデータ送信時に、通信エラー時のデータを再送できます。

データファイル／データテーブル

データ出力するデータファイル、もしくはデータテーブルの名前を設定できます。

・ファイル名の先頭に日付を付加する

チェックを入れるとファイル名の先頭に、データファイルを送信した日付を付加します。

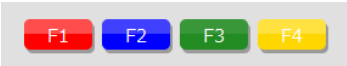
・日付変更する時刻を設定する

ファイル名の先頭に日付を付加する場合に、その日付を変更する時刻を設定します。

4.5.4. ファンクションキー

現在の画面表示のときにファンクションキーを押されたときの動作を設定します。

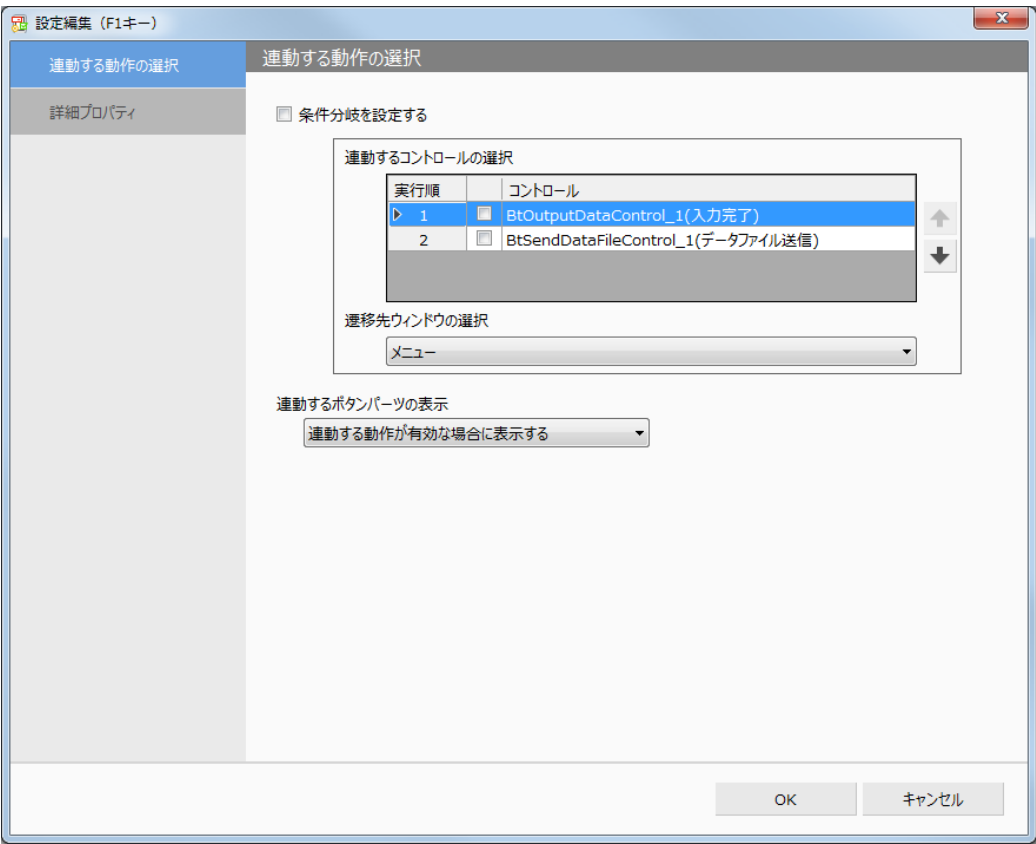
BT-W70／80／100 シリーズ



BT-600／1000 シリーズ

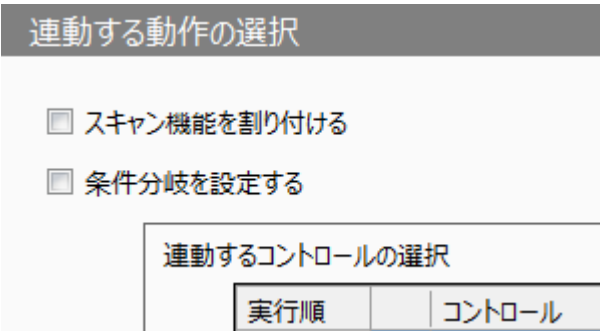


■連動する動作の選択



スキャン機能を割り付ける ※BT-600/1000 シリーズで L、R キーの設定のみ

L、R キーにスキャン機能を割り付けます。



連動するコントロールの選択

現在使用できるコントロールの一覧が表示されます。ファンクションキーを押下したタイミングに、コントロールを実行する場合にチェックを入れます。複数同時に実行することができて、右側の矢印ボタンで実行順を変更できます。

遷移先ウィンドウの選択

ファンクションキーを押下したタイミングに、画面遷移する場合に選択します。コントロールと同時に実行することができます。その場合、コントロールが先に実行されます。

連動するボタンパーツの表示

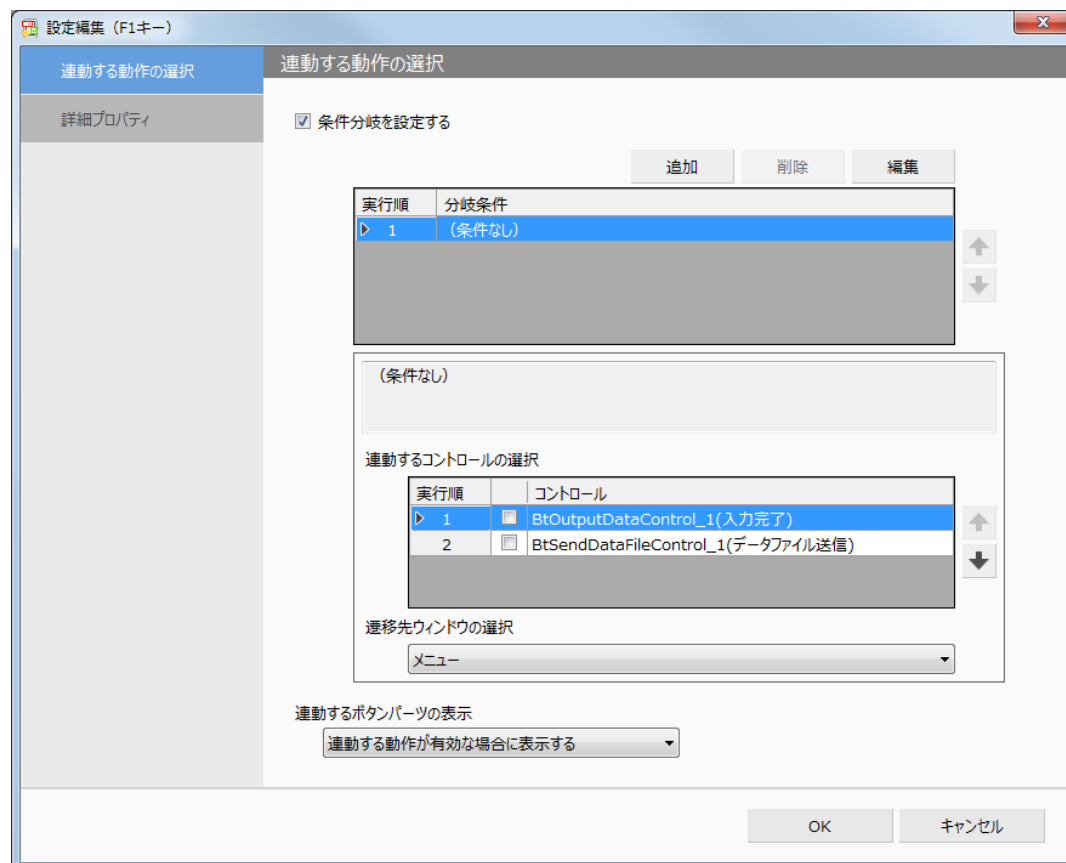
画面にファンクションキーと同じ動作をするボタンパーツを、配置するかどうか設定します。

【選択項目】連動する動作が有効な場合に表示する／常に表示する／表示しない



条件分岐を設定する

チェックを入れた場合は以下の画面になります。連動する動作の設定に加えて、それを実行する条件を追加、削除、編集できます。「編集」ボタンを押下すると条件設定のダイアログボックスが表示されます。



「追加」「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスで条件を設定できます。

条件式の設定

条件式の一覧が表示されます。追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合」「いずれかが成り立つ場合」を選択します。

比較対象

条件式の比較対象となるパーツを選択します。「端末の現在日付」「端末の現在時刻」を比較対象にすることもできます。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較データ

条件式の比較データとなるパーツ、もしくは任意の値を設定します。「ユーザー定義」を選択した場合は、「任意文字列／数値／選択項目」から選択、設定します。

※「選択項目」は比較対象にラジオボックス、もしくはチェックボックスを選択した場合に有効になります。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較条件

比較条件を設定します。比較データに数値を選択した場合は、「演算子および演算値の選択」の設定が有効になります。

・文字列比較の場合

【選択項目】一致する（文字列）／一致しない（文字列）／含む

・数値比較の場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）／より大きい／より小さい／以上／以下

・比較データで「選択項目」を選択した場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）

演算子および演算値の選択

「比較対象」に演算をしてから、比較データと比較します。演算子と演算値を設定できます。

【選択項目】＋／－／×／÷

【設定例】

「棚卸し」テンプレートで入力された数量が 1 の場合は「データ出力」、2 の場合は「データファイル送信」、3 の場合は「メニュー」画面に戻るという条件分岐の場合

1. 分岐条件を 3 つ追加します。

☒ 条件分岐を設定する

追加

削除

編集

実行順	分岐条件
▶ 1	(条件なし)
2	(条件なし)
3	(条件なし)

(条件なし)

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☒ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

2. 分岐条件は以下のように設定します。下記は数量が 1 の場合なので、数量が 2 と 3 の場合は比較データの「数値」を 2 と 3 に変更してください。

分岐条件の編集

条件式の設定

追加

削除

条件式
▶ 1 <[7] BtTextBox_Quantity> は 1 と等しい

上記の条件の 全てが成り立つ場合

比較対象

[7] BtTextBox_Quantity

比較データ

ユーザー定義

☐ 任意文字列

☒ 数値

☐ 小数点

比較条件

等しい (数値)

演算子および演算値の選択

0

1 棚卸し

2 当

3

4 番

5

6 量

7

8 件数: 9 0

戻る

送信

履歴

3. それぞれの分岐条件で連動する動作を以下のように設定します。

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
▶ 1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 1 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
▶ 2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 2 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☐ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☒ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

条件分岐を設定する

追加削除編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
▶ 3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

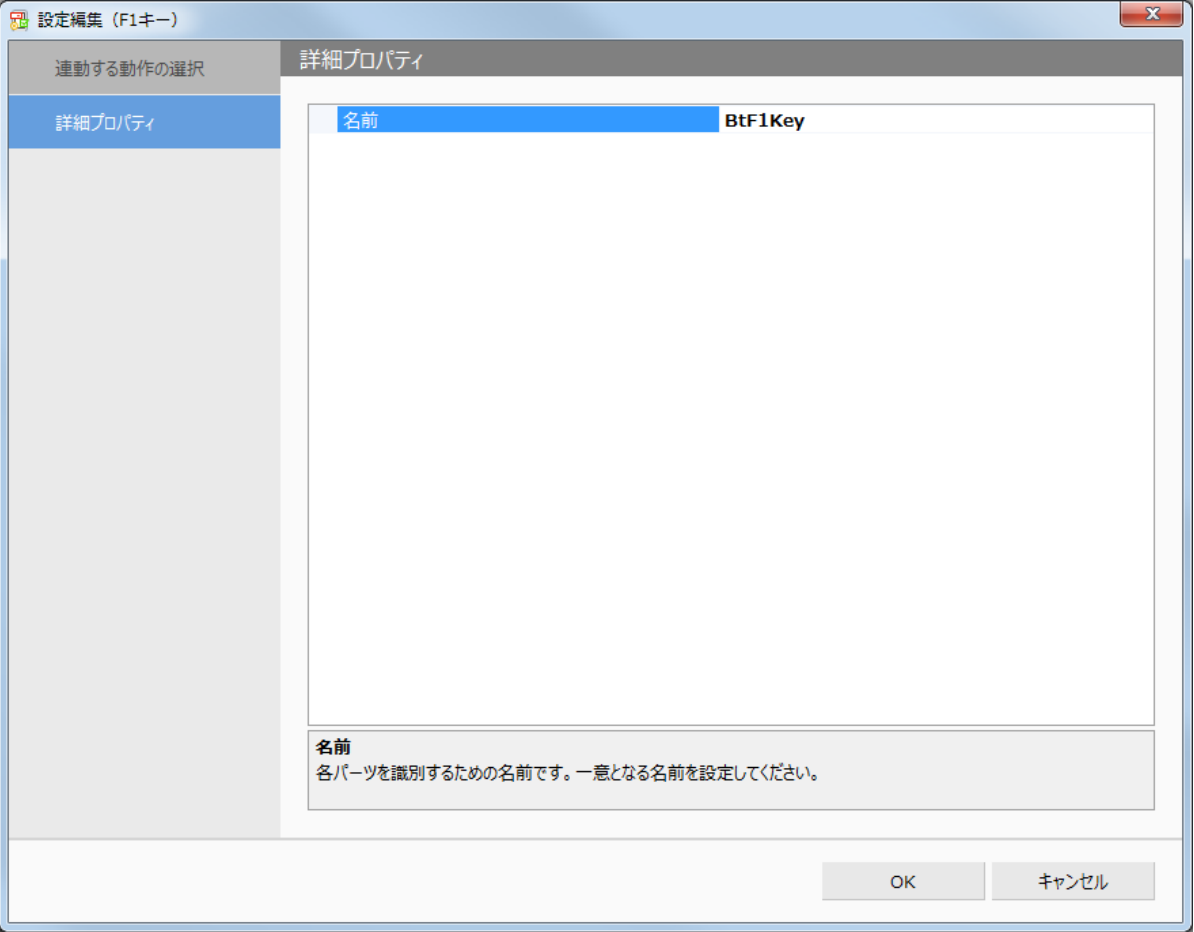
連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
▶ 1	☐ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

メニュー

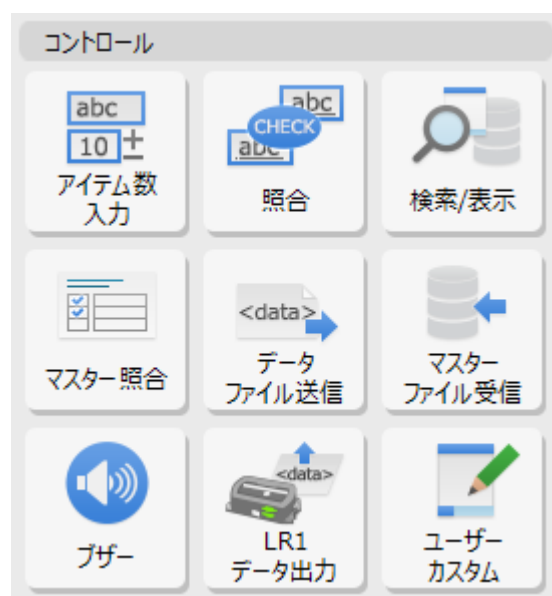
■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

4.5.5. コントロールの追加

ライブラリからコントロールパーツを、画面上もしくはコントロールエリアにドラッグ&ドロップすることで、コントロールを自由に追加できます。コントロールパーツの詳細については「[5.5.コントロール](#)」を参照してください。



コントロールパーツ上での右クリックについて

コントロールパーツ上で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。



- ・ **設定編集**

選択しているパーツを設定編集できます。ダブルクリックと同様の動作です。

- ・ **コピー**

選択しているパーツをコピーします。(ショートカットキー：[Ctrl]+[C])

- ・ **貼り付け**

コピーしたパーツを貼り付けます。(ショートカットキー：[Ctrl]+[V])

- ・ **削除**

選択しているパーツを削除します。

4.6. ライブラリ（ハンディアプリ）

ハンディアプリを開発するための GUI パーツを置いています。ドラッグ&ドロップで画面やコントロールエリアに、自由に配置できます。パーツの使い方については、「[5.ハンディアプリパーツの使用方法](#)」を参照してください。



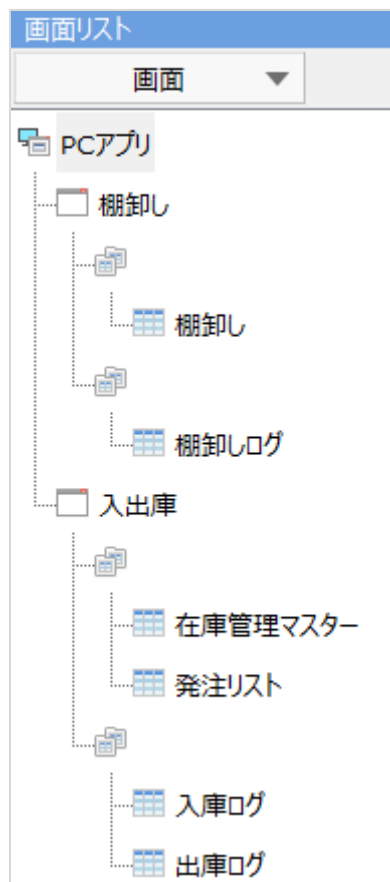
4.7. プロパティ（ハンディアプリ）

選択しているパーツのプロパティを確認、変更できます。設定内容の詳細については、「[5.ハンディアプリパーツの使用方法](#)」を参照してください。

プロパティ	
名前	BtLabel_Person
▷ 位置	5, 45
▷ サイズ	60, 35
枠線	なし
表示文字列	担当
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White

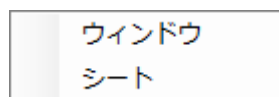
4.8. 画面リスト (PC アプリ)

PC アプリ編集時に、表示される画面リストについて説明します。



「画面」ボタン

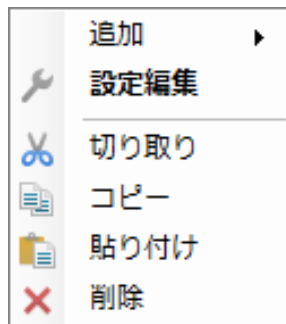
「画面」ボタンを押下すると、以下のようなメニューが表示されます。追加する画面を選択します。



ウィンドウとシートについては「[4.9.画面編集 \(PC アプリ\)](#)」を参照してください。

画面リスト上での右クリックについて

画面リスト上で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。



- ・ **追加**

ウィンドウやシートを追加できます。

- ・ **設定編集**

選択している項目を設定編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

- ・ **切り取り**

選択している項目を切り取ります。(ショートカットキー：[Ctrl] + [X])

- ・ **コピー**

選択している項目をコピーします。(ショートカットキー：[Ctrl] + [C])

- ・ **貼り付け**

切り取りやコピーした項目を貼り付けます。(ショートカットキー：[Ctrl] + [V])

- ・ **削除**

選択している項目を削除します。

4.9. 画面編集 (PC アプリ)

「[4.2.7.PC アプリ編集](#)」ボタンを押下した場合に、画面編集エリアに以下のように表示されます。

The screenshot shows the 'BT Application Design Tool' window. The 'PCアプリ' (PC Application) tab is selected in the toolbar. The left sidebar shows a tree view with 'PCアプリ' expanded, containing '棚卸し' (Inventory), '入出庫' (In/Out), '在庫管理マスター' (Inventory Management Master), '発注リスト' (Purchase List), '入庫ログ' (Inbound Log), '出庫ログ' (Outbound Log), '実績収集' (Actual Collection), and '実績収集' (Actual Collection). The main editing area is titled 'PCアプリ' and contains several sections:

- 棚卸し** (Inventory): Includes buttons for '棚卸し', '入出庫', and '実績収集'. Below these are filters and a table with columns: 品番 (Item No.), 商品名 (Item Name), 単価 (Unit Price), 理論在庫 (Theoretical Inventory), and 実績数 (Actual Quantity). Summary statistics at the bottom show: 総数: <演算結果>件 (Total Count: <Calculation Result> items), 総在庫金額: <演算結果>円 (Total Inventory Amount: <Calculation Result> yen), and 更新日時: 2016/09/28 13:42 (Update Time: 2016/09/28 13:42).
- 棚卸しログ** (Inventory Log): Includes a table with columns: 日付 (Date), 時刻 (Time), シリアル番号 (Serial Number), 担当者 (Person in Charge), 品番 (Item No.), and 数量 (Quantity). Summary statistics at the bottom show: 更新日時: 2016/09/28 13:42 (Update Time: 2016/09/28 13:42).

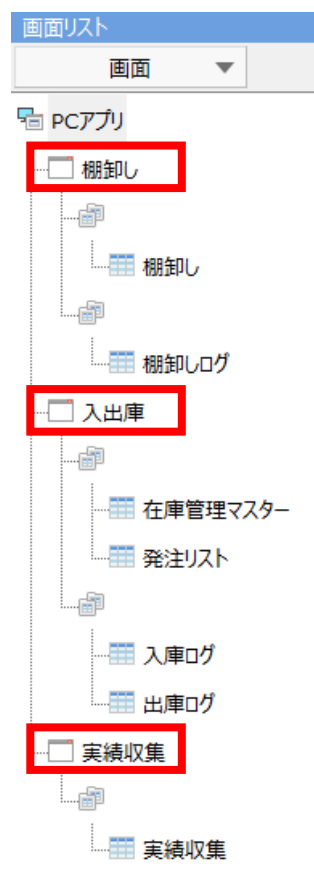
■ウィンドウについて

ジョブ単位の画面を「ウィンドウ」と定義しています。以下の領域となります。

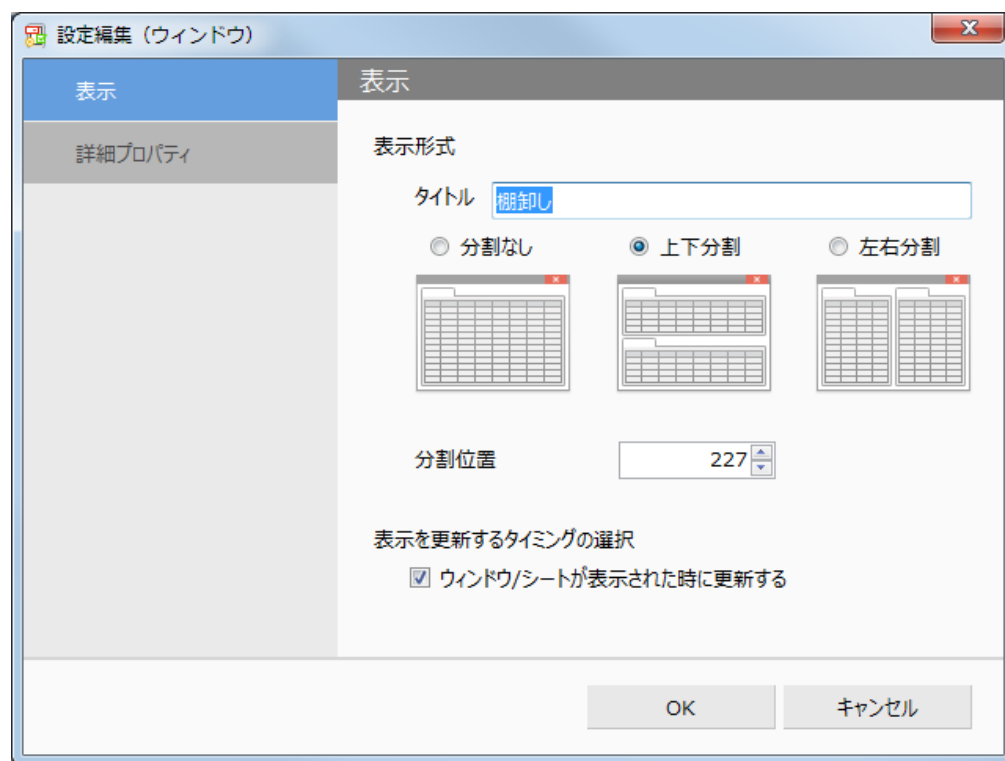
This screenshot is identical to the one above, but a red rectangular box highlights the main editing area, which includes the '棚卸し' (Inventory) and '棚卸しログ' (Inventory Log) sections. This area is defined as a 'window' in the context of the tool.

画面リストでの操作について

画面リストで、以下の領域をクリックすると、選択した「ウィンドウ」が画面編集領域に表示されます。



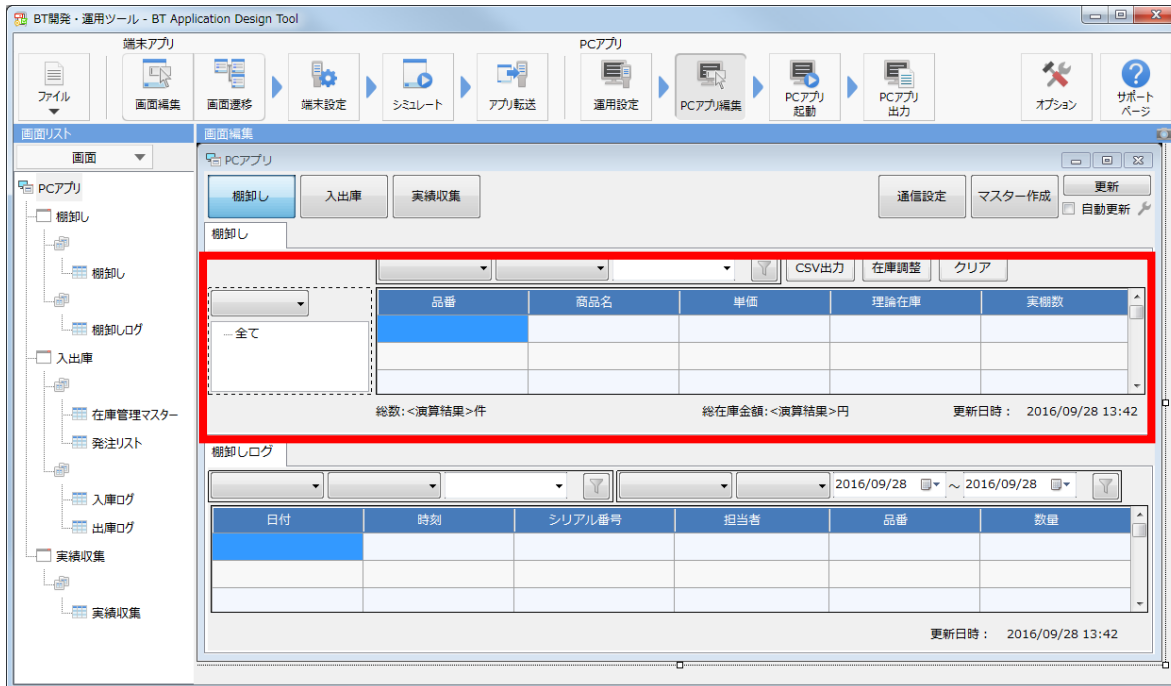
上記の項目をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



ウィンドウの詳細設定については「[6.5.1.ウィンドウ](#)」を参照してください。

■シートについて

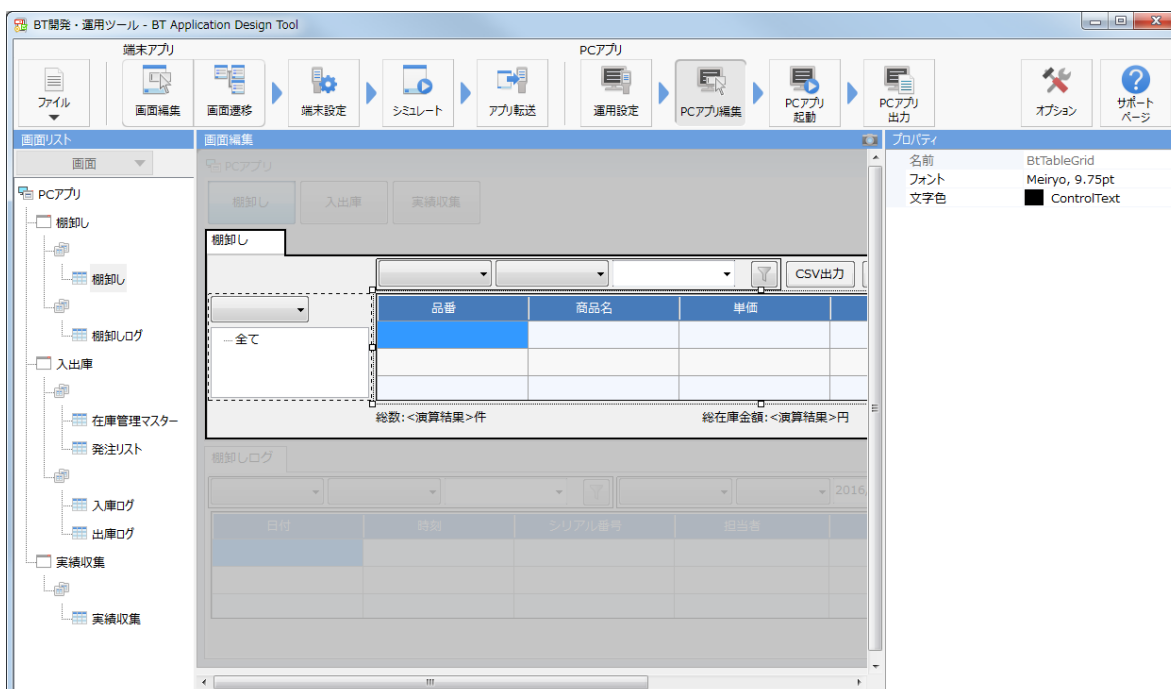
データベースを表示するテーブルが配置されている画面を「シート」と定義しています。以下の領域となります。



上記の領域をダブルクリックすると、シートを編集できます。「[4.2.6.運用設定](#)」の選択により編集できる内容が異なります。以下のようになります。

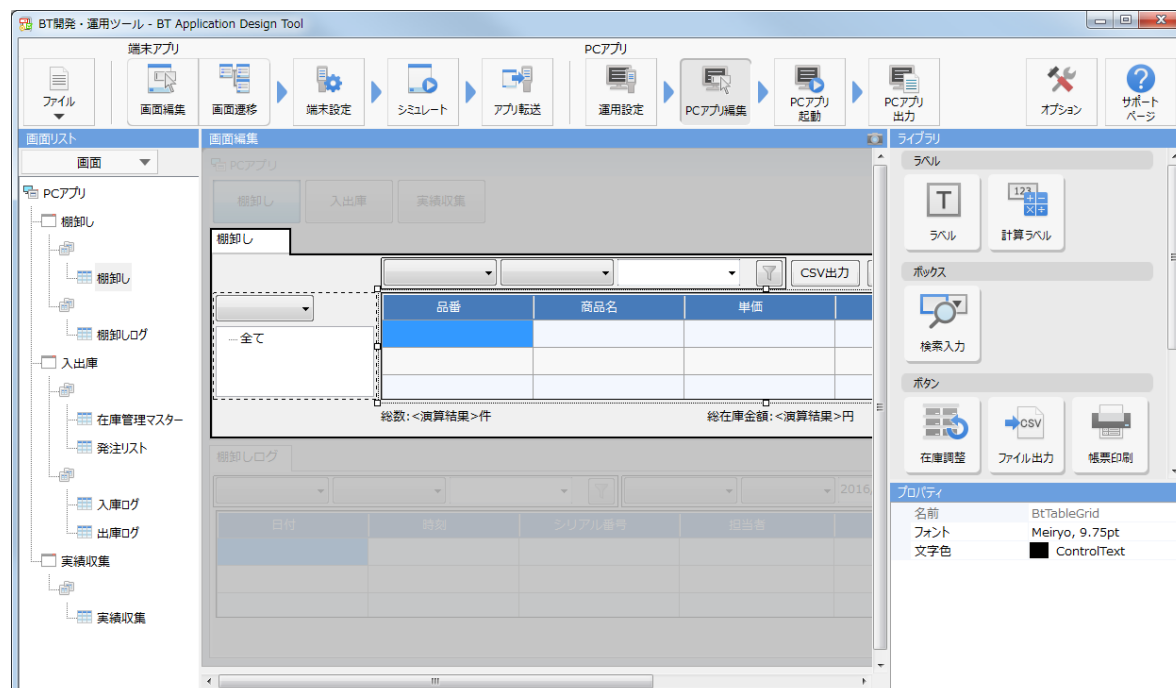
「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」を選択した場合

編集できる領域以外グレイアウトし、プロパティ画面が表示されます。シート上に配置されているパーツは、自由に場所を変更できます。この運用設定の場合、パーツの設定編集、削除はできますが、追加はできません。



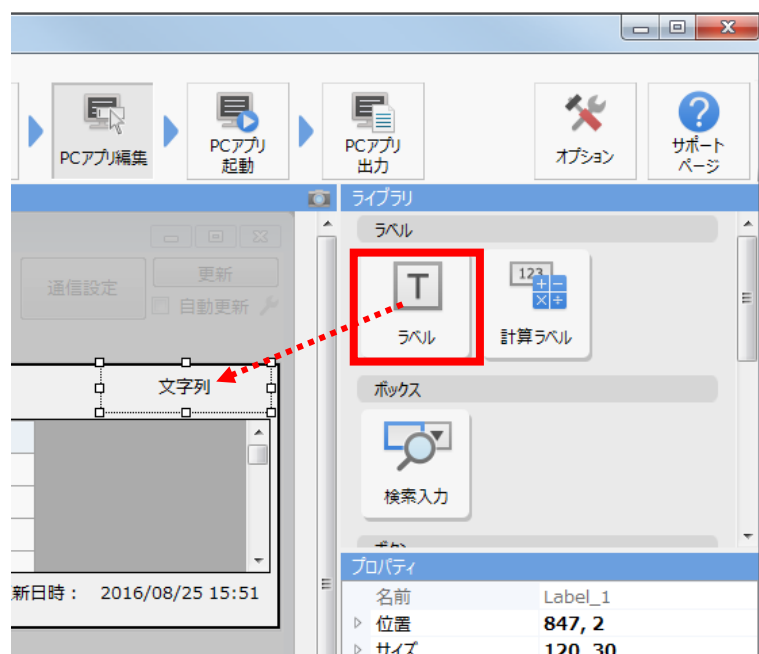
「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合

編集できる領域以外グレースアウトし、ライブラリとプロパティ画面が表示されます。シート上に配置されているパーツは、自由に場所を変更できます。この運用設定の場合、パーツの追加、設定編集、削除ができます。



パーツの追加

ライブラリからパーツをドラッグ&ドロップすることで追加できます。



パーツの設定

画面上のパーツをダブルクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示され、設定できます。

設定編集 (テーブル表示グリッド)

表示

表示項目の選択

検索条件

詳細プロパティ

表示項目の選択

ヘッダ表示

☒ 列名を表示する

☒ 行番号を表示する

9.75

B

9.75

B

詳細

詳細

表示する列の選択

条件付き書式

削除

編集

計算列

追加

削除

編集

	1列目	2列目	3列目	4列目	5列目
列名	品番	商品名	単価	理論在庫	実棚数
列幅	100	100	100	100	100
表示設定	表示	表示	表示	表示	表示
条件付き書式	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
計算式					

テーブルのプレビュー

	品番	商品名	単価	理論在庫	実棚数
1					
2					
3					
4					
5					

OK

キャンセル

パーツの設定や使用方法については「[6.PC アプリパーツの使用法](#)」を参照してください。

画面リストでの操作について

画面リストで、以下の領域をクリックすると、選択した「シート」が画面編集領域に表示されます。

画面リスト

画面

PCアプリ

棚卸し

棚卸し

棚卸しログ

入出庫

在庫管理マスター

発注リスト

入庫ログ

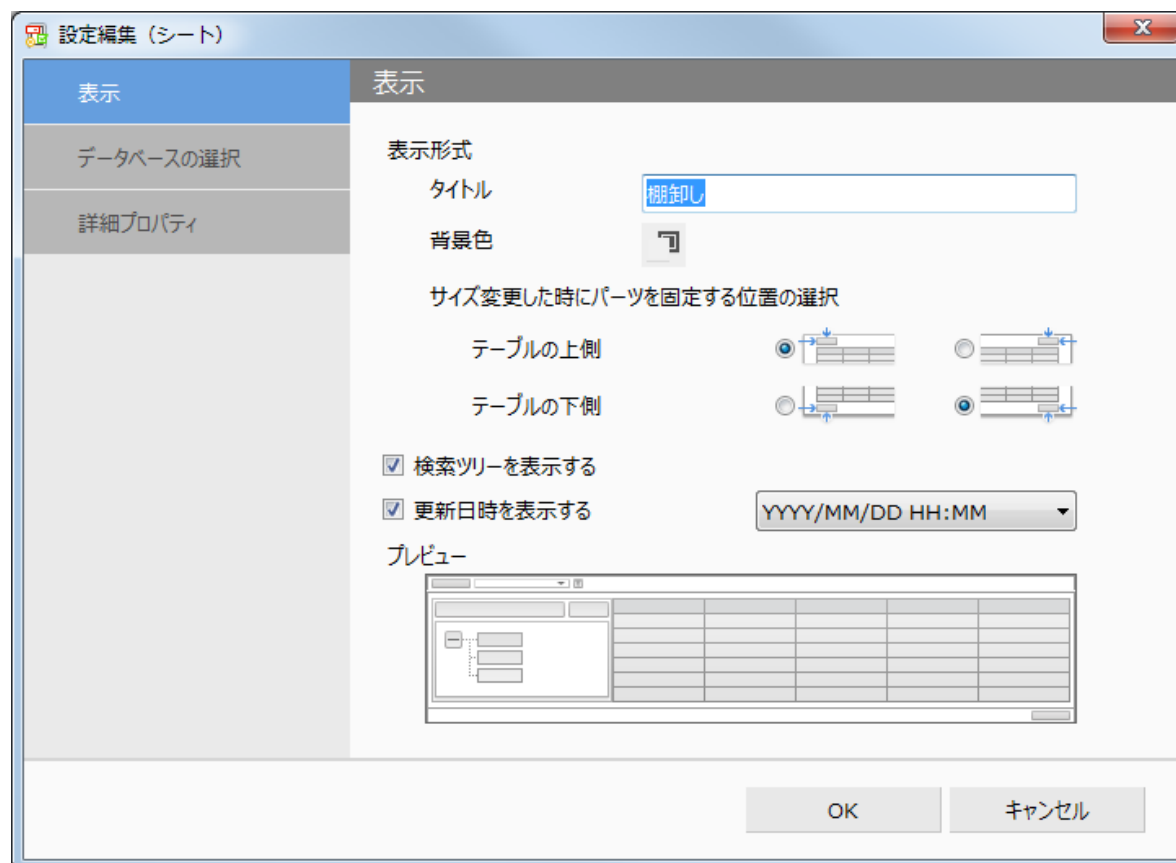
出庫ログ

実績収集

実績収集

105 / 384

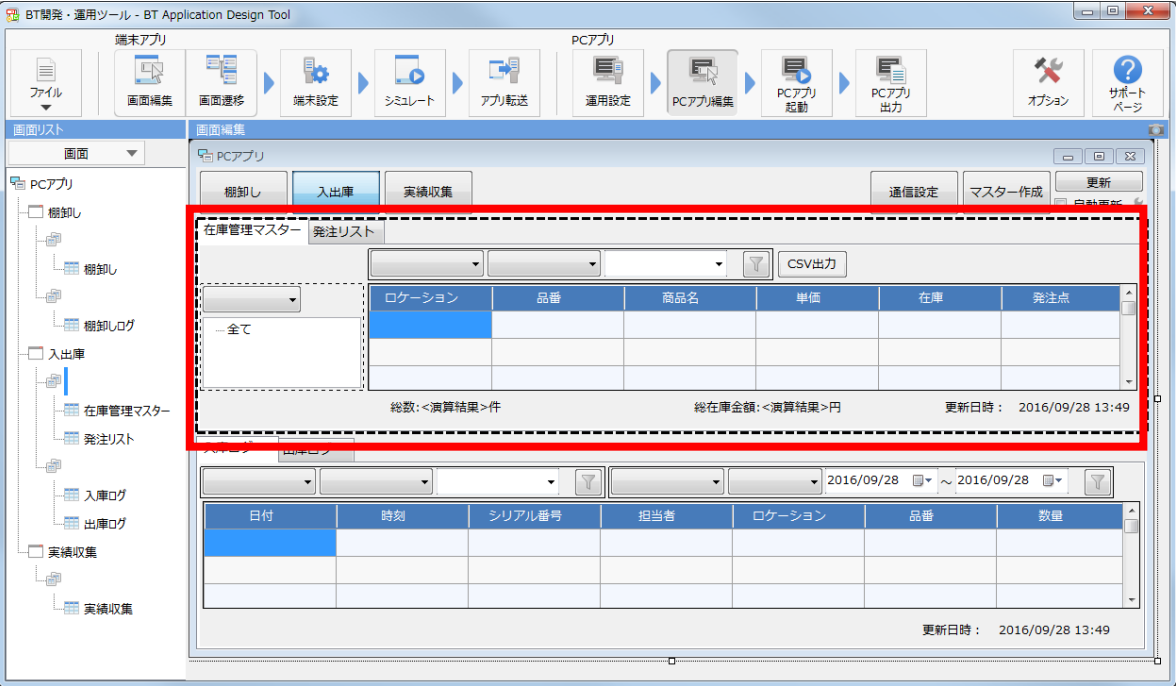
上記の項目をダブルクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。



シートの詳細設定については「[6.5.2.シート](#)」を参照してください。

■グループについて

複数の「シート」をまとめた領域を「グループ」と定義しています。黒点線で囲まれた領域となります。



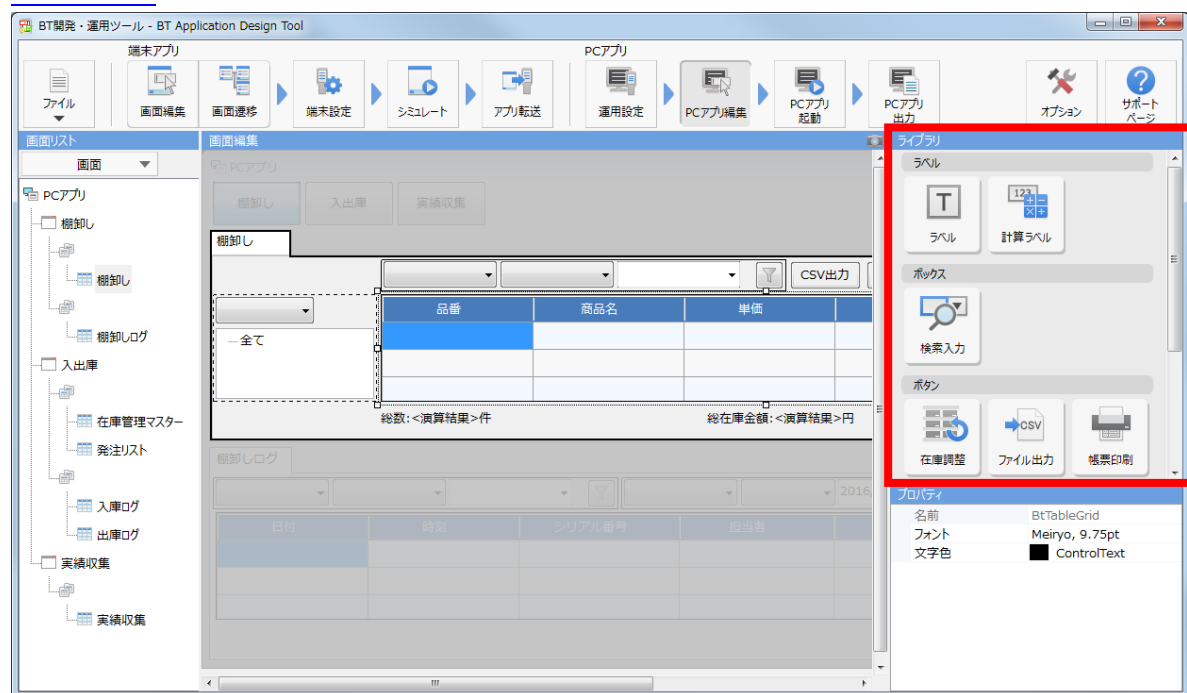
画面リストでの操作について

画面リストで、以下の領域をクリックすると、選択した「グループ」が画面編集領域に表示されます。



4.10. ライブラリ (PC アプリ)

「[4.2.6.運用設定](#)」で「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合のみ、「[4.9.画面編集 \(PC アプリ\)](#)」でシートをダブルクリックすると、画面右側に表示されます。PC アプリを開発するためのGUIパーツを置いています。ドラッグ＆ドロップで画面に自由に配置できます。パーツの使い方については、「[6.PC アプリパーツの使用法](#)」を参照してください。



ライブラリー一覧



4.11. プロパティ（PC アプリ）

選択しているパーツのプロパティを確認、変更できます。設定内容の詳細については、「[6.PC アプリパーツの使用方法](#)」を参照してください。

プロパティ	
名前	BtServerCalculationLabel
▶ 位置	447, 154
▶ サイズ	165, 34
枠線	なし
文字の配置	中段左寄せ
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	ControlText
背景色	Control

5. ハンディアプリパーツの使用方法

ライブラリからパーツをドラッグ&ドロップすることで、ハンディアプリを開発します。それぞれのパーツの使用方法について説明します。

5.1. ラベル

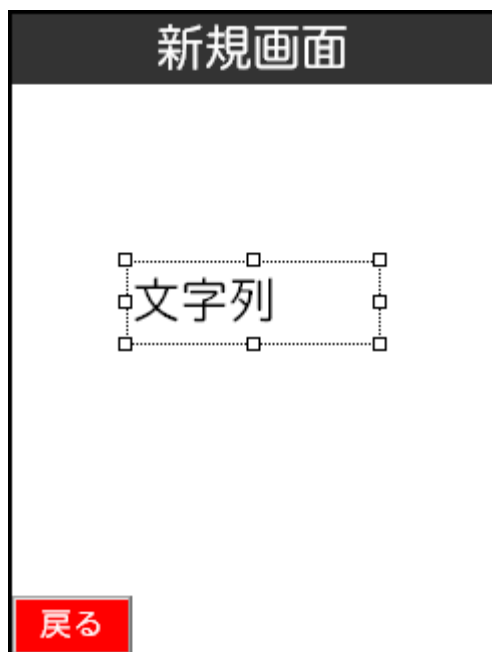
5.1.1. ラベル

ハンディターミナルに表示する文字列を設定するパーツです。

■ 選択するパーツ

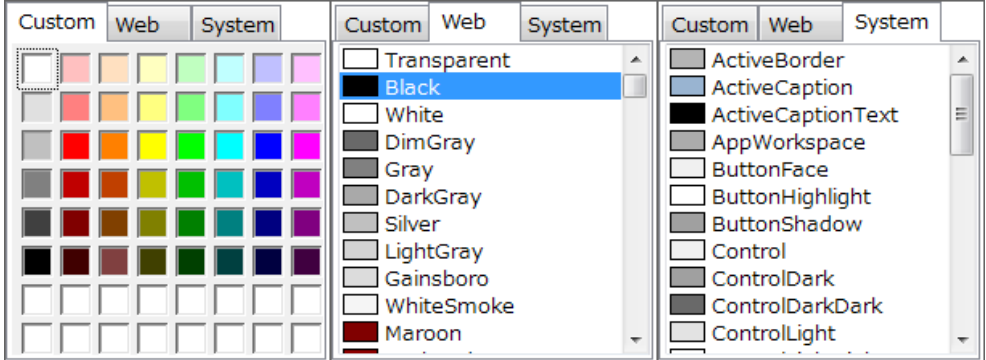
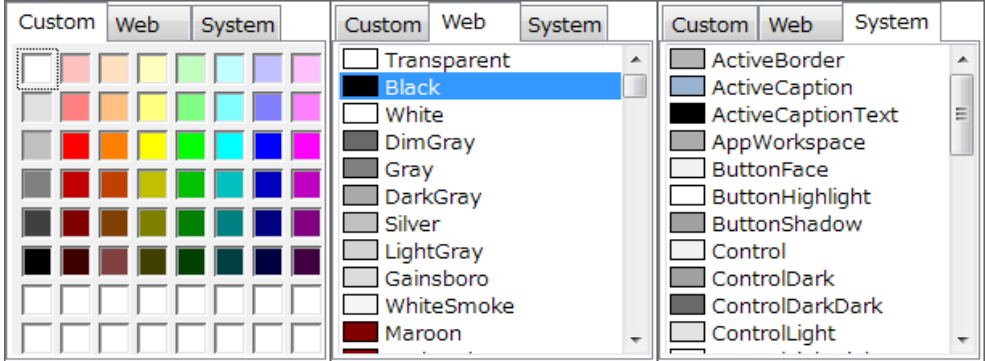


■ 配置したときの画面



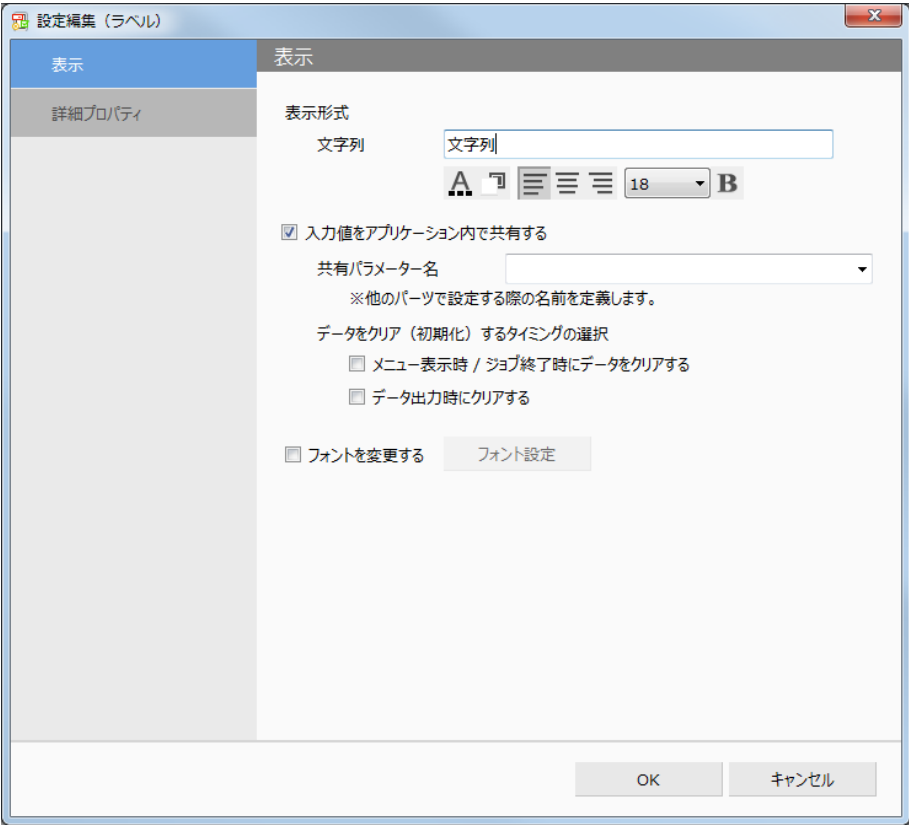
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtLabel_1
▷ 位置	60, 126
▷ サイズ	120, 35
枠線	なし
表示文字列	文字列
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、縦幅 : 3~640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

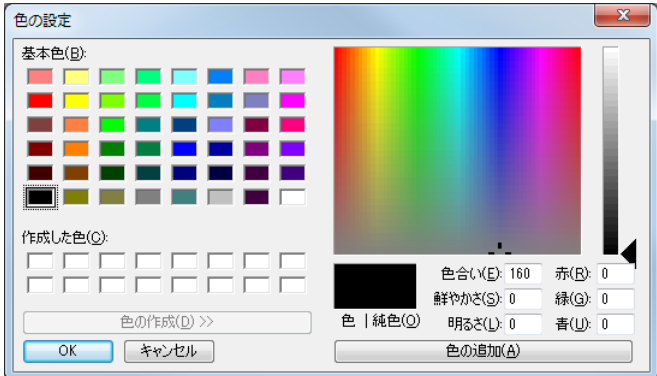
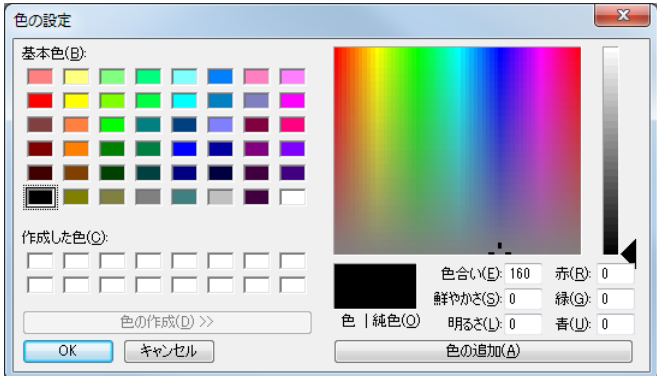
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
18 ▼	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

入力値をアプリケーション内で共有する

・共有パラメーター名

チェックを入れると、共有パラメーター名を設定できます。設定すると、「[5.1.2.共有パラメーターラベル](#)」の選択に表示されます。

【設定例】

共有パラメーター名を設定すると、

☒ 入力値をアプリケーション内で共有する

共有パラメーター名

※他のパーツで設定する際の名前を定義します。

共有パラメーターラベルの選択に表示されます。

表示項目

共有パラメーターの選択

     18 ▼ 

・データをクリアする（初期化）するタイミングの選択

共有パラメーターのデータをクリアするタイミングを設定します。「メニュー表示/ジョブ終了時にデータをクリアする」と「データ出力時にクリアする」から要件に合わせて選択します。

フォントを変更する

開発 PC にインストールされているフォントを自由に使用できます。フォントを画像化してラベルに表示します。

チェックを入れると、ダイアログボックスが以下ようになります。

☒ フォントを変更する

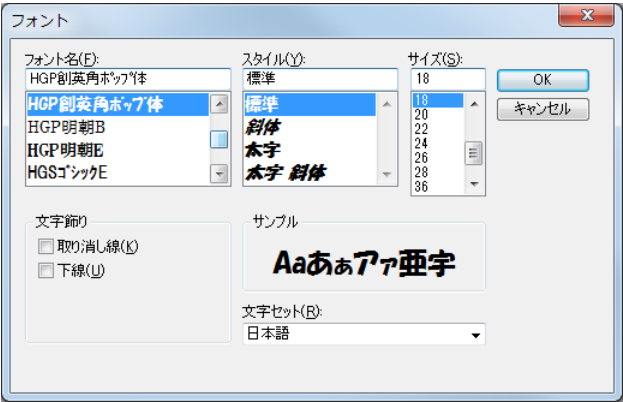
文字列のプレビュー

文字列

※文字列を画像に変換して、端末に表示します

フォント設定

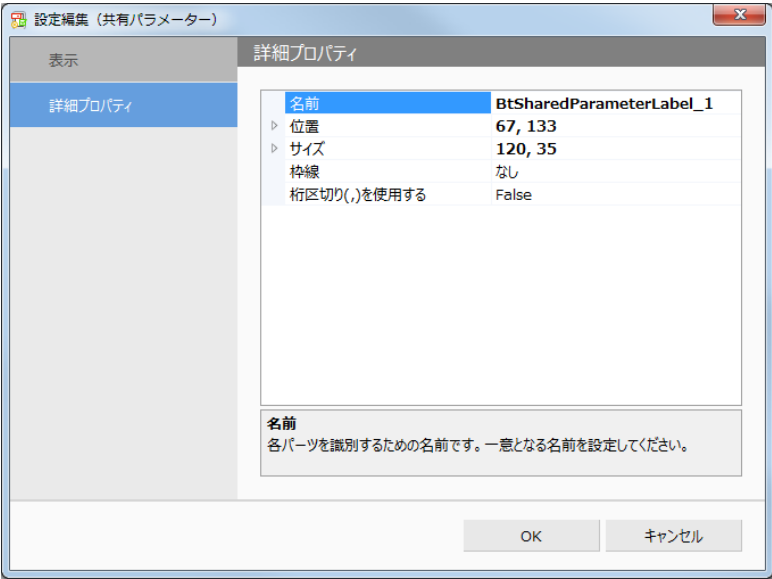
「フォント設定」を押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。フォント種類、スタイル、サイズ、文字飾りなどを設定できます。



文字列のプレビュー

「フォント設定」で設定した文字列のプレビューを確認できます。

■ 詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、 縦幅 : 3~640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
桁区切り(,)を使用する	「1,000,000」のように桁を (,) で区切ります。 【選択項目】 False／True

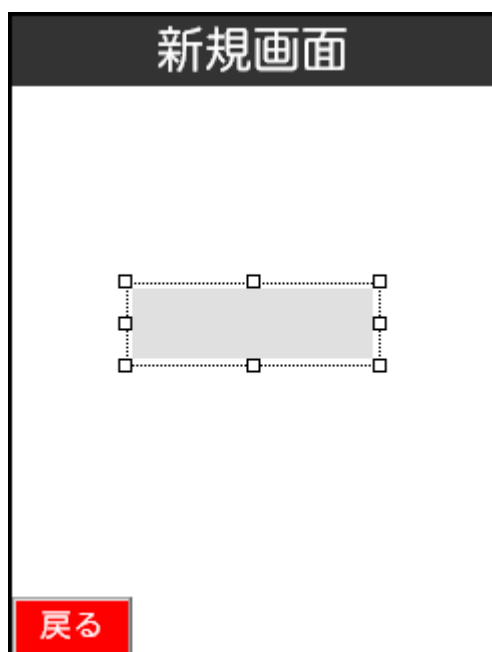
5.1.2. 共有パラメーターラベル

テキストボックス、日付入力ボックス、ドロップダウンボックスで設定された共有パラメーターを表示します。入力した値を参照する場合に使用します。同一画面だけでなく、他の画面やメニューで入力した値も参照できます。

■ 選択するパーツ

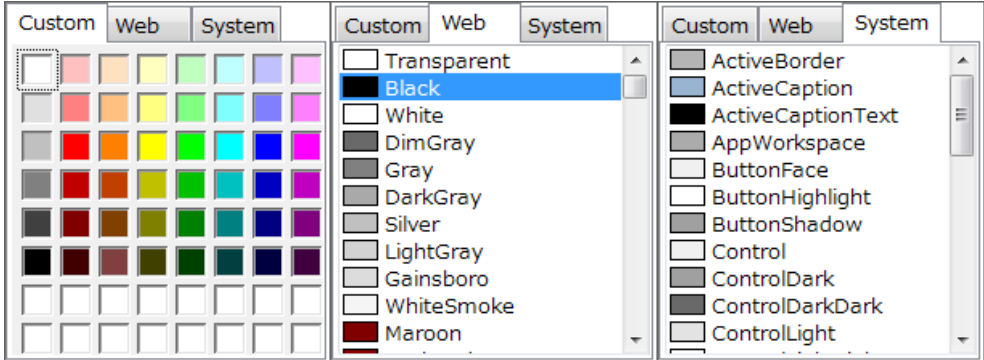
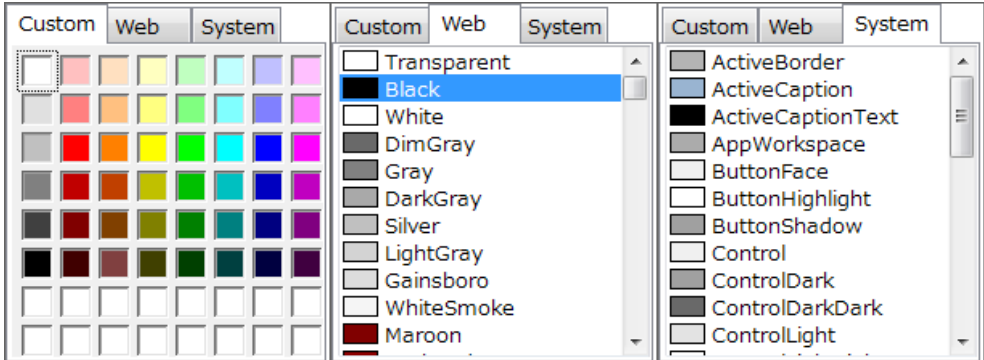


■ 配置したときの画面

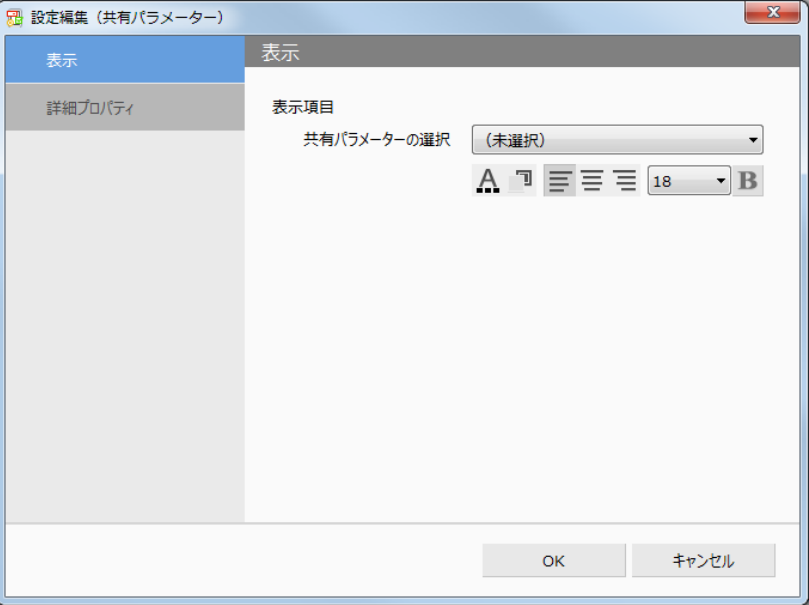


■選択したときのプロパティ表示

名前	BtSharedParameterLabel_1
位置	60, 136
サイズ	120, 35
枠線	なし
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	Black
背景色	224, 224, 224

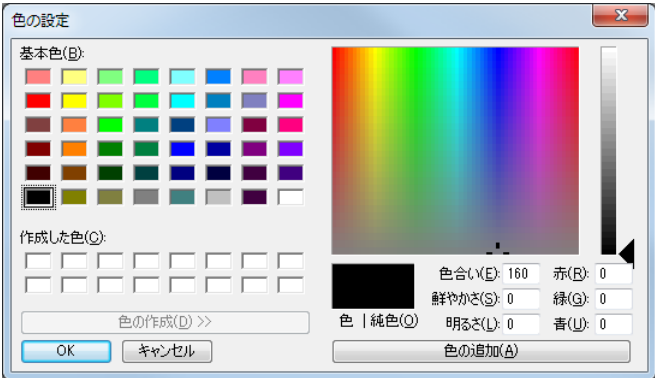
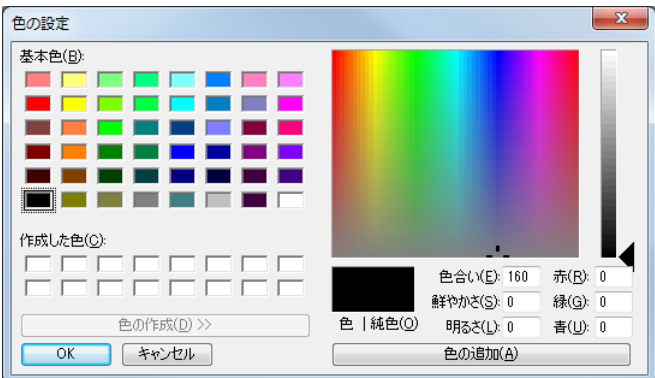
名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、 縦幅 : 3~640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

■表示

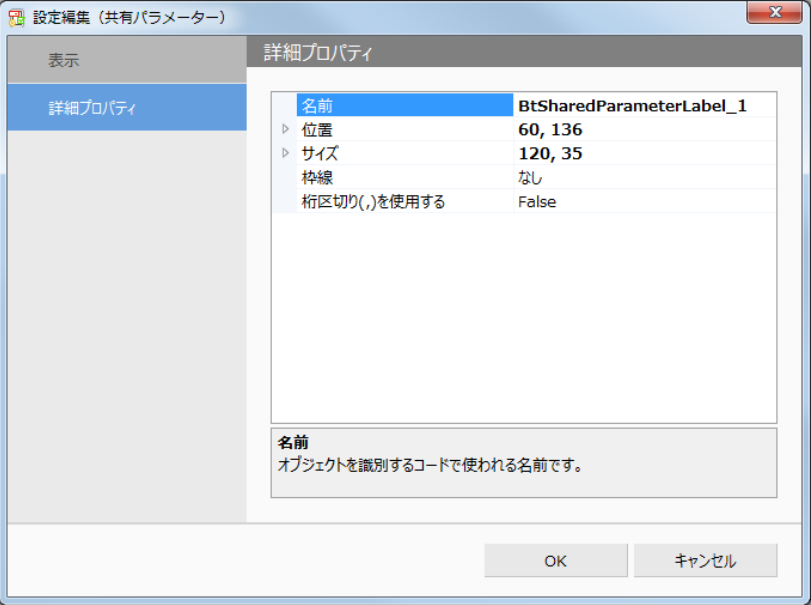


表示項目

テキストボックスなどで設定した共有パラメーターを選択します。またその値を表示するときの色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

■詳細プロパティ

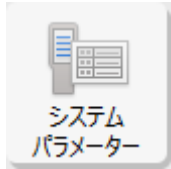


名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X座標,Y座標) 【設定範囲】X座標：0～479、Y座標：0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅：3～480、縦幅：3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体
桁区切り(,)を使用する	「1,000,000」のように桁を(,)で区切ります。 【選択項目】False／True

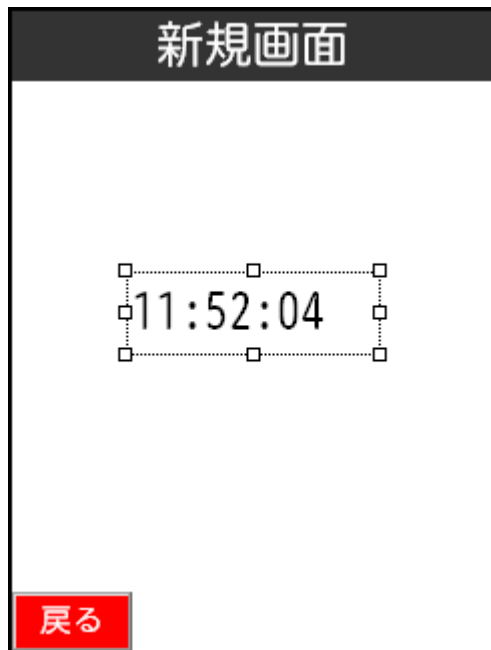
5.1.3. システムパラメーターラベル

ハンディアプリのバージョン、シリアル番号、日付など、ハンディターミナルの情報を表示します。

■ 選択するパーツ

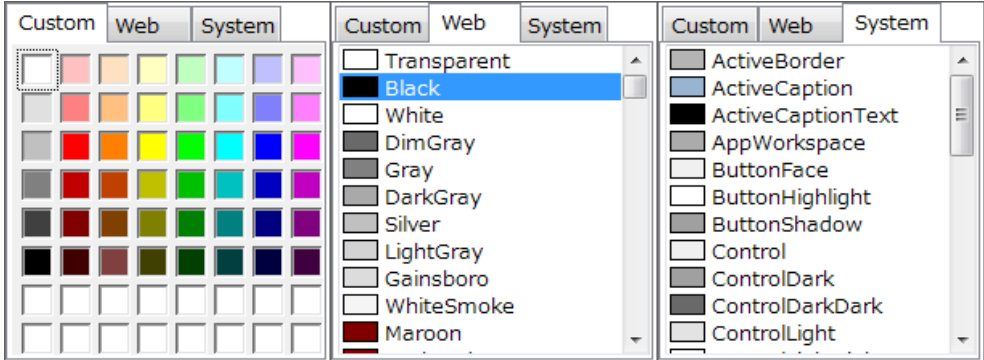
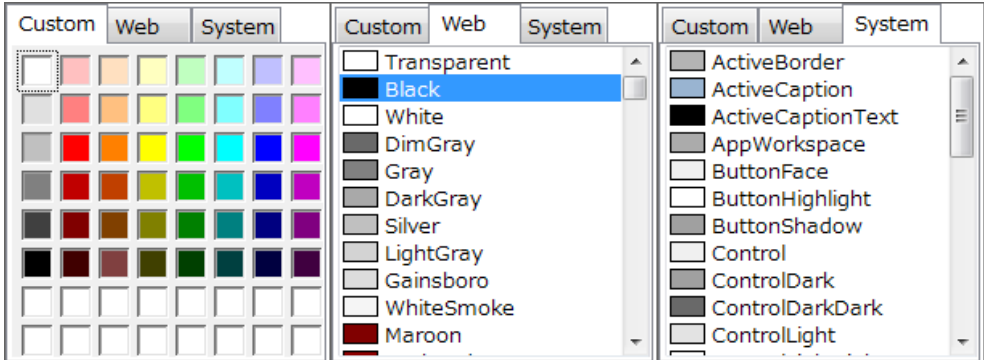


■ 配置したときの画面



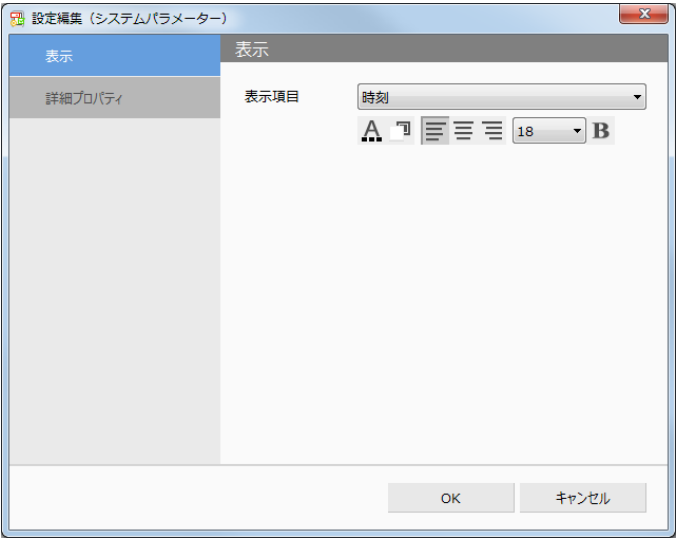
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtSystemParameterLabel_1
位置	60, 133
サイズ	120, 35
枠線	なし
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 1~480、縦幅 : 3~640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

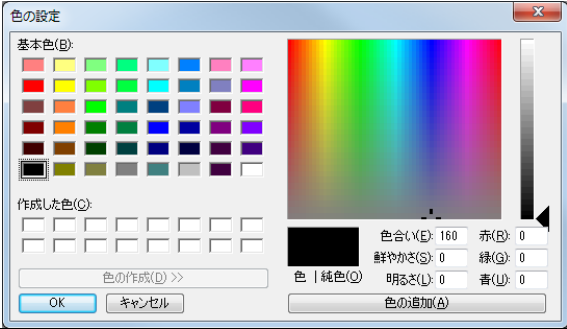
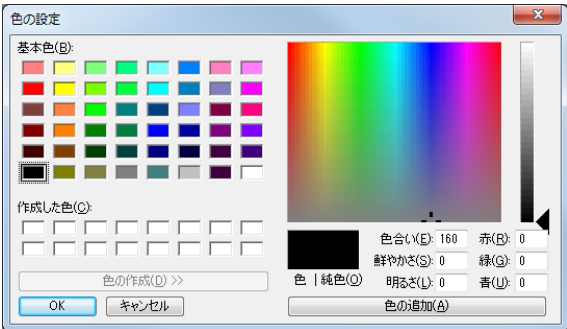
■表示



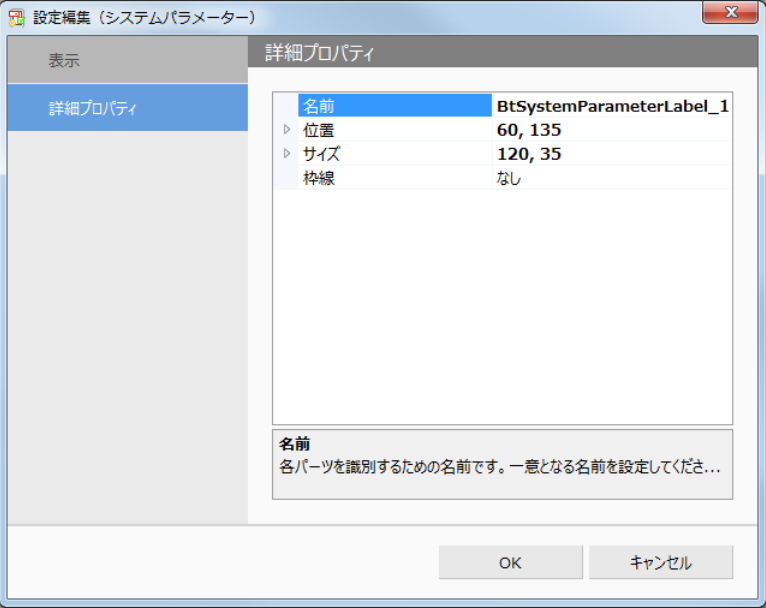
表示項目

表示するハンディターミナルの情報を選択します。またその値を表示するときの色、フォントサイズなどを設定します。

【選択項目】アプリケーションバージョン／ファームウェアバージョン／端末 ID／端末名／端末 IP／シリアル番号
／日付／時刻

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 1～480、縦幅 : 3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体

5.2. ボックス

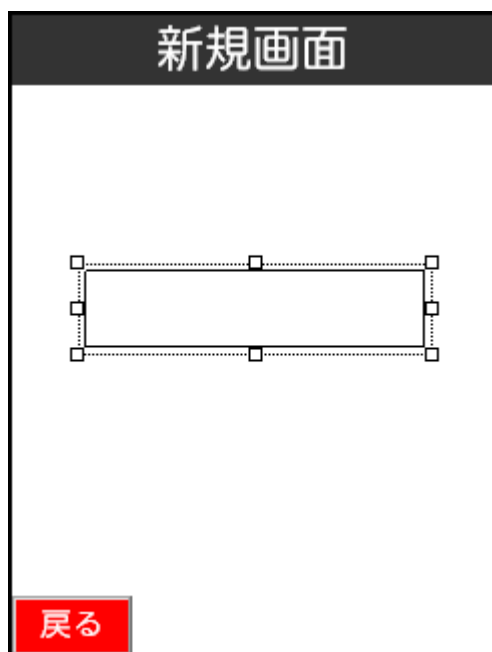
5.2.1. テキストボックス

テキストボックスを配置することで、バーコード読み取りやキーによる文字、数値などを入力できます。

■ 選択するパーツ

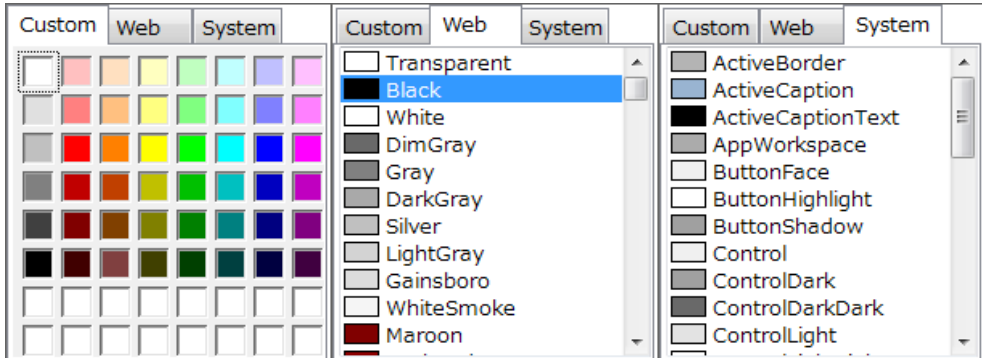


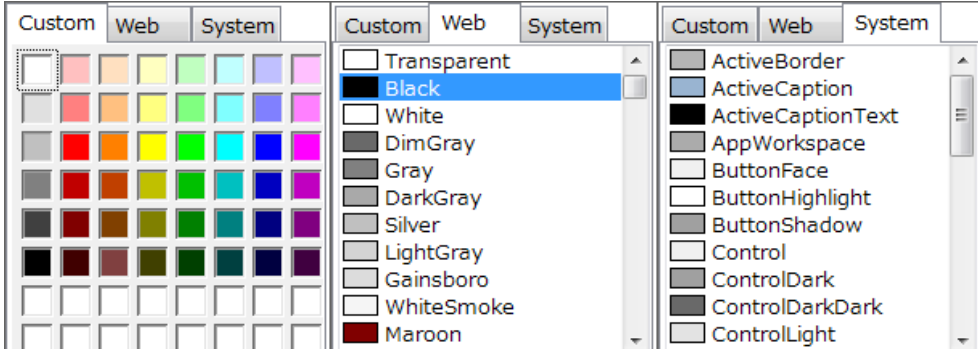
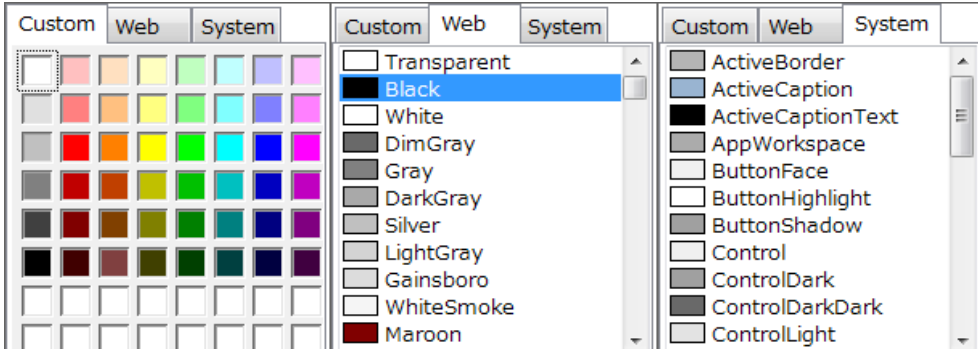
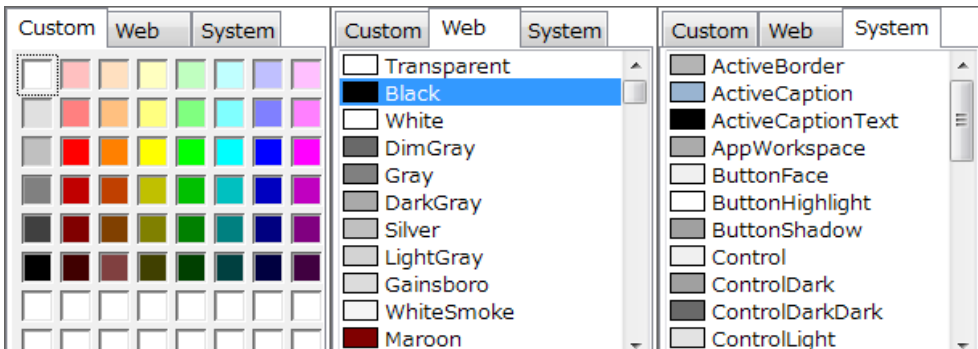
■ 配置したときの画面



■ 選択したときのプロパティ表示

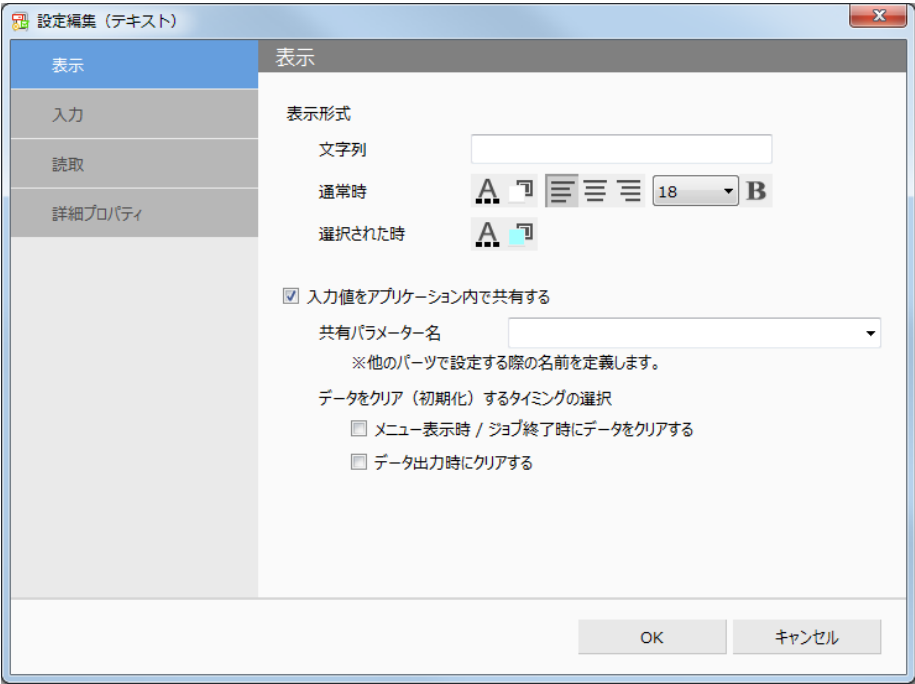
名前	BtTextBox_1
位置	36, 127
幅	170
枠線	線
表示文字列	
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White
フォーカス時の文字色	 Black
フォーカス時の背景色	 162, 255, 255

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 3~480
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の文字色	選択時の文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の背景色	選択時のパーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



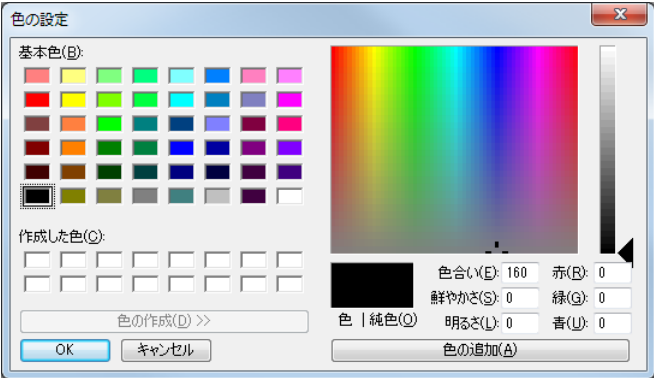
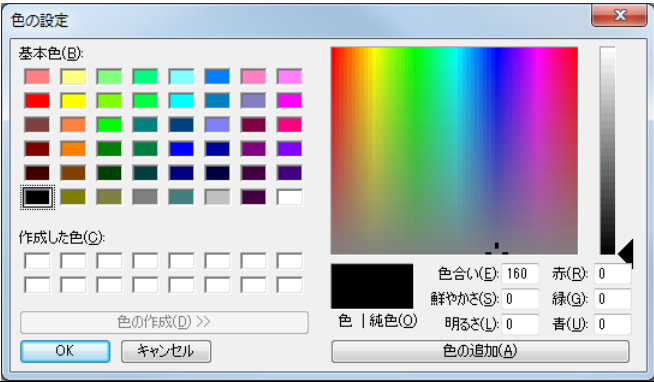
表示形式

・文字列

テキストボックスに表示する初期値を設定します。

・通常時

パーツが選択されていないときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・データをクリアする（初期化）するタイミングの選択

共有パラメーターのデータをクリアするタイミングを設定します。「メニュー表示/ジョブ終了時にデータをクリアする」と「データ出力時にクリアする」から要件に合わせて選択します。

※複数のパーツで同一の共有パラメーターを設定する場合は、パーツの入力方法を合わせてください。

■入力

設定編集 (テキスト)

表示
入力
読取
詳細プロパティ

入力

入力方法
読取+キー (英数)

☒ F2キーで編集状態にする

入力制限
最大文字列長 (半角) 8192
☒ 空文字入力を禁止する

入力範囲 -2000000 ~ 2000000
小数点以下の桁数 0

入力チェック
☐ 範囲外の数値を入力された場合にエラーを表示する
☐ ゼロ目入力の場合にアラートを表示する
☐ 未送信データとの重複を禁止する

限定

OK キャンセル

入力方法

テキストボックスへの入力方法を設定します。

【選択項目】読取+キー(英数)/読取+キー(数値のみ)/読取(英数)/キー(英数)/キー(数値のみ)

・F2 キーで編集状態にする

チェックを入れると、既に入力したデータの続きから編集できます。

入力制限

・最大文字列長 (半角)

入力可能な文字列長を設定します。

※英数を含む入力方法を選択した場合に設定できます。

【設定範囲】1～8192 文字

・空文字入力を禁止する

チェックを入れると、データ出力のタイミングでテキストボックスにデータがない場合にエラーを表示します。

※英数を含む入力方法を選択した場合に設定できます。

・入力制限

数値入力の上限、下限を設定します。

※数値のみの入力方法を選択した場合に設定できます。

【設定範囲】 -20000000～20000000

・小数点以下の桁数

数値であつかう小数点以下の桁数を設定します。

※数値のみの入力方法を選択した場合に設定できます。

【設定範囲】 0～3

入力チェック

・範囲外の数値を入力された場合にエラーを表示する

チェックを入れると、設定範囲外の数値を入力された場合にエラーを表示します。

※数値のみの入力方法を選択した場合に設定できます。

・ゼロ目入力の場合にアラートを表示する

同じ数字が続く値を入力された場合にエラーを表示します。誤入力を防ぎます。

※数値のみの入力方法を選択した場合に設定できます。

・出力データとの重複を禁止する

既に入力されたデータを再度入力された場合にエラーを表示します。誤入力を防ぎます。

※英数を含む入力方法を選択した場合に設定できます。

・限定

入力するデータを限定します。

! . . . 複数の文字列にマッチします。文字列の中に 1 つだけ記述できます。

例) 「!12」: 12 で終わる全ての文字列 (「12」も含む)

? . . . 1 つの文字列にマッチします。文字列の中に複数記述できます。

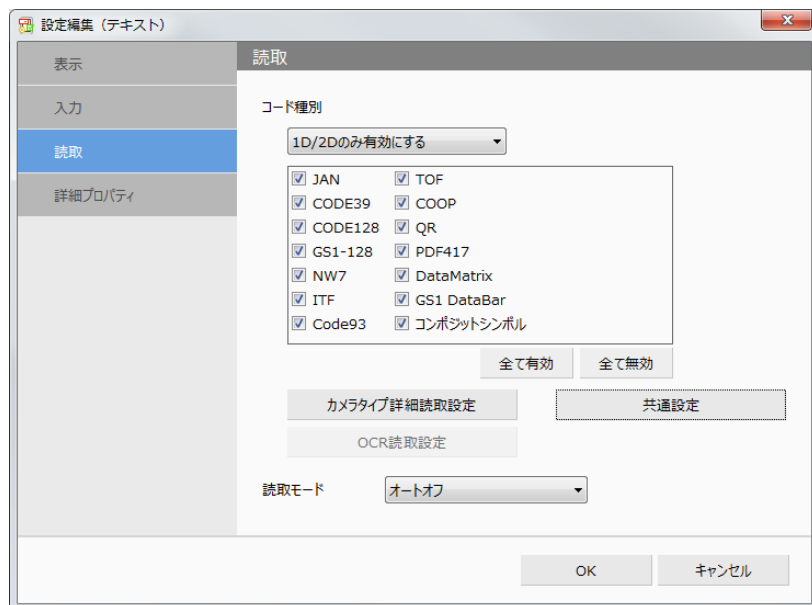
例) 「?12」: 12 で終わる 3 文字の文字列

[] . . . 範囲を指定します。文字列の中に 1 つだけ記述できます。

例) [c-f] : c,d,e,f のどれか

[0-9] : 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9 のどれか

■読取



※読取を含まない入力方法を選択した場合は、設定できません。

コード種別

読み取りできるバーコードの種類や、OCR の読み取り有効／無効を設定します。

【読み取りの選択項目】1D／2D のみ有効にする／1D／2D+OCR を有効にする／OCR のみ有効にする

【コード種の選択項目】JAN／CODE39／CODE128／GS1-128／NW7／ITF／Code93／TOF／COOP／QR／PDF417
／DataMatrix／GS1DataBar／コンボジットシンボル

「全て有効」ボタンを押下すると全てのコード種にチェックが入ります。

「全て無効」ボタンを押下すると全てのコード種のチェックがはずれます。

・カメラタイプ詳細読取設定

カメラタイプの読み取りを設定します。「カメラタイプ詳細読取設定」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。

カメラタイプ詳細読取設定

読み取り範囲: 通常

白黒反転 (1D/2D): 白地に黒

鏡像反転 (1D/2D): なし

照明: あり

DPM設定

多段読み詳細

設定数: 1

設定1

コード種別: QR

読み取り段数: 2

1段目: 最小桁: 1, 最大桁: 7089, 限定:

2段目: 最小桁: 1, 最大桁: 7089, 限定:

3段目: 最小桁: 1, 最大桁: 7089, 限定:

4段目: 最小桁: 1, 最大桁: 7089, 限定:

閉じる

・読み取り範囲

読み取り方法を選択します。

【選択項目】通常／中心点限定／水平ライン限定／多段読み

- 通常・・・カメラの視野に入ったコードを読み取ります。
- 中心点限定・・・中心にあるコードを優先的に読み取ります。
- 水平ライン限定・・・エイマーの水平ラインに重なったコードを読み取ります。
- 多段読み・・・複数の同一种別のコードを一括で読み取ります。
- ラインスキャン・・・レーザスキャンのように読み取ります。(BT-W350/W370/W250 のみ)

・白黒反転

白と黒が反転したコードの読み取りの有効／無効を設定します。

【選択項目】白地に黒／黒地に白／両方

・鏡像反転

鏡像反転したコードの読み取りの有効／無効を設定します。

【選択項目】なし／反転

・多段読み詳細

多段読みをするコード種、読み取り段数（最大 4 段）、それぞれの最小桁・最大桁（1～7089 桁）を設定します。最大 4 種類の設定を保持できます。

※4 種類の設定は、異なるコード種を設定してください。同一コード種を複数設定した場合は正しく動作しません。

・DPM 設定

BT-W370 の DPM 読み取りに関する設定を選択します。

DPM設定

照明パターン

☒ 内部照明（ラベルなど） 標準(128) 128

☒ マルチアングル照明（ざらざらした金属表面など） 標準(128) 128

☒ ローアングル照明（金属・ドットピーンなど） 明るめ(180) 180

☐ 3D照明（凹凸文字など） 暗め(80) 80

凹凸設定 凹 + 凸

ターゲットエリア設定 エリア中

通知表示

読み取り中ライブビュー あり

読取距離表示LED あり

閉じる

照明パターン

BT-W370 の 3 種の照明の中で有効にするものを選択します。

【選択項目】内部照明／マルチアングル照明／ローアングル照明、および各照明の輝度値

- 内部照明 : 読み取り部の奥に位置する照明で読み取ります。
反射が低くコントラストが低いものなどに有効です。
- マルチアングル照明 : 読み取り部の内部にある 4 つの照明で読み取ります。
金属や樹脂など製品への直接印字されている全般に有効です
- ローアングル照明 : 読み取り部の内部手前にある照明で読み取ります。
ドットピーン印字など白黒反転で読み取る場合などに有効です
- 3D 照明 : 4 つの照明を順次照射しながら読み取ります。
(凹凸文字など) 凹凸に印字されている文字に有効です。初期値無効
- 凹凸設定 : 3D 時に読取対象を指定します。【選択項目】凹文字／凸文字／凹文字 + 凸文字

各照明に対して露光時間を調整することで撮像画像の明るさを調整することも可能です。

【選択項目】ユーザ定義、暗め(80)、標準(128)、明るめ(180)

※明るさは 3 段階で指定します。()内は輝度値。 ユーザ定義時は 0-255 で輝度値を設定します。

ターゲットエリア設定

撮像画像内のどのエリア範囲を基準に輝度調整するかを指定します。

【選択項目】エリア大、エリア中、エリア小

※エリアを小さくするほど、画面の中心に撮像時の輝度を合わせこみます。

※エリア小は、細い/小さい製品に印字されている場合などに有効です。

通知表示

・読み取り中ライブビュー

読み取り時にライブビュー画面を表示します。距離画面を見ながら対象の印字を読み取りできます。

・読取距離表示 LED

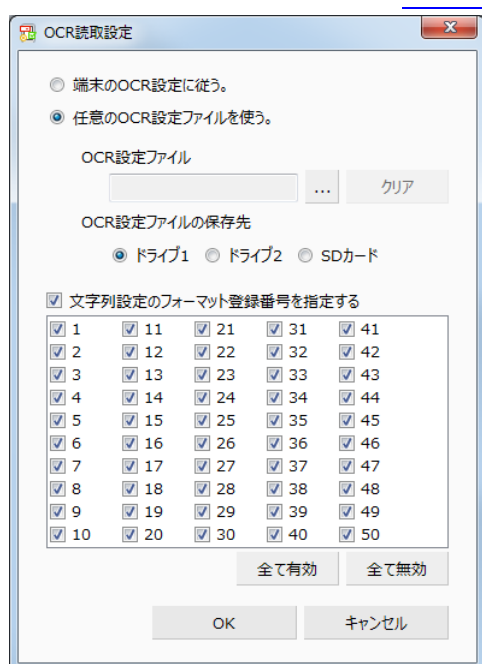
読取対象とハンディターミナルが近くなると LED が点灯します。製品に直接印字されたコードや文字は近距離で読み取ることが多いため、LED が点灯しているかを目安にしてください。

・OCR 読取設定 (BT-W350/W370/W250/W85T のみ)

OCR 文字列の読み取りを設定します。「OCR 読取設定」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。

※OCR を含む読み取り方法を選択した場合に設定できます。

※OCR で日付を読み取る場合には「[5.2.2.日付入力ボックス](#)」を使用してください。



OCR 読取設定

☐ 端末のOCR設定に従う。
☒ 任意のOCR設定ファイルを使う。

OCR設定ファイル
[テキストボックス] ... クリア

OCR設定ファイルの保存先
☒ ドライブ1 ☐ ドライブ2 ☐ SDカード

☒ 文字列設定のフォーマット登録番号を指定する

☒ 1	☒ 11	☒ 21	☒ 31	☒ 41
☒ 2	☒ 12	☒ 22	☒ 32	☒ 42
☒ 3	☒ 13	☒ 23	☒ 33	☒ 43
☒ 4	☒ 14	☒ 24	☒ 34	☒ 44
☒ 5	☒ 15	☒ 25	☒ 35	☒ 45
☒ 6	☒ 16	☒ 26	☒ 36	☒ 46
☒ 7	☒ 17	☒ 27	☒ 37	☒ 47
☒ 8	☒ 18	☒ 28	☒ 38	☒ 48
☒ 9	☒ 19	☒ 29	☒ 39	☒ 49
☒ 10	☒ 20	☒ 30	☒ 40	☒ 50

全て有効 全て無効

OK キャンセル

・端末の OCR 設定に従う

ハンディターミナルの「BT OCR ツール」の文字列設定に従います。

・任意の OCR 設定ファイルを使う

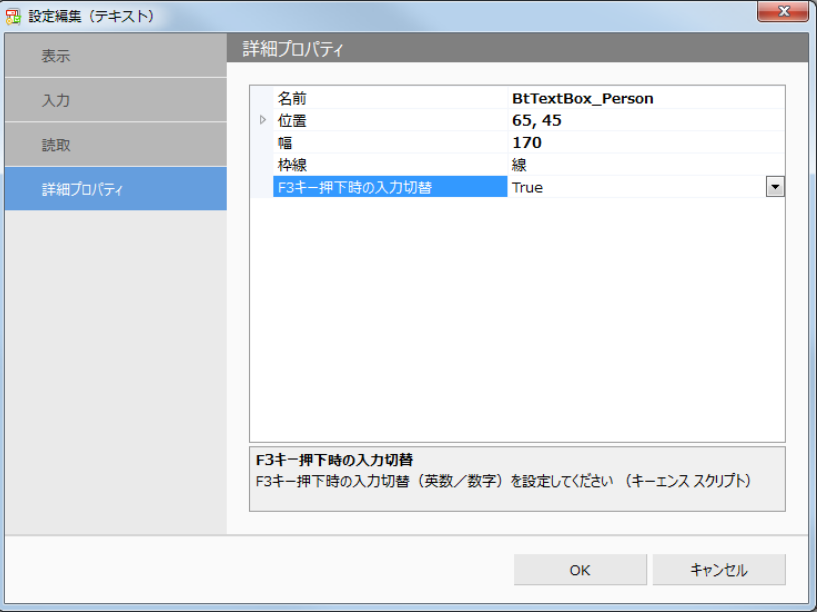
ハンディターミナルの「BT OCR ツール」で「設定保存」した ini ファイルを指定します。これによりテキストボックスごとに異なる OCR 設定で読み取りできます。ini ファイルは別途ハンディターミナルから開発 PC に取り込む必要があります。

「OCR 設定ファイルの保存先」で ini ファイルを配置するドライブを指定します。

・文字列設定のフォーマット登録番号を指定する

ハンディターミナルの「BT OCR ツール」の「文字列設定」でフォーマット登録した No を指定します。

■詳細プロパティ

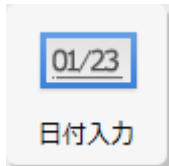


名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 3～480
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
F3 キー押下時の入力切替	F3 キー押下時の入力切替 (英数／数字) の有効、無効を設定します。 【選択項目】 True／False

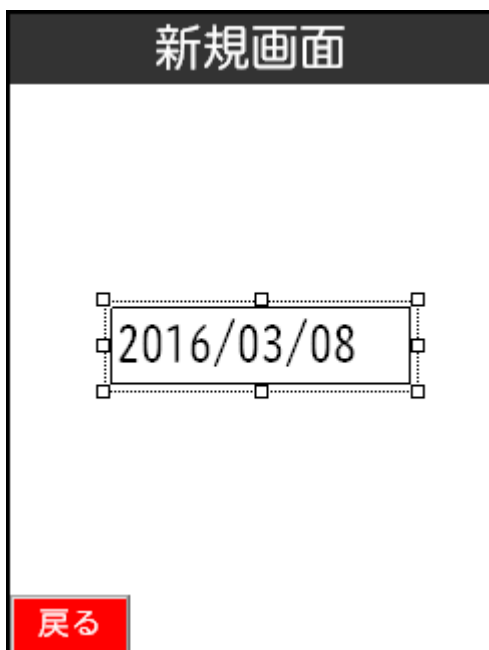
5.2.2. 日付入力ボックス

日付入力ボックスを配置することで、テンキー、十字キー、OCR 読取で日付を入力できます。設定した日付フォーマットで出力します。

■ 選択するパーツ

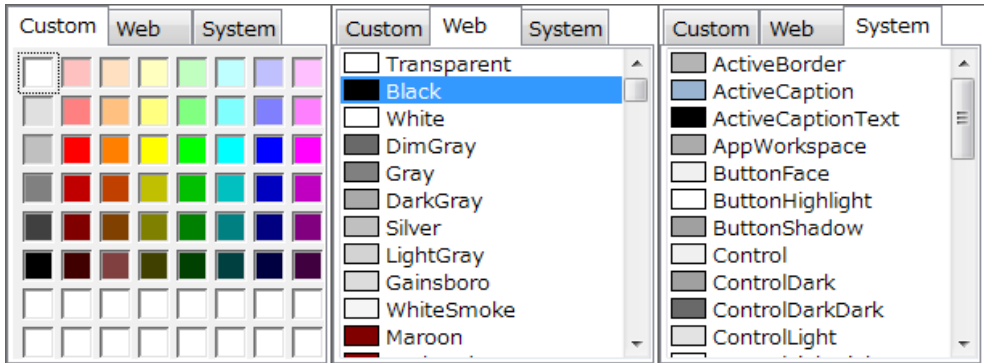


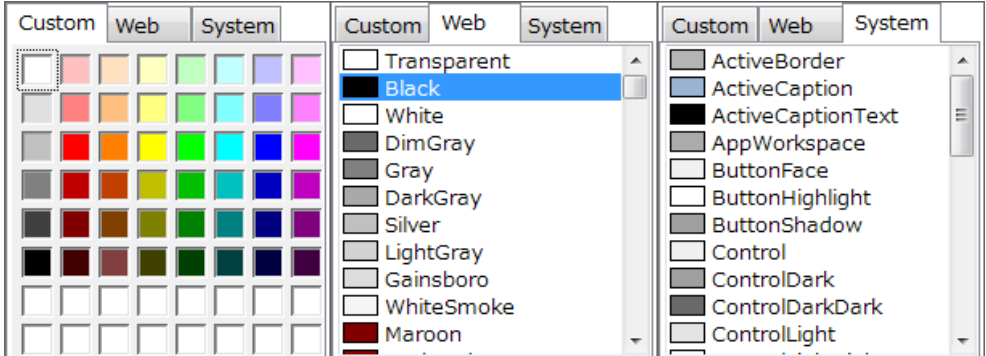
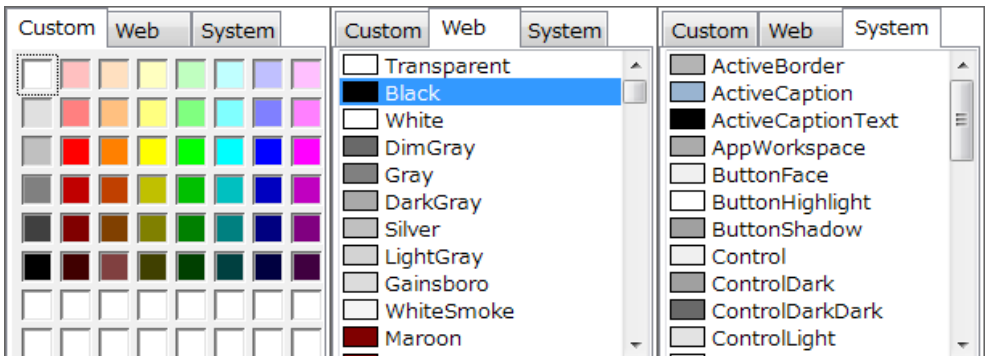
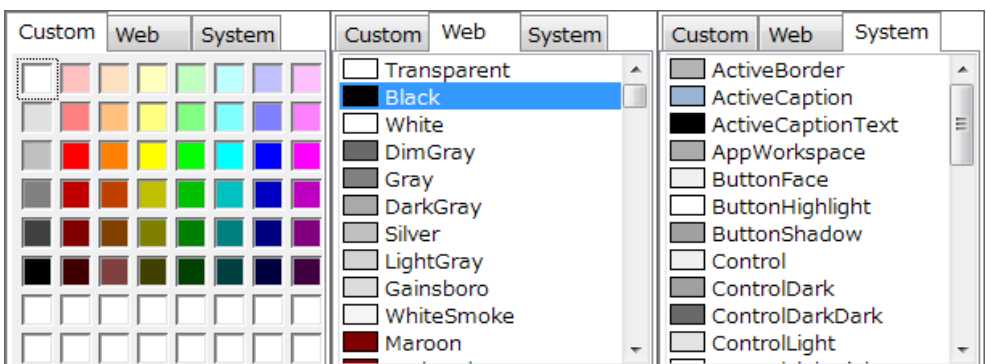
■ 配置したときの画面



■選択したときのプロパティ表示

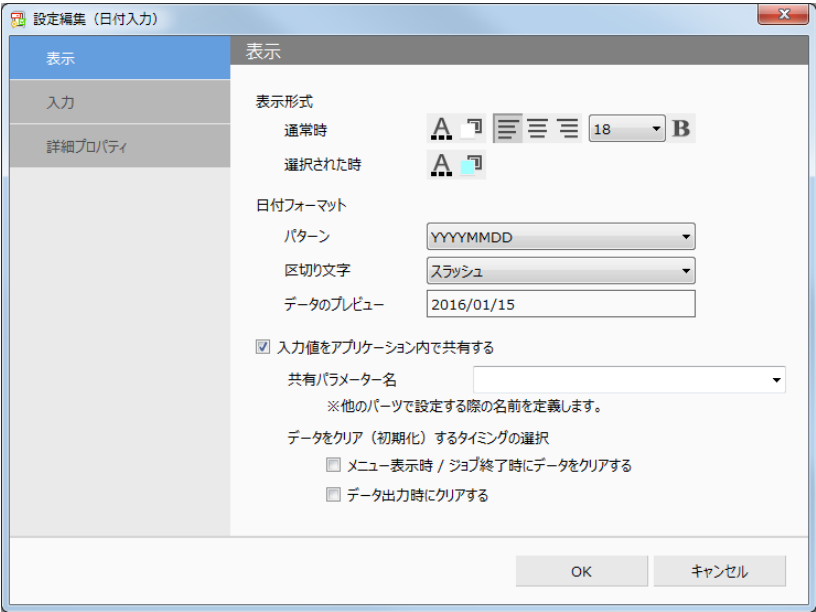
プロパティ	
名前	BtInputDateBox_1
位置	50, 146
幅	150
枠線	線
文字の配置	左寄せ
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White
フォーカス時の文字色	 Black
フォーカス時の背景色	 162, 255, 255

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 3~480
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の文字色	選択時の文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の背景色	選択時のパーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

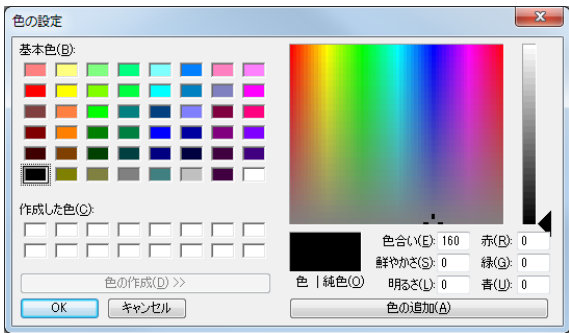
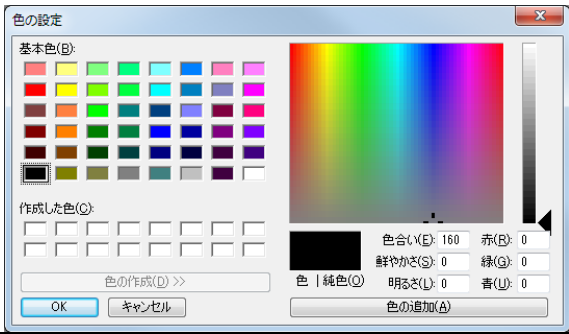
■表示



表示形式

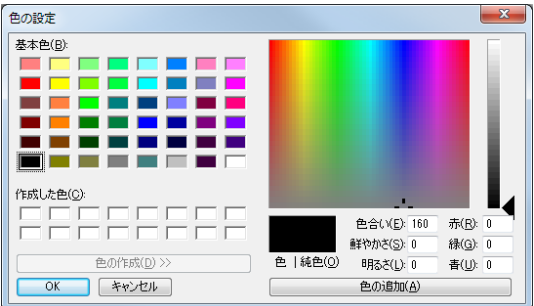
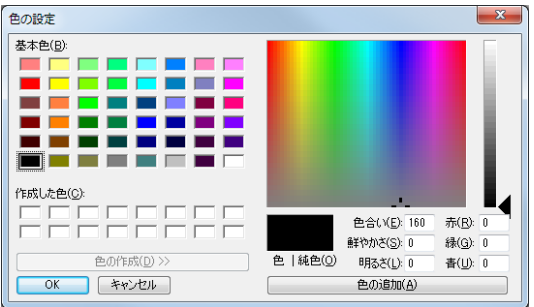
・通常時

パーツが選択されていないときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

・ 選択された時

パーツが選択されたときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

日付フォーマット

読み取った日付データを出力するときのフォーマットを設定します。

・ パターン

年・月・日の並びを選択します。

【選択項目】YYYYMMDD／YYYYMM／YYMMDD／YYMM／MMDDYYYY／MMYYYY／MMDDYY／MMYY

・ 区切り文字

年・月・日の間のセパレーターを設定します。

【選択項目】なし／スラッシュ／ピリオド／ハイフン／スペース

・ データのプレビュー

上記で設定したプレビューを表示します。設定に誤りがないか確認できます。

入力値をアプリケーション内で共有する

・ 共有パラメーター名

チェックを入れると、共有パラメーター名を設定できます。設定すると、「[5.1.2.共有パラメーターラベル](#)」の選択に表示されます。

【設定例】

共有パラメーター名を設定すると、

共有パラメーターラベルの選択に表示されます。

・データをクリアする（初期化）するタイミングの選択

共有パラメーターのデータをクリアするタイミングを設定します。「メニュー表示/ジョブ終了時にデータをクリアする」と「データ出力時にクリアする」から要件に合わせて選択します。

※複数のパーツで同一の共有パラメーターを設定する場合は、パーツの入力方法を合わせてください。

■入力

入力方法

日付入力ボックスへの入力方法を設定します。

【選択項目】テンキー／テンキー+OCR 読取／十字キー／十字キー+OCR 読取

※十字キー入力について

十字キーの[左]キーと[右]キーで月を変更できます。[上]キーと[下]キーで日にちを変更できます。

・F2 キーで編集状態にする

チェックを入れると、既に入力したデータの続きから編集できます。

OCR 設定

OCR で読み取り可能とする日付の書式を設定します。

・西暦桁

【選択項目】4 桁のみ／2 桁または 4 桁

・日にち表記

【選択項目】日にち有りのみ／日にち無しのみ／日にち有り／無し

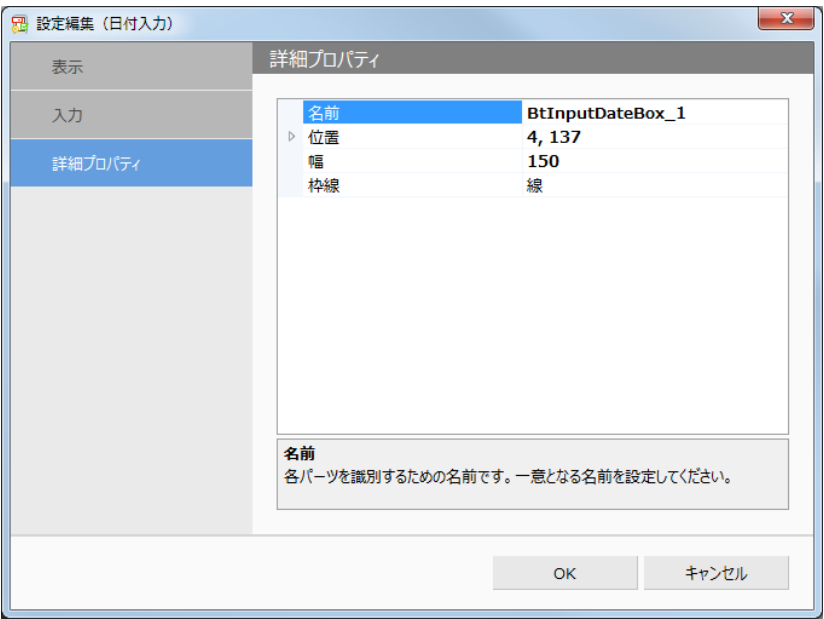
・1 桁の月・日表示を読み取る

チェックを入れると、1 桁で表記されている月・日（例：2016/1/1）の読み取りが可能になります。

・入力文字列の例

上記で設定したプレビューを表示します。設定に誤りがないか確認できます。

■詳細プロパティ

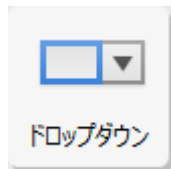


名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標：0～479、Y 座標：0～639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】3～480
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体

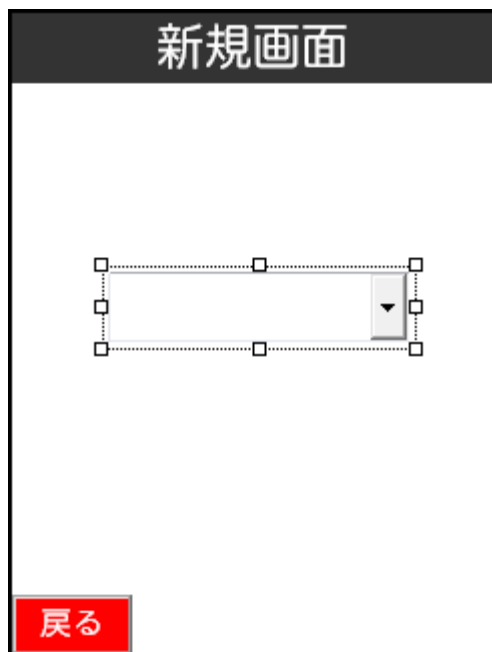
5.2.3. ドロップダウンボックス

ドロップダウンボックスは、あらかじめ登録したデータの中から選択して入力するパーツです。

■ 選択するパーツ

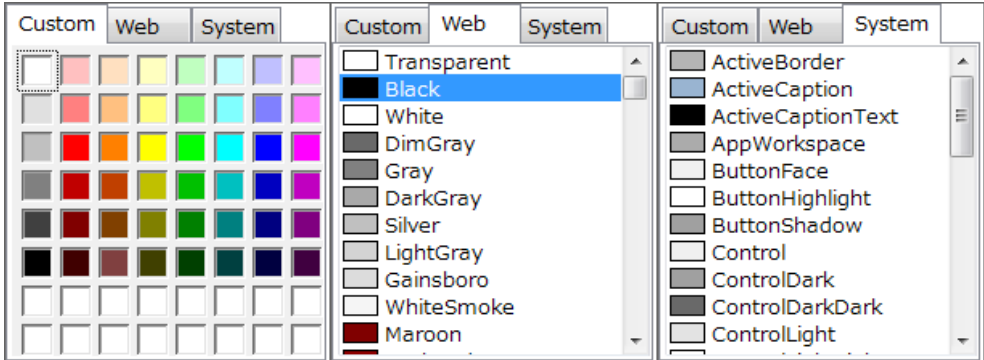
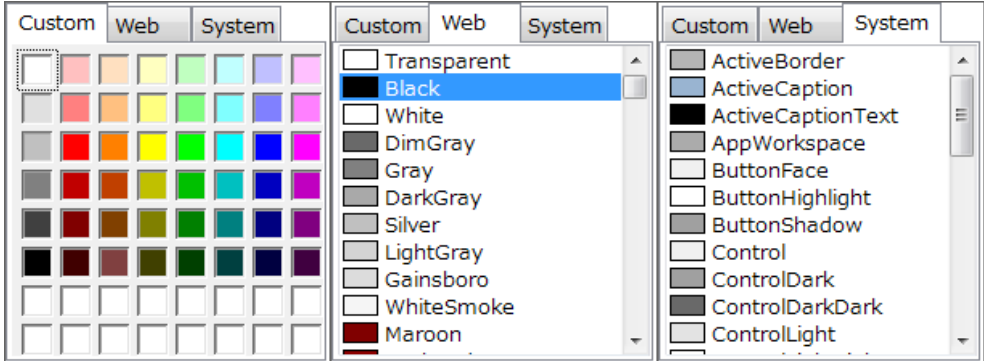


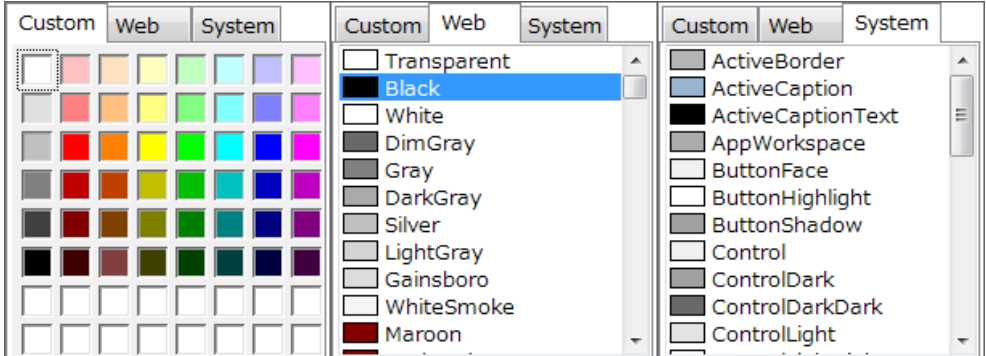
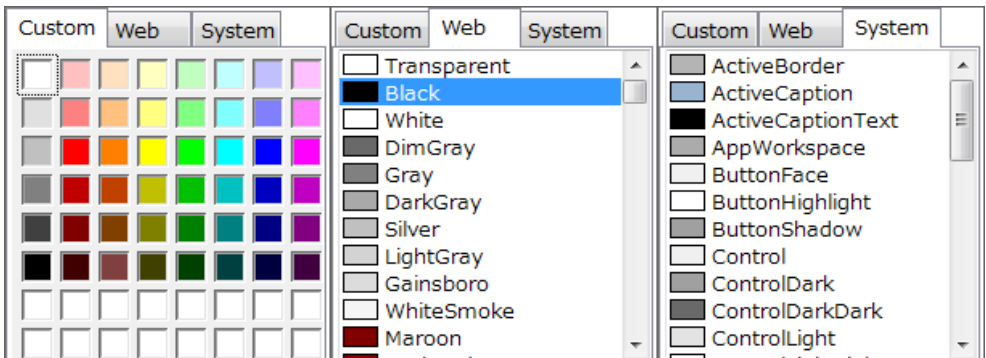
■ 配置したときの画面



■ 選択したときのプロパティ表示

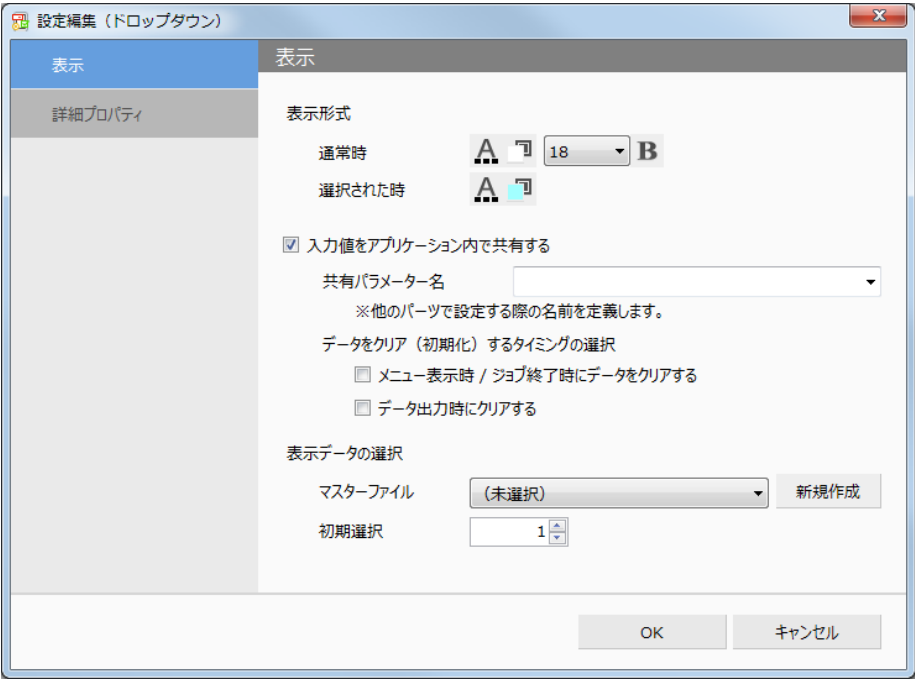
名前	BtDropDownBox_1
位置	48, 129
幅	150
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	Black
背景色	White
フォーカス時の文字色	Black
フォーカス時の背景色	162, 255, 255

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 3~480
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False/True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

フォーカス時の文字色	選択時の文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の背景色	選択時のパーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

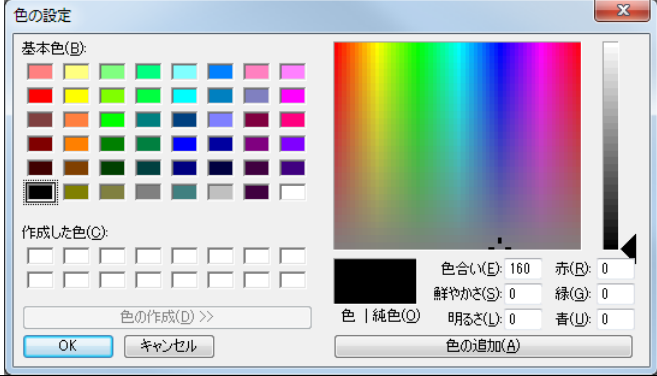
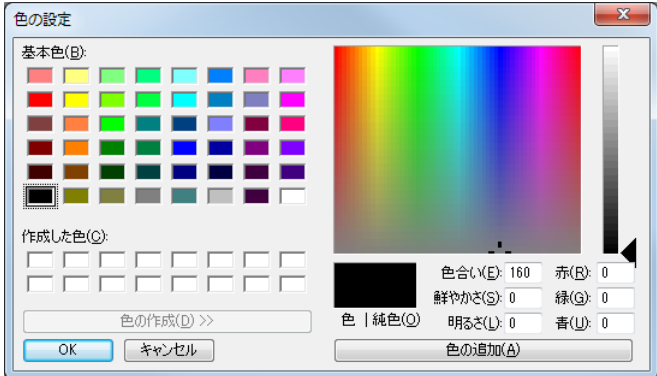
■表示



表示形式

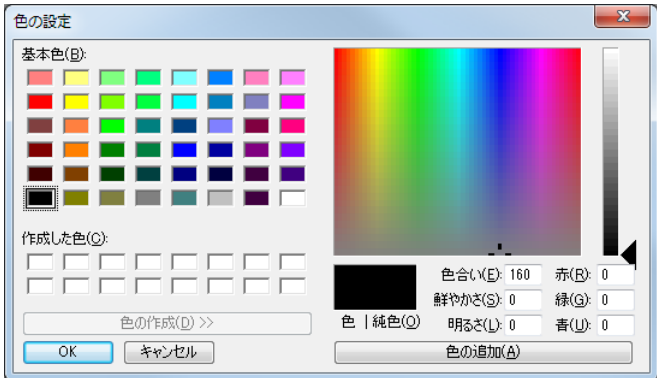
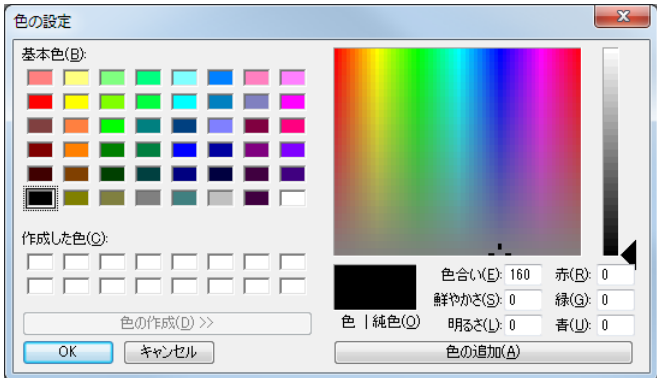
・通常時

パーツが選択されていないときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

・選択された時

パーツが選択されたときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

入力値をアプリケーション内で共有する

・共有パラメーター名

チェックを入れると、共有パラメーター名を設定できます。設定すると、「[5.1.2.共有パラメーターラベル](#)」の選択に表示されます。

【設定例】

共有パラメーター名を設定すると、

☒ 入力値をアプリケーション内で共有する

共有パラメーター名

※他のパーツで設定する際の名前を定義します。

共有パラメーターラベルの選択に表示されます。

表示項目

共有パラメーターの選択

・データをクリアする（初期化）するタイミングの選択

共有パラメーターのデータをクリアするタイミングを設定します。「メニュー表示/ジョブ終了時にデータをクリアする」と「データ出力時にクリアする」から要件に合わせて選択します。

※複数のパーツで同一の共有パラメーターを設定する場合は、パーツの入力方法を合わせてください。

表示データの選択

・マスターファイル

既に作成済みのマスターファイルから選択できます。「新規作成」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを作成できます。

※作成済みマスターファイルを選択した場合、「新規作成」ボタンは「編集」ボタンに変わります。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを編集できます。

項目番号	出力データ	表示データ
1	111	BT-W100
2	222	BT-W80
3	333	BT-W70
*	4	

マスターファイルの保存先
☒ ドライブ1 ☐ ドライブ2 ☐ SDカード

マスターファイル名 MasterFile_1

セルにデータを直接入力し、マスターファイルを作成します。1 列目がドロップダウンボックスで選択されたときに出力される「出力データ」、2 列目がドロップダウンボックスに表示される「表示データ」となります。

・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んでマスターファイルを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

・列数

マスターファイルの列数を設定できます。

※ドロップダウンボックスでは使用しません。

・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

・「全削除」ボタン

マスターファイルのデータを全て削除します。

・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

・「CSV 出力」ボタン

作成したマスターファイルを、CSV ファイルに保存します。

・マスターファイルの保存先

マスターファイルを保存するドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

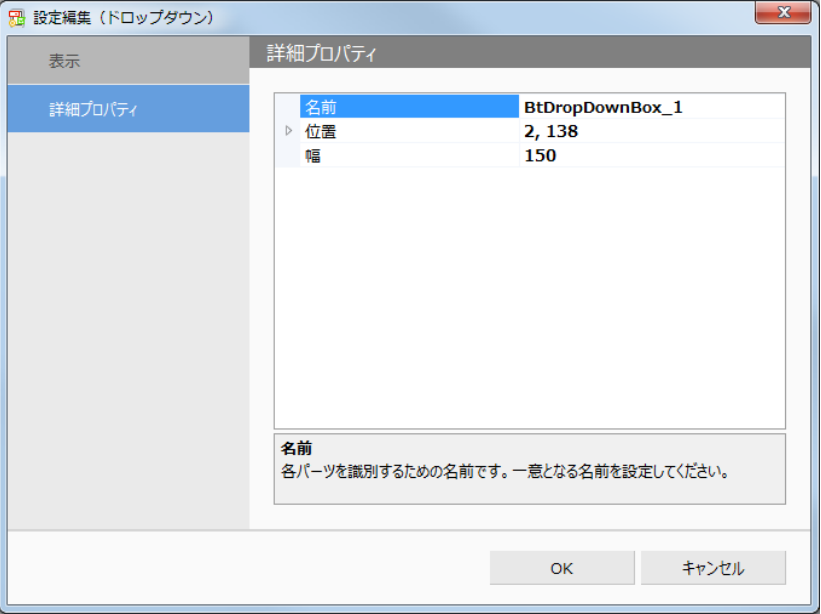
・マスターファイル名

マスターファイルの名前を設定します。

・初期位置

ドロップダウンボックスで、初期に選択されている項目（位置）を設定します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 3～480

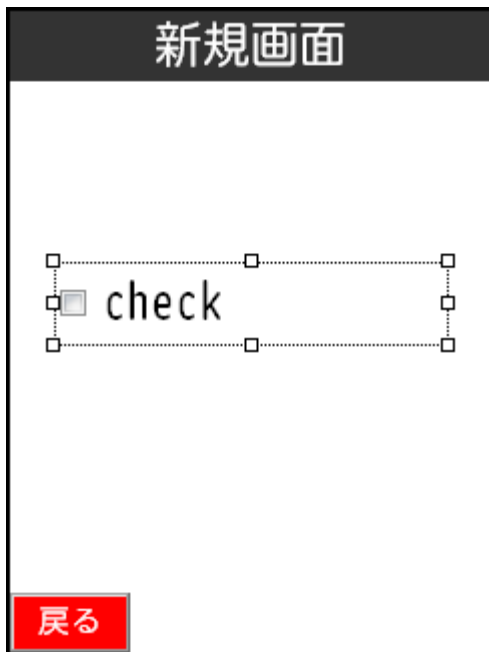
5.2.4. チェックボックス

チェックボックスのオン／オフができます。チェックを入れた場合「1」を、チェックを入れない場合は「0」を出力します。

■ 選択するパーツ

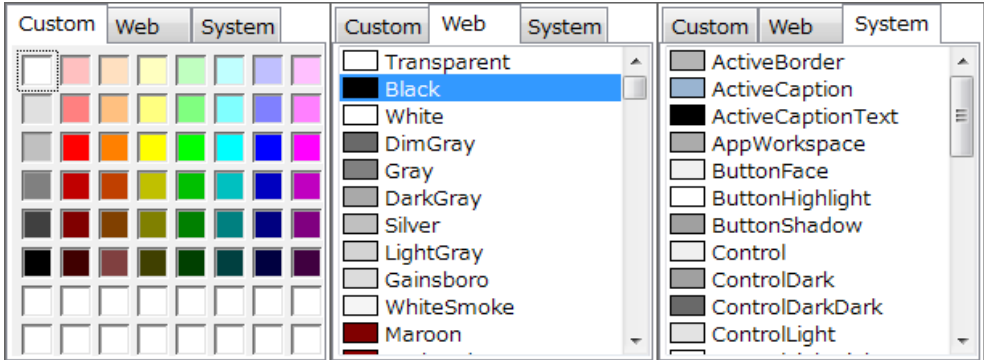
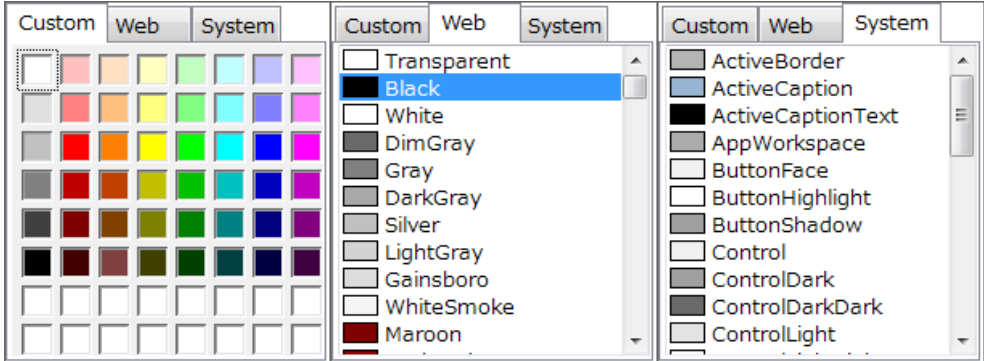


■ 配置したときの画面



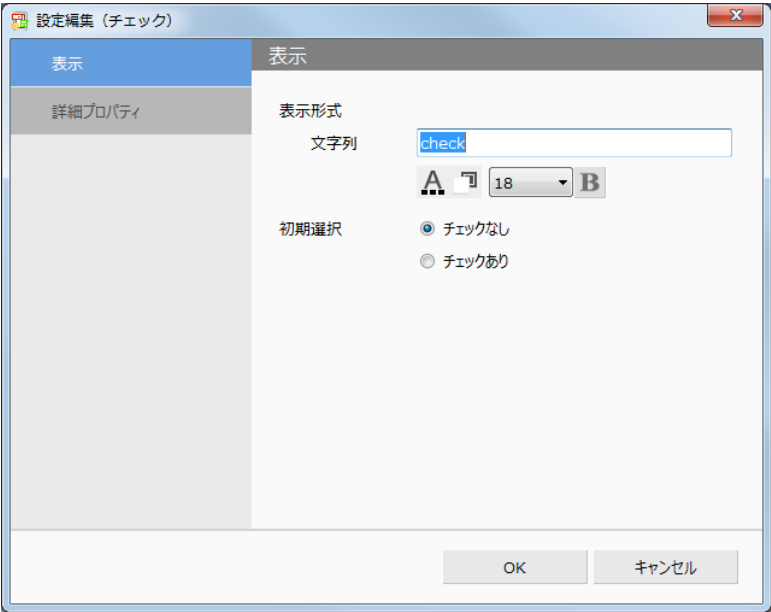
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtCheckBox_1
位置	25, 128
サイズ	190, 35
表示文字列	check
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、縦幅 : 3~640
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

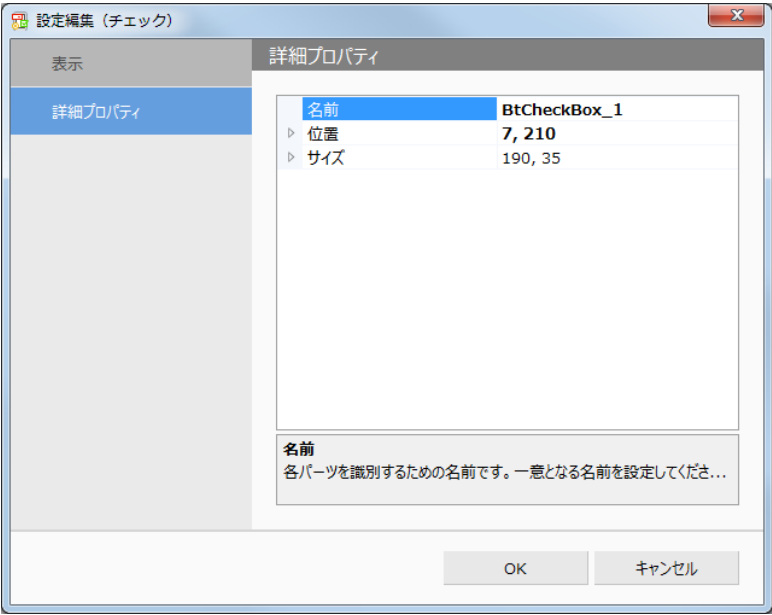
表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

初期選択

【選択項目】チェックなし／チェックあり

■詳細プロパティ

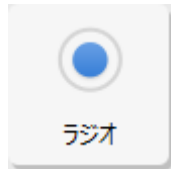


名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

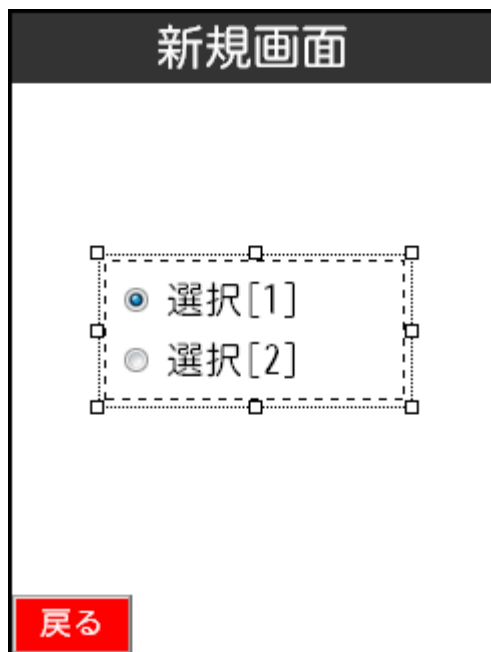
5.2.5. ラジオボックス

ラジオボックスで設定した項目を選択します。選択した項目番号を出力します。

■ 選択するパーツ

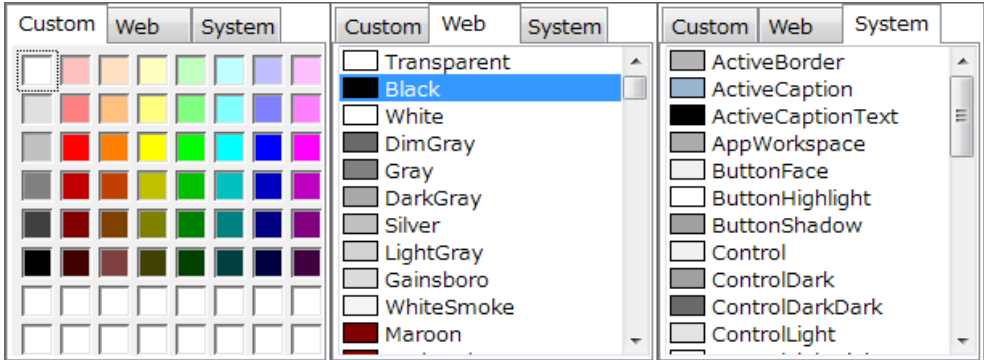
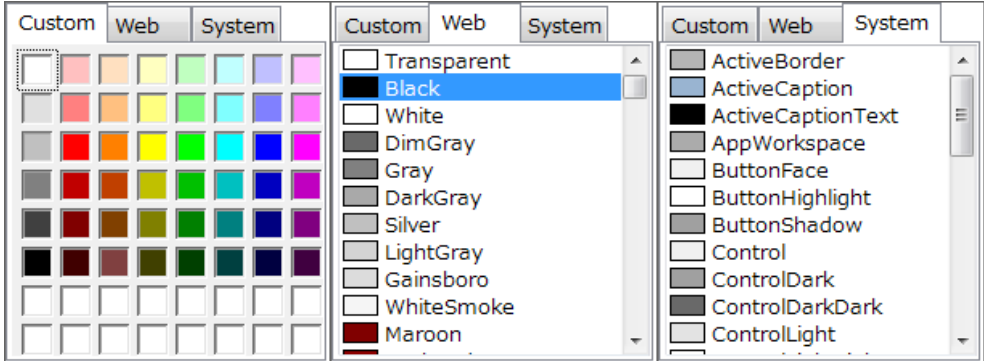


■ 配置したときの画面

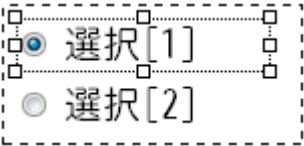


■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtRadioButton_1
位置	46, 123
サイズ	150, 70
フォントサイズ	14
太字	False
文字色	 Black
背景色	 White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、 縦幅 : 3~640
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6~144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

■内部パーツを選択したときのプロパティ表示

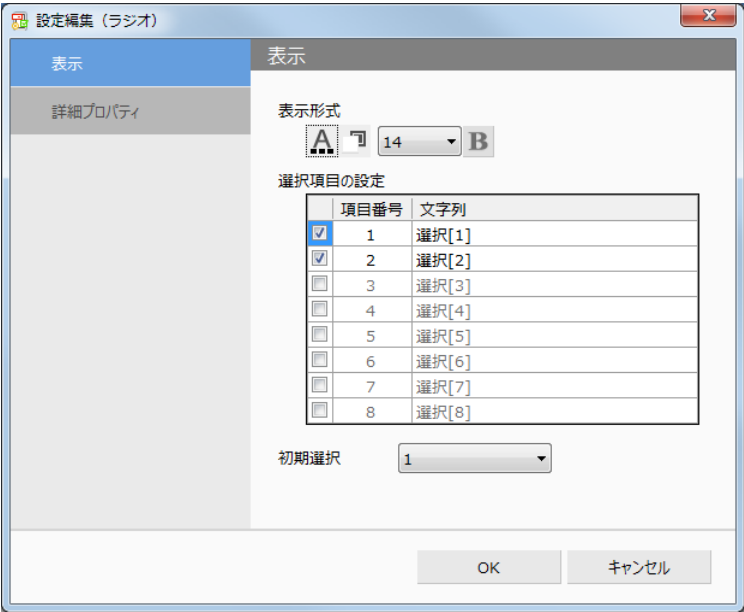


名前	RadioButtonItem_1
位置	10, 10
サイズ	120, 20
表示文字列	選択[1]

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 3~480、縦幅 : 3~640
表示文字列	表示する文字列を設定します。

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

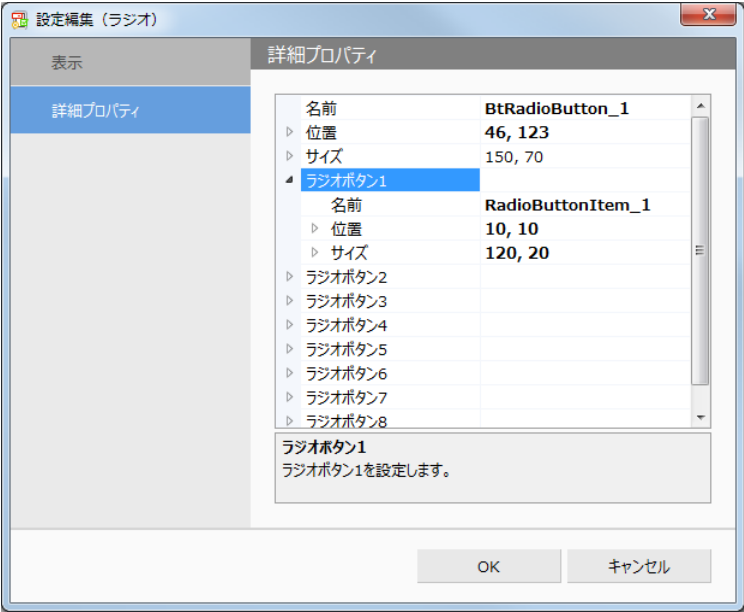
選択項目の設定

表示するラジオボックスの数（最大 8 個）と表示する文字列を設定します。

初期選択

ラジオボックスで、初期に選択されている項目を設定します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640
ラジオボックス 1～8 名前	パーツの名前を設定します。
ラジオボックス 1～8 位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
ラジオボックス 1～8 サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

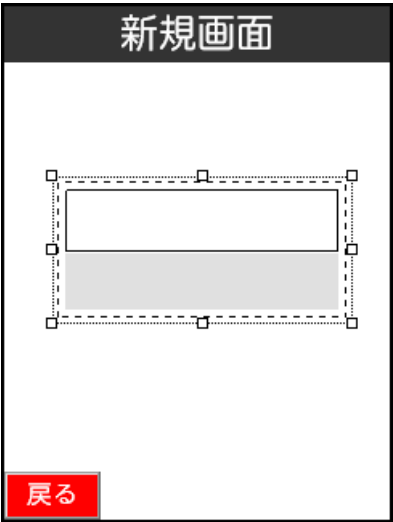
5.2.6. ルックアップボックス

テキストボックスに入力されたデータで、マスターファイルを検索し、データを置き換え表示します。内部パーツの設定は「[5.1.1. ラベル](#)」「[5.2.1. テキストボックス](#)」を参照してください。

■ 選択するパーツ



■ 配置したときの画面



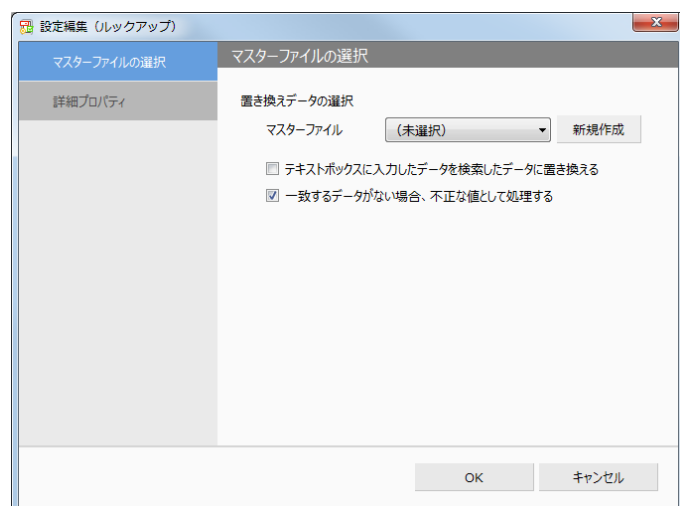
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtLookUpBox_1
▶ 位置	33, 109
▶ サイズ	180, 85

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■マスターファイルの選択

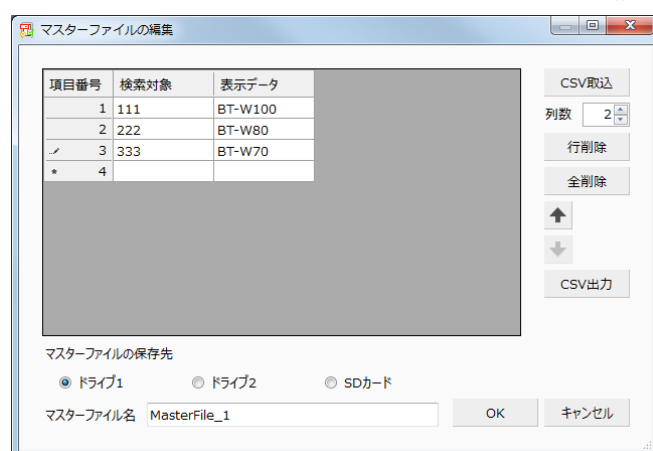


置き換えデータの選択

・マスターファイル

既に作成済みのマスターファイルから選択できます。「新規作成」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを作成できます。

※作成済みマスターファイルを選択した場合、「新規作成」ボタンは「編集」ボタンに変わります。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを編集できます。



セルにデータを直接入力し、マスターファイルを作成します。1 列目が入力されたデータで検索する「検索対象」、2 列目が置き換えて表示される「表示データ」となります。

・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んでマスターファイルを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

・列数

マスターファイルの列数を設定できます。

※ルックアップボックスでは使用しません。

・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

・「全削除」ボタン

マスターファイルのデータを全て削除します。

・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

・「CSV 出力」ボタン

作成したマスターファイルを、CSV ファイルに保存します。

・マスターファイルの保存先

マスターファイルを保存するドライブを選択します。

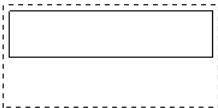
【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

・マスターファイル名

マスターファイルの名前を設定します。

・テキストボックスに入力したデータを検索したデータに置き換える

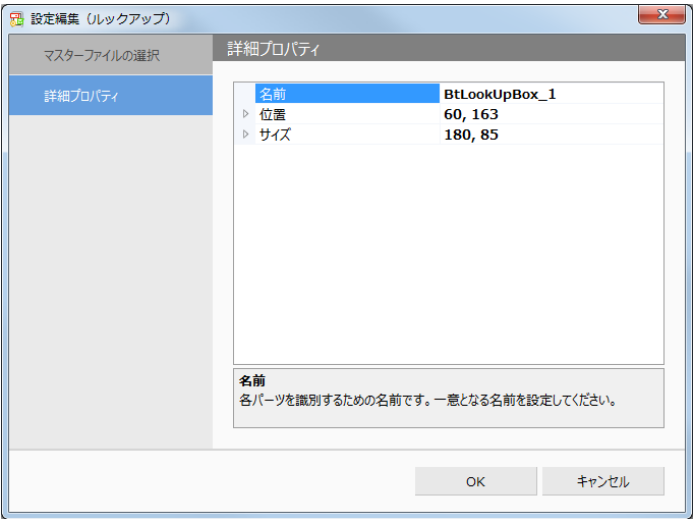
チェックを入れると、テキストボックスに入力したデータを置き換えデータに置き換えます。以下のように内部のラベルパーツは削除されます。



・一致するデータがない場合、不正な値として処理する

マスターファイル内に入力されたデータがなければ、エラーを表示します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

5.3. ボタン

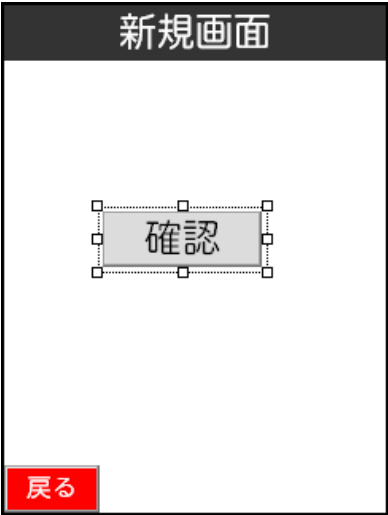
5.3.1. ボタン

ボタンを配置して、表示形式や押されたときの動作を設定します。

■ 選択するパーツ



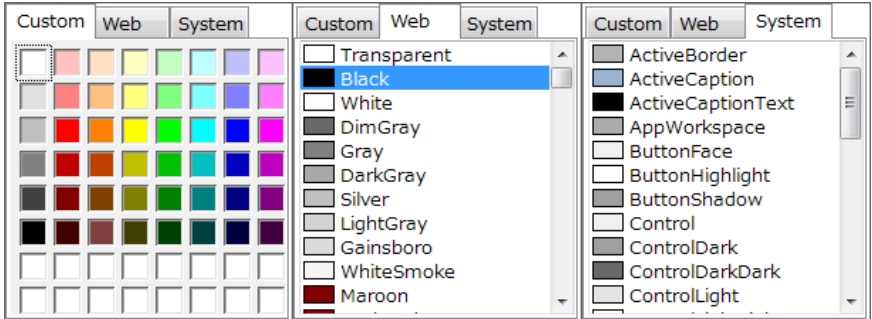
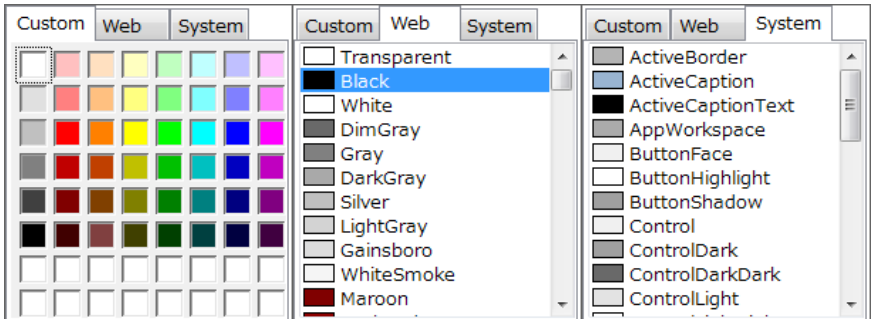
■ 配置したときの画面

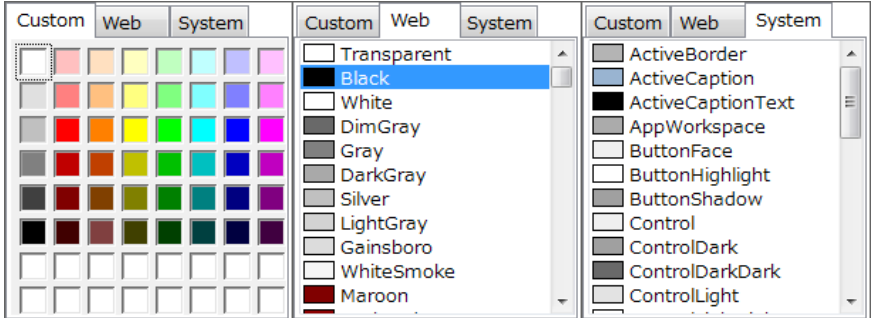
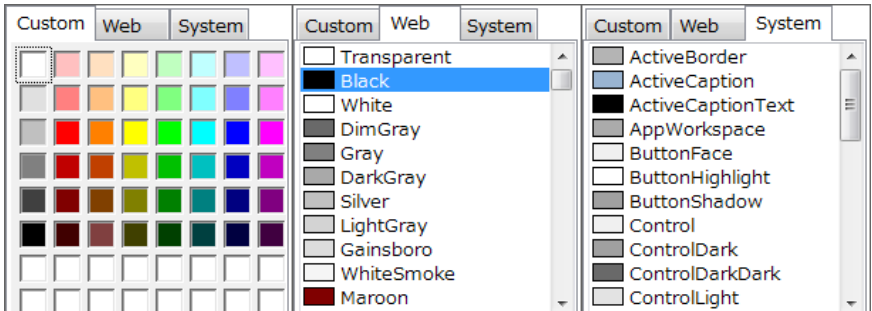


■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtButton_1
▷ 位置	62, 130
▷ サイズ	100, 35
枠線	立体
表示文字列	確認
文字の配置	中央揃え
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	Black
背景色	Gainsboro
選択時の文字色	Black
選択時の背景色	Gainsboro

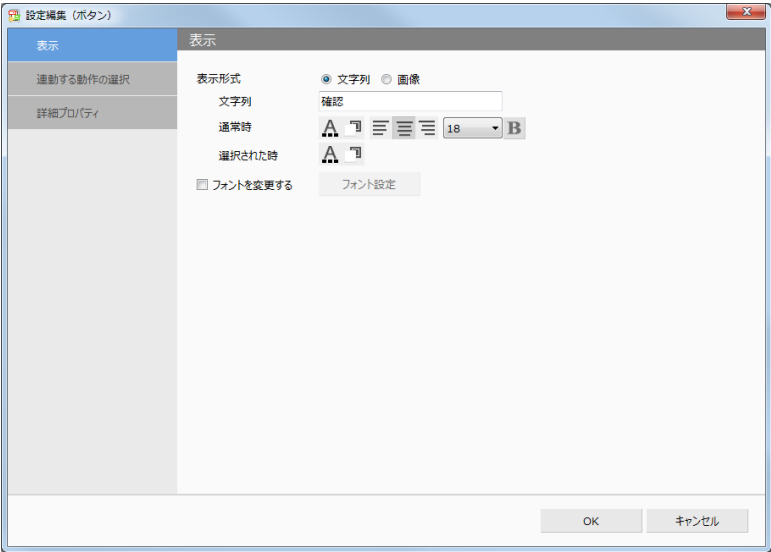
名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639

サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅：3～480、縦幅：3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6～144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

フォーカス時の文字色	選択時の文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の背景色	選択時のパーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示（表示形式が文字列の場合）



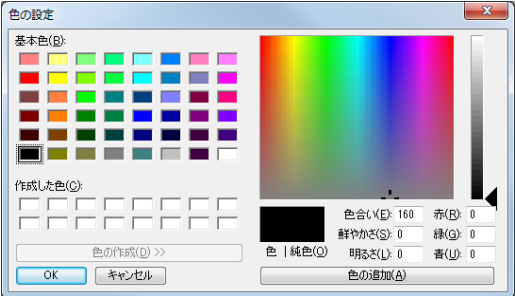
表示形式

・文字列

ボタンに表示する文字列を設定します。

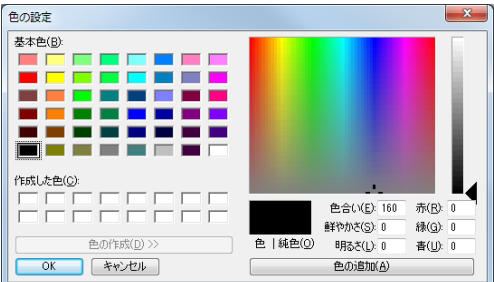
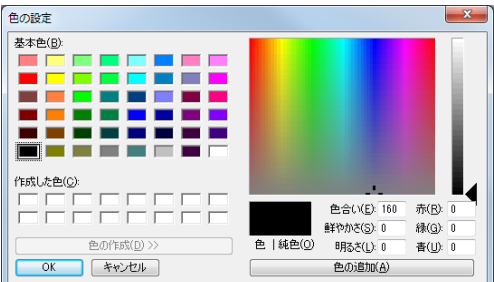
・通常時

パーツが選択されていないときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

・ 選択された時

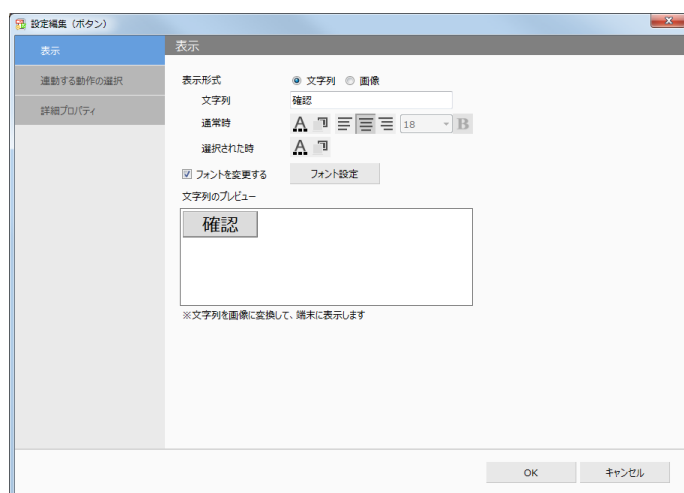
パーツを選択されたときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

フォントを変更する

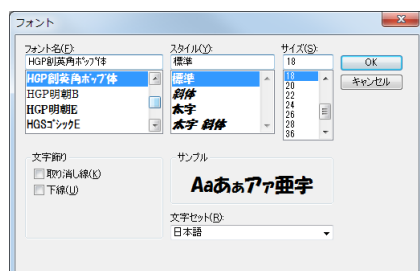
開発 PC にインストールされているフォントを自由に使用できます。フォントを画像化してボタンに表示します。

チェックを入れると、ダイアログボックスが以下ようになります。



フォント設定

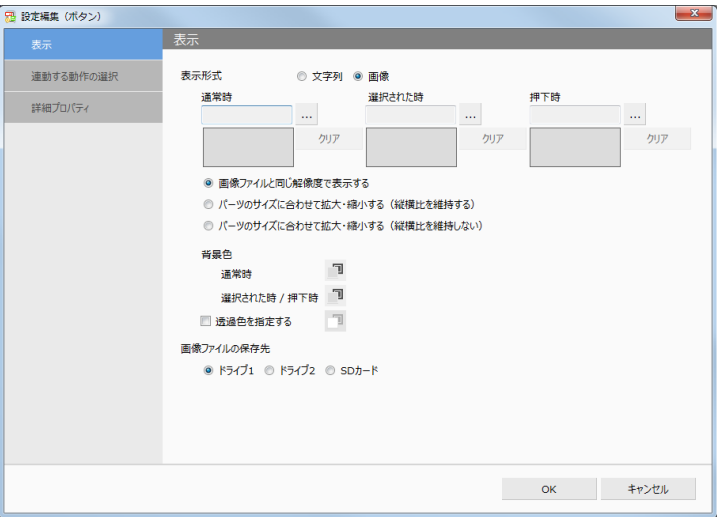
「フォント設定」を押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。フォント種類、スタイル、サイズ、文字飾りなどを設定できます。



文字列のプレビュー

「フォント設定」で設定したパーツのプレビューを確認できます。

■表示（表示形式が画像の場合）



表示形式

ボタンに表示する画像を設定します。「通常時」「選択された時」「押下時」それぞれで使用する画像を選択します。
画像のサイズについては以下の項目から選択できます。

- 【選択項目】
- 画像ファイルと同じ解像度で表示する
 - パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持する）
 - パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持しない）

・背景色

ボタンの「通常時」と「選択された時／押下時」の背景色をそれぞれ設定します。

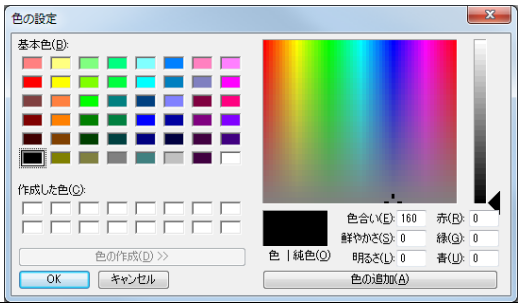
・透過色を指定する

透過色に設定する色を指定します。

※透過色に設定した色をパーツの背景色に置き換えて表示します。



パーツの透過色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

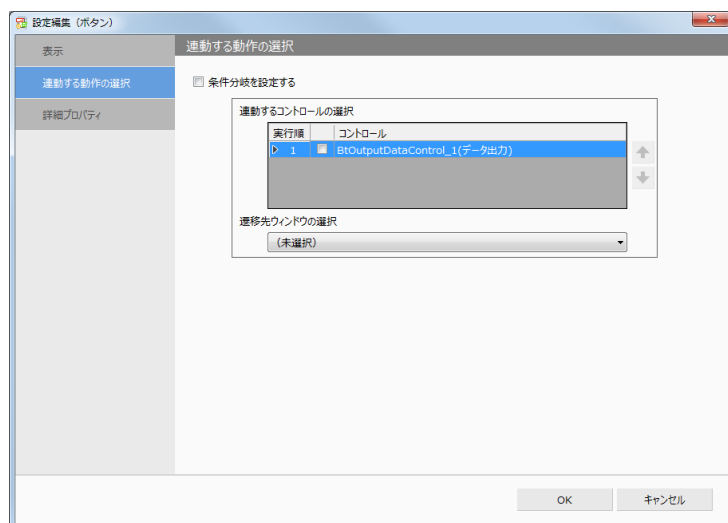


画像ファイルの保存先

画像ファイルを保存するドライブを選択します。

- 【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

■連動する動作の選択



連動するコントロールの選択

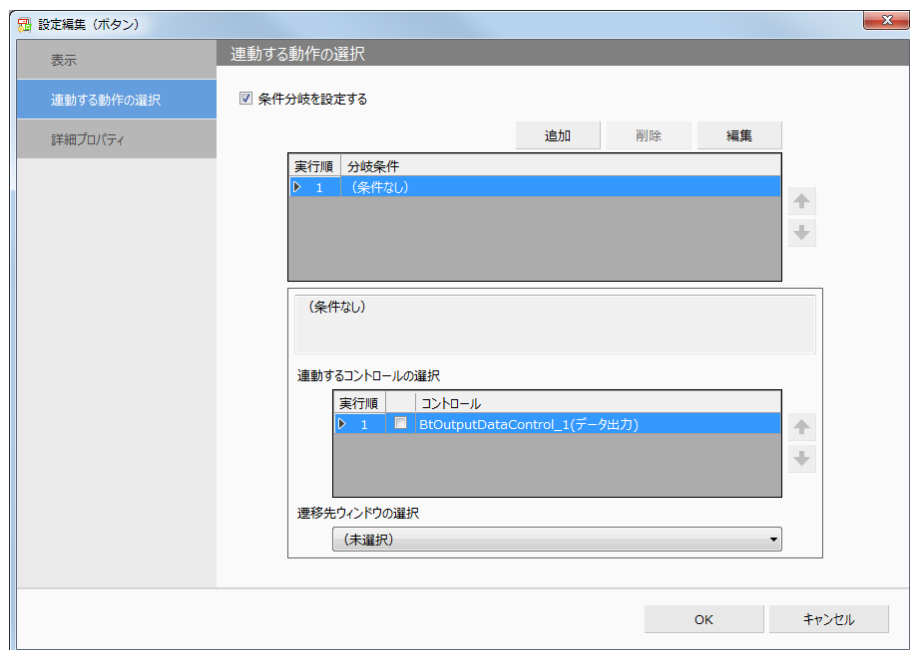
現在使用できるコントロールの一覧が表示されます。ボタンを押下したタイミングで、実行するコントロールにチェックを入れます。複数同時に実行することができて、右側の矢印ボタンで実行順を変更できます。

遷移先ウィンドウの選択

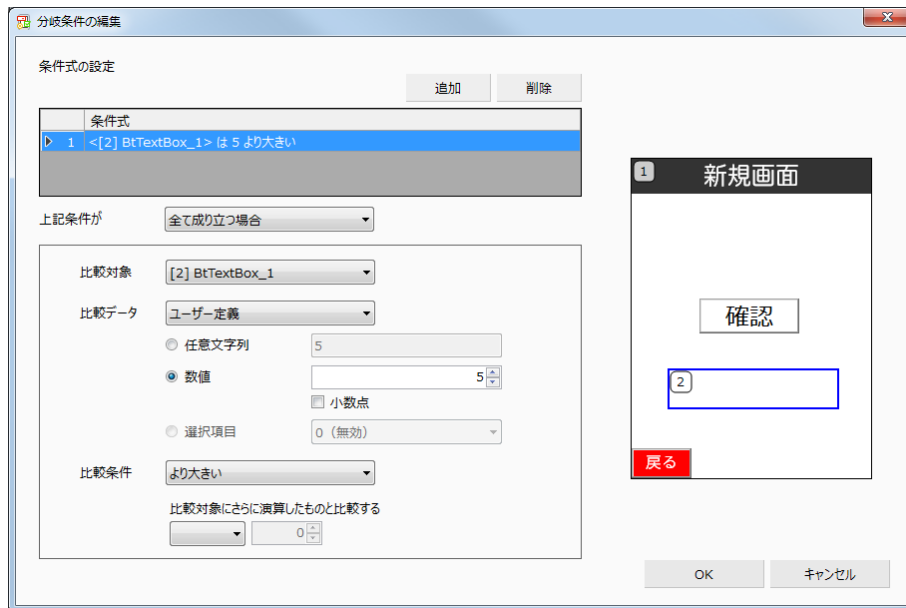
ボタンを押下したタイミングで、画面遷移する場合に選択します。コントロールと同時に実行することができます。その場合、コントロールが先に実行されます。

条件分岐を設定する

チェックを入れた場合は以下の画面になります。連動する動作の設定に加えて、それを実行する条件を追加、削除、編集できます。「編集」ボタンを押下すると条件設定のダイアログボックスが表示されます。



「追加」ボタンを押下すると、条件を設定できます。



条件式の設定

条件式の一覧が表示されます。追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合（and 条件）」「いずれかが成り立つ場合（or 条件）」を選択します。

比較対象

条件式の比較対象となるパーツを選択します。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較データ

条件式の比較データとなるパーツもしくは任意の値を設定します。「ユーザー定義」を選択した場合は、任意文字列／数値／選択項目から選択、設定します。

※「選択項目」は比較対象にラジオボックス、もしくはチェックボックスを選択した場合に有効になります。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

比較条件

比較条件を設定します。比較データに数値を選択した場合は、「比較対象にさらに演算したものと比較する」の設定が有効になります。

・文字列比較の場合

【選択項目】一致する（文字列）／一致しない（文字列）／含む

・数値比較の場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）／より大きい／より小さい／以上／以下

・比較データで「選択項目」を選択した場合

【選択項目】等しい（数値）／等しくない（数値）

【設定例】

テキストボックスに入力された値が 1 の場合は「データ出力」、2 の場合は「データファイル送信」、3 の場合は「メニュー」画面に戻るといった条件分岐の場合

1. 分岐条件を 3 つ追加します。

☒ 条件分岐を設定する

実行順	分岐条件
1	(条件なし)
2	(条件なし)
3	(条件なし)

(条件なし)

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

2. 分岐条件は以下のように設定します。下記は値が 1 の場合なので、値が 2 と 3 の場合は比較データの「数値」を 2 と 3 に変更してください。

分岐条件の編集

条件式の設定

条件式

1 <[2] BtTextBox_1> は 1 と等しい

上記条件が 全て成り立つ場合

比較対象 [2] BtTextBox_1

比較データ ユーザー定義

☐ 任意文字列 5

☒ 数値 1

☐ 小数点

☐ 選択項目 0 (無効)

比較条件 等しい (数値)

比較対象にさらに演算したものと比較する

0

新規画面

確認

2

戻る

OK キャンセル

3. それぞれの分岐条件で連動する動作を以下のように設定します。

☒ 条件分岐を設定する

追加

削除

編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 1 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

☒ 条件分岐を設定する

追加

削除

編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 2 と等しい

連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

(未選択)

☒ 条件分岐を設定する

追加

削除

編集

実行順	分岐条件
1	<BtTextBox_Number> は 1 と等しい
2	<BtTextBox_Number> は 2 と等しい
3	<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

<BtTextBox_Number> は 3 と等しい

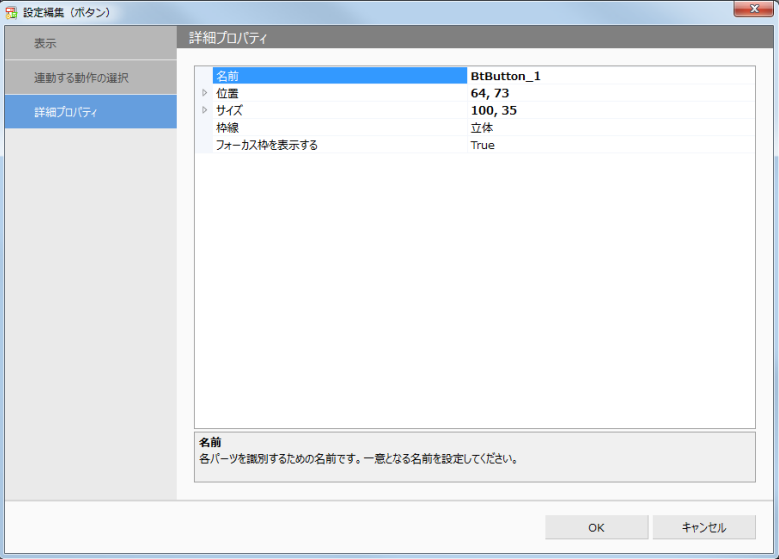
連動するコントロールの選択

実行順	コントロール
1	☒ BtOutputDataControl_1(データ出力)
2	☐ BtSendDataFileControl_1(データファイル送信)

遷移先ウィンドウの選択

メニュー

■詳細プロパティ

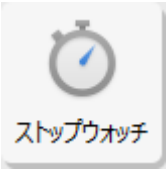


名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体
フォーカス枠を表示する	パーツ選択時の枠の表示／非表示を選択します。 【選択項目】True／False

5.3.2. ストップウォッチ

「開始／停止」ボタンを押下することで、時間を測定できます。開始時刻、終了時刻、作業時間を出力します。内部パーツの設定は「[5.1.1.ラベル](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」を参照してください。

■選択するパーツ



■配置したときの画面



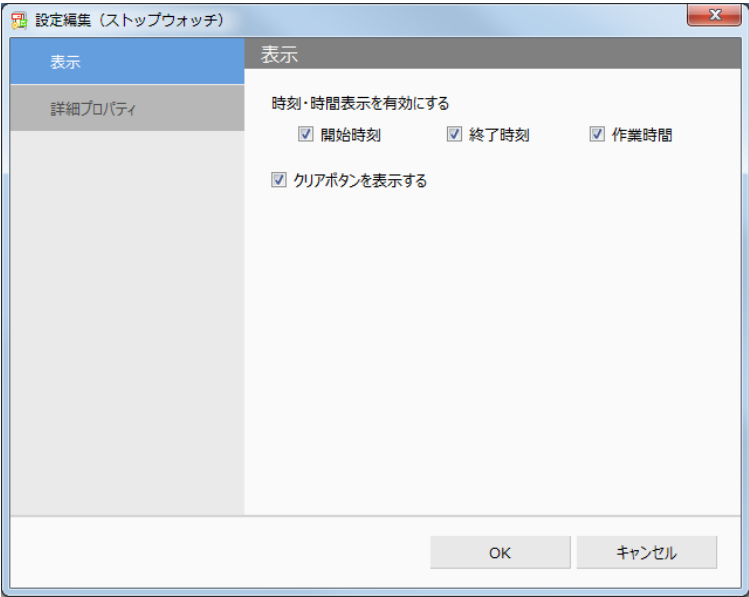
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtStopWatch_1
▶ 位置	4, 83
▶ サイズ	230, 150

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



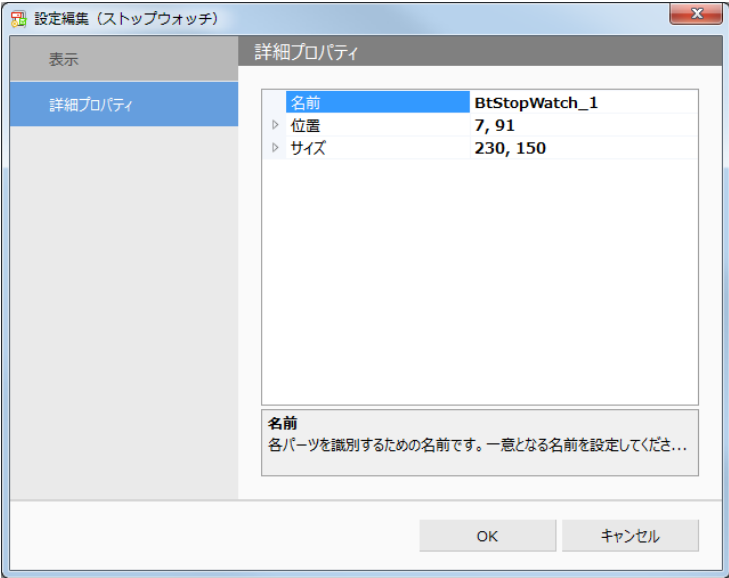
時刻・時間表示を有効にする

開始時刻、終了時刻、作業時間の表示の有効／有効を設定できます。

クリアボタンを表示する

チェックを入れると、クリアボタンを表示します。時刻・時間を「00:00:00」にリセットします。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640

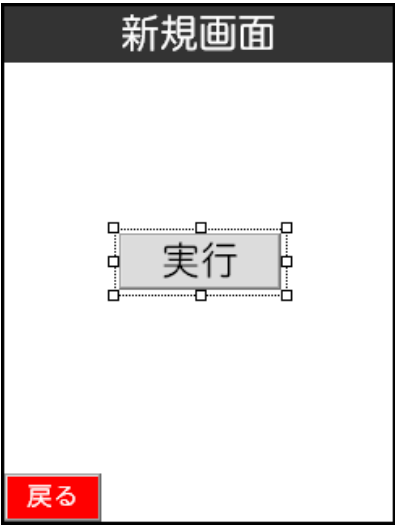
5.3.3. 外部アプリ実行ボタン

ハンディターミナルに保存されている任意のアプリケーションを起動できます。呼び出し元のアプリケーションに戻る場合は、Fn キーを 2 秒長押しします。(再起動をともしません)

■ 選択するパーツ



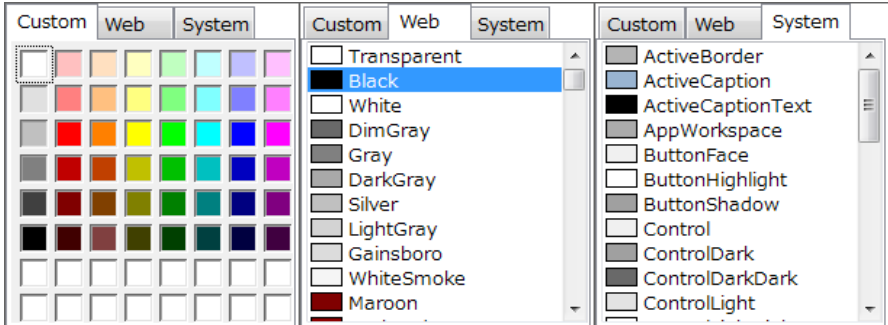
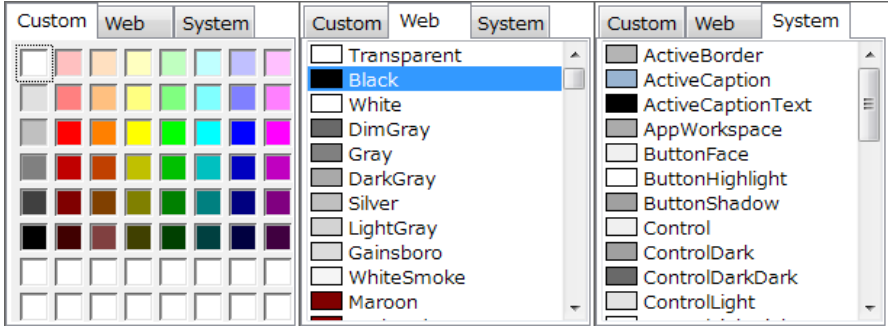
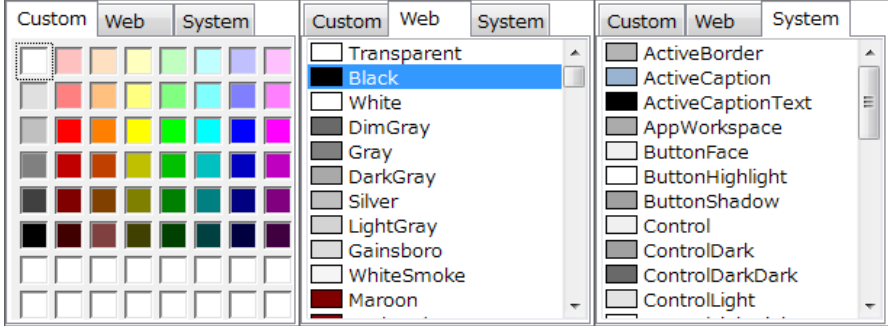
■ 配置したときの画面



■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtExecuteApplicationBut
位置	71, 141
サイズ	100, 35
枠線	立体
表示文字列	実行
文字の配置	中央揃え
フォントサイズ	18
太字	False
文字色	Black
背景色	Gainsboro
選択時の文字色	Black
選択時の背景色	Gainsboro

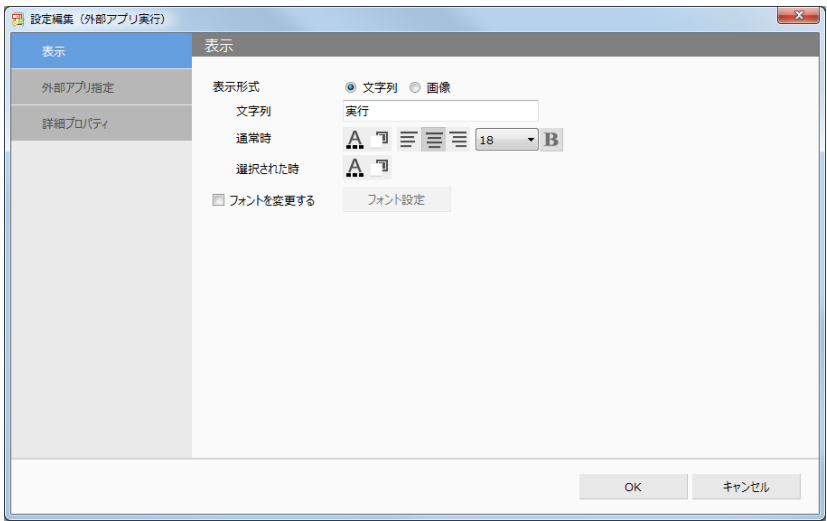
名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639

サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅：3～480、縦幅：3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。 【選択項目】 左寄せ／中央揃え／右寄せ
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6～144pt
太字	文字列を太字にします。 【選択項目】 False／True
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォーカス時の文字色	選択時の文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示（表示形式が文字列の場合）



表示形式

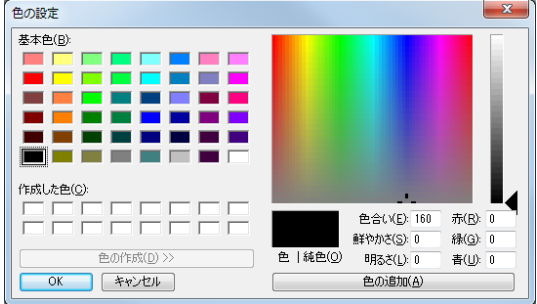
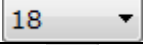
・文字列

ボタンに表示する文字列を設定します。

・通常時

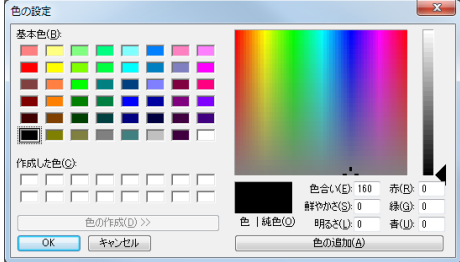
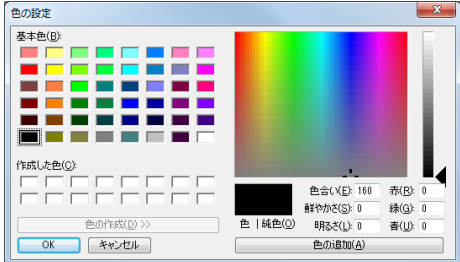
パーツを選択されていないときの色やフォントサイズなどを設定します。



	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。【設定範囲】6～144pt
	文字列を太字にします。

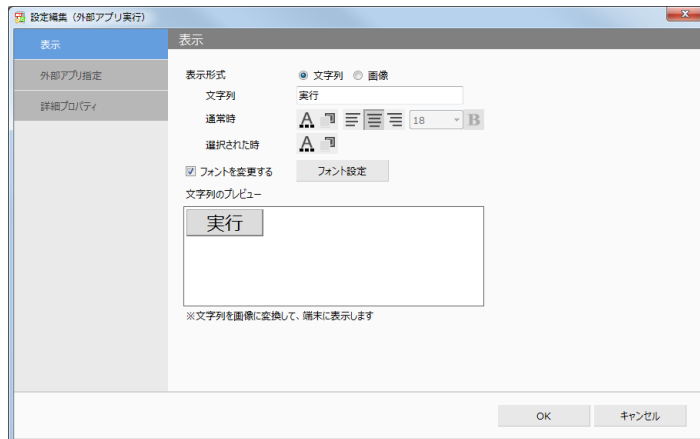
・ 選択された時

パーツを選択されたときの色やフォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

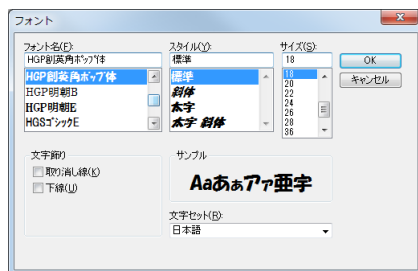
フォントを変更する

開発 PC にインストールされているフォントを自由に使用できます。フォントを画像化してボタンに表示します。チェックを入れると、ダイアログボックスが以下ようになります。



フォント設定

「フォント設定」を押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。フォント種類、スタイル、サイズ、文字飾りなどを設定できます。



文字列のプレビュー

「フォント設定」で設定したパーツのプレビューを確認できます。

■表示（表示形式が画像の場合）



表示形式

ボタンに表示する画像を設定します。「通常時」「選択された時」「押下時」それぞれで使用する画像を選択します。

画像のサイズについては以下の項目から選択できます。

- 【選択項目】
- 画像ファイルと同じ解像度で表示する
 - パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持する）
 - パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持しない）

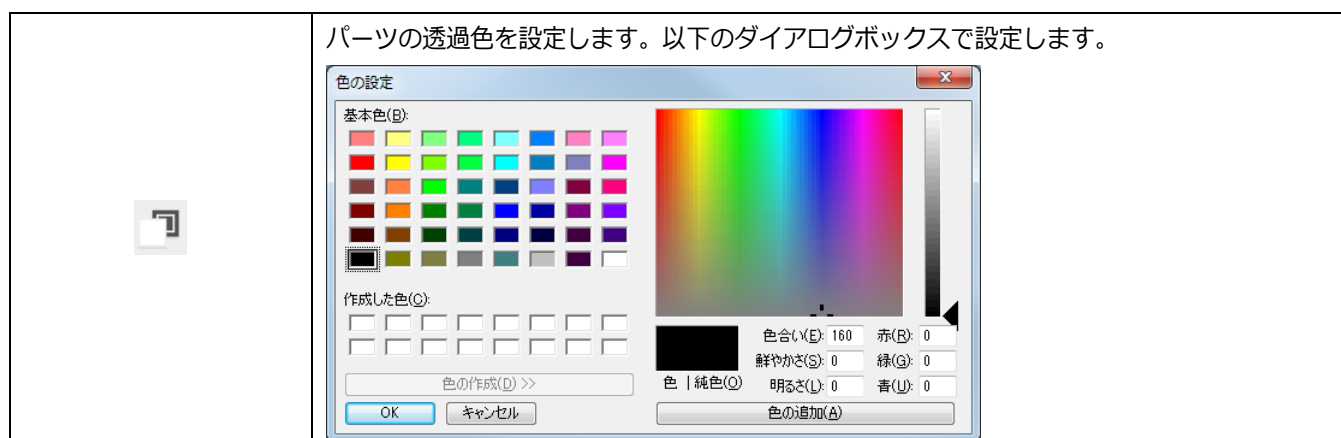
・背景色

ボタンの「通常時」と「選択された時／押下時」の背景色をそれぞれ設定します。

・透過色を指定する

透過色に設定したい色を指定します。

※透過色に設定した色をパーツの背景色に置き換えて表示します。

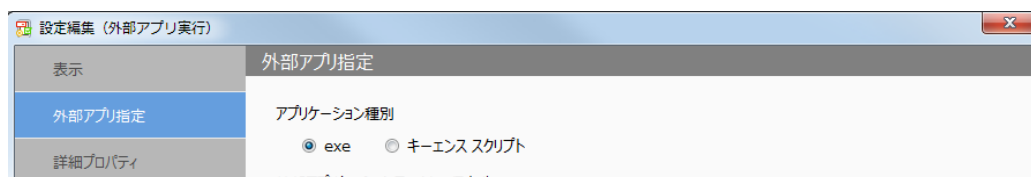


画像ファイルの保存先

画像ファイルを保存するドライブを選択します。

- 【選択項目】 ドライブ 1 / ドライブ 2 / SD カード

■外部アプリ指定

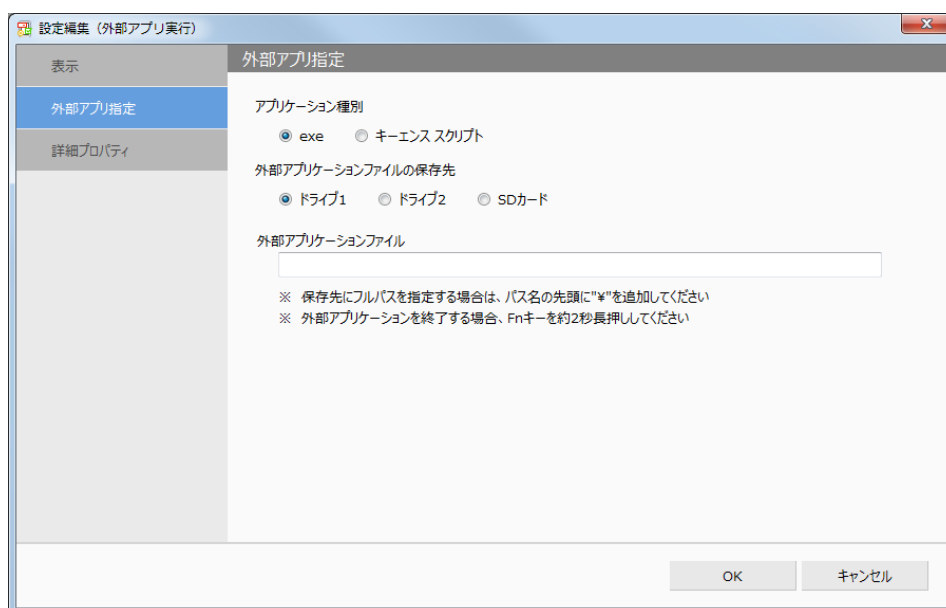


アプリケーション種別

呼び出すアプリケーションの種別を選択します。

【選択項目】exe／キーエンススクリプト

■アプリケーション種別で「exe」を選択した場合



外部アプリケーションファイルの保存先

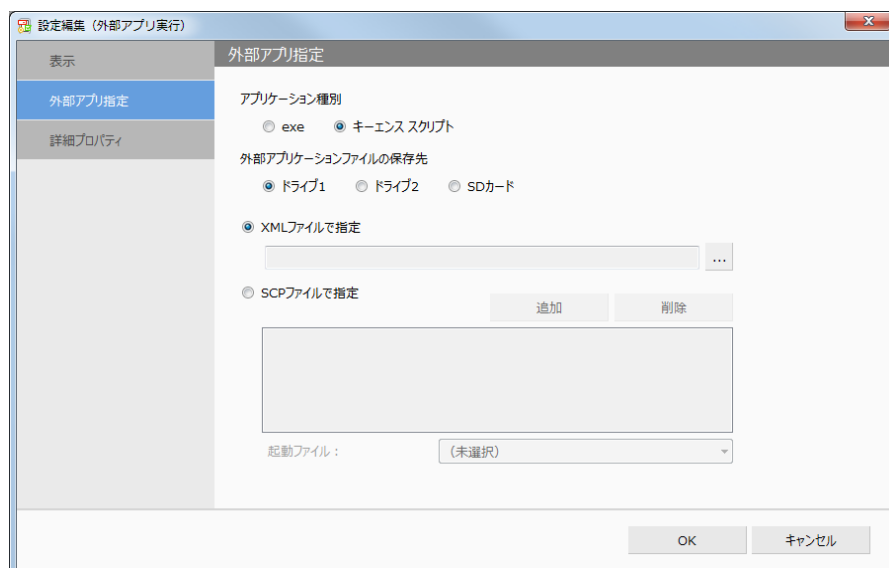
呼び出すアプリケーションを保存しているドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

外部アプリケーションファイル

呼び出すアプリケーションのファイル名を指定します。ファイルをフルパスで指定することもできます。その際にはパス名の先頭に「¥」を追加します。

■アプリケーション種別で「キーエンス スクリプト」を選択した場合



外部アプリケーションファイルの保存先

呼び出すアプリケーションを保存しているドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

XML ファイルで指定

BT-H10W に同梱されている BT アプリケーションビルダーで、開発したプロジェクトファイル(拡張子:xml)を指定します。

※BT アプリケーションビルダーで事前にソース生成を実施する必要があります。

SCP ファイルで指定

スクリプトファイルを指定します。インクルードしているファイルの指定は必要ありません。

※BT アプリケーションビルダーで生成したスクリプトファイルを使用している場合、「Lib」や「RES」フォルダー内のスクリプトファイルは、必要ありません。

起動ファイル

「SCP ファイルで指定」で指定したものから、初回に起動するスクリプトファイルを指定します。

※BT アプリケーションビルダーで生成したスクリプトファイルを使用している場合は、「App.scp」となります。

■呼び出し元のアプリケーションに戻る方法

BT-W70／W80／W100／W300／W200 シリーズで、アプリケーション種別に「exe」を選択した場合

Fn キーを 2 秒長押しします。(再起動をとめないます)

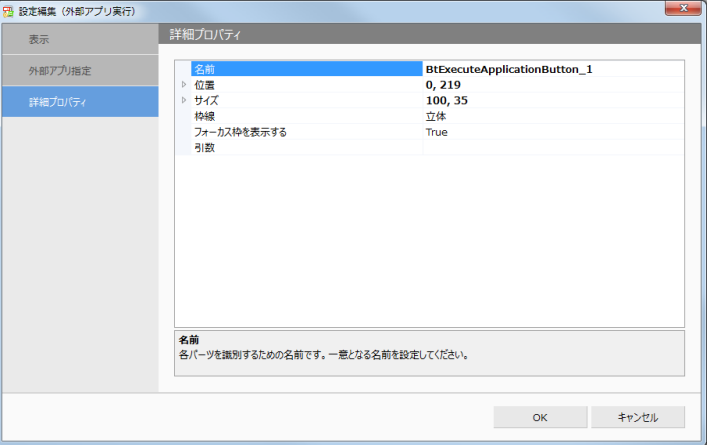
BT-W70／W80／W100／W300／W200 シリーズで、アプリケーション種別に「キーエンススクリプト」を選択した場合

Fn キーを押すと、メッセージボックスが表示されるので、「はい」を押します。

BT-600／1000 シリーズの場合

PW キーを 8 秒長押しします。(再起動をとめないます)

■詳細プロパティ



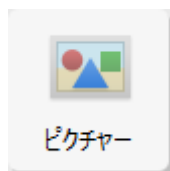
名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体
引数	呼び出すアプリケーションの引数を指定します。

5.4. ビュー

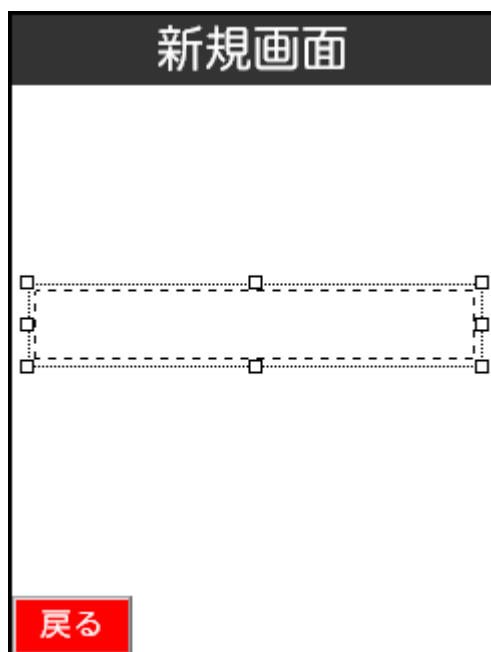
5.4.1. ピクチャービュー

画面上に画像を表示します。

■ 選択するパーツ

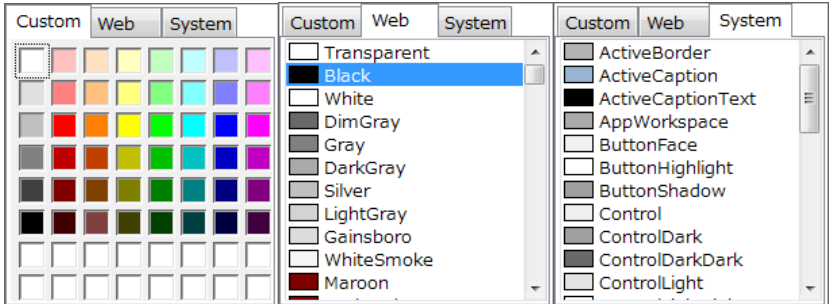


■ 配置したときの画面



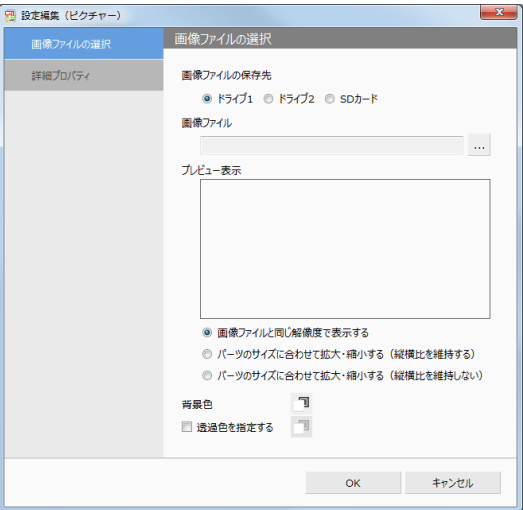
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtPictureView_1
▶ 位置	11, 137
▶ サイズ	220, 35
背景色	 White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、 Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、縦幅 : 3~640
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



画像ファイルの保存先

画像ファイルを保存するドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

画像ファイル

画像ファイルをプロジェクトに取り込みます。

プレビュー表示

画像のプレビューを表示します。画像のサイズについては以下の項目から選択できます。

- 【選択項目】
- 画像ファイルと同じ解像度で表示する
- パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持する）
- パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持しない）

背景色

パーツの背景色を設定します。

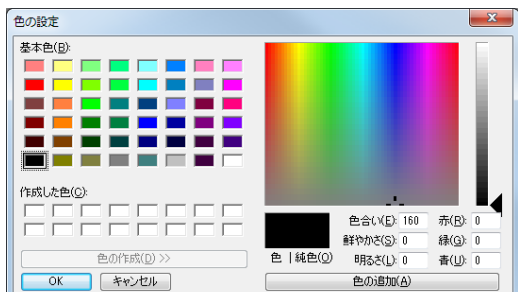
透過色を指定する

透過色に設定したい色を指定します。

※透過色に設定した色をパーツの背景色に置き換えて表示します。



パーツの透過色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。



■詳細プロパティ

設定編集 (ビジュアル)

画像ファイルの選択

詳細プロパティ

名前	BtPictureView_1
位置	0, 126
サイズ	220, 35

名前
各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~479、Y 座標 : 0~639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3~480、縦幅 : 3~640

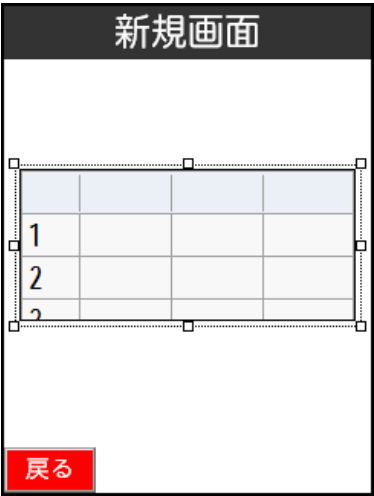
5.4.2. テーブルビュー

画面上に表を表示します。マスターファイルやデータファイルを一覧で確認できます。

■ 選択するパーツ



■ 配置したときの画面



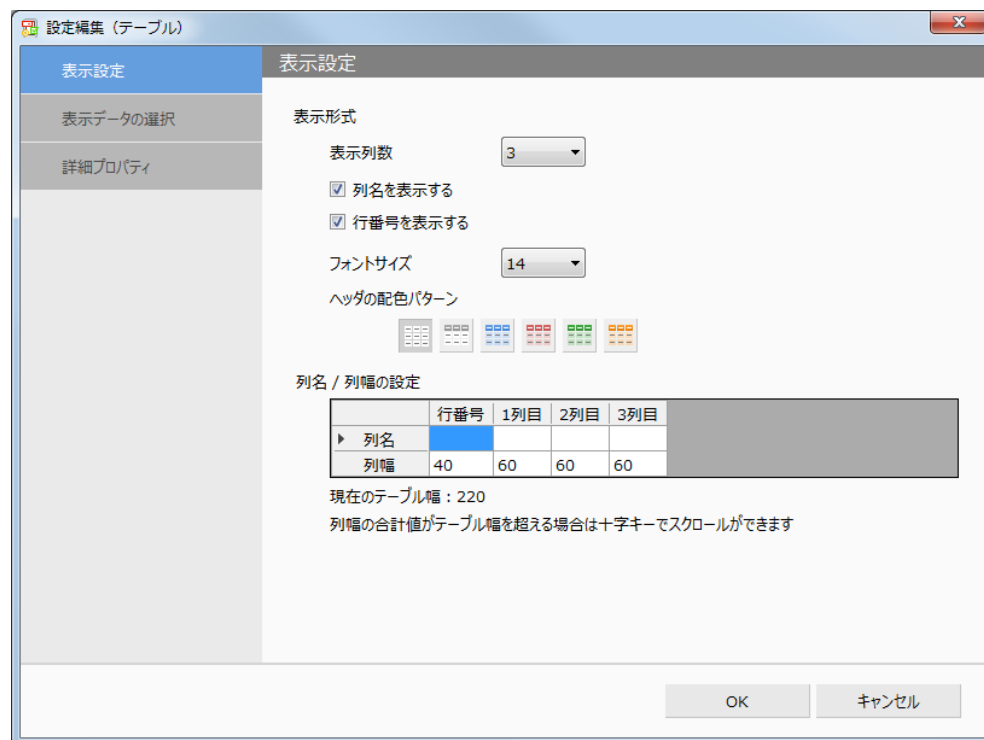
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtTableView_1
▷ 位置	10, 107
▷ サイズ	220, 100
フォントサイズ	14

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～479、 Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。 【設定範囲】 6～144pt

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示設定



表示形式

・表示列数

表に表示する列数を選択します。

【選択項目】1～8

・列名を表示する

チェックを入れると、列名を1行目に表示します。

・行番号を表示する

チェックを入れると、行番号を1列目に表示します。

・フォントサイズ

文字列のフォントサイズを選択します。

【選択項目】6～144pt

・ヘッダの配色パターン

表の配色パターンを選択します。

【選択項目】

列名／列幅の設定

それぞれの列名と列幅を設定します。列幅の合計値が「現在のテーブル幅」になるように設定します。超える場合は十字キーで表示をスクロールできます。

■表示データの選択

表示設定

表示データの選択

詳細プロパティ

表示データの選択

☒ マスターファイルを表示する
マスターファイル (未選択) 新規作成

☐ データファイルを表示する

☒ 表示データを絞り込む

絞り込み条件の入力数 1

絞り込み条件の入力パーツ (未選択) 絞り込み対象列 1

(未選択) 2

(未選択) 3

全ての条件を満たす項目に絞り込む

OK キャンセル

マスターファイルを表示する

既に作成済みのマスターファイルから選択できます。「新規作成」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを作成できます。

※作成済みマスターファイルを選択した場合、「新規作成」ボタンは「編集」ボタンに変わります。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを編集できます。

マスターファイルの編集

項目番号	1列目	2列目	3列目	4列目
1	1	2	3	4
2	5	6	7	8
3				

CSV取込

列数 4

行削除

全削除

↑

↓

CSV出力

マスターファイルの保存先

☒ ドライブ1 ☐ ドライブ2 ☐ SDカード

マスターファイル名 MasterFile_2

OK キャンセル

セルにデータを直接入力し、表示するマスターファイルを作成します。

・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んでマスターファイルを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

・列数

マスターファイルの列数を設定できます。

・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

・「全削除」ボタン

マスターファイルのデータを全て削除します。

・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

- ・「CSV 出力」ボタン

作成したマスターファイルを、CSV ファイルに保存します。

- ・マスターファイルの保存先

マスターファイルを保存するドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1 / ドライブ 2 / SD カード

- ・マスターファイル名

マスターファイルの名前を設定します。

データファイルを表示する

データファイルを表示します。出力したデータの履歴を参照する場合に使用します。

表示データを絞り込む

入力データでマスターファイルを検索し、データを絞り込み表示できます。

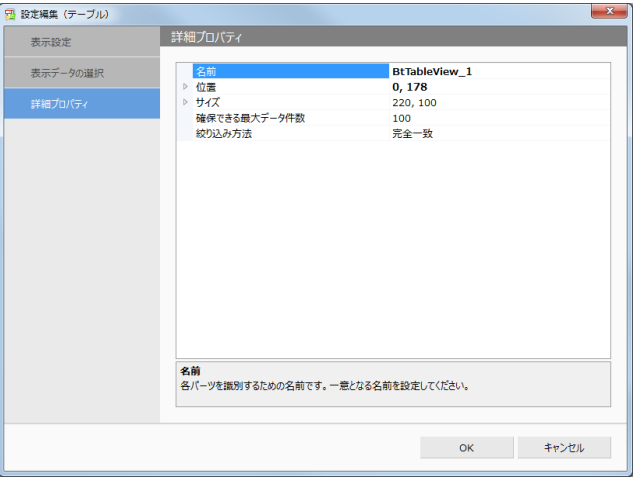
- ・絞り込み条件の入力数

絞り込む条件の数を選択します。【選択項目】1～3

- ・絞り込み条件の入力パーツ

絞り込むデータを入力するパーツと、絞り込む対象の列番号を選択します。選択できる列番号は、「表示列数」の設定により変わります。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0～479、Y 座標 : 0～639
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 3～480、縦幅 : 3～640
確保できる最大データ件数	テーブルビューに表示する最大データ件数(行数)を設定します。 【設定範囲】1～1024 件
絞り込み方法	表示データを絞り込むときの方法を選択します。 【選択項目】完全一致／前方一致／後方一致／部分一致

5.5. コントロール

5.5.1. アイテム数入力コントロール

アイテム数入力コントロールを設定することで、数量入力時、アイテム入力時と同じバーコードデータを読み取りした場合は、数量を自動的にカウントアップするなど、数量入力に関わる複雑な動作を設定するパーツです。アイテム数入力コントロール単体では機能せず、事前に2つテキストボックスの配置が必要です。

■ 選択するパーツ

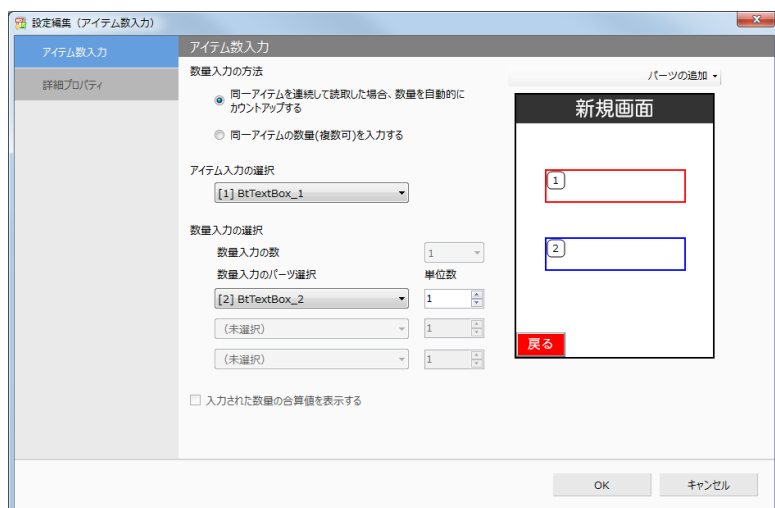


■ 配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ アイテム数入力



数量入力方法

・ 同一アイテムを連続して読取した場合、数量を自動的にカウントアップする

数量入力時、アイテム入力時と同じバーコードデータを読み取りした場合は、数量を自動的にカウントアップします。前回と異なるバーコードデータを読み取りした場合は、数量入力をスキップします。数量はテキストボックスに表示されているデータで出力されます。

・ 同一アイテムの数量（複数可）を入力する

数量入力に単位数を掛けたり、複数の入力に関連付けて合算表示したりできます。

アイテム入力を選択

バーコードデータを読み取るテキストボックスを選択します。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

数量入力の選択

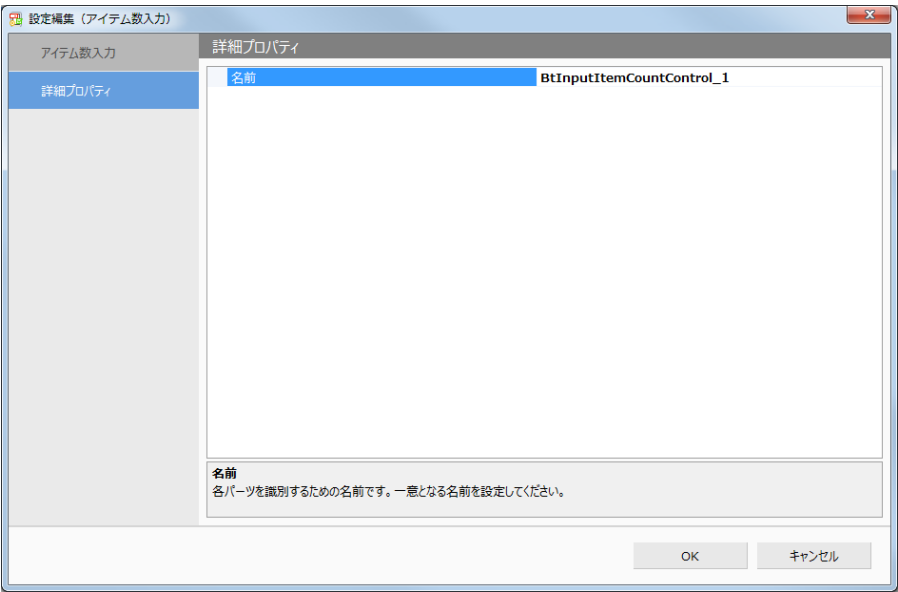
- ・数量入力の数
数量を入力するテキストボックスの数を選択します。
【設定範囲】 1～3
※「同一アイテムの数量（複数可）を入力する」を選択した場合に有効になります。
- ・数量入力のパーツ選択
数量を入力するテキストボックスの選択と、入力されたデータに掛けあわせる単位数（1～65535）を設定します。
設定数は「数量の入力数」の設定数に応じて変わります。
※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

入力された数量の合算の表示する

上記で設定した複数の入力（単位数を掛け合わせた数）を合算した数を表示します。

※「同一アイテムの数量（複数可）を入力する」を選択した場合に有効になります。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.5.2. 照合コントロール

2 つ以上のパーツの値を照合します。照合条件と照合結果にともなう動作を設定します。照合コントロール単体では機能せず、事前にラベルやテキストボックスなどの配置が必要です。

■ 選択するパーツ

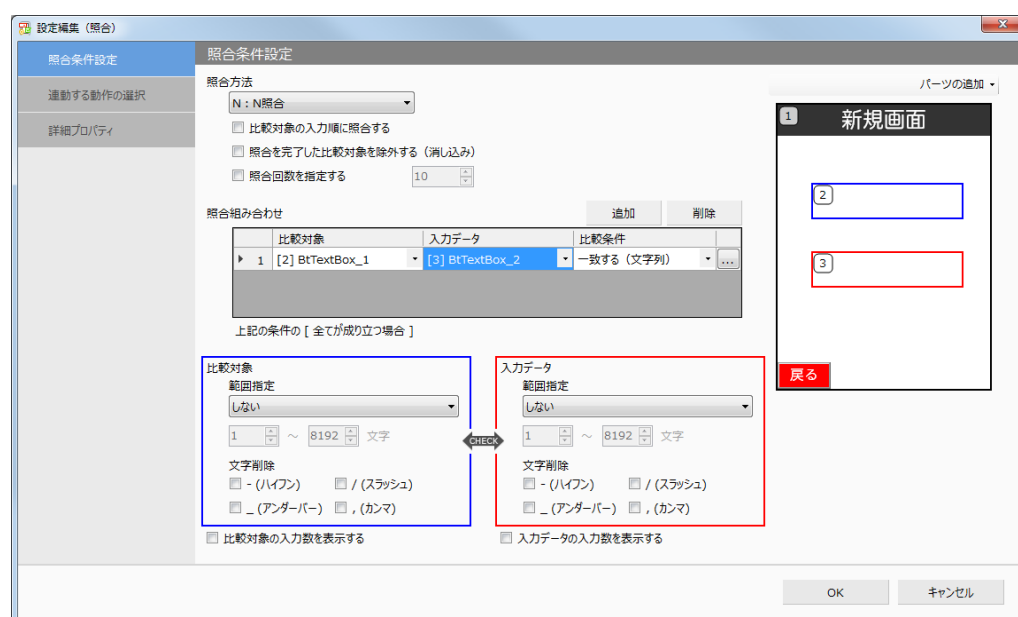


■ 配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ 照合条件設定



照合方法

照合方法を選択します。

【選択項目】 1:1 照合 / 1:N 照合 / N:N 照合

1:1 照合・・・1の比較対象に対して、1つの入力データを照合します。

1:N 照合・・・1つの比較対象に対して、入力データを複数回照合します。

N:N 照合・・・複数の比較対象を登録し、それに対して入力データを複数回照合します。

・比較対象の入力順に照合する

チェックを入れると、比較対象で入力した順番に入力データを照合します。

※「照合の完了した比較対象を除外する（消し込み）」を有効にしてください。

※「N : N 照合」を選択した場合に有効になります。

・照合の完了した比較対象を除外する（消し込み）

チェックを入れると、1 度照合した比較対象は次の比較対象から除外します。

※「N : N 照合」を選択した場合に有効になります。

・照合回数を指定する

入力データを入力する回数を設定します。

【照合回数】 1～65535

※「1 : N 照合」「N : N 照合」を選択した場合に有効になります。

照合組み合わせ

照合の比較対象と入力データのパーツを選択し、その比較条件を選択します。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

【選択項目】一致する（文字列）／一致しない（文字列）／等しい（数値）／等しくない（数値）／含む
／より大きい／より小さい／以上／以下

・「追加」ボタン

照合条件を追加できます。最大 8 個まで設定できます。照合条件が全て成り立つ場合に照合 OK となります。

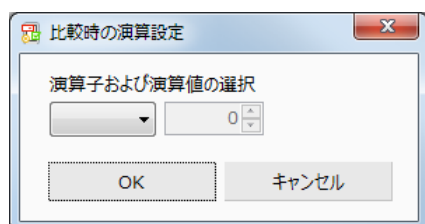
・「削除」ボタン

選択されている照合条件を削除します。

・ ボタン

比較対象に演算したものと比較できます。入力データが数値の場合は（+／-／×／÷）日付の場合は（+／-）から演算子を選択できます。

【設定範囲】 0～65535



比較対象

・範囲指定

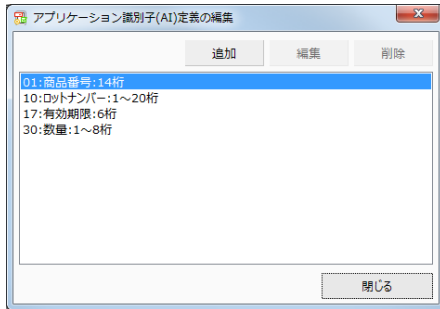
比較対象データを範囲指定します。

【範囲を指定する】

何番目の文字から何番目の文字まで抽出するか指定します。

【アプリケーション識別子（AI）を指定する】

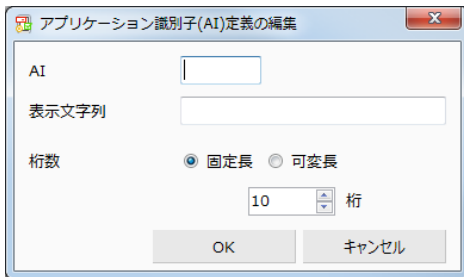
AI を指定してデータを抽出します。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスで AI を追加できます。



「追加」ボタン・・・AI で切り出す条件を追加できます。ダイアログボックスが表示されます。

「編集」ボタン・・・追加した条件を編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

「削除」ボタン・・・追加した条件を削除できます。



AI・・・AI を設定します。

表示文字列・・・設定時に表示される文字列を設定します。

桁数・・・固定長、可変長の選択と固定長の場合は桁数（1～8192 桁）をしています。

・文字削除

チェックを入れた文字を、比較対象データから削除します。

【選択項目】ハイフン／スペース／スラッシュ／カンマ

入力データ

・範囲指定

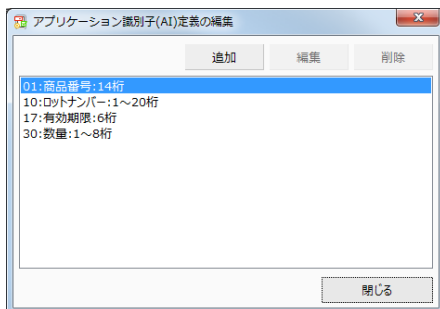
入力データを範囲指定します。

【範囲を指定する】

何番目の文字から何番目の文字まで抽出するか指定します。

【アプリケーション識別子 (AI) を指定する】

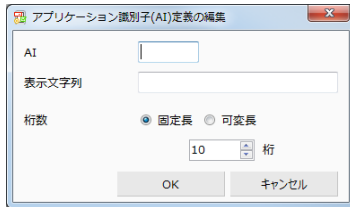
AI を指定してデータを抽出します。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスで AI を追加できます。



「追加」ボタン・・・AI で切り出す条件を追加できます。ダイアログボックスが表示されます。

「編集」ボタン・・・追加した条件を編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

「削除」ボタン・・・追加した条件を削除できます。



AI …… AI を設定します。

表示文字列 …… 設定時に表示される文字列を設定します。

桁数 …… 固定長、可変長の選択と固定長の場合は桁数（1～8192 桁）をしています。

・文字削除

チェックを入れた文字を、入力データから削除します。

【選択項目】ハイフン／スペース／スラッシュ／カンマ

■連動する動作の選択



照合 OK 時と照合 NG 時に連動する動作を設定します。

遷移先ウィンドウの選択

遷移する画面を選択します。

ブザー／バイブ／LED を連動する

チェックを入れると、以下の設定でブザー／バイブ／LED が動作します。

・ブザー音量

【選択項目】オフ／小／中／大

・音階

【選択項目】低／中／高

・鳴動回数

【設定範囲】1～10 回

・鳴動間隔

【選択項目】100ms／200ms／500ms／1000ms

・LED 点灯色

【選択項目】オフ／緑／赤

・バイブ連動

【選択項目】なし／あり

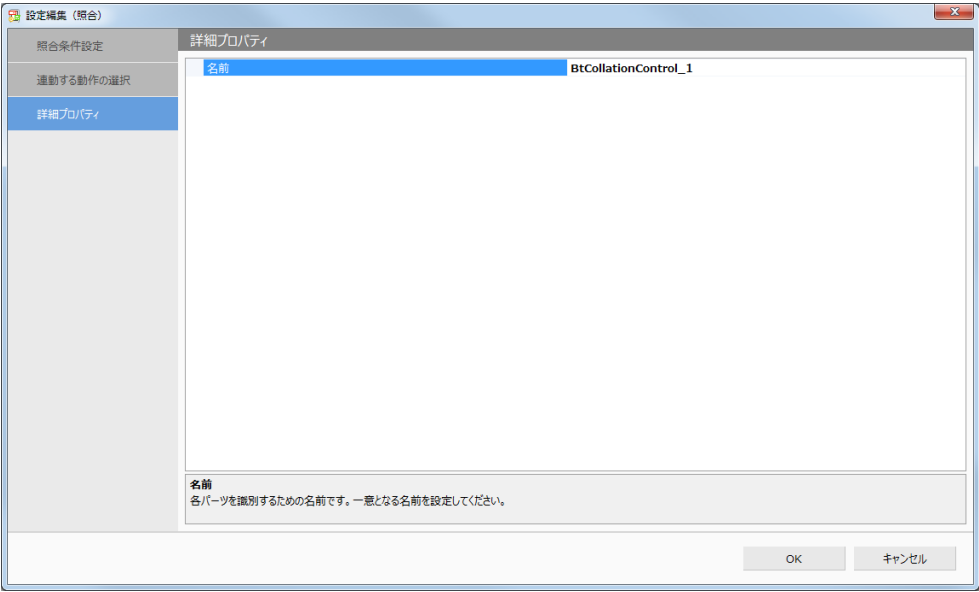
連動するコントロールの選択

照合 OK/照合 NG の結果に応じて、選択したコントロールを実行します。

コントロールとしては下図のように LR1 データ出力コントロールが対応しています。照合 NG 時に BT-LR1 にステータス (NG) を送信し、BT-LR1 から出力端子 2 に OUT 信号を出力してランプを点灯する、などの用途で使使します。



■詳細プロパティ

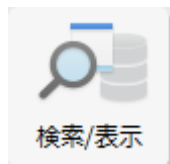


名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

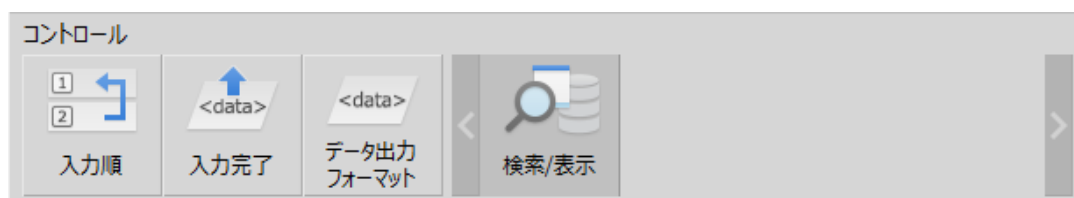
5.5.3. 検索／表示コントロール

テキストボックスに入力されたデータで、マスターファイルを検索し、データを置き換え表示します。また、入力データを切り出して表示することもできます。検索／表示コントロール単体では機能せず、事前にテキストボックスやラベルの配置が必要です。機能が「[5.2.6.ルックアップボックス](#)」と似ていますが、検索／表示コントロールでは複数の入力データで検索したり、複数のデータを置き換え表示したりできます。

■選択するパーツ

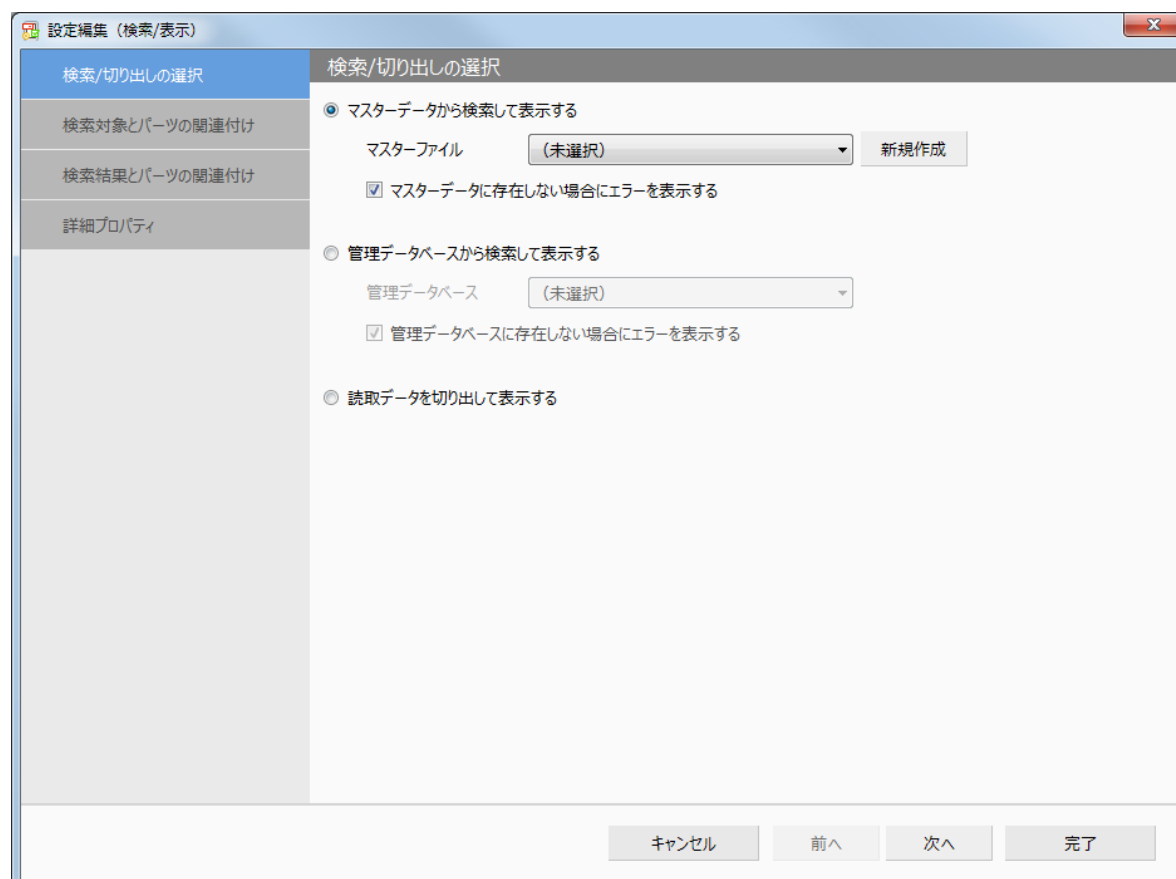


■配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■検索／切り出しの選択



マスターデータから検索して表示する

・マスターファイル

既に作成済みのマスターファイルから選択できます。「新規作成」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを作成できます。

※作成済みマスターファイルを選択した場合、「新規作成」ボタンは「編集」ボタンに変わります。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを編集できます。

項目番号	1列目	2列目
1		

マスターファイルの保存先

☒ ドライブ1 ☐ ドライブ2 ☐ SDカード ☐ PCアプリ

マスターファイル名: MasterFile_1

Buttons: CSV取込, 列数: 2, 行削除, 全削除, ↑, ↓, CSV出力, OK, キャンセル

セルにデータを直接入力し、マスターファイルを作成します。

・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んでマスターファイルを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

・列数

マスターファイルの列数を設定できます。

・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

・「全削除」ボタン

マスターファイルのデータを全て削除します。

・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

・「CSV 出力」ボタン

作成したマスターファイルを、CSV ファイルに保存します。

・マスターファイルの保存先

マスターファイルを保存するドライブを選択します。「PC アプリ」を選択した場合、PC アプリの送信フォルダーに配置されたマスターファイルを参照します。マスターファイルは [7.3.通信ソフトの使用方法](#) の「端末マスターファイル作成」で作成できます。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード／PC アプリ

・マスターファイル名

マスターファイルの名前を設定します。

- ・ **マスターデータに存在しない場合にエラーを表示する**

マスターファイル内に入力されたデータがなければ、エラーダイアログを表示します。

管理データベースから検索して表示する

- ・ **管理データベース**

参照先に「[4.2.6.運用設定](#)」で作成した管理データベースを選択できます。

- ・ **管理データベースに存在しない場合にエラーを表示する**

管理データベース内に入力されたデータがなければ、エラーダイアログを表示します。

読取データを切り出して表示する

入力データを切り出して表示します。

■ 検索対象のパーツの関連付け（「読取データをマスターデータから検索して表示する」を選択した場合）

検索対象の選択

マスターデータのどの列を検索するか選択します。選択状態で→ボタンを押すと、検索対象に追加できます。

←ボタンを押すと検索対象から削除できます。

関連付けパーツの選択

検索対象に選択した列をどのパーツの値で検索するか選択します。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

・ ボタン

押下すると、以下のダイアログボックスで詳細を設定できます。

・範囲指定

検索対象のデータを範囲指定する方法を選択します。

【読取データをそのまま使用する】

範囲指定をしないで使用します。

【範囲を指定する】

何番目の文字から何番目の文字まで抽出するか指定します。

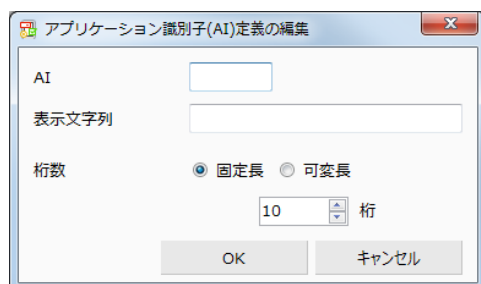
【アプリケーション識別子 (AI) を指定する】

AI を指定してデータを抽出します。

「追加」ボタン・・・AI で切り出す条件を追加できます。ダイアログボックスが表示されます。

「編集」ボタン・・・追加した条件を編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

「削除」ボタン・・・追加した条件を削除できます。



AI ・・・AI を設定します。

表示文字列 ・・・設定時に表示される文字列を設定します。

桁数 ・・・固定長、可変長の選択と固定長の場合は桁数（1～8192 桁）をしています。

・文字削除

チェックを入れた文字を、比較対象データから削除します。

【選択項目】ハイフン/スペース/スラッシュ/カンマ

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■ 検索結果のパーツの関連付け（「読取データをマスターデータから検索して表示する」を選択した場合）

検索結果の選択

マスターデータのどの列を表示するか選択します。選択状態で→ボタンを押すと、検索結果に追加できます。

←ボタンを押すと検索結果から削除できます。

関連付けパーツの選択

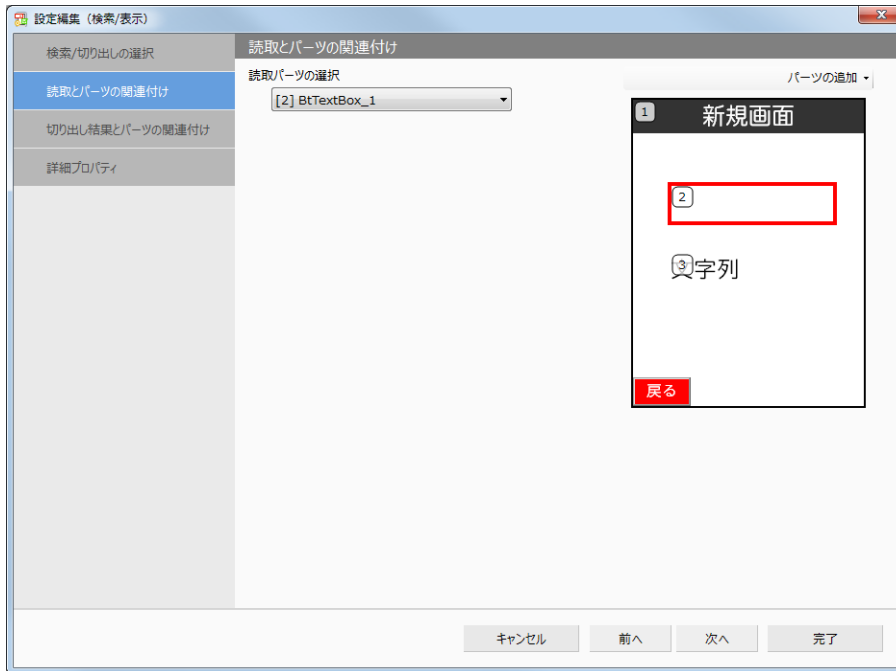
検索結果に選択した列をどのパーツに表示するか選択します。

※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

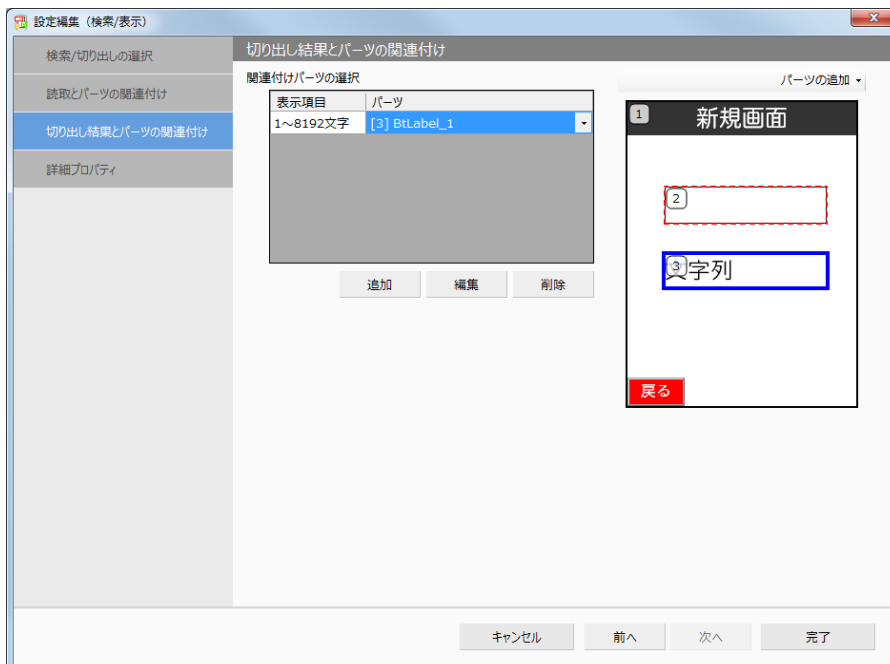
■読取入力とパーツの関連付け（「読取データを切り出して表示する」を選択した場合）



読取パーツの選択

切り出し表示する入力データを選択します。

■切り出し結果とパーツの関連付け（「読取データを切り出して表示する」を選択した場合）



関連付けパーツの選択

切り出し表示するパーツを選択します。

「追加」ボタン・・・ダイアログボックスで切り出し方法を設定します。

「編集」ボタン・・・ダイアログボックスで切り出し方法を編集します。

「削除」ボタン・・・選択中の切り出し設定を削除します。

・範囲指定

データの範囲指定方法を選択します。

【範囲を指定する】

何番目の文字から何番目の文字まで抽出するか指定します。

【アプリケーション識別子（AI）を指定する】

AI を指定してデータを抽出します。

「追加」ボタン・・・AI で切り出す条件を追加できます。ダイアログボックスが表示されます。

「編集」ボタン・・・追加した条件を編集できます。ダイアログボックスが表示されます。

「削除」ボタン・・・追加した条件を削除できます。

AI ・・・AI を設定します。

表示文字列 ・・・設定時に表示される文字列を設定します。

桁数 ・・・固定長、可変長の選択と固定長の場合は桁数（1～8192 桁）をしています。

・文字削除

チェックを入れた文字を、比較対象データから削除します。

【選択項目】ハイフン／スペース／スラッシュ／カンマ

■詳細プロパティ

設定編集 (検索/表示)

検索/切り出しの選択

検索対象とパーツの関連付け

検索結果とパーツの関連付け

詳細プロパティ

名前

BtSearchViewControl_1

確保できる最大データ件数

100

通信エラー表示

トップメニューの設定に従う

通信エラー表示

通信エラーが発生した場合に通信エラー画面を表示するかどうかを設定します。

OK

キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
確保できる最大データ件数	複数検索一致した場合に、確保するデータ件数を設定します。テーブルビューで結果表示した場合などに影響します。
通信エラー表示	通信エラー時に、通信エラー画面を表示するかしないかを設定します。「表示する（圏外での操作時を除く）」を選択すると、無線圏外での操作時は、オフライン業務とみなし通信エラー画面を表示しません。データはハンディターミナルに蓄積されます。 【選択項目】トップメニューの設定に従う／表示する／表示する（圏外での操作時を除く）／表示しない

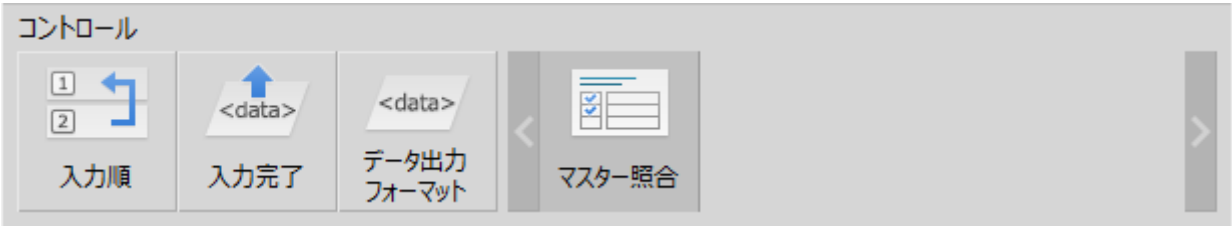
5.5.4. マスター照合コントロール

テキストボックスなどに入力されたデータで、マスターファイルを検索し、照合、消し込みします。照合コントロール単体では機能せず、事前にラベルやテキストボックスなどの配置が必要です。

■ 選択するパーツ

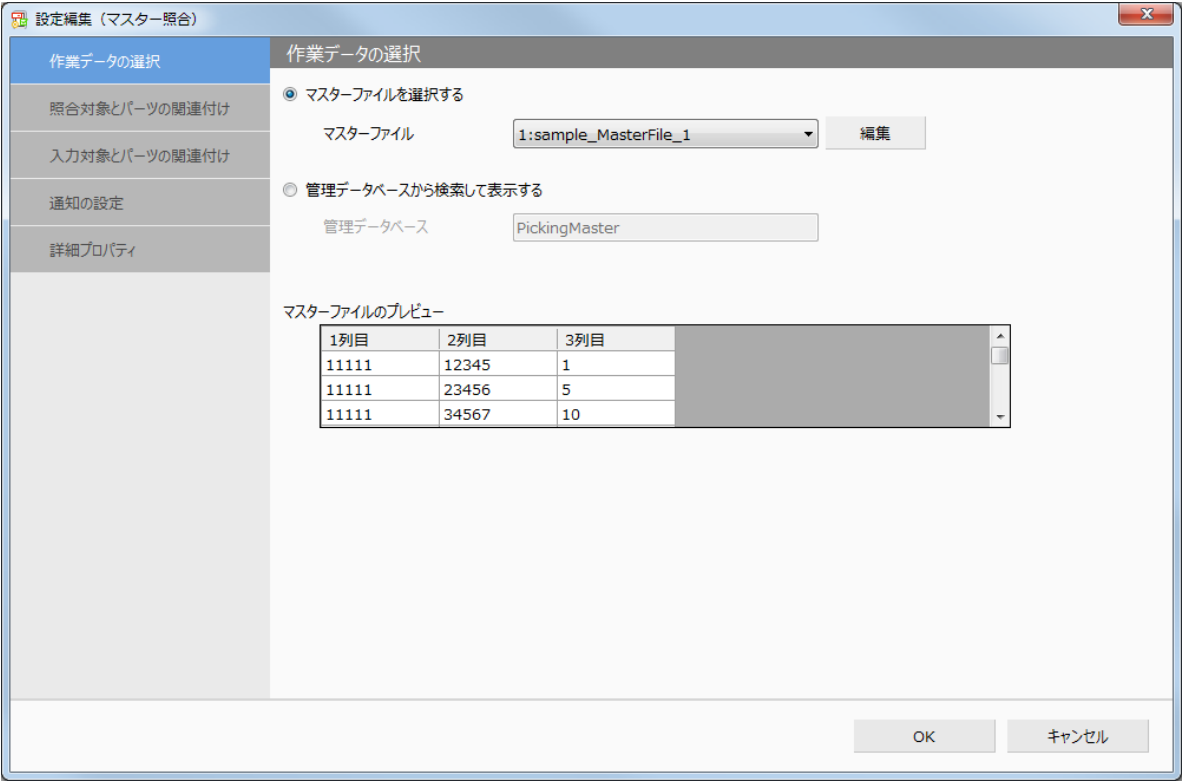


■ 配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ 指示データの選択



マスターファイルのを選択する

・マスターファイル

既に作成済みのマスターファイルから選択できます。「新規作成」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを作成できます。

※作成済みマスターファイルを選択した場合、「新規作成」ボタンは「編集」ボタンに変わります。「編集」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスでマスターファイルを編集できます。

セルにデータを直接入力し、マスターファイルを作成します。

・「CSV 取込」ボタン

CSV ファイルを取り込んでマスターファイルを作成します。CSV ファイルは「,」区切りのデータとなります。

・列数

マスターファイルの列数を設定できます。

・「行削除」ボタン

選択中の行を削除します。

・「全削除」ボタン

マスターファイルのデータを全て削除します。

・「↑」「↓」ボタン

選択中の行を上下に移動します。

・「CSV 出力」ボタン

作成したマスターファイルを、CSV ファイルに保存します。

・マスターファイルの保存先

マスターファイルを保存するドライブを選択します。

【選択項目】ドライブ 1／ドライブ 2／SD カード

・マスターファイル名

マスターファイルの名前を設定します。

管理データベースから検索して表示する

・管理データベース

「[4.2.6.運用設定](#)」で作成した管理データベースを選択します。

マスターファイルのプレビュー

マスターファイルのプレビューを確認できます。

■照合対象とパーツの関連付け

列番号	列名
1列目	作業No.
2列目	アイテムNo.

列番号	パーツ
1列目 (作業No.)	[3] BtTextBox_SlipNumber
2列目 (アイテムNo.)	[5] BtTextBox_Item

1列目	2列目	3列目
11111	12345	1
11111	23456	5
11111	34567	10

指示 No./アイテム No.の選択

マスターデータのどの列で検索するか選択します。マスターデータのリストボックス内の項目を、選択状態で→ボタンを押すと、検索する項目に追加できます。←ボタンを押すと検索対象から削除できます。検索する項目に追加後、その役割を選択します。

【選択項目】 作業 No/アイテム No/付加情報

- 作業 No ・・・マスターデータ内の 1 番目に検索される項目です。
- アイテム No ・・・マスターデータ内の 2 番目に検索される項目です。
 作業 No で検索が成功したレコードから検索されます。
- 付加情報 ・・・マスターデータ内を 3 つ以上の列で検索する場合に使用する項目です。

関連付けパーツの選択

「指示 No./アイテム No.の選択」で選択した項目を、どのパーツの値で検索するか選択します。
※右側のプレビュー画面の各パーツ上の番号と、選択項目の[]内の数字は対応しています。

マスターファイルのプレビュー

マスターファイルのプレビューを確認できます。

■入力対象とパーツの関連付け

設定編集 (マスター照合)

入力対象とパーツの関連付け

数量の選択

マスターデータの選択: 3列目

関連付けパーツの選択: [7] BtTextBox_Quantity

動作の設定

☐ 繰り返し照合を有効にする (消し込みしない)

進捗表示

☒ 残数を表示する

☒ 完了したアイテム数を表示する

マスターファイルのプレビュー

1列目	2列目	3列目
11111	12345	1
11111	23456	5
11111	34567	10

ピッキング

1 票 3

2 番 5

3 量 7

4 数 90

5 捗 0

戻る 送信 履歴 リスト

OK キャンセル

数量の選択

マスターデータ内の指示数量と入力した数量を照合し、指示数量以上の入力された場合は、そのレコードを消し込みます。

・マスターデータの選択

マスターデータのどの列を作業指示数にするか選択します。

・関連付けパーツの選択

どのパーツを数量入力にするか選択します。

※「管理データベースから検索して表示する」を選択した場合

以下のような設定画面になります。

入力対象とパーツの関連付け

数量の選択

指示数 (列) の選択: 3列目

入力数 (列) の選択: 4列目

関連付けパーツの選択: [7] BtTextBox_Quantity

・指示数 (列) の選択

管理データベースのどの列を作業指示数にするか選択します。

・入力数 (列) の選択

管理データベースのどの列に入力した数量を加算するか選択します。

・関連付けパーツの選択

どのパーツを数量入力にするか選択します。

動作の設定

- ・ 繰り返し照合を有効にする（消し込みしない）

チェックを入れると、照合しますがレコードを消し込みません。

進捗表示

- ・ 残数を表示する

チェックを入れると、マスターデータ内の作業を完了していないレコード数が表示されます。

- ・ 完了したアイテム数を表示する

チェックを入れると、マスターデータ内の作業を完了したレコード数が表示されます。

マスターファイルのプレビュー

マスターファイルのプレビューを確認できます。

■通知の設定

メッセージ表示

- ・ それぞれの作業リストの完了時にメッセージを表示する

チェックを入れると、作業 No で抽出したレコードの作業が完了した場合にメッセージを表示します。またその時に表示するメッセージを設定します。

- ・ 全ての作業リストの完了時にメッセージを表示する

チェックを入れると、マスターデータ内の全てのレコードの作業が完了した場合にメッセージを表示します。またその時に表示するメッセージを設定します。

入力エラー表示

- ・ **リストにない作業 No が入力された場合にエラーとする**

チェックを入れると、作業リストにない作業 No が入力された場合にエラーとなります。

- ・ **リストにないアイテム No が入力された場合にエラーとする**

チェックを入れると、作業リストにないアイテム No が入力された場合にエラーとなります。

- ・ **リスト順と異なるアイテム No が入力された場合にエラーとする**

チェックを入れると、作業リストの並びと異なるアイテム No が入力された場合にエラーとなります。

- ・ **作業指示数以上の数量が入力された場合にエラーとする**

チェックを入れると、作業指示数以上の数量が入力された場合にエラーとなります。

- ・ **「連動する動作の設定」 ボタン**

押下すると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



遷移先ウィンドウの選択

エラー時に遷移する画面を選択します。

ブザー／パイプ／LED を連動する

チェックを入れると、エラー時にブザー／パイプ／LED が実行されます。

- ・ **ブザー音量**

【選択項目】 オフ／大／中／小

- ・ **音階**

【選択項目】 高／中／低

- ・ **鳴動回数**

【設定範囲】 1～10 回

- ・ **鳴動間隔**

【選択項目】 100ms／200ms／500ms／1000ms

・LED 点灯色

【選択項目】オフ／緑／赤

・バイブ連動

【選択項目】なし／あり

■詳細プロパティ

名前	値
照合が完了したアイテムを消し込む	True
作業開始時の継続確認	確認しない (常に継続)
継続確認メッセージ	入力中の作業リストがあります。入力を持続しますか？
通信エラー表示	トップメニューの設定に従う

名前
各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
照合が完了したアイテムを消し込む	照合が完了したアイテムを消し込むかどうか設定します。False の場合、指示数量以上を入力してもレコードを消し込みません。 【選択項目】 True／False
作業開始時の継続確認	メニューから画面遷移した場合など、作業開始時に前回の入力状態を継続するかしないかを選択します。また継続しない場合の削除対象を選択します。 【選択項目】 確認しない (常に継続) ／確認後、入力中のデータを削除する (アイテム (行)) ／確認後、入力中のデータを削除する (指示データ) ／確認後、入力中のデータを削除する (指示リスト全て)
継続確認メッセージ	継続確認する場合に表示するメッセージを設定します。
通信エラー表示	通信エラー時に、通信エラー画面を表示するかしないかを設定します。「表示する (圏外での操作時を除く)」を選択すると、無線圏外での操作時は、オフライン業務とみなし通信エラー画面を表示しません。データはハンディターミナルに蓄積されます。 【選択項目】 トップメニューの設定に従う／表示する／表示する (圏外での操作時を除く)／表示しない

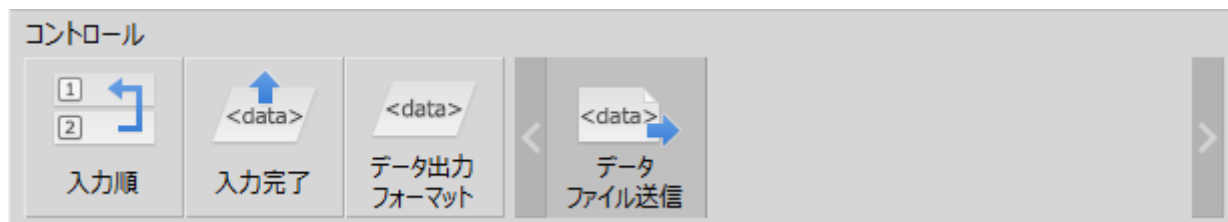
5.5.5. データファイル送信コントロール

ハンディターミナルで出力したデータファイルを PC、もしくは SD カードに送信します。データファイル送信コントロールを配置し、「[4.5.2.入力完了](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」「[4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」でデータファイル送信を選択します。データファイル送信コントロール単体では動作しません。

■ 選択するパーツ

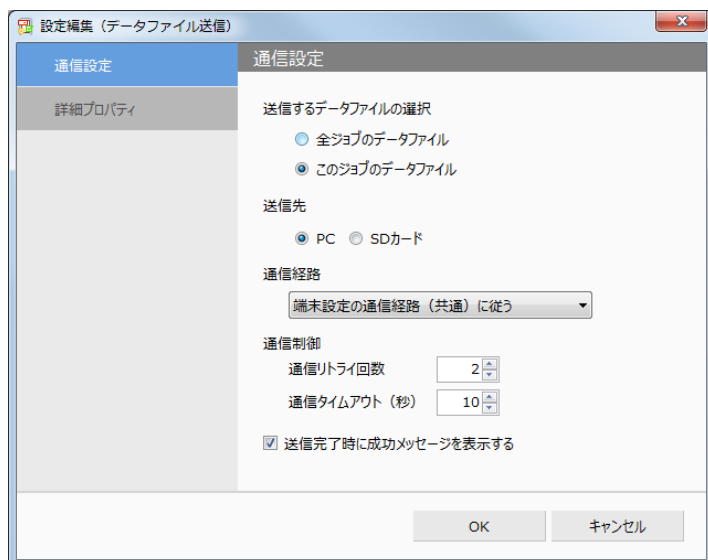


■ 配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ 通信設定



送信するデータファイルの選択

送信するデータファイルの種類を選択します。

【選択項目】全ジョブのデータファイル／このジョブのデータファイル

送信先

データファイルの送信先を選択します。

【選択項目】PC／SD カード

※SD カードを選択した場合について

SD カードにデータが CSV 出力されます。出力したあとは SD カードをハンディターミナルから取り出し、運用 PC に手動でコピーしてください。

通信経路

データファイルを送信する通信経路を選択します。

【選択項目】端末設定の通信経路（共通）に従う／USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

通信制御

・通信リトライ回数

通信エラー時のリトライ回数を設定します。

【設定範囲】0～9 回

・通信タイムアウト（秒）

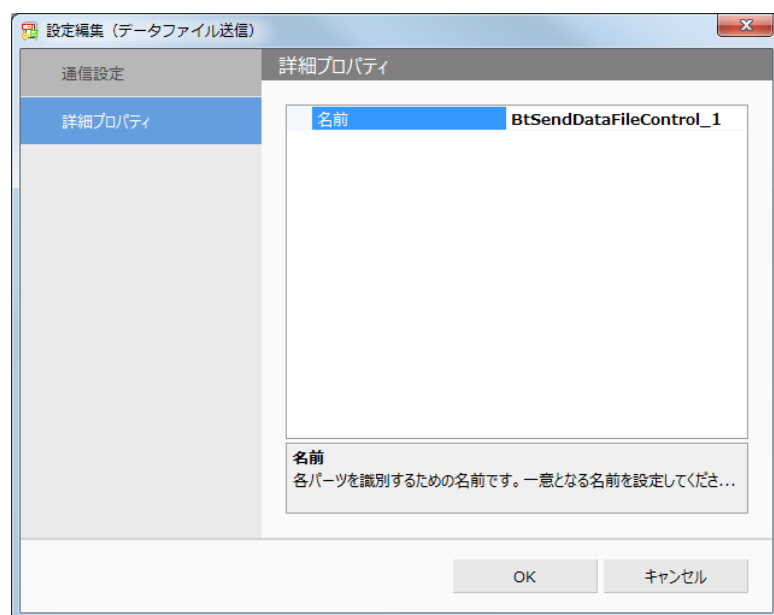
通信エラーになるまでの時間を設定します。

【設定範囲】1～50 秒

送信完了時に成功メッセージを表示する

チェックを入れると、送信完了時に成功メッセージを表示します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

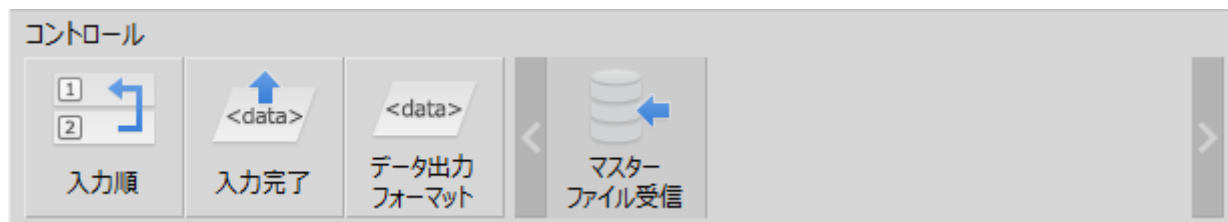
5.5.6. マスターファイル受信コントロール

マスターファイルを PC からハンディターミナルに受信します。マスターファイル受信コントロールを配置し、「[4.5.2.入力完了](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」「[4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」でマスターファイル受信を選択します。マスターファイル受信コントロール単体では動作しません。

■選択するパーツ

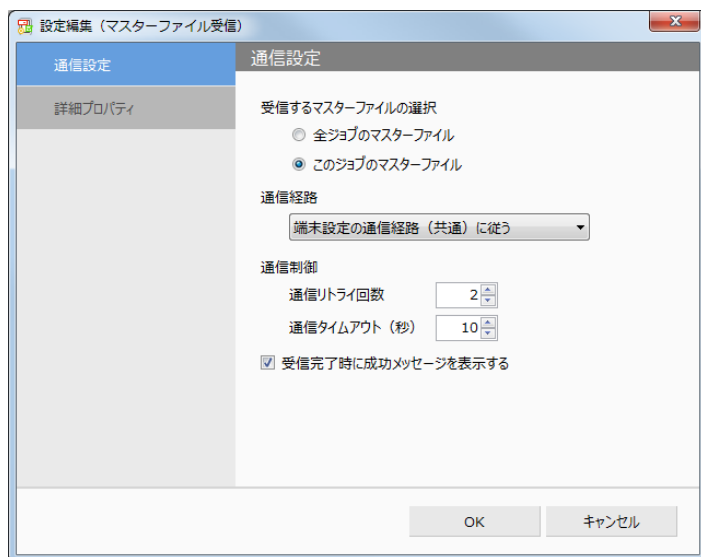


■配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■通信設定



受信するマスターファイルの選択

受信するマスターファイルの種類を選択します。

【選択項目】全ジョブのマスターファイル／このジョブのマスターファイル

通信経路

マスターファイルを受信する通信経路を選択します。

【選択項目】端末設定の通信経路（共通）に従う／USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

通信制御

・通信リトライ回数

通信エラー時のリトライ回数を設定します。

【設定範囲】0～9 回

・通信タイムアウト（秒）

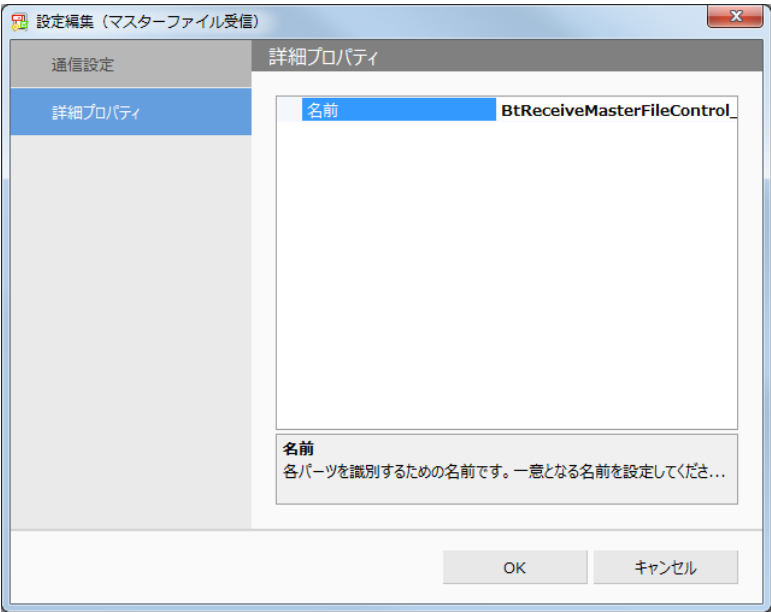
通信エラーになるまでの時間を設定します。

【設定範囲】1～50 秒

受信完了時に成功メッセージを表示する

チェックを入れると、受信完了時に成功メッセージを表示します。

■詳細プロパティ

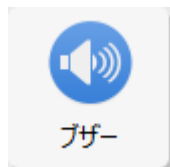


名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

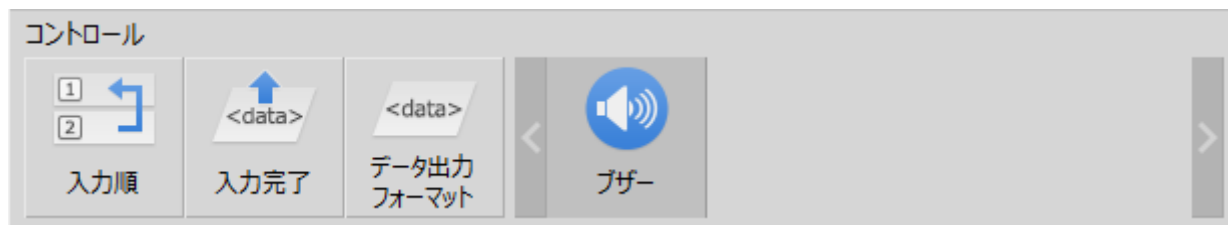
5.5.7. ブザーコントロール

任意のタイミングでブザー／バイブ／LED を動作します。ブザーコントロールを配置し、「[4.5.2.入力完了](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」「[4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」でブザーコントロールを選択します。ブザーコントロール単体では動作しません。

■選択するパーツ

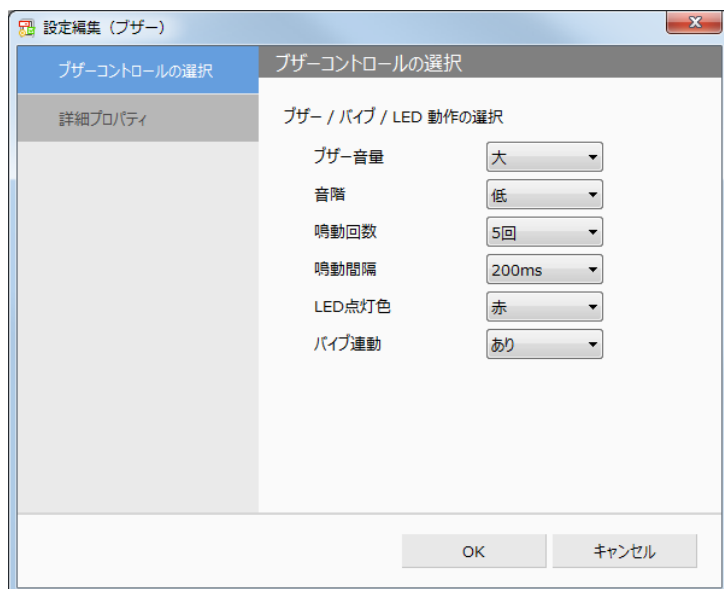


■配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ブザーコントロールの選択



ブザー／バイブ／LED 動作の選択

ブザー／バイブ／LED の動作を設定します。

・ **ブザー音量**

【選択項目】 オフ／大／中／小

・ **音階**

【選択項目】 高／中／低

・ **鳴動回数**

【設定範囲】 1～10 回

・ **鳴動間隔**

【選択項目】 100ms／200ms／500ms／1000ms

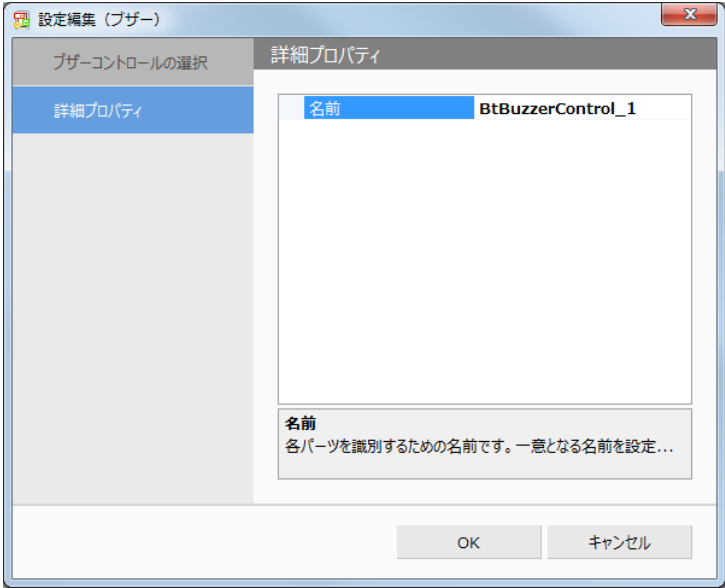
・ **LED 点灯色**

【選択項目】 オフ／緑／赤

・ **バイブ連動**

【選択項目】 なし／あり

■ **詳細プロパティ**



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.5.8. LR1 データ出力コントロール

BT-LR1 に出力するデータの種類（出力端子/RS232C/Ethernet）とデータのフォーマットを設定します。LR1 データ出力コントロールを配置し、「[4.5.2.入力完了](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」「[4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」で選択します。LR1 データ出力コントロール単体では動作しません。

■ 選択するパーツ

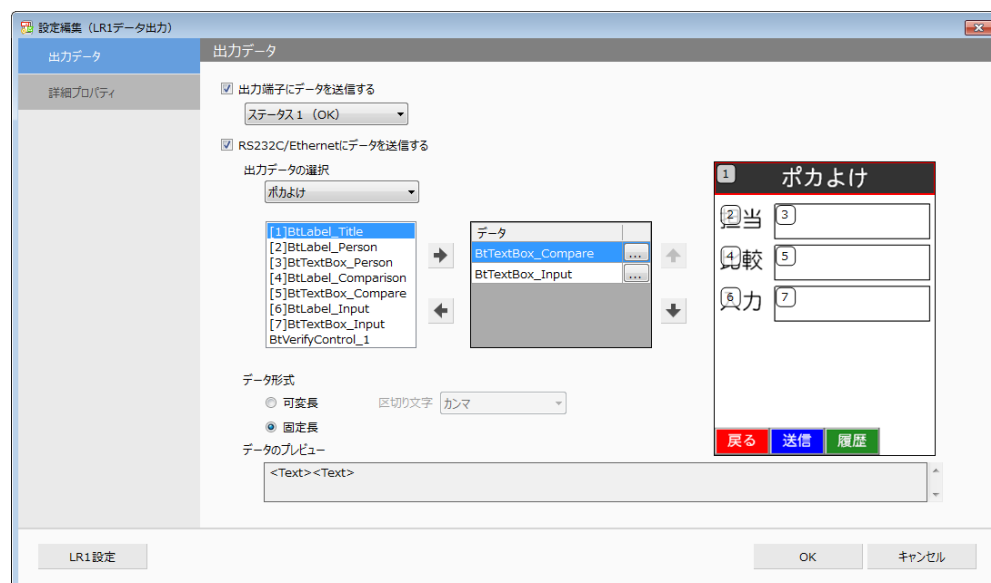


■ 配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■ 出力データ



出力端子にデータを送信する

BT-LR1 の出力端子から OUT 信号を出力したい場合、こちらのチェックを付けて送信ステータスを選択します。

【選択項目】ステータス 1 (OK) /ステータス 2 (NG) /ステータス 3

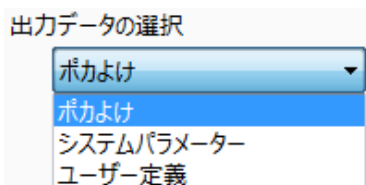
RS232C/Ethernet にデータを送信する

BT-LR1のRS232CまたはEthernetからデータを出力したい場合、こちらのチェックを付けて出力フォーマットを選択します。

・「出力データの選択」

表示しているパーツ群を切り替えます。

【選択項目】現在の画面（画面内のパーツ）／システムパラメーター／ユーザー定義（固定文字列、送信データサイズ）

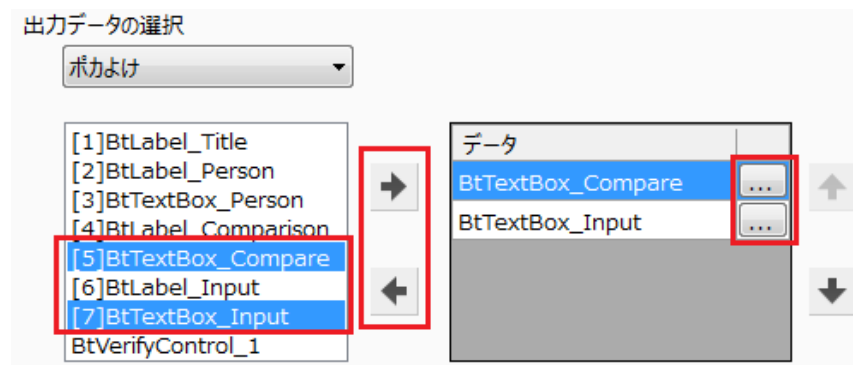


出力対象の選択

選択した現在の画面／システムパラメーター／ユーザー定義の中から、具体的にどのデータを出力するかを選択します。

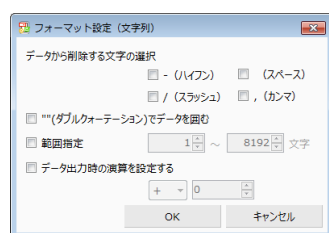
対象を選択した状態で→ボタンを押すと、出力対象に追加できます。←ボタンを押すと検索対象から削除します。

出力データの詳細フォーマットはリストの右側にある…ボタンから設定します。

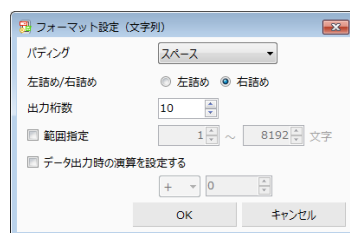


詳細フォーマット画面

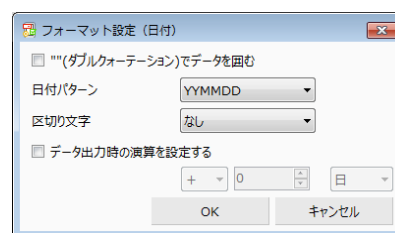
文字列選択時（可変長）



文字列選択時（固定長）



日付選択時



・「データ形式」

可変長、固定長のどちらで送るかを設定します。可変長と固定長の選択により、詳細フォーマットの設定も変わります。

【選択項目】可変長（カンマ、タブ、スペース）／固定長

・「データプレビュー」

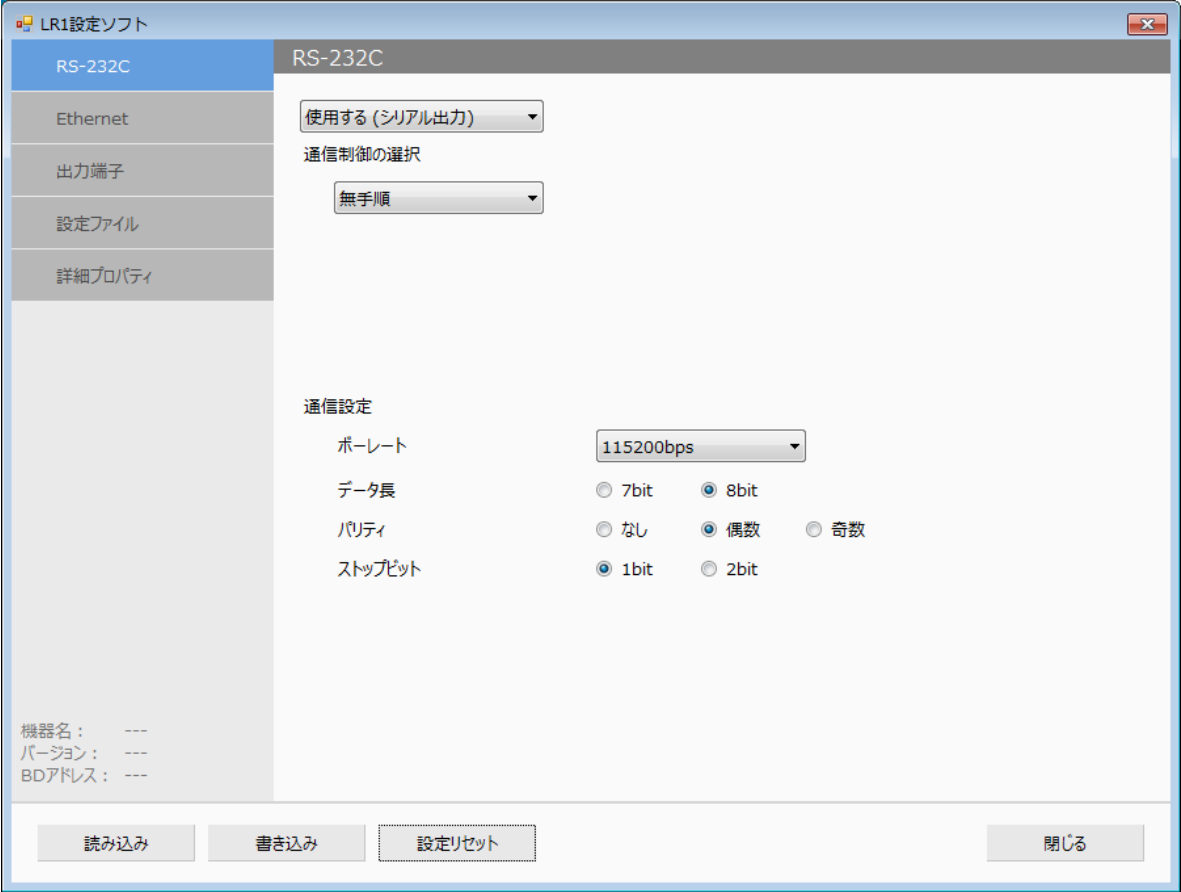
設定したフォーマット内容をプレビューで表示します。

・「LR1 設定」

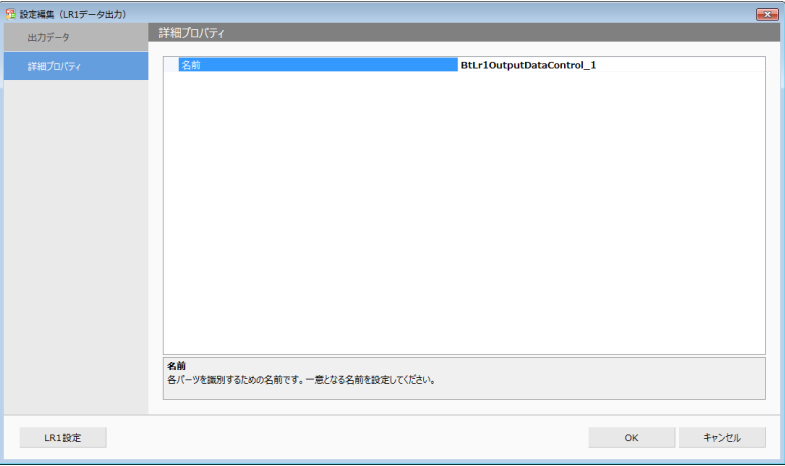
BT-LR1 設定ソフトを起動します。



設定ソフトの詳細は、「BT-LR1 設定ソフト 操作マニュアル」マニュアルを参照してください。



■ 詳細プロパティ

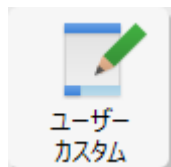


名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

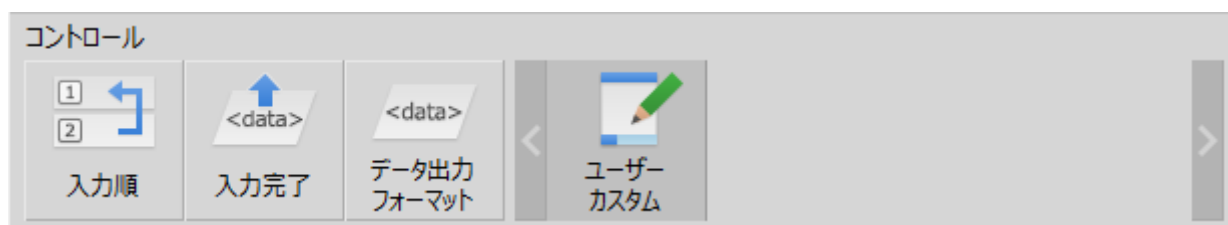
5.5.9. カスタムコントロール

Microsoft Visual Basic .NET や、キーエンススクリプトでプログラミングして、コントロールを自由に作成できます。カスタムコントロールを配置、設定した後、「[4.5.2.入力完了](#)」「[5.3.1.ボタン](#)」「[4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」で選択します。カスタムコントロール単体では動作しません。

■選択するパーツ

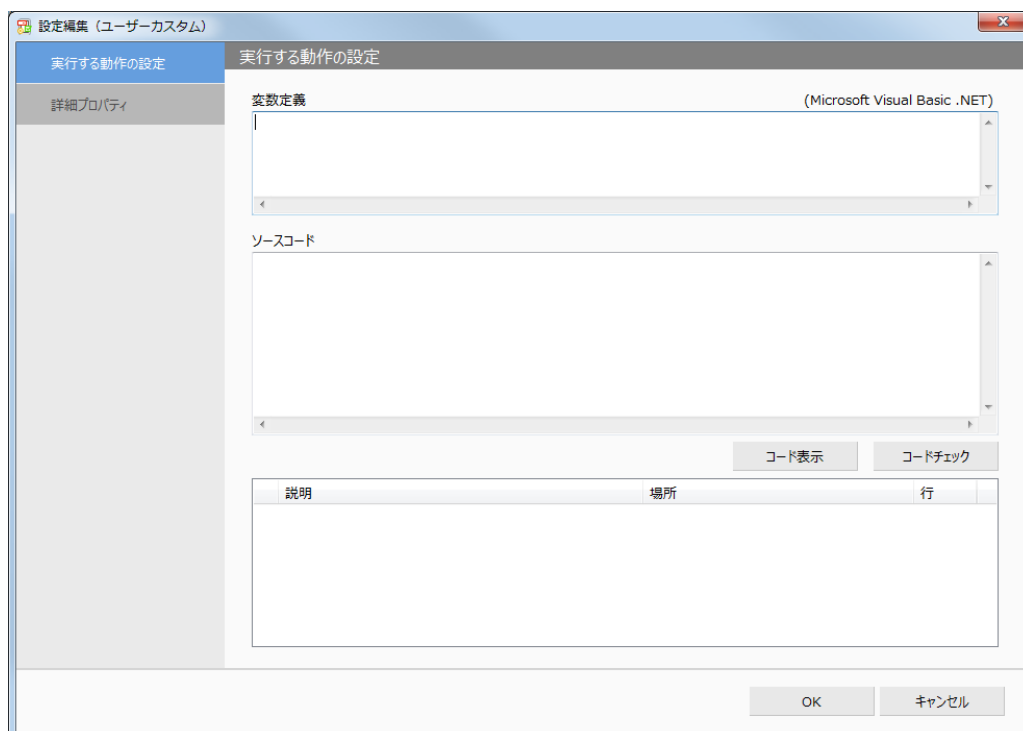


■配置したときのコントロールエリア



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■出力データ



変数定義

変数を定義するエリアです。

ソースコード

プログラムをコーディングするエリアです。

コード表示

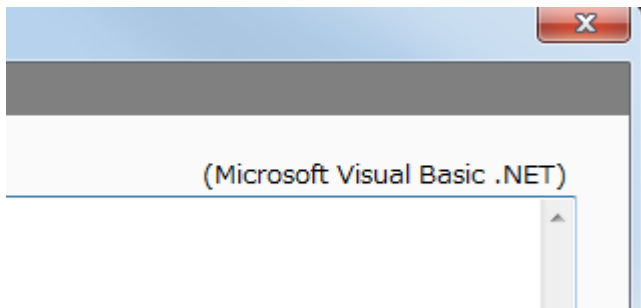
「変数定義」「ソースコード」でコーディングしたプログラムを、その前後のプログラム([「4.5.2.入力完了」](#)「[5.3.1.ボタン](#)」[「4.5.4.ファンクションキー](#)」などの「連動する動作の選択」の内容)を含めて表示します。「連動する動作の選択」で選択されていない場合は、コード表示できません。

コードチェック

コーディングしたプログラムをコンパイルして、プログラムの内容をチェックします。エラーが発生した場合は、下の欄にその内容が表示されます。

※開発言語について

[「4.2.10.オブション](#)」の「コード出力」でプログラム言語を選択できます。現在選択されているプログラム言語は、下記で確認できます。



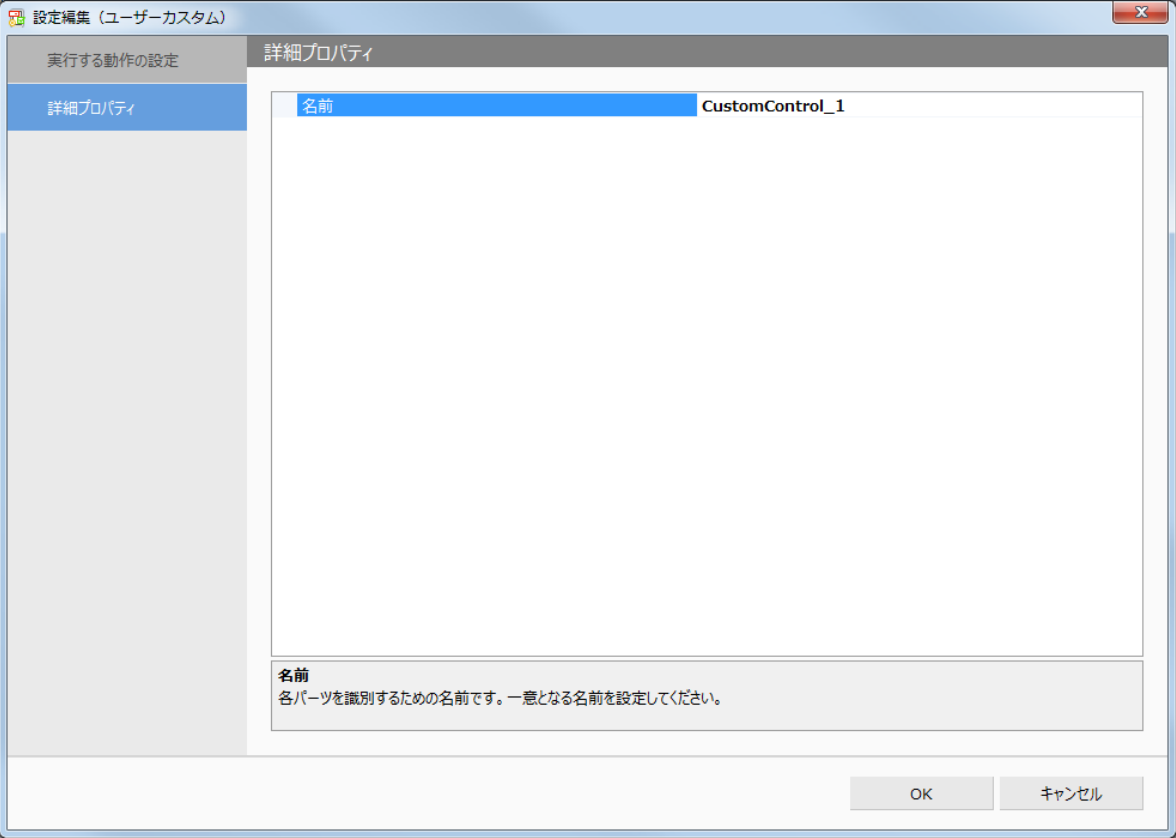
※シミュレートについて

プログラム言語に「Microsoft Visual Basic .NET」を選択した場合、シミュレートでは、カスタムコントロール部分のみ動作しません。実機で動作を確認してください。「キーエンススクリプト」を選択した場合は、カスタムコントロール部分もシミュレートで動作確認できます。

※プログラム開発について

Microsoft Visual Basic .NET のコーディング方法につきましては、一般書籍や Web などをご参考ください。キーエンススクリプトについては、別途「BT 開発・運用ツール(BT-H1A) スクリプトリファレンス」をご確認ください。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6. ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で、ハンディアプリにウィンドウを追加できます。

5.6.1. 新規ウィンドウ

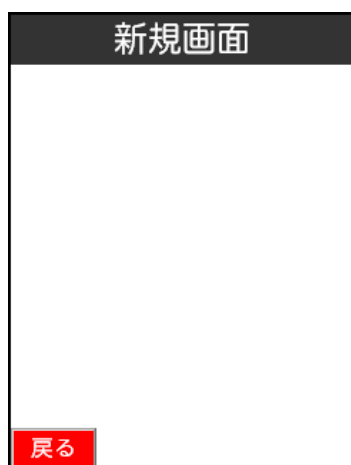
画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「新規」を選択すると、新規ウィンドウを追加できます。新しく画面を作成するときに使用します。

■画面リストで追加する項目

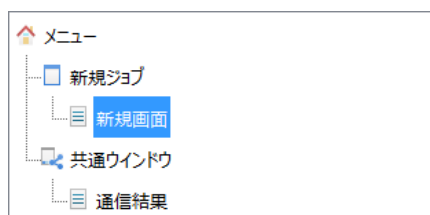


新規

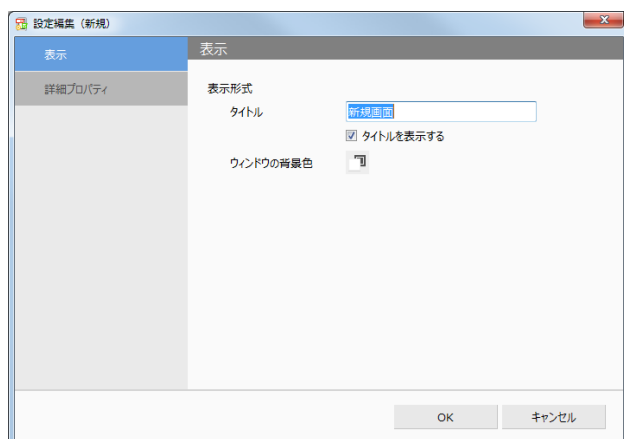
■新規ウィンドウ



追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示



表示形式

・タイトル

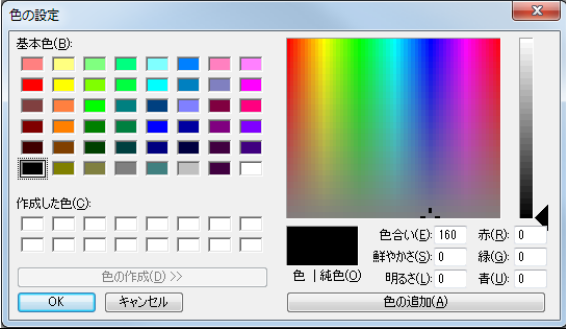
画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。



背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。



■詳細プロパティ

設定編集 (新規)

表示

詳細プロパティ

名前

BtCreateWindow_1

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

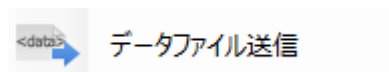
キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

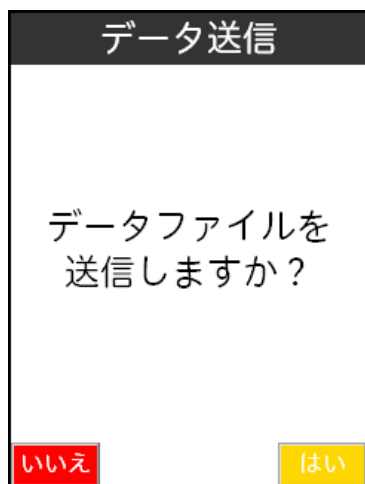
5.6.2. データファイル送信ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「データファイル送信」を選択すると、データファイル送信する専用のウィンドウを追加できます。

■画面リストで追加する項目



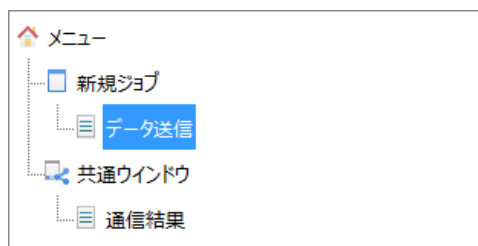
■データファイル送信ウィンドウ



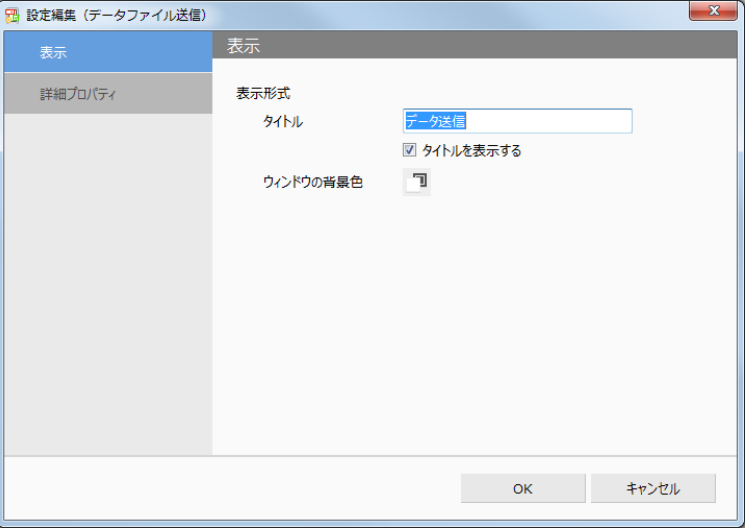
使用方法

「はい」ボタンを押すと、「[4.2.3.端末設定](#)」の「通信設定」で設定されている通信経路で、データファイルを送信します。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示



表示形式

・タイトル

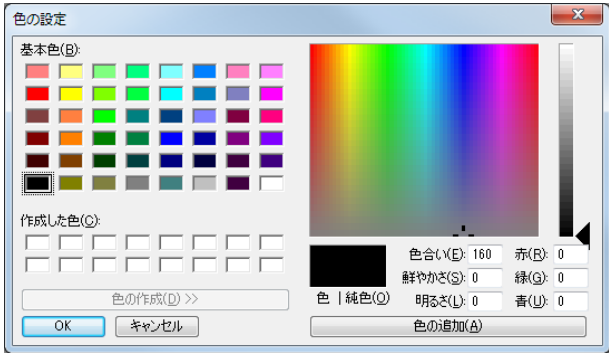
画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

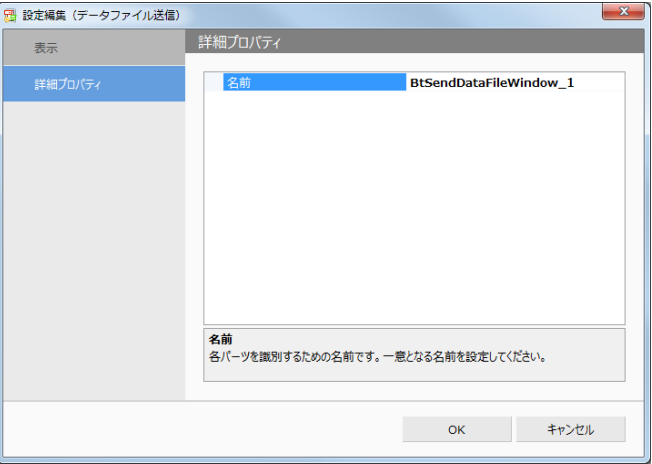
画面の背景色を設定します。



背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。



■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6.3. マスターファイル受信ウィンドウ

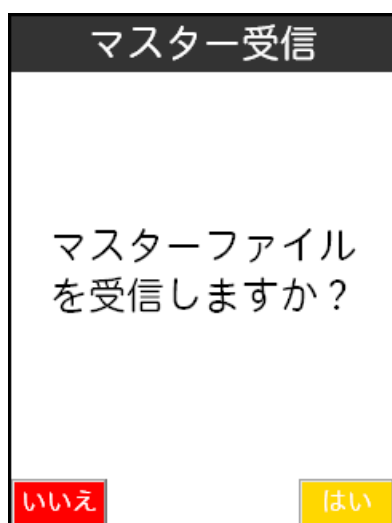
画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「マスターファイル受信」を選択すると、マスターファイル受信専用のウィンドウを追加できます。

■画面リストで追加する項目



マスターファイル受信

■マスターファイル受信ウィンドウ

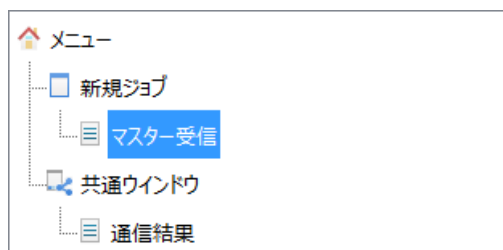


使用方法

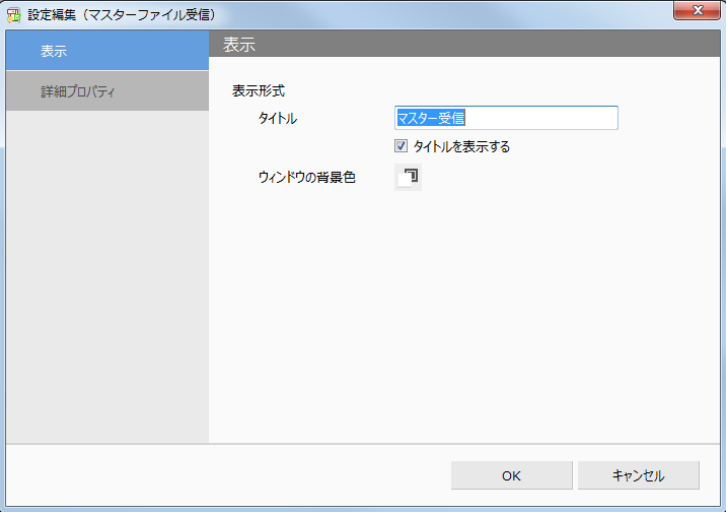
「はい」ボタンを押すと、「[4.2.3.画面](#)」の「通信設定」で設定されている通信経路で、マスターファイルを受信します。「[5.2.3.ドロップダウンボックス](#)」「[5.2.6.ルックアップボックス](#)」「[5.4.2.テーブルビュー](#)」「[5.5.3.検索／表示コントロール](#)」で使用するマスターファイルが対象です。

※「[5.5.4.マスター照合コントロール](#)」は「[5.6.6 作業リスト受信ウィンドウ](#)」を使用します。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示



表示形式

・タイトル

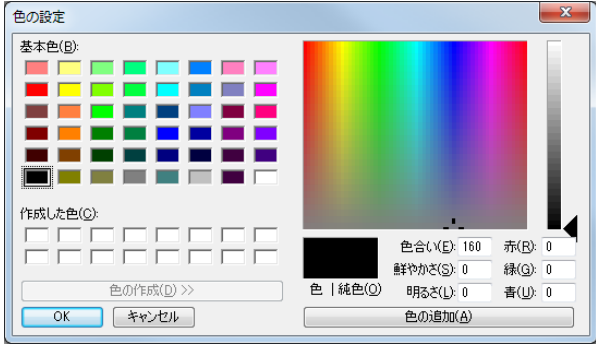
画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

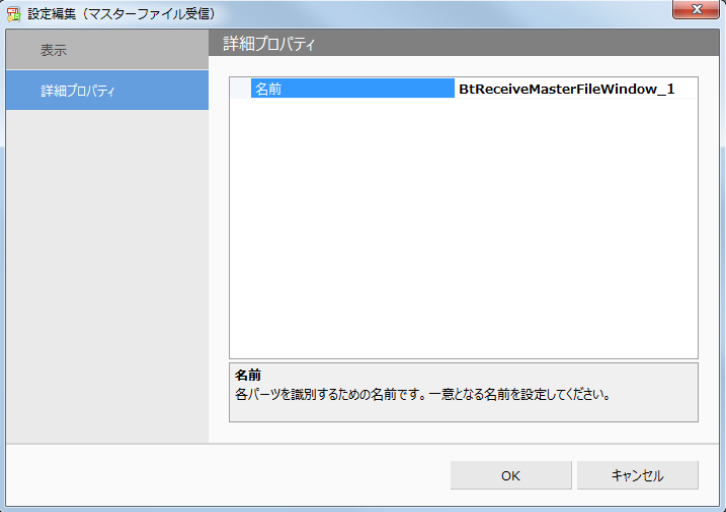
画面の背景色を設定します。



背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。



■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6.4. 履歴データ表示ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「履歴データ表示」を選択すると、履歴データを表示する専用のウィンドウを追加できます。

■画面リストで追加する項目



履歴データ表示

■履歴データ表示ウィンドウ

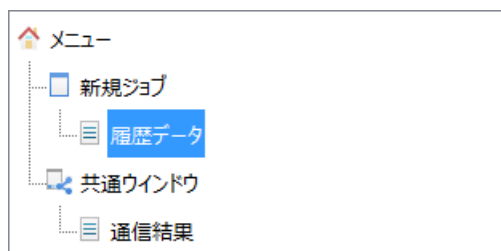
履歴データ	
(000/000)	
フィールド	データ

戻る < > 削除

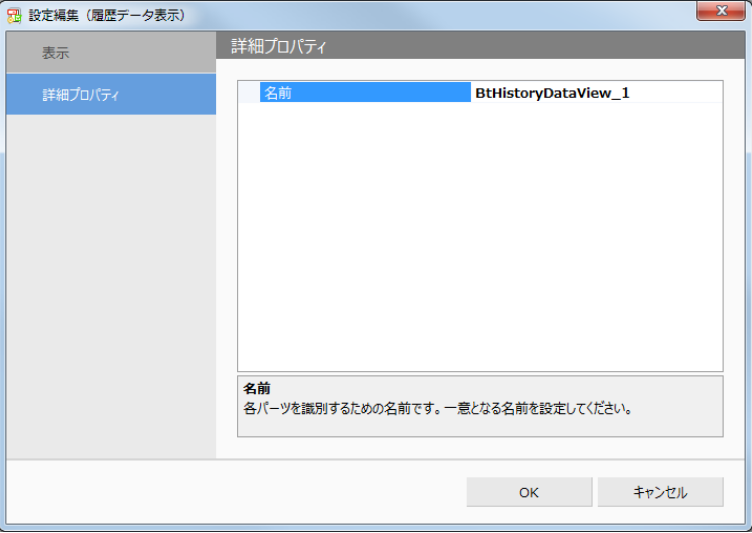
使用方法

「<」ボタンもしくは F2 キーを押すと、1 件ずつ新しい履歴データに移動します。「>」ボタンもしくは F3 キーを押すと、1 件ずつ古い履歴データに移動します。「削除」ボタンもしくは F4 キーを押すと、現在表示している履歴データを削除できます。履歴データを編集する場合は、画面中央のリストを選択して ENT キーを押すと、編集状態になります。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6.5. アイテムリスト表示ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「アイテムリスト表示」を選択すると、マスター照合パーツで設定したマスターデータを、一覧で表示する専用のウィンドウを追加できます。

■画面リストで追加する項目

 リスト表示

■アイテムリスト表示ウィンドウ

リスト表示

	伝票	品番	指	残
1				
2				
3				

アイテム進捗0/0

戻る

使用方法

マスター照合パーツで設定したマスターデータの閲覧のみできます。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。

メニュー

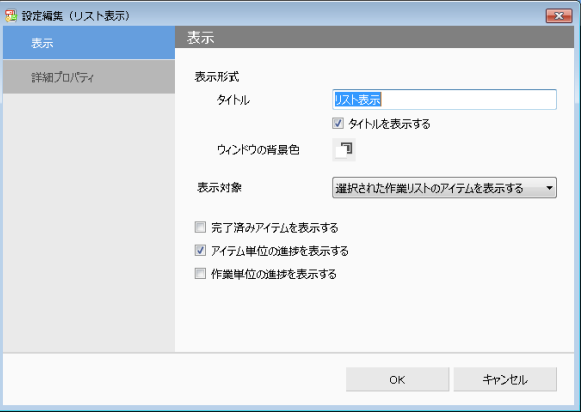
新規ジョブ

リスト表示

共通ウインドウ

通信結果

■表示



表示形式

・タイトル

画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。



表示対象

一覧でリスト表示する対象を選択します。

【選択項目】 選択された作業リストのアイテムを表示する / 全ての作業リストのアイテムを表示する

完了済みアイテムを表示する

チェックを入れると、作業完了済みのアイテムも表示します。

アイテム単位の進捗を表示する

それぞれの作業リスト内の全アイテム数と、作業完了済みのアイテム数を表示します。

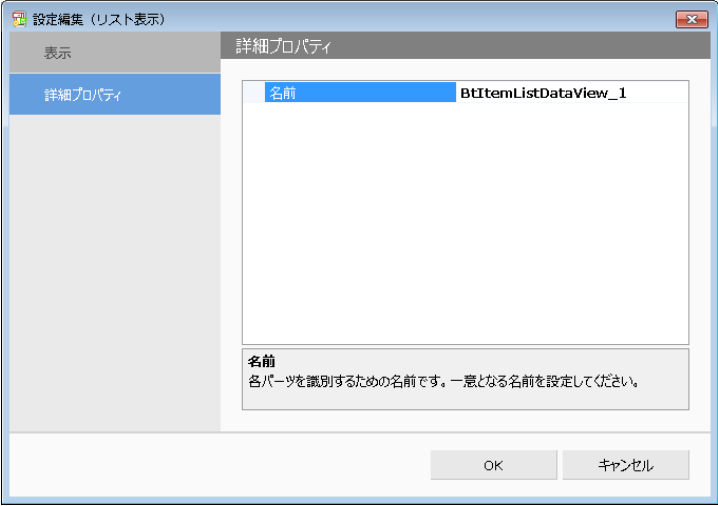
作業進捗 0/0

作業単位の進捗を表示する

作業指示されている全作業リスト数と、作業完了済みの作業リスト数を表示します。

アイテム進捗 0/0

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6.6. 作業リスト受信ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「作業リスト受信」を選択すると、マスター照合パーツで設定したマスターデータを、受信する専用のウィンドウを追加できます。

■画面リストで追加する項目



リスト受信

■作業リスト受信ウィンドウ

リスト受信

作業No

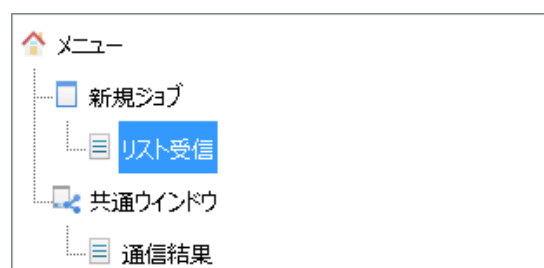
	作業No.
1	
2	
3	

戻る 受信 クリア

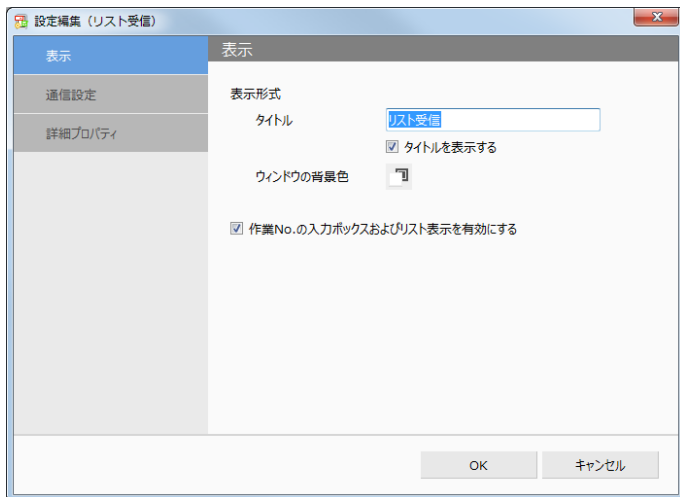
使用方法

「受信」ボタンもしくは F2 キーを押すと、通信設定で設定されている経路でマスターファイルを受信します。「[5.5.4.マスター照合コントロール](#)」で使用するマスターファイルが対象です。マスターファイルを受信する前に、作業予定の作業 No をスキャンまたは手入力すると、そのリストのみ対象にマスター照合します。作業 No.を入力しない場合は、全ての作業リストを対象にマスター照合します。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■ 表示



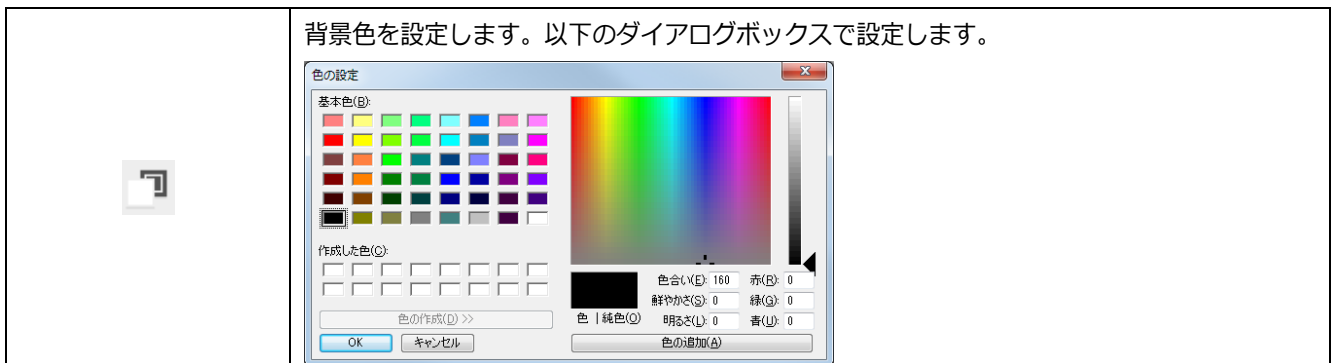
表示形式

・タイトル

画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。

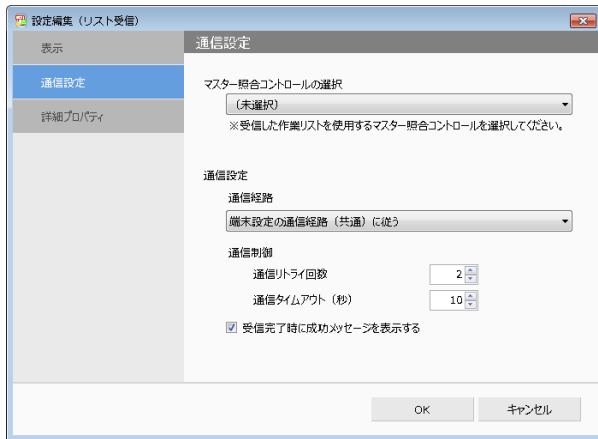


・作業 No.の入力ボックスおよびリスト表示を有効にする

チェックを入れると、作業 No.の入力ボックスとリストが表示されます。チェックをはずすと以下の画面になります。



■通信設定



マスター照合コントロールの選択

受信した作業リストを使用するマスター照合コントロールを選択します。

通信設定

・通信経路

作業リストを受信する通信経路を選択します。

【選択項目】端末設定の通信経路（共通）に従う／USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

・通信制御

通信リトライ回数

通信エラー時のリトライ回数を設定します。

【設定範囲】0～9 回

通信タイムアウト（秒）

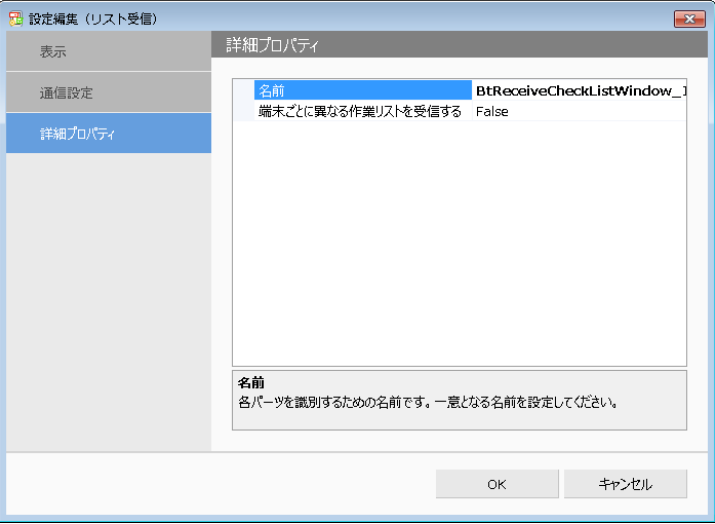
通信エラーになるまでの時間を設定します。

【設定範囲】1～50 秒

・受信完了時に成功メッセージを表示する

チェックを入れると、受信完了時に成功メッセージを表示します。

■詳細プロパティ

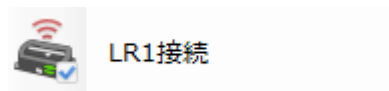


名前	パーツの名前を設定します。
端末ごとに異なる作業リストを受信する	有効[True]にすると、ファイル名の先頭に端末 ID が付いたマスターファイルを受信します。 【選択項目】 True／False

5.6.7. LR1 接続ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「LR1 接続」を選択すると、BT-LR1 の接続先設定用のウィンドウを追加できます
このウィンドウを用いると、ハンディターミナル上から、接続先 BT-LR1 の BD アドレスを設定・変更できます。
接続・切断ボタンで BT-LR1 との接続も確認できます。

■画面リストで追加する項目



■LR1 接続ウィンドウ

LR1接続

検索

機器名	BDアドレス

BD:

接続切断

接続状態：接続中

戻る

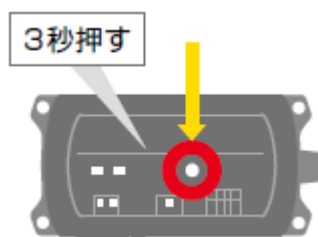
使用方法

このウィンドウはFキーなどから呼び出して使用します。



BT-LR1 の検索&アドレス設定は、以下の手順でおこないます。

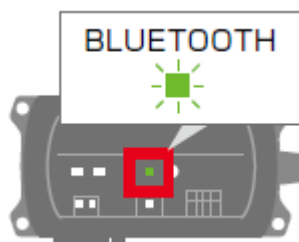
1. 下図の CONNECT ボタンを 3 秒押し続けます。



2. LED が赤色点滅から赤色点灯の状態に変わるので、この状態で検索ボタンを押します。
3. BT-LR1 がリストに表示されるので、対象を選択します。

4. BD アドレスがセットされることを確認し、接続・切断ボタンで通信できるかを確認します。

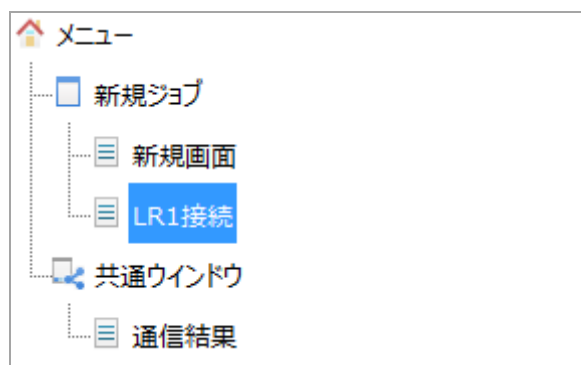
接続できると下図の LED が緑色点灯に変わり、画面上の接続状態が未接続から接続中になります。



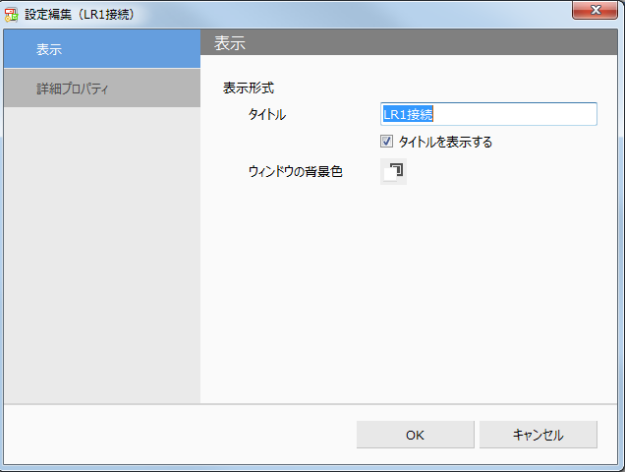
※接続状態は、ハンディターミナルから BT-LR1 間の接続状態を見ています。

BT-LR1～制御機器間までの接続状態は見えていない点にご注意ください。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示



表示形式

・タイトル

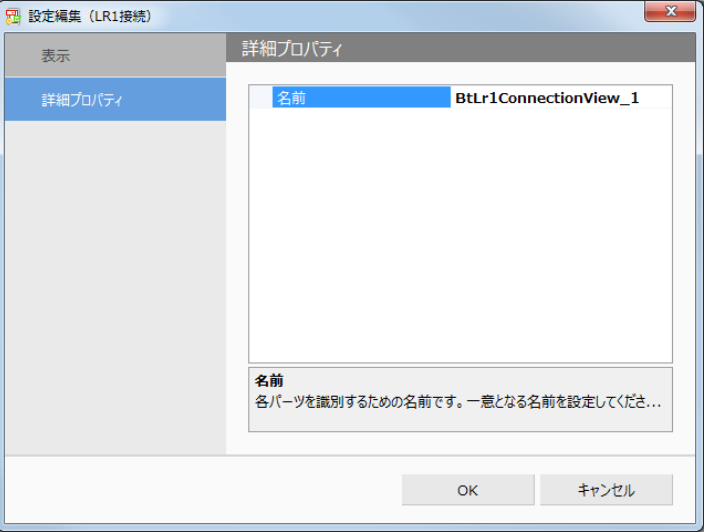
画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。

背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

■詳細プロパティ

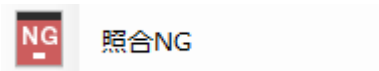


名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

5.6.8. 照合 NG ウィンドウ

画面リスト「[4.3.2.画面](#)」で「照合 NG」を選択すると、照合 NG を表示する専用のウィンドウを追加できます

■画面リストで追加する項目



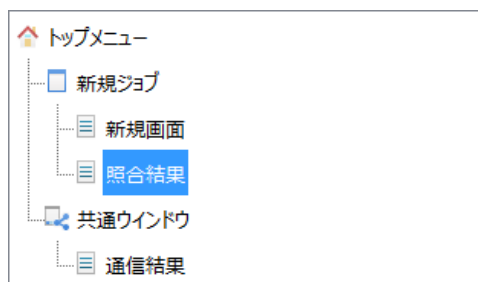
■照合 NG ウィンドウ



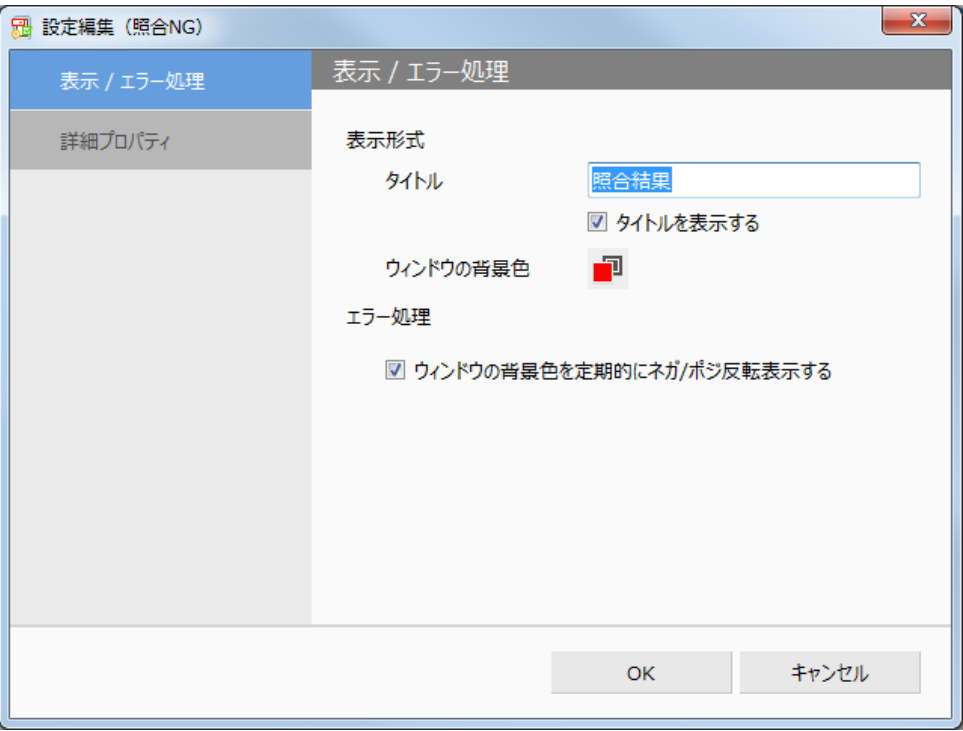
使用方法

照合 NG 専用の画面です。「[5.5.2.照合コントロール](#)」と合わせて使用します。「OK」ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

追加した画面をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示／エラー処理



表示形式

・タイトル

画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。

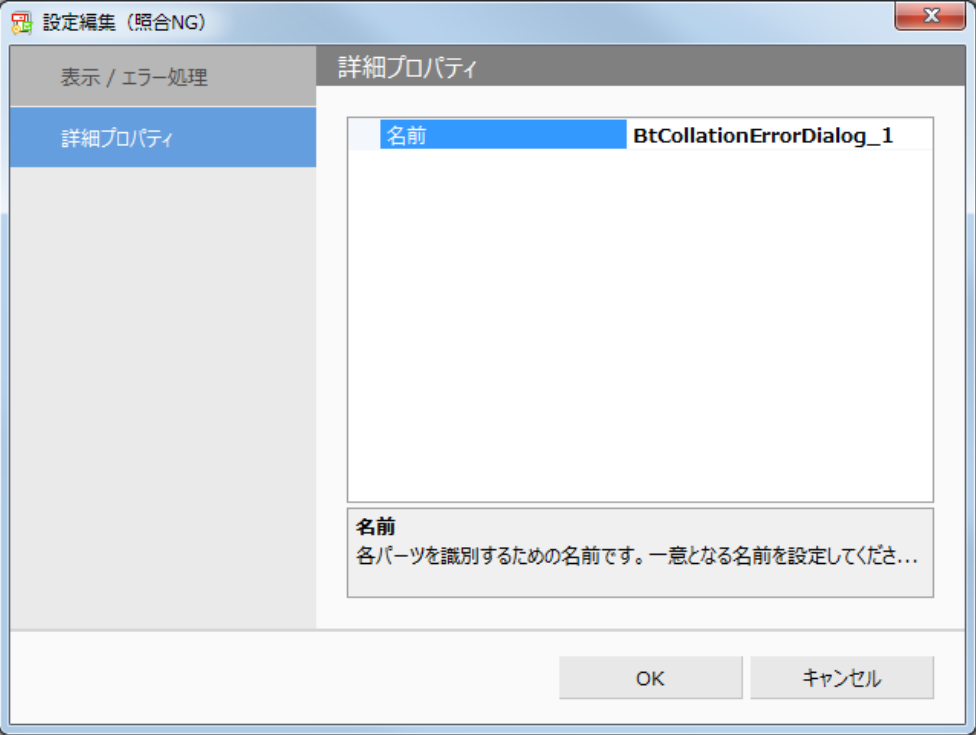


エラー処理

・ウィンドウの背景色を定期的にネガ／ポジ反転表示する

照合 NG 時に、画面が色の反転表示を繰り返します。オペレーターに注意喚起します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

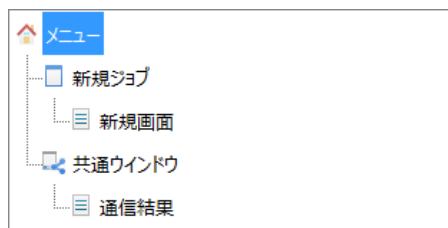
5.6.9. トップメニューウィンドウ

トップメニューはプロジェクトに必ず 1 つ存在します。追加、削除はできません。

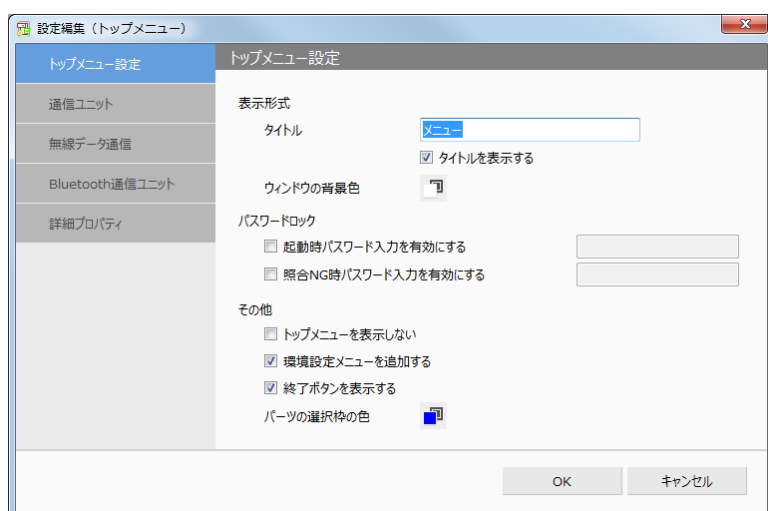
■トップメニューウィンドウ



メニューをダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■トップメニュー設定



表示形式

・タイトル

トップメニューの名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。



パスワードロック

・起動時パスワード入力を有効にする

チェックを入れると、ハンディアプリ起動時にパスワード入力を求めます。パスワードは任意に設定できます。

・照合 NG 時パスワード入力を有効にする

チェックを入れると、照合 NG 時にパスワード入力を求めます。パスワードは任意に設定できます。

※「[5.5.2.照合コントロール](#)」の設定が必要です。

※パスワードの文字数は、半角 2～40 文字となります。

その他

・トップメニューを表示しない

チェックを入れると、トップメニュー画面を表示しません。最上部のメニューが実行されます。

・環境設定メニューを追加する

ハンディターミナルの環境設定を変更できるメニューを追加します。

・終了ボタンを表示する

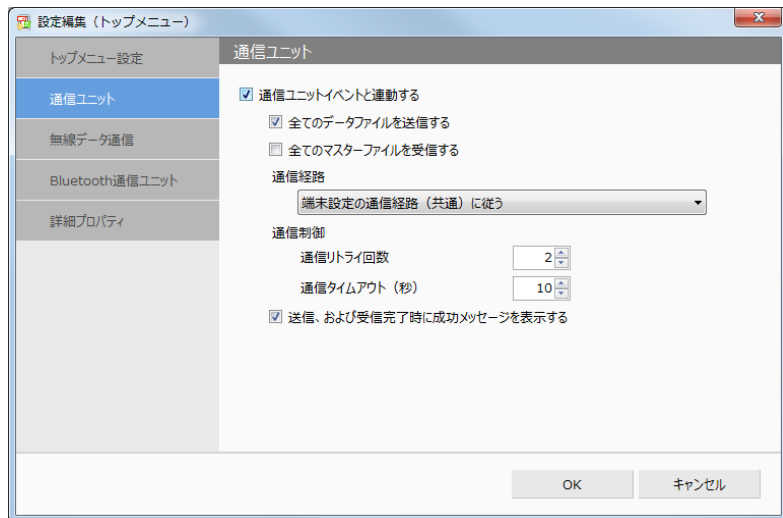
ハンディアプリを終了するためのボタンを配置します。

・パーツの選択枠の色

メニュー内で各パーツを選択したときの枠の色を設定します。



■通信ユニット



通信ユニットイベントと連動する

チェックを入れると、以下の項目が設定有効になります。

- ・ **全てのデータファイルを送信する**

チェックを入れると、ハンディターミナルを通信ユニットに挿入したときに、データファイルを全て送信します。

- ・ **全てのマスターファイルを受信する**

チェックを入れると、ハンディターミナルを通信ユニットに挿入したときに、マスターファイルを全て受信します。

- ・ **通信経路**

通信経路を選択します。

【選択項目】 端末設定の通信経路（共通）に従う／USB 通信ユニット／LAN 通信ユニット／無線 LAN

- ・ **通信リトライ回数**

通信エラー時のリトライ回数を設定します。

【設定範囲】 0～9 回

- ・ **通信タイムアウト（秒）**

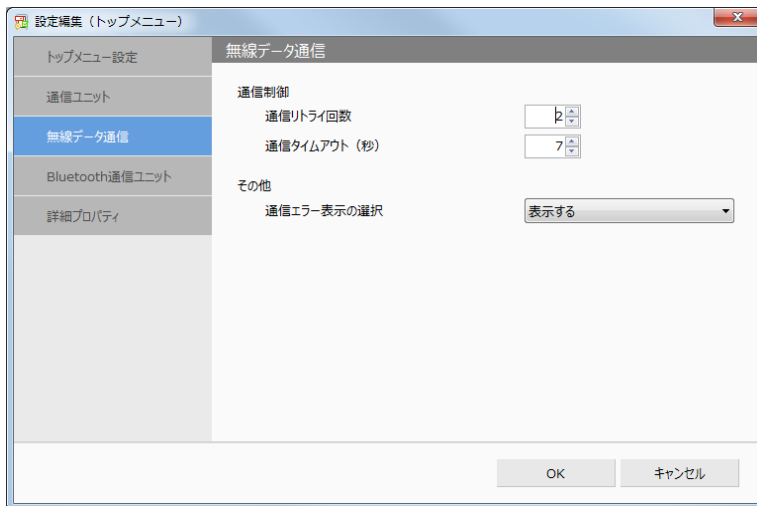
通信エラーになるまでの時間を設定します。

【設定範囲】 1～50 秒

- ・ **送信、および受信完了時に成功メッセージを表示する**

チェックを入れると、送信完了もしくは受信完了時に成功メッセージを表示します。

■無線データ通信



通信制御

- ・ **接続時の通信リトライ回数** 通信失敗時に何回リトライするかを設定します。
- ・ **通信タイムアウト** 通信接続時に何秒で通信失敗と見なすかを設定します。

その他

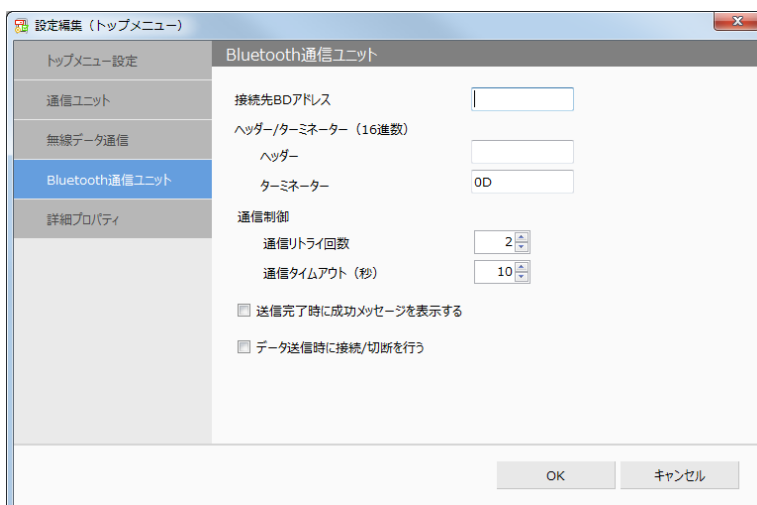
- ・ **通信エラー表示の選択**

通信エラー時に、通信エラー画面を表示するかしないかを設定します。「表示する（圏外での操作時を除く）」を選択すると、無線圏外での操作時は、オフライン業務とみなし通信エラー画面を表示しません。データはハンディターミナルに蓄積されます。

【選択項目】 表示する／表示する（圏外での操作時を除く）／表示しない

■Bluetooth 通信ユニット

この画面では BT-LR1（Bluetooth 通信ユニット）への接続設定をおこないます。



接続先 BD アドレス

BT-LR1 側面のシール下段に記載されている BD アドレスを 12 桁で入力します。



ヘッダー／ターミネーター（16 進数）

- ・ヘッダー 送信データのヘッダーを設定します。
- ・ターミネーター 送信データのターミネーターを設定します。

通信制御

- ・通信リトライ回数 通信失敗時に何回リトライするかを設定します。
- ・通信タイムアウト（秒） 通信接続時に何秒で通信失敗と見なすかを設定します。

送信完了時に成功メッセージを表示する

BT-LR1 へのデータ送信後、画面上に送信完了メッセージを表示します。

※ハンディターミナルから BT-LR1 へ通信できたことを見て、送信完了とみなします。

BT-LR1～制御機器間までの通信可否は見えていない点にご注意ください。

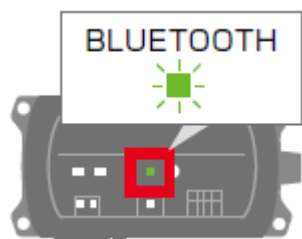
データ送信時に接続／切断を行う

設定を有効にすると、実際に通信するタイミングで都度 BT-LR1 に接続し、通信完了後に切断する動きをします。

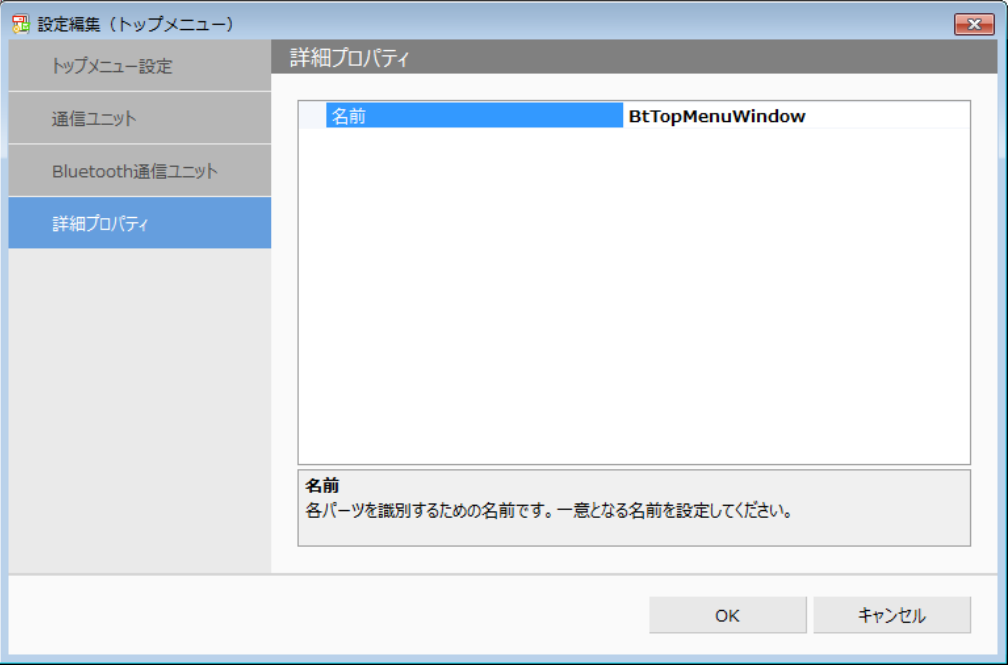
設定を無効にすると、BT-LR1 を使用するメニューに入ったタイミングで BT-LR1 に接続し、メニュー終了後に切断します。1

件入力ごとにデータを送信する場合などではこちらを使用します。

接続できると下図の LED が赤色点滅から緑色点灯に変わります。



■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

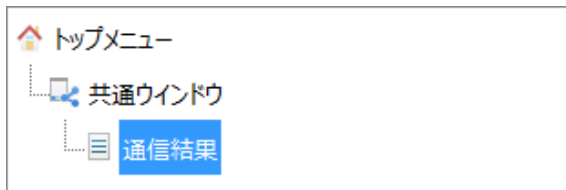
5.6.10. 通信エラー結果ウィンドウ

通信エラー結果ウィンドウはプロジェクトに必ず 1 つ存在します。追加、削除はできません。

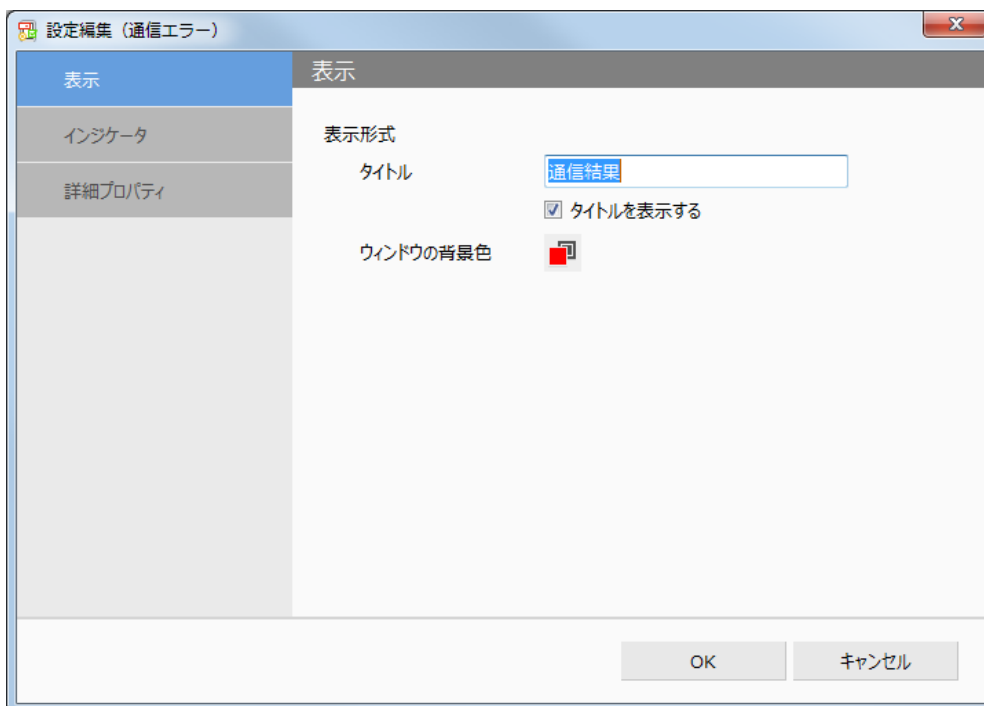
■通信エラー結果ウィンドウ



メニューをダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



■表示



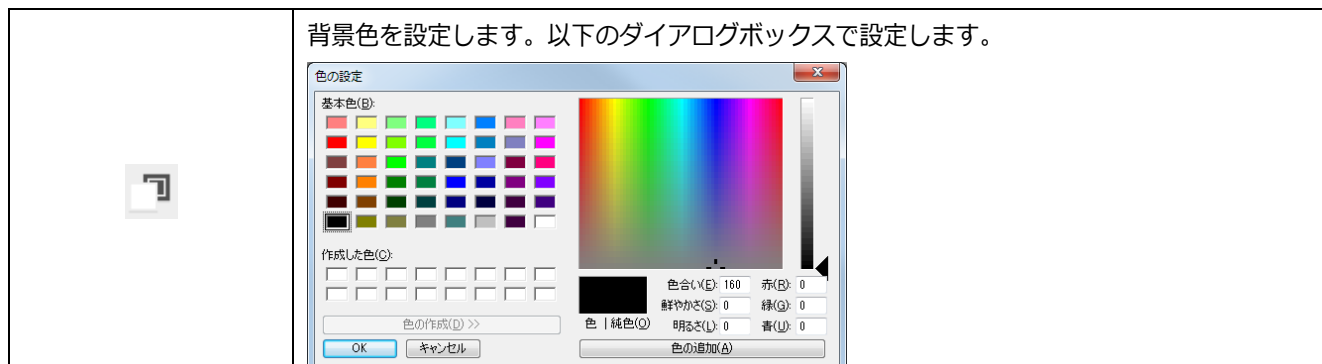
表示形式

・タイトル

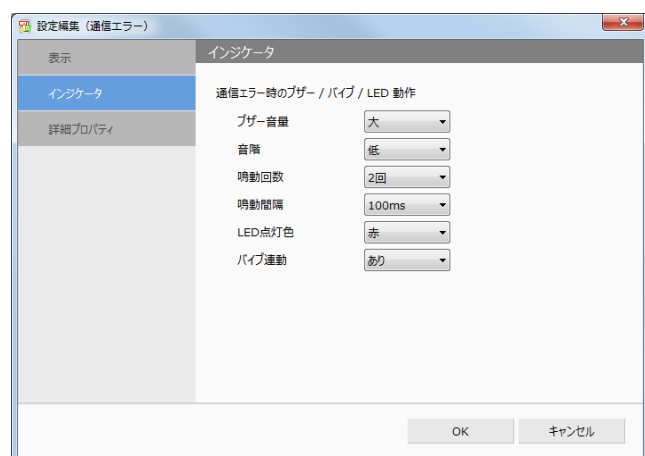
画面の名前を設定します。「タイトルを表示する」にチェックを入れると、画面最上部にタイトルラベルを配置します。

・ウィンドウの背景色

画面の背景色を設定します。



■インジケータ



通信エラー時のブザー／バイブ／LED 動作の選択

通信エラー時のブザー／バイブ／LED の動作を設定します。

・ブザー音量

【選択項目】 オフ／大／中／小

・音階

【選択項目】 高／中／低

・鳴動回数

【設定範囲】 1～10 回

・鳴動間隔

【選択項目】 100ms／200ms／500ms／1000ms

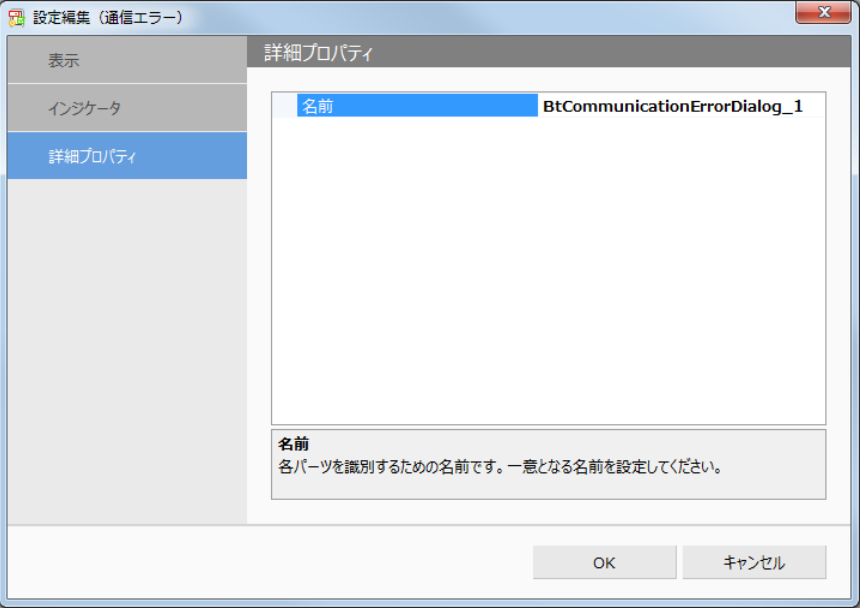
・LED 点灯色

【選択項目】 オフ／緑／赤

・バイブ連動

【選択項目】 なし／あり

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

6. PC アプリパーツの使用方法

ライブラリからパーツをドラッグ&ドロップすることで、PC アプリを開発します。それぞれのパーツの使用方法について説明します。「[4.2.7.PC アプリ編集](#)」「[4.10.ライブラリ \(PC アプリ\)](#)」も合わせて参照してください。

6.1. ラベル

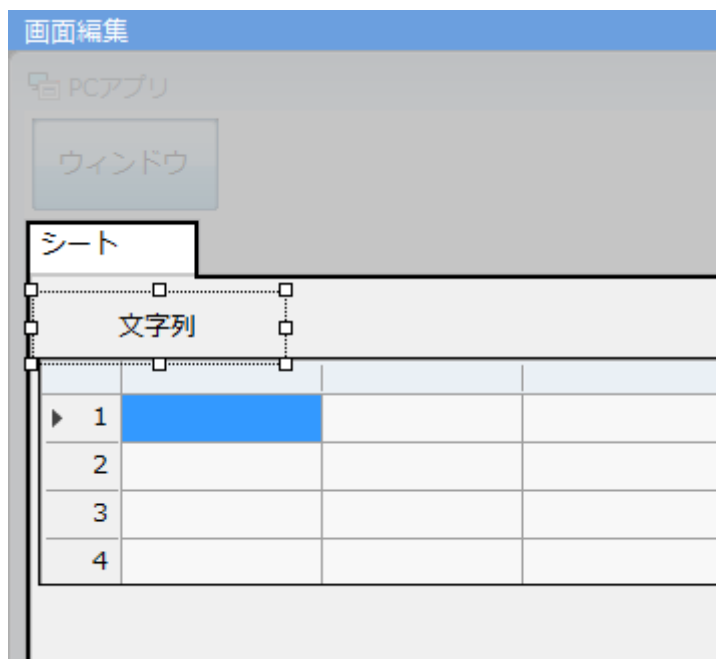
6.1.1. ラベル

PC アプリに表示する文字列を設定するパーツです。

■ 選択するパーツ

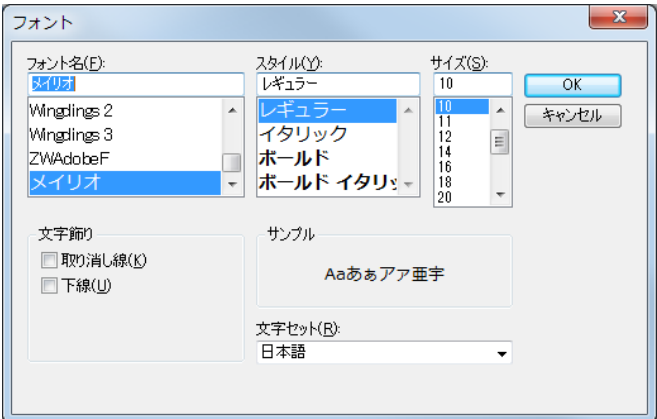


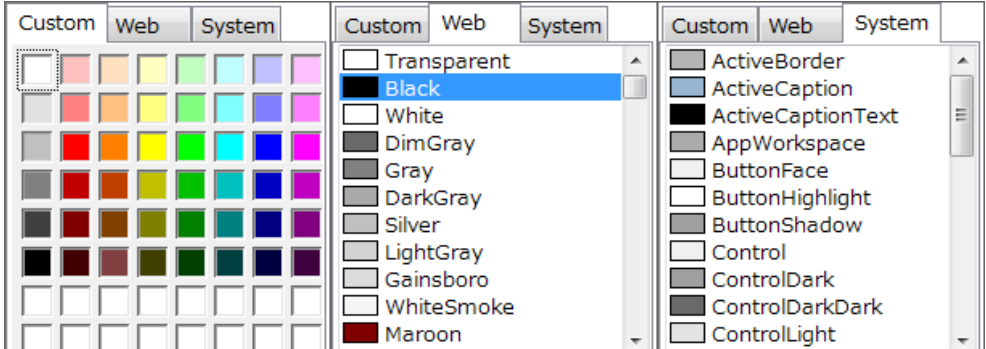
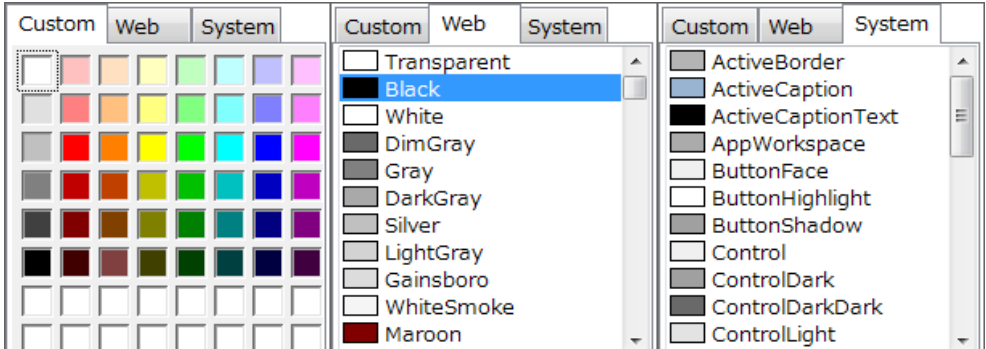
■ 配置したときの画面



■選択したときのプロパティ表示

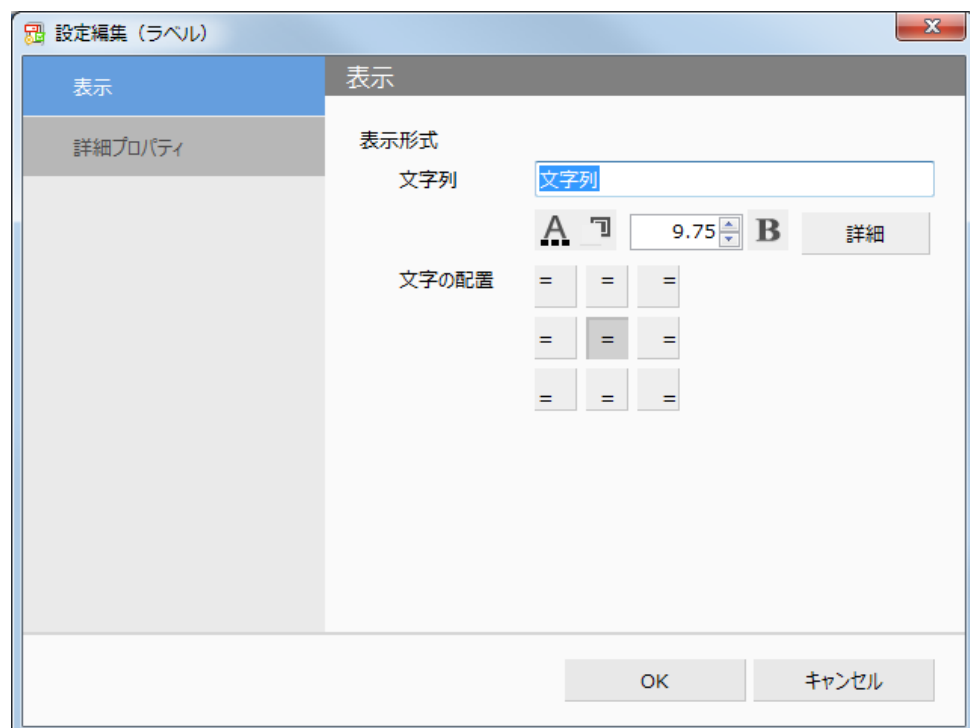
名前	Label_1
位置	135, 17
サイズ	120, 30
枠線	なし
表示文字列	文字列
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】上端左寄せ／上端中央／上端右寄せ／中段左寄せ／中段中央／中段右寄せ ／下段左寄せ／下段中央／下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

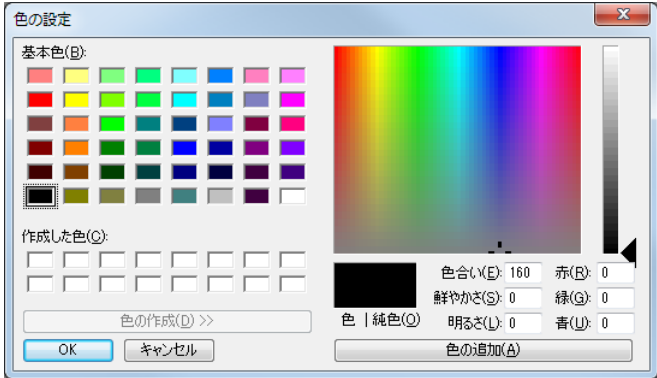
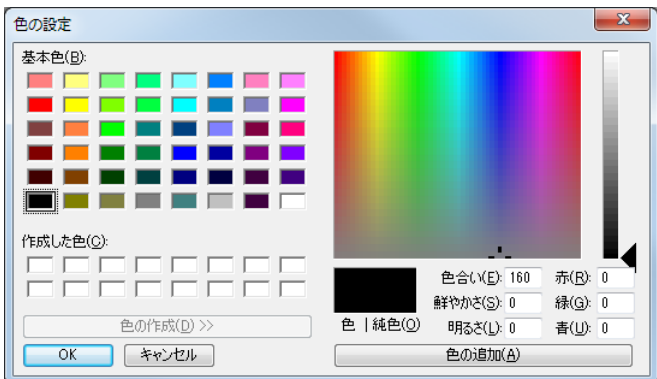
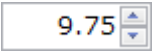
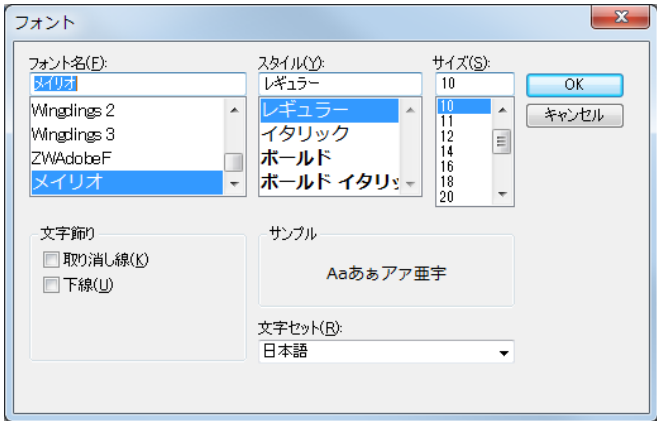
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

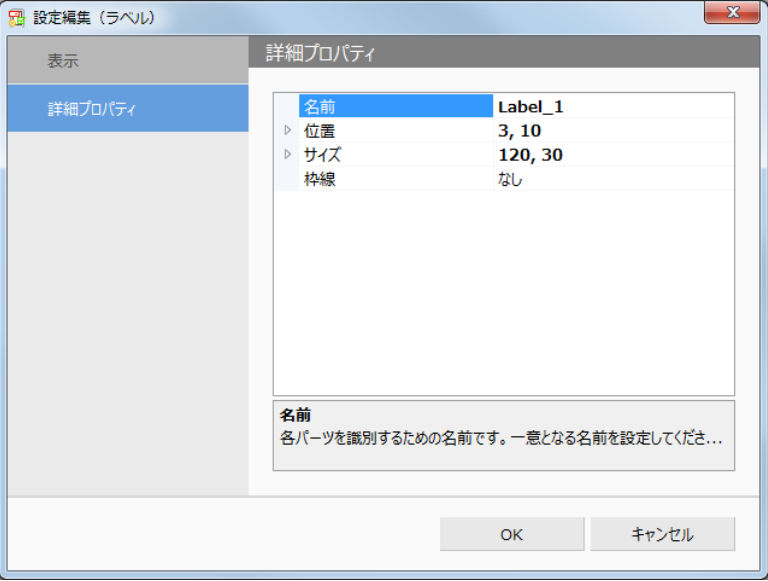
	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

	上段左寄せ		上段中央		上段右寄せ
	中段左寄せ		中段中央		中段右寄せ
	下段左寄せ		下段中央		下段右寄せ

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、 Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体

6.1.2. 計算ラベル

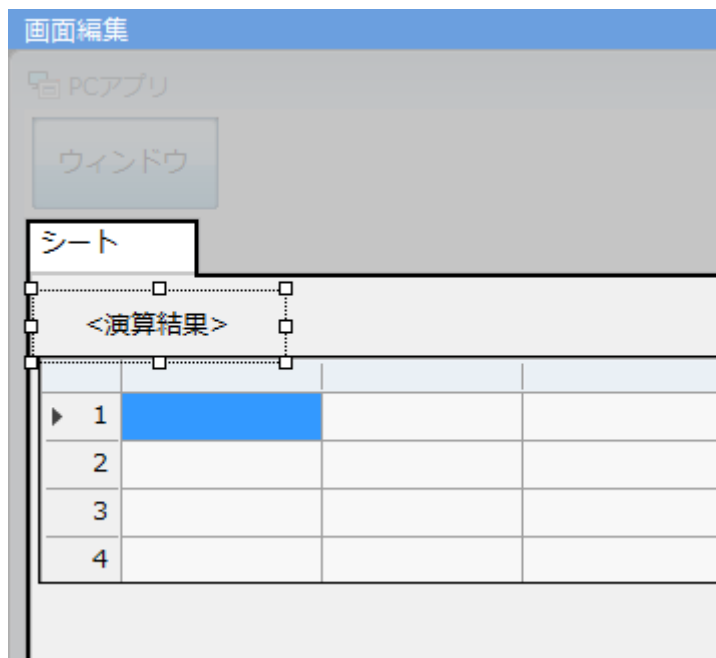
テーブルの任意の列の合計、平均、数値の個数を計算して、ラベルに表示します。計算結果に、接頭語や接尾語を付与することもできます。

例) 総在庫金額：＜演算結果＞円

■ 選択するパーツ

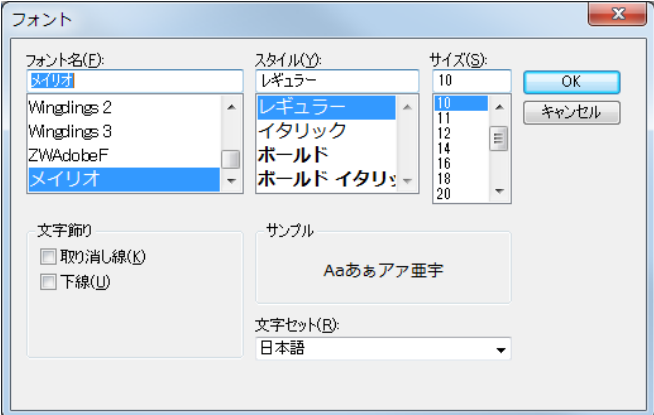


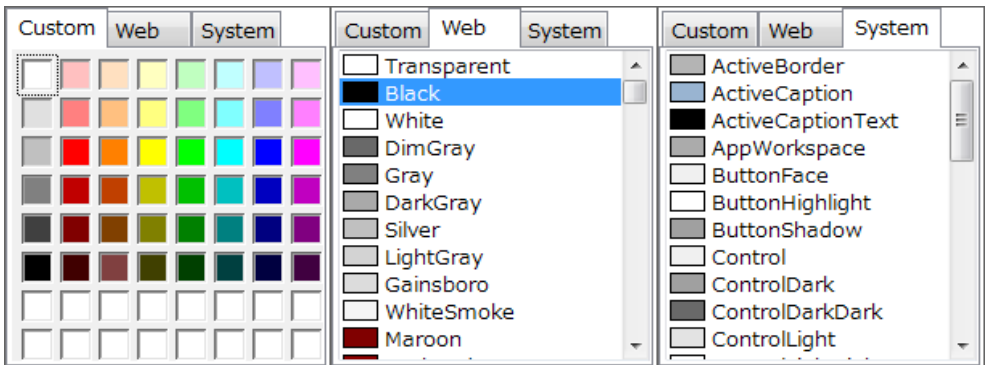
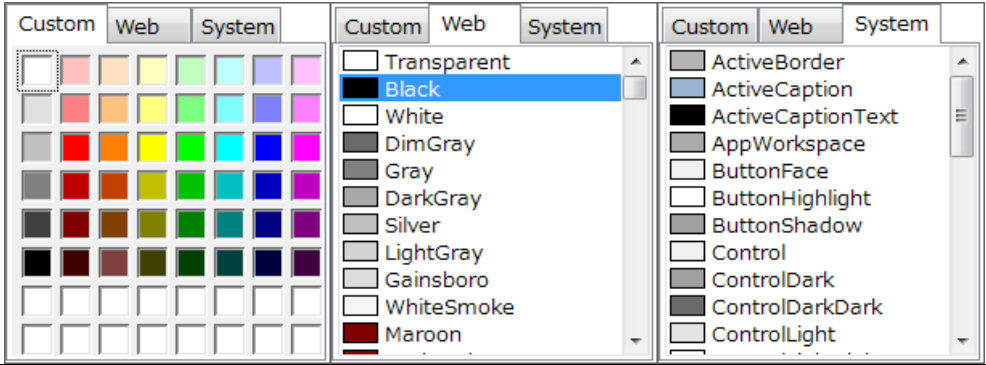
■ 配置したときの画面



■選択したときのプロパティ表示

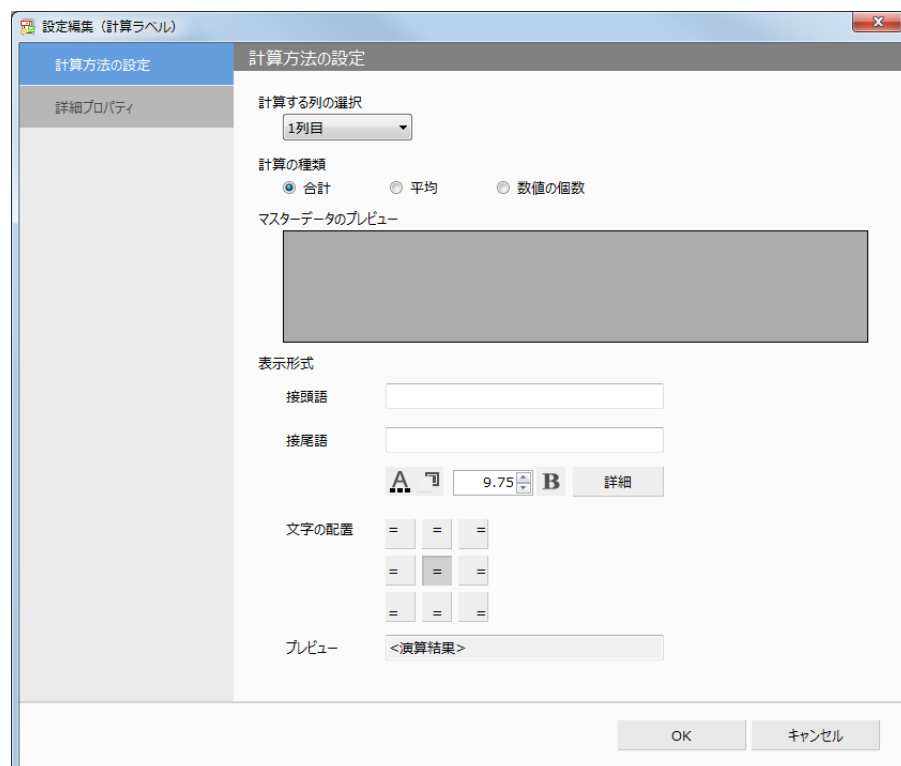
名前	BtCalculationLabel_1
位置	3, 10
サイズ	120, 30
枠線	なし
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	ControlText
背景色	Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ／上端中央／上端右寄せ／中段左寄せ／中段中央／中段右寄せ ／下段左寄せ／下段中央／下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



計算する列の選択

計算する列を選択します。

【選択項目】 1～32 列目、計算列 1～8

計算の種類

計算の種類を選択します。

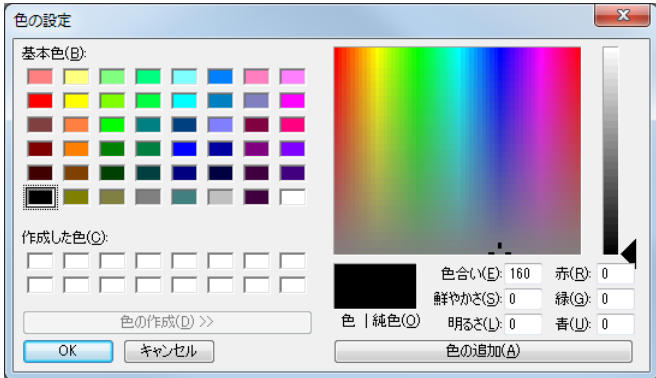
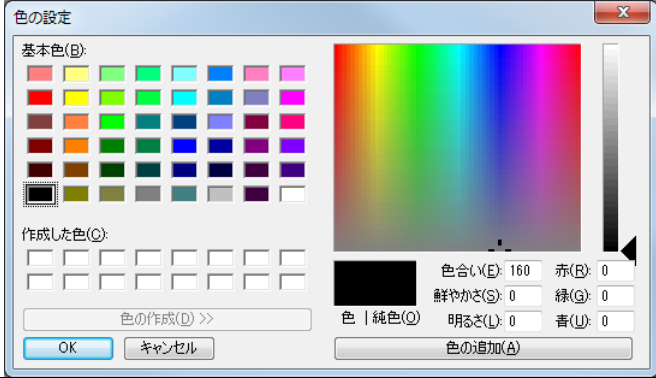
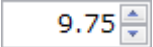
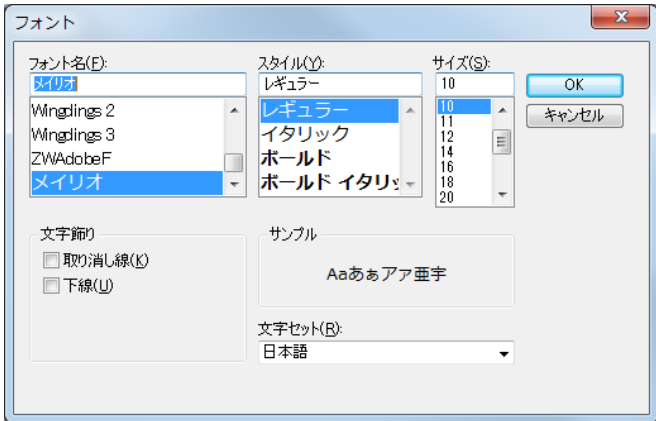
【選択項目】合計／平均／数値の個数

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

表示形式

計算結果に付与する接頭語、接尾語や、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

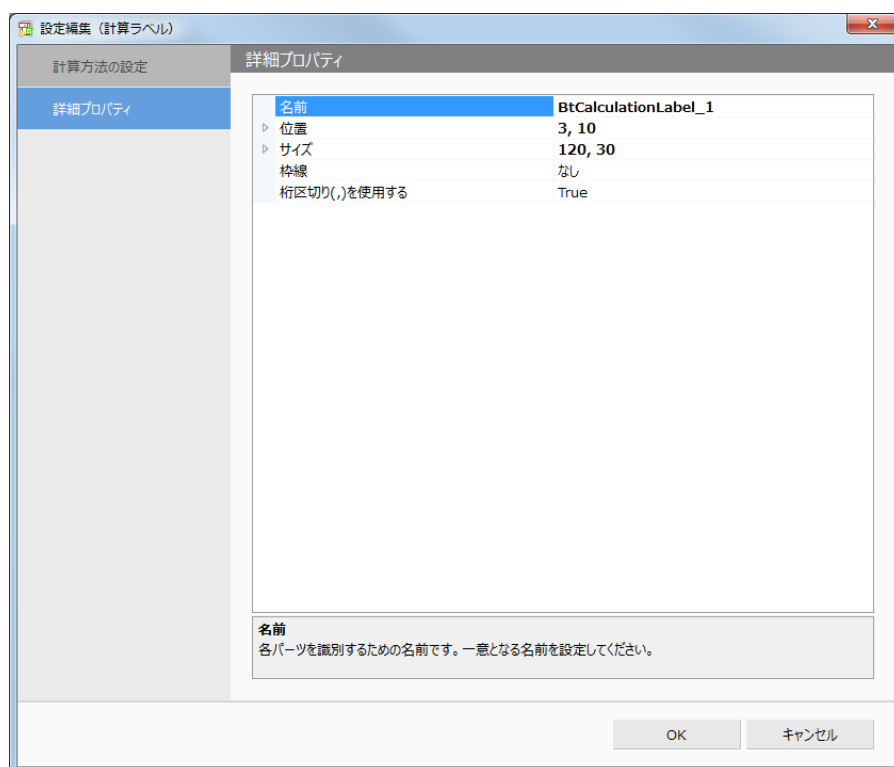
パーツ内の文字の配置を設定します。

=	上段左寄せ	=	上段中央	=	上段右寄せ
=	中段左寄せ	=	中段中央	=	中段右寄せ
=	下段左寄せ	=	下段中央	=	下段右寄せ

・プレビュー

接頭語と接尾語を付与したプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】なし／線／立体
桁区切り(,)を使用する	「1,000,000」のように桁を (,) で区切ります。 【選択項目】False／True

6.2. ボックス

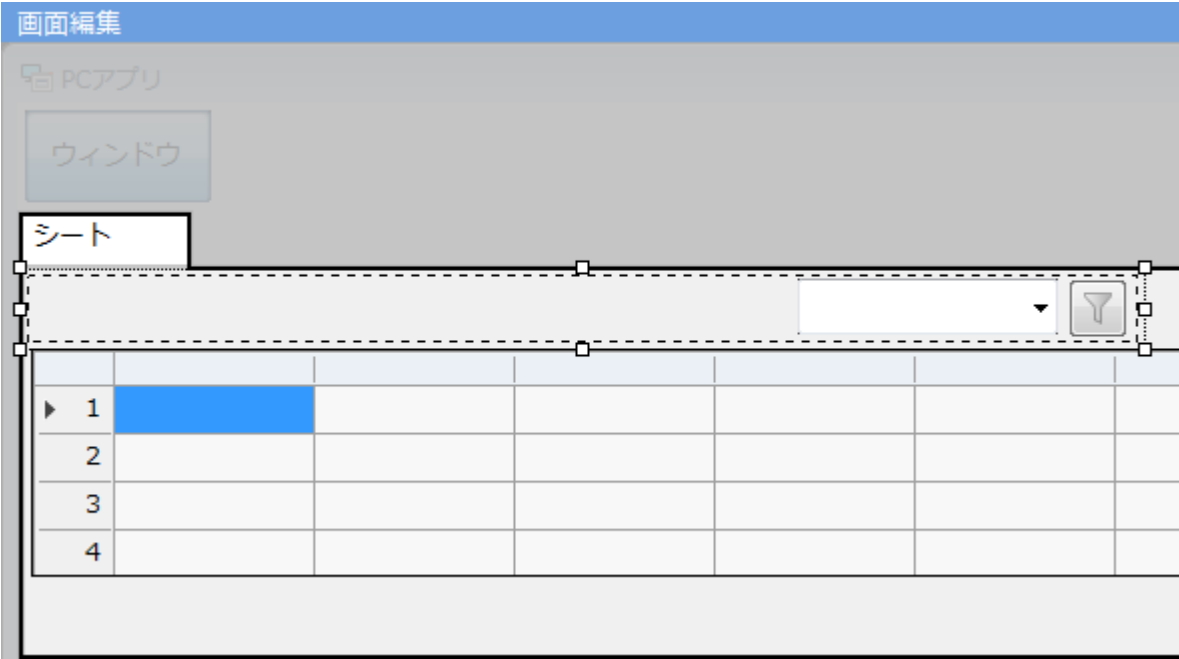
6.2.1. 検索入力ボックス

テーブルを任意の値と条件で、任意の列を検索するパーツです。ドロップダウンボックス、フィルターボタンなどが複数配置されます。初期条件や検索方法を設定できます。

■ 選択するパーツ

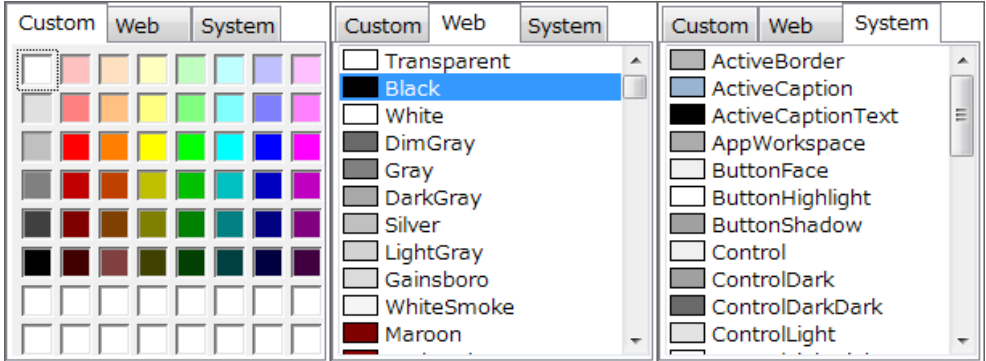


■ 配置したときの画面



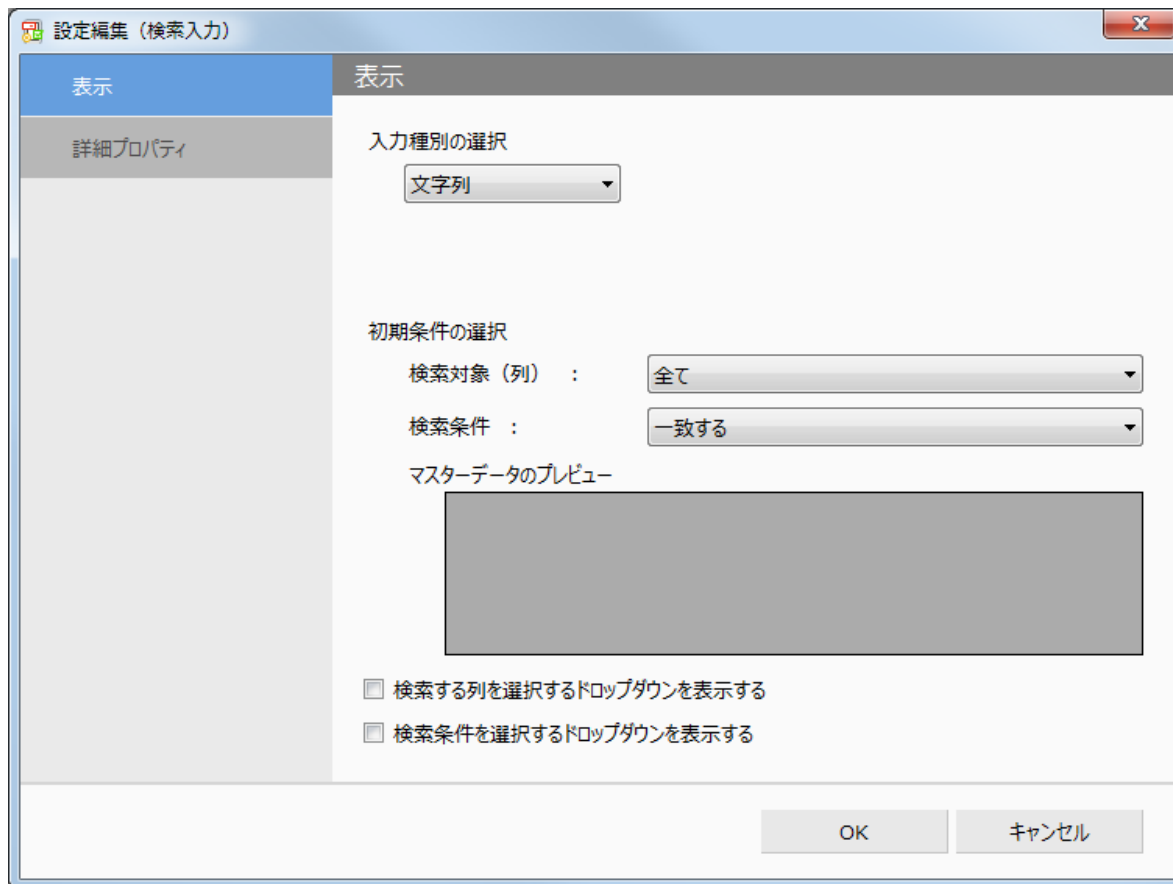
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtServerFilterBox_1
位置	1, 3
サイズ	555, 34
枠線	なし
背景色	 Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし/線/立体
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



入力種別の選択

検索する値の種別を設定します。

【選択項目】文字列／数値／日付

・「数値」を選択した場合

下記の設定が有効になります。小数点以下の桁数を設定します。

小数点以下の桁数	0
----------	--------------------------------

・「日付」を選択した場合

下記の選択が有効になります。入力する日付パターンを設定します。

パターン	YYYYMMDD
区切り文字	スラッシュ
プレビュー	2016/01/15

初期条件の選択

検索する対象列と条件の初期値を選択します。

・検索対象(列)

検索する対象列の初期値を選択します。ドロップダウンの初期値として表示されます。

【選択項目】全て／1 列目～32 列目

・検索条件

検索条件の初期値を選択します。ドロップダウンの初期値として表示されます。

【選択項目】「入力種別の選択」により、選択肢が変わります。

「文字列」の場合	一致する／前方一致する／後方一致する／含む／含まない
「数値」の場合	等しい／等しくない／より大きい／より小さい／以上／以下
「日付」の場合	～から～まで／～まで／～から

・マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

検索する列を選択するドロップダウンを表示する

チェックをいれると、検索する列を選択するドロップダウンを表示します。

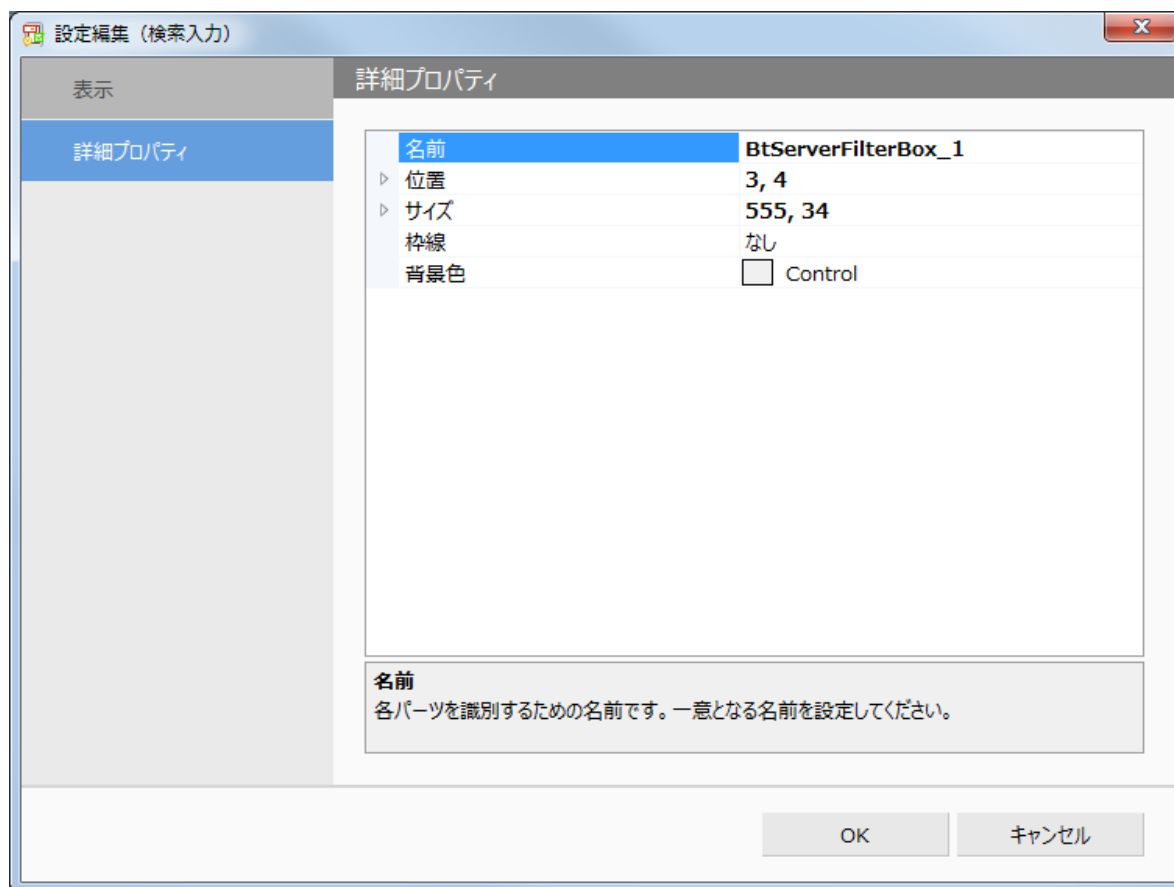
☐

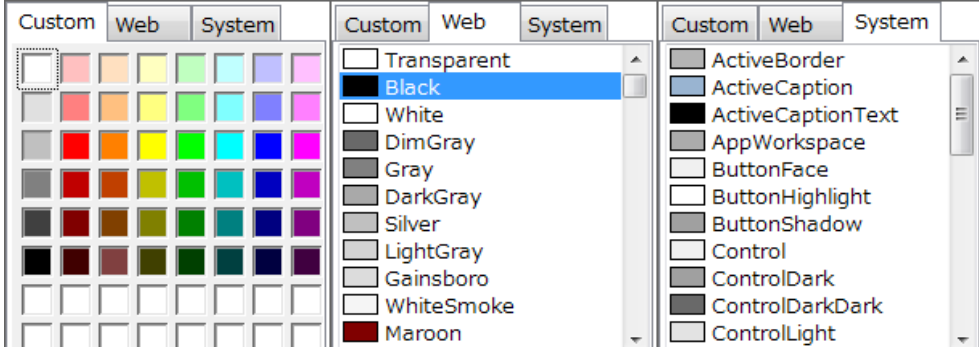
検索条件を選択するドロップダウンを表示する

チェックをいれると、検索条件を選択するドロップダウンを表示します。

☐

■ 詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、 Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、 縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

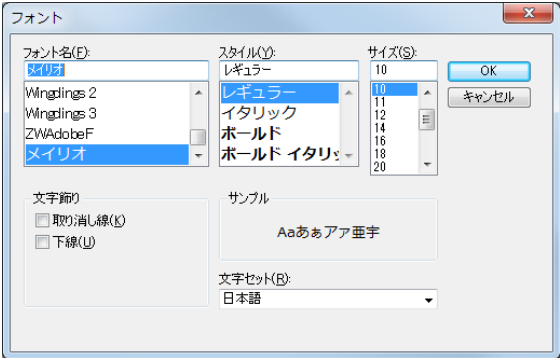
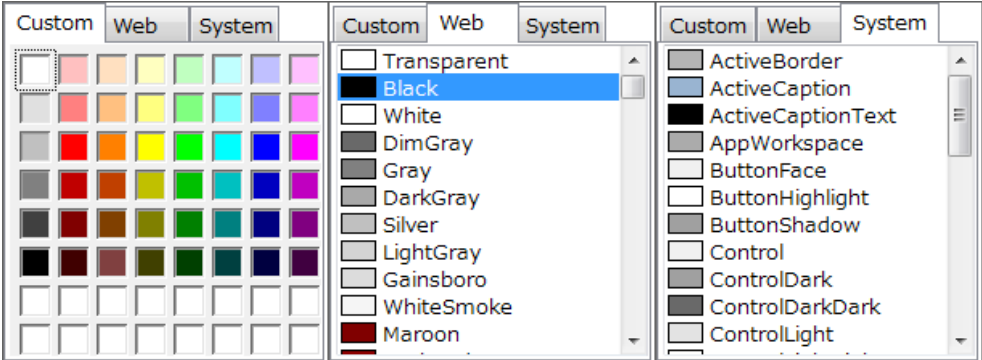
ドロップダウンボックス（内部パーツ）について

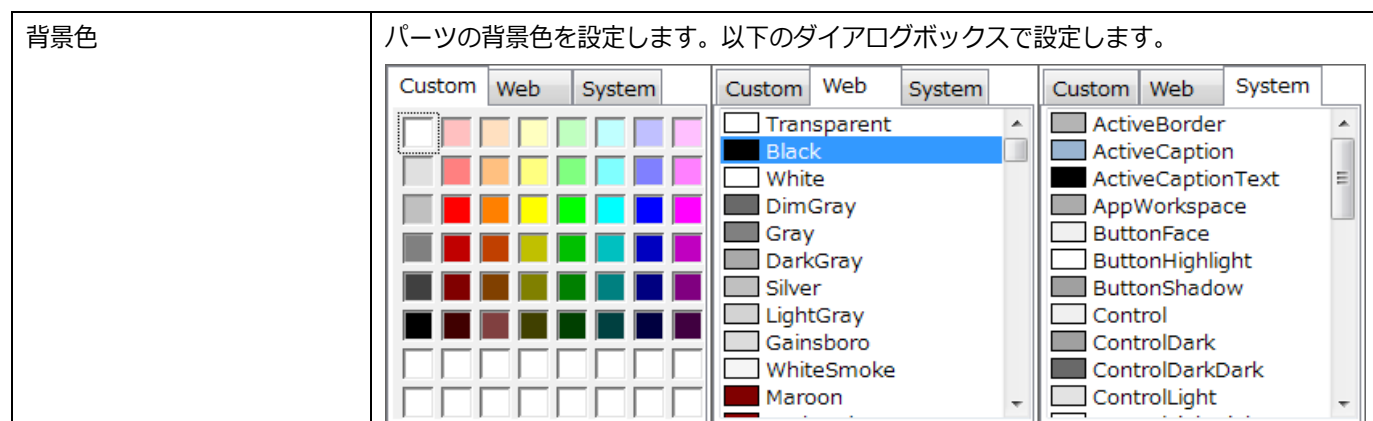
■配置したときの画像



■選択したときのプロパティ表示

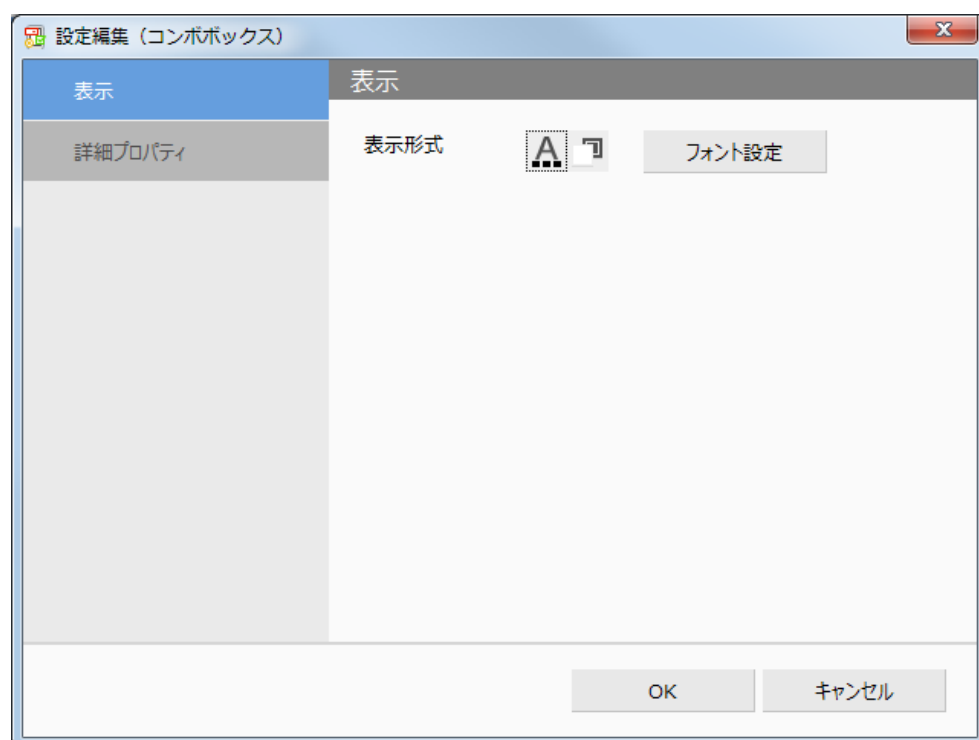
名前	BtTargetComboBox_1
位置	5, 2
幅	120
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	ControlText
背景色	Window

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 0～1920
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 



配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

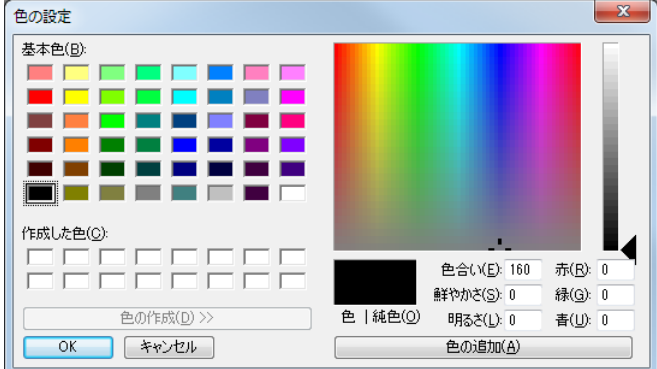
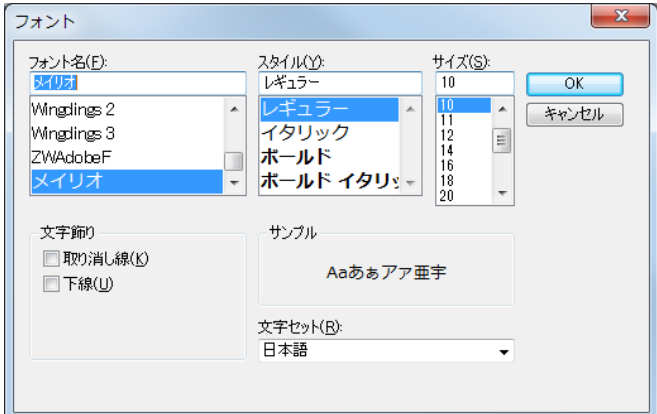
■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。



	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
フォント設定	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

■詳細プロパティ

設定編集 (コンボボックス)

表示

詳細プロパティ

名前

BtTargetComboBox_1

位置

5, 2

幅

120

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してくださ...

OK

キャンセル

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
幅	パーツの幅を設定します。 【設定範囲】 0~1920

ボタン（内部パーツ）について

■配置したときの画像



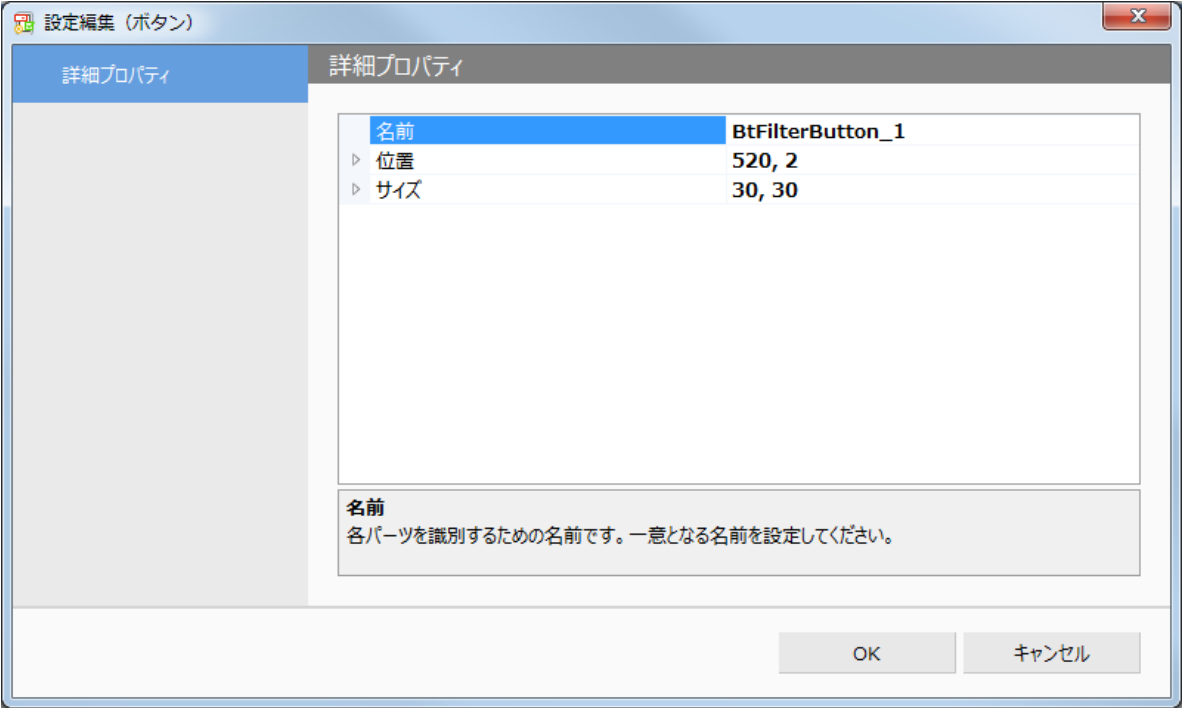
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtFilterButton_1
▶ 位置	520, 2
▶ サイズ	30, 30

名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

6.3. ボタン

6.3.1. 在庫調整ボタン

主に棚卸しで使用するパーツです。理論在庫データ列に棚卸し結果のデータ列を反映し、その差分データを管理データベースに記録します。「在庫調整」実施後、棚卸し結果のデータ列は、0 にリセットされます。

在庫調整 実施前

在庫調整							
	理論在庫	棚卸し結果	棚卸し結果1	(差分)	棚卸し結果2	(差分)	棚
▶ 1	10	5					
2	15	5					
3	1	5					
4	5	5					

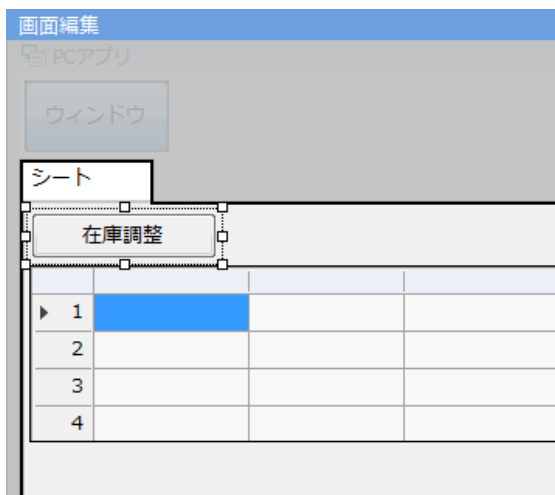
在庫調整 実施後

在庫調整							
	理論在庫	棚卸し結果	2016/08/29	(差分)	棚卸し結果2	(差分)	棚
▶ 1	5	0	5	-5			
2	5	0	5	-10			
3	5	0	5	4			
4	5	0	5	0			

■ 選択するパーツ

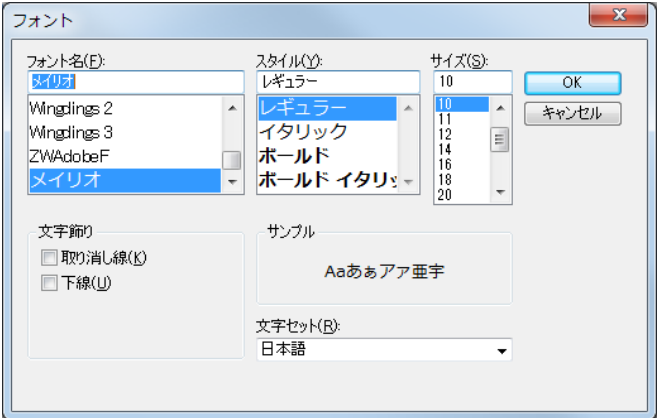


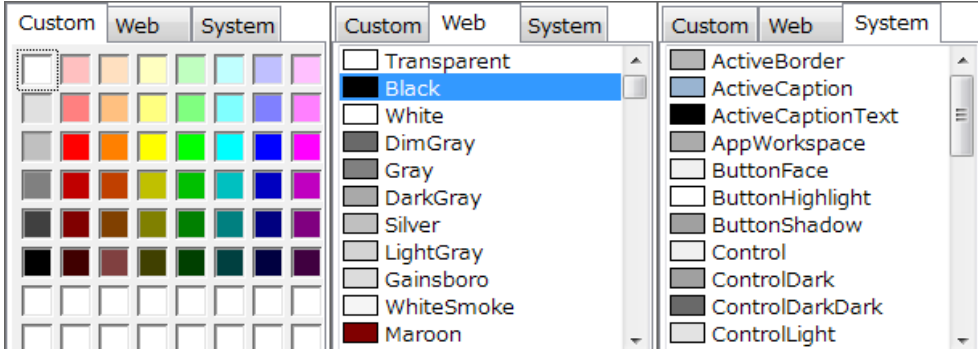
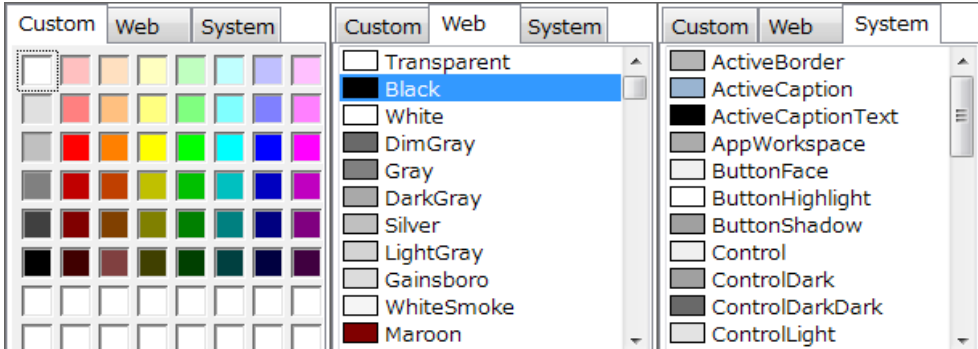
■ 配置したときの画面



■選択したときのプロパティ表示

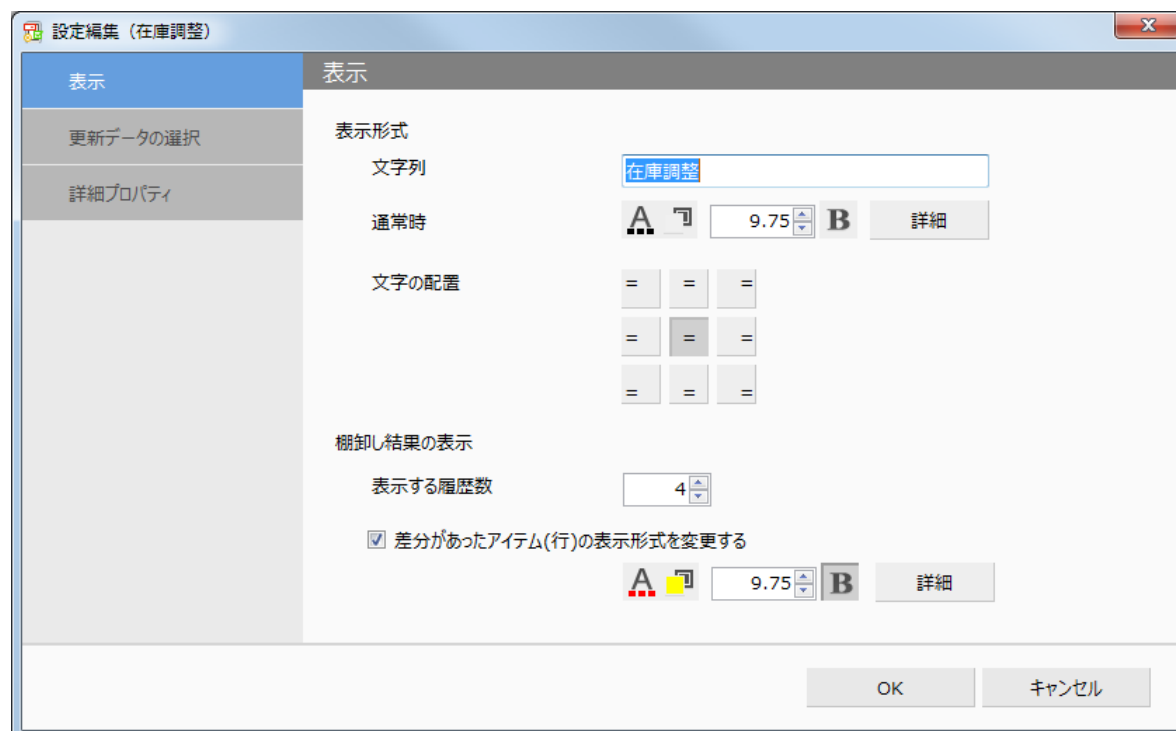
名前	BtDestockingButton_1
位置	4, 6
サイズ	120, 30
表示文字列	在庫調整
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ / 上端中央 / 上端右寄せ / 中段左寄せ / 中段中央 / 中段右寄せ / 下段左寄せ / 下段中央 / 下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

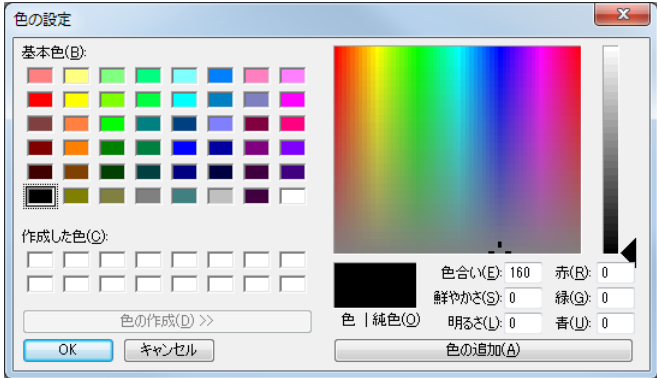
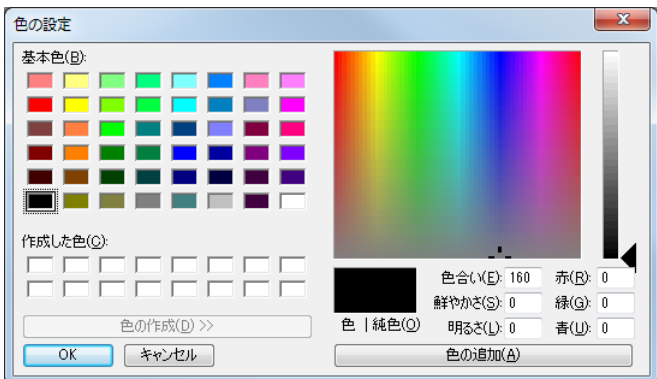
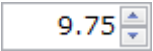
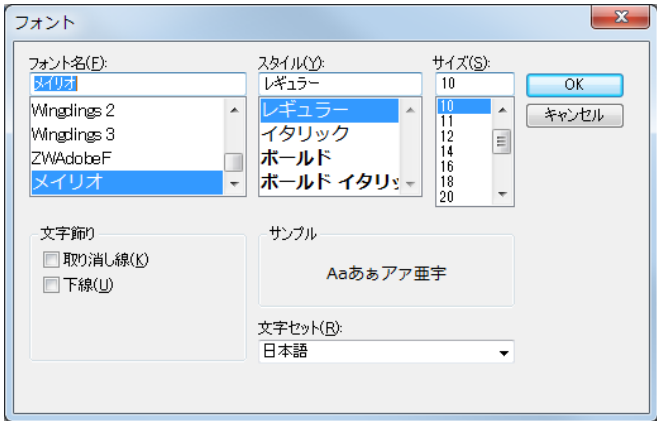
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

	上段左寄せ		上段中央		上段右寄せ
	中段左寄せ		中段中央		中段右寄せ
	下段左寄せ		下段中央		下段右寄せ

棚卸し結果の表示

- ・表示する履歴数

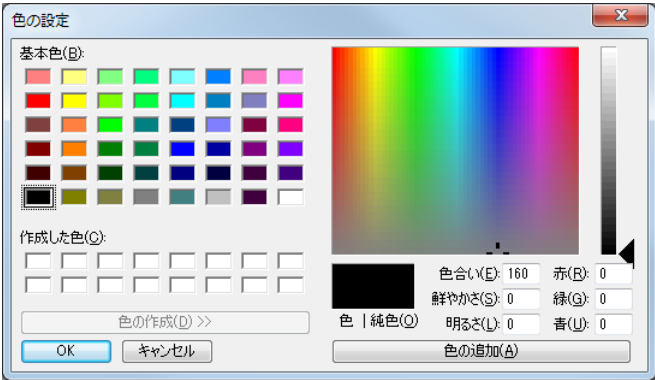
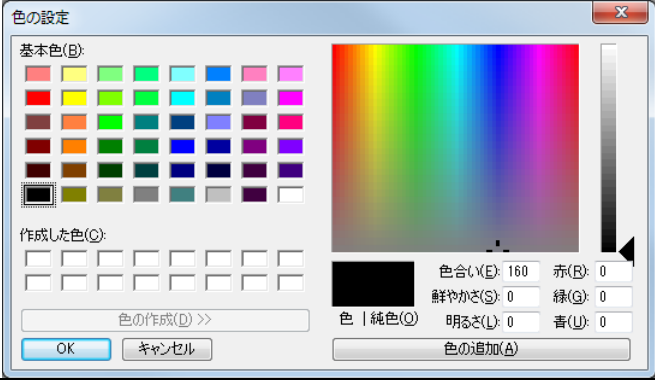
管理データベースの右側に列が追加され棚卸し結果が表示されます。その履歴の数を設定します。

【設定範囲】 0～4

在庫調整							
	理論在庫	棚卸し結果	2016/08/29	(差分)	棚卸し結果2	(差分)	棚
▶ 1	5	0	5	-5			
2	5	0	5	-10			
3	5	0	5	4			
4	5	0	5	0			

- ・差分があったアイテム（行）の表示形式を変更する

直近の棚卸し結果履歴の「(差分)」列で、0 以外のデータがある行の表示形式を変更します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。

■更新データの選択

The screenshot shows a dialog box titled '設定編集 (在庫調整)' (Settings Edit (Inventory Adjustment)). It has a sidebar on the left with three tabs: '表示' (Display), '更新データの選択' (Update Data Selection), and '詳細プロパティ' (Detailed Properties). The '更新データの選択' tab is active. The main area of the dialog is titled '更新データの選択' (Update Data Selection). It contains three sections: '棚卸しデータ(列)の選択' (Inventory Data (Column) Selection) with a dropdown menu showing '1列目' (Column 1); '理論在庫データ(列)の選択' (Theoretical Inventory Data (Column) Selection) with a dropdown menu showing '1列目' (Column 1); and 'マスターデータのプレビュー' (Master Data Preview) with a large gray rectangular area. At the bottom right of the dialog are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

棚卸しデータ（列）の選択

棚卸し結果のデータが保存されている列を選択します。

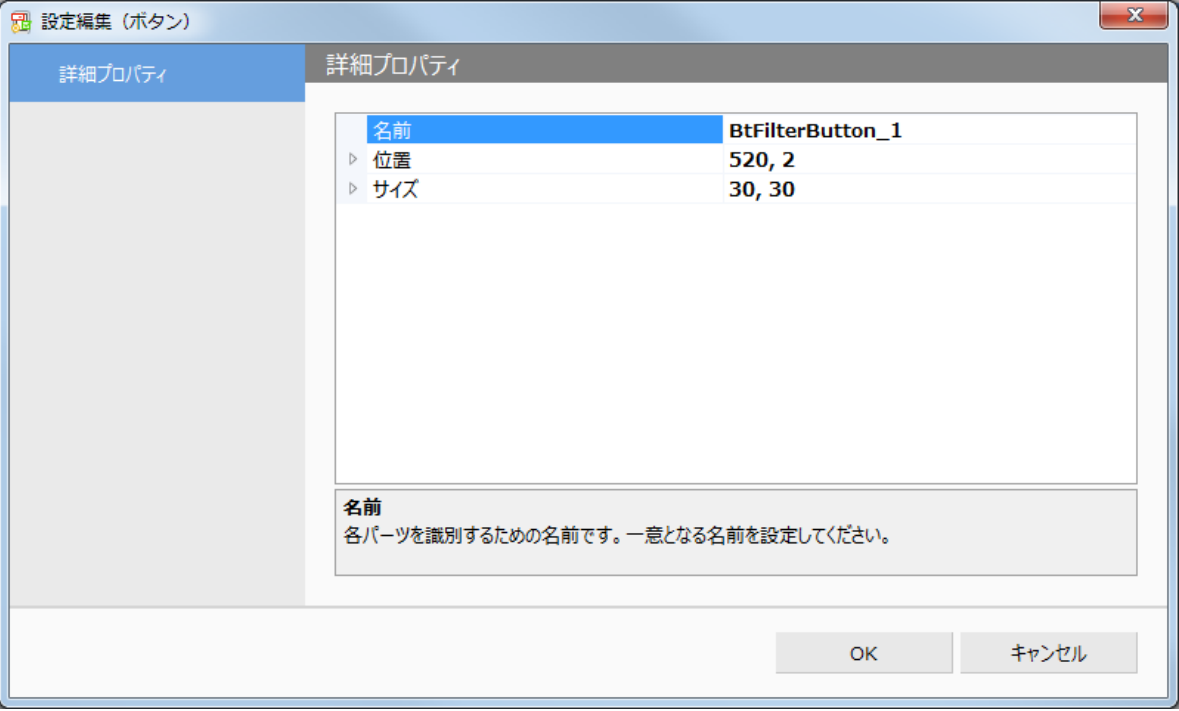
理論在庫データ（列）の選択

理論在庫のデータが保存されている列を選択します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

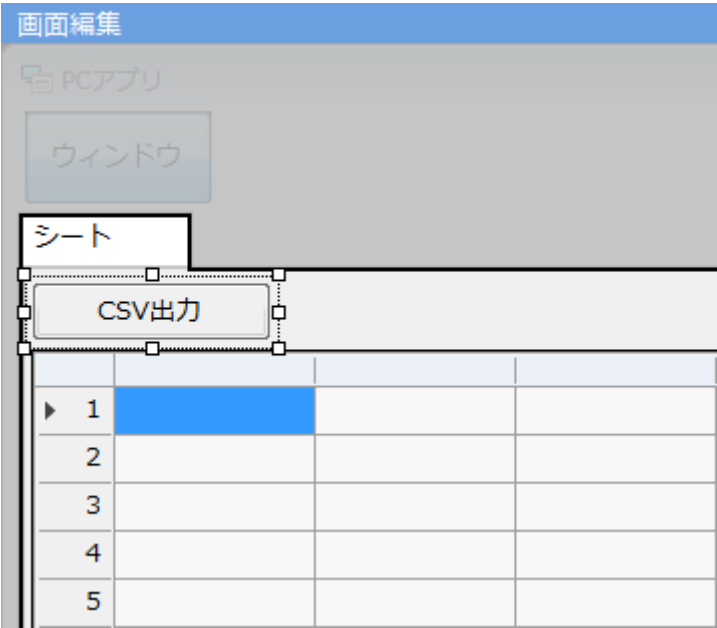
6.3.2. ファイル出力ボタン

テーブル上にあるデータを CSV 出力します。「[6.2.1.検索入力ボックス](#)」「[6.3.5.フィルターボタン](#)」で絞り込み表示している場合は、絞り込んだ結果を出力します。CSV ファイルは、PC アプリ実行フォルダーの Export フォルダー以下に出力されます。

■ 選択するパーツ

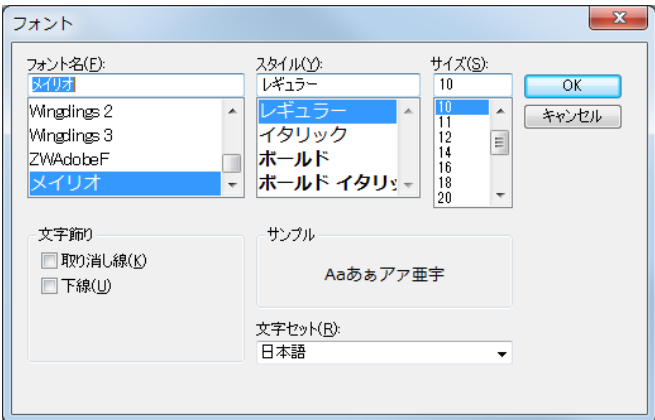
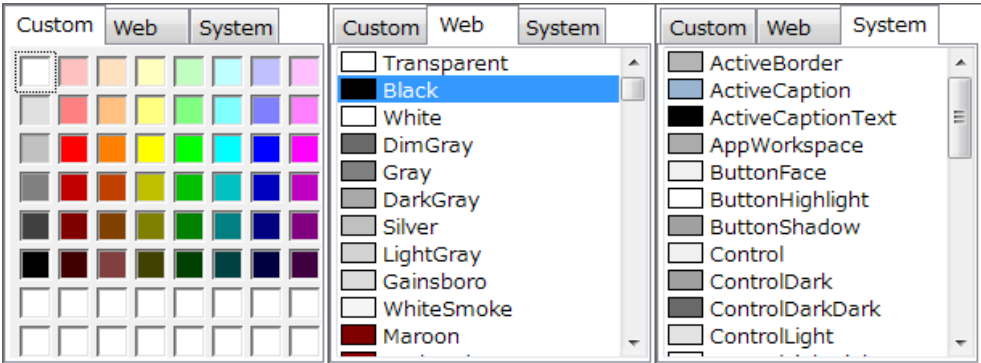
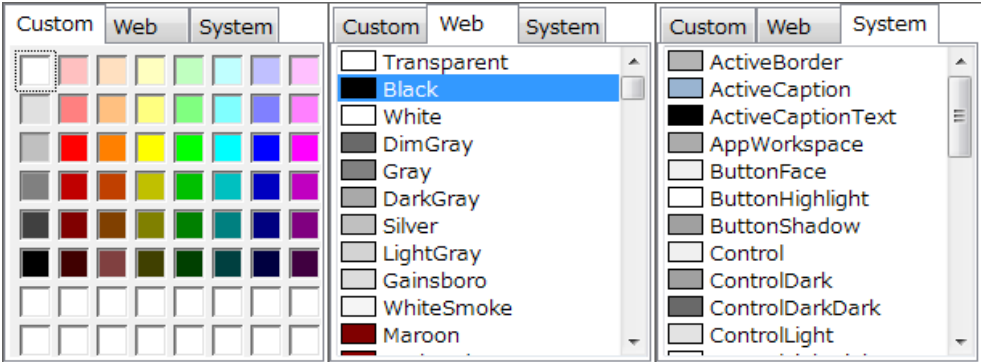


■ 配置したときの画面



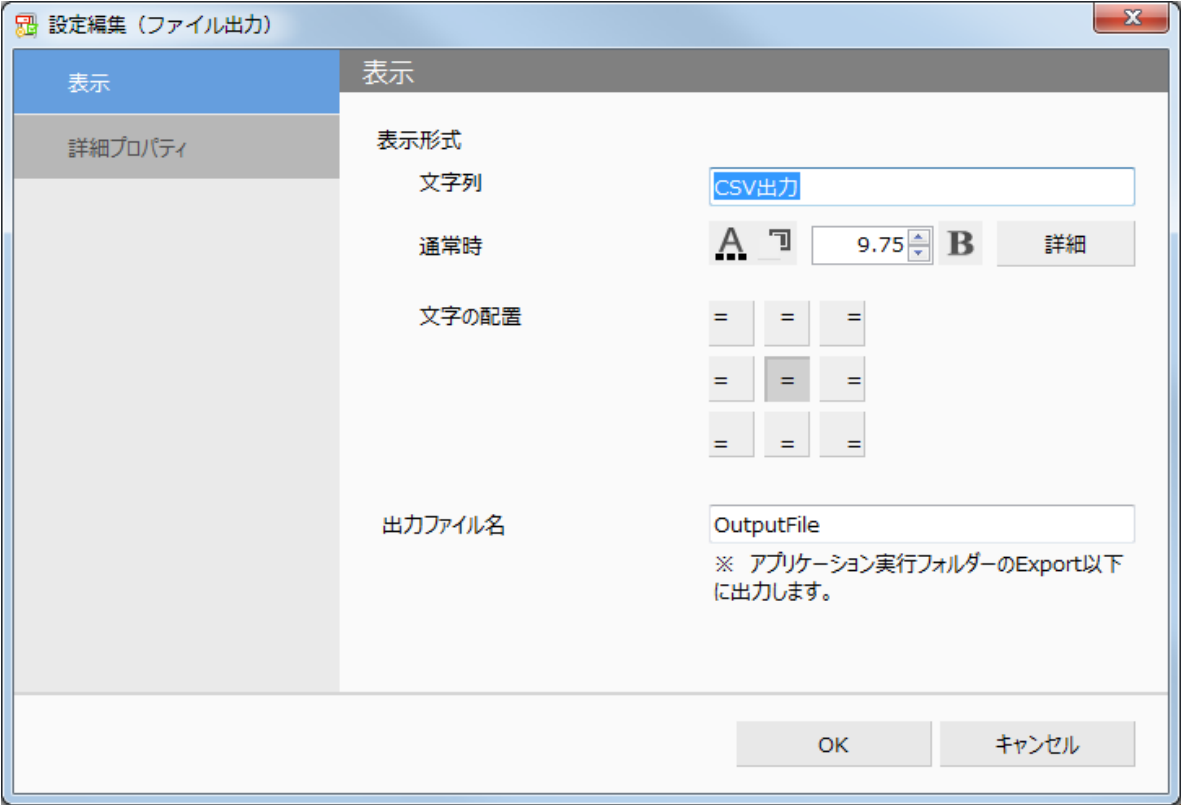
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtFileOutputButton_1
▶ 位置	3, 6
▶ サイズ	120, 30
表示文字列	CSV出力
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ / 上端中央 / 上端右寄せ / 中段左寄せ / 中段中央 / 中段右寄せ / 下段左寄せ / 下段中央 / 下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

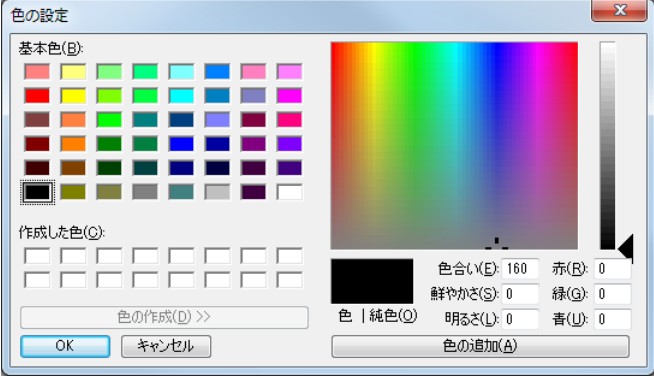
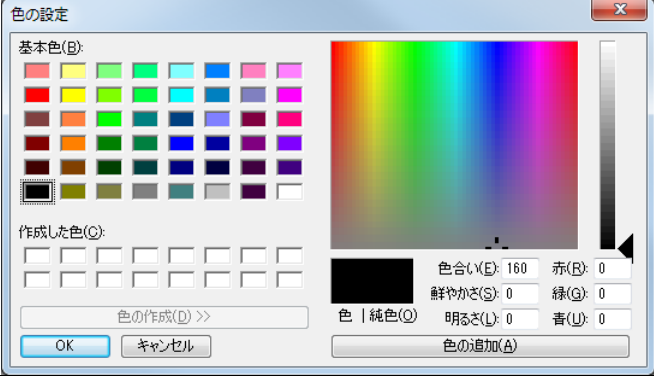
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

	上段左寄せ		上段中央		上段右寄せ
	中段左寄せ		中段中央		中段右寄せ
	下段左寄せ		下段中央		下段右寄せ

出力ファイル名

出力する CSV ファイル名を設定します。実際に出力されるファイル名には、拡張子や日時が付与されます。

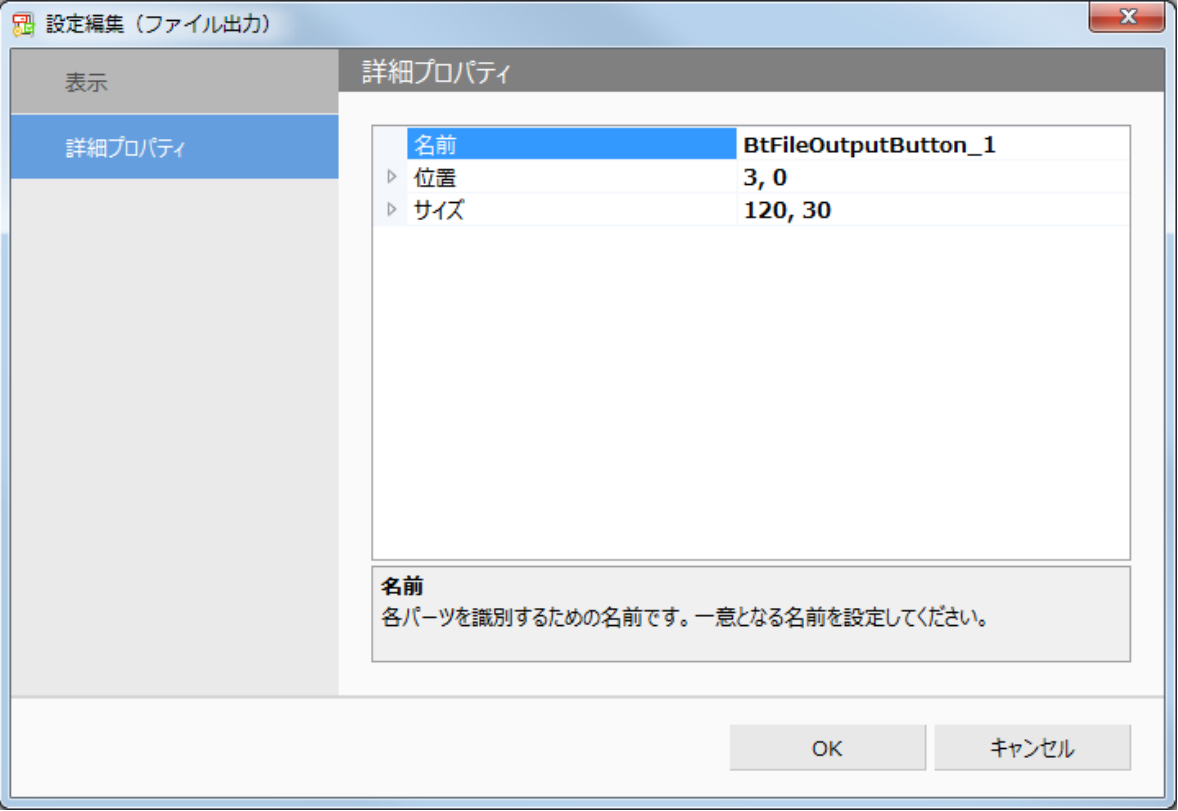
例えば、「OutputFile」と設定して「ファイル出力」ボタンを 2016 年 8 月 31 日 9 時 28 分 20 秒に押した場合、実際に出力されるファイル名は「OutputFile_20160831092820.csv」となります。

CSV ファイルは、PC アプリ実行フォルダーの Export フォルダー以下に出力されます。

※ファイル名に絶対パスを指定することもできます。

例えば、C ドライブの BT-H1A フォルダーに「OutputFile」というファイル名で保存する場合、
「C:¥BT-H1A¥OutputFile」と設定します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

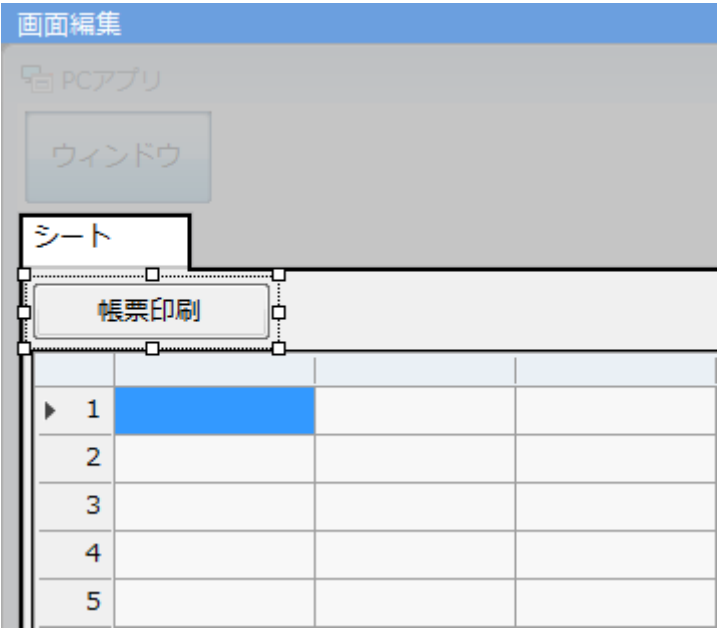
6.3.3. 帳票印刷ボタン

シート内のテーブル上にあるデータを帳票印刷します。印刷形式やフォーマットを設定します。

■ 選択するパーツ

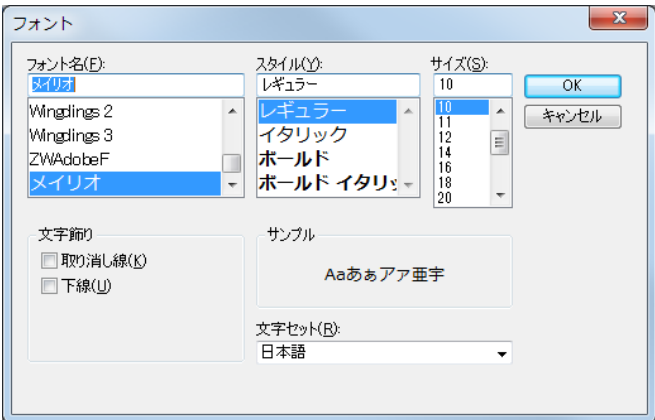
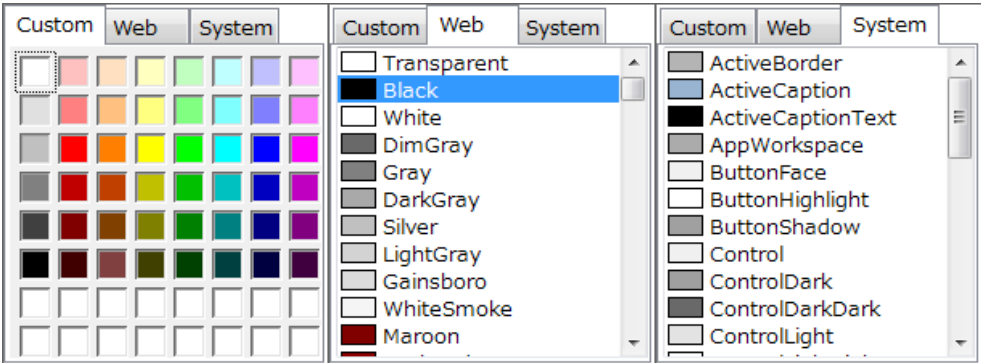
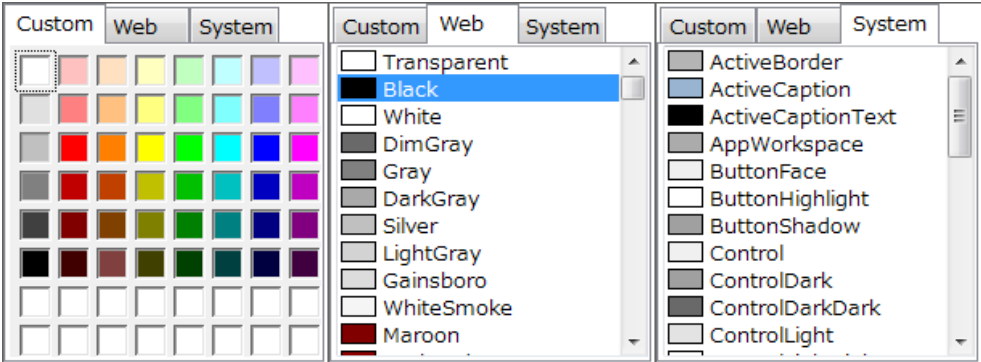


■ 配置したときの画面



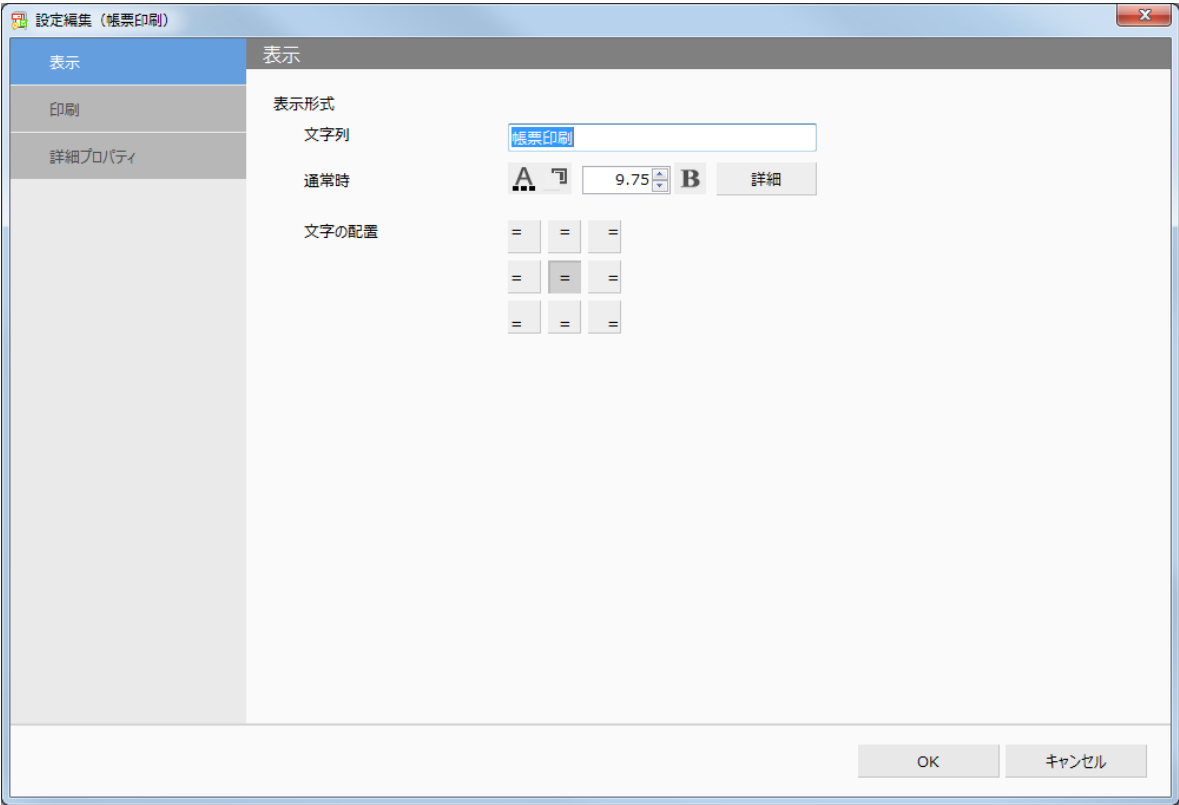
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtReportPrintButton_1
▶ 位置	3, 6
▶ サイズ	120, 30
表示文字列	帳票印刷
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ / 上端中央 / 上端右寄せ / 中段左寄せ / 中段中央 / 中段右寄せ / 下段左寄せ / 下段中央 / 下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

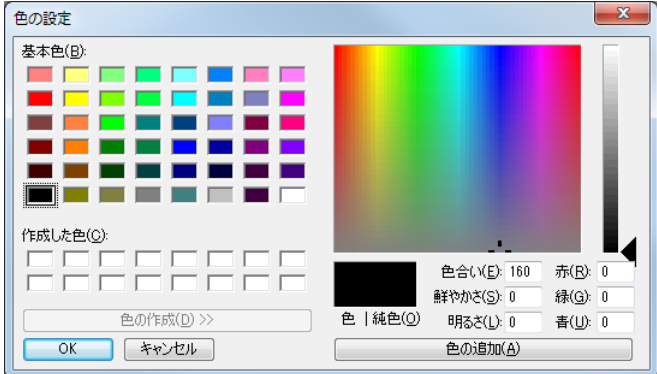
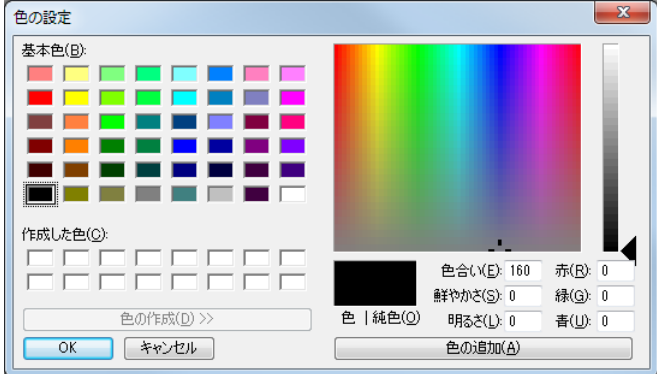
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

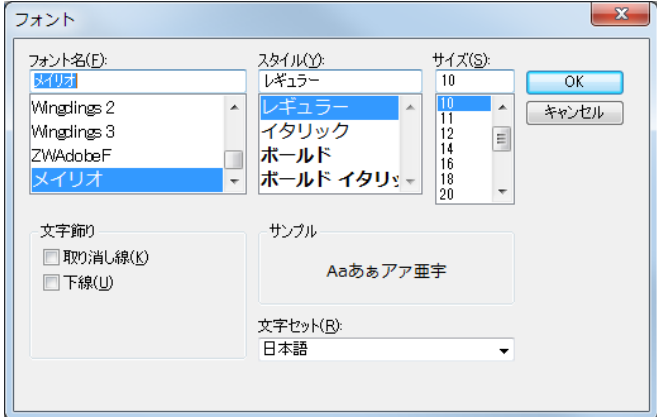
■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

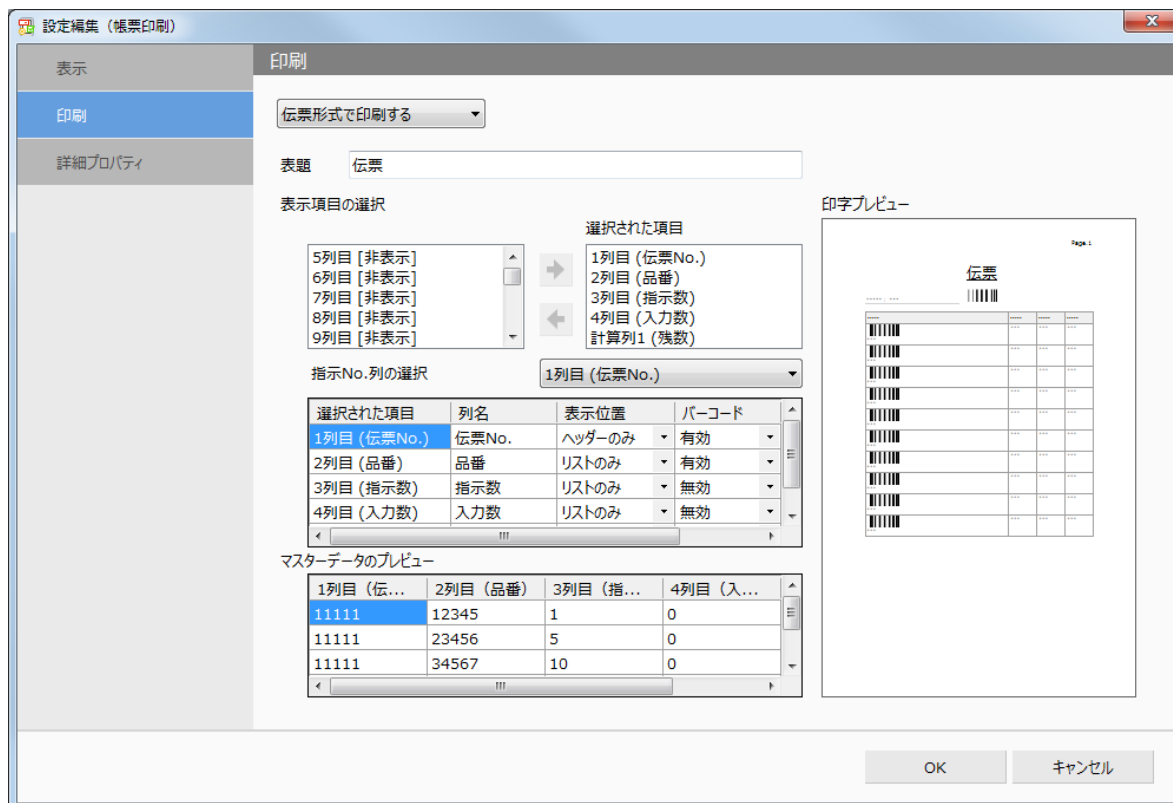
9.75	フォントサイズを設定します。
B	文字列を太字にします。
詳細	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

=	上段左寄せ	=	上段中央	=	上段右寄せ
=	中段左寄せ	=	中段中央	=	中段右寄せ
=	下段左寄せ	=	下段中央	=	下段右寄せ

■印刷



設定編集 (帳票印刷)

表示 印刷 詳細プロパティ

印刷 伝票形式で印刷する

表題 伝票

表示項目の選択

5列目 [非表示] 6列目 [非表示] 7列目 [非表示] 8列目 [非表示] 9列目 [非表示]

選択された項目

1列目 (伝票No.) 2列目 (品番) 3列目 (指示数) 4列目 (入力数) 計算列1 (残数)

指示No.列の選択 1列目 (伝票No.)

選択された項目	列名	表示位置	バーコード
1列目 (伝票No.)	伝票No.	ヘッダーのみ	有効
2列目 (品番)	品番	リストのみ	有効
3列目 (指示数)	指示数	リストのみ	無効
4列目 (入力数)	入力数	リストのみ	無効

マスターデータのプレビュー

1列目 (伝...	2列目 (品番)	3列目 (指...	4列目 (入...
11111	12345	1	0
11111	23456	5	0
11111	34567	10	0

印字プレビュー

Page 1

伝票

OK キャンセル

印刷形式の選択

プリンタ印刷する形式を選択します。「表形式」は現在表示しているテーブル内のデータを、そのままリストで印刷します。「伝票形式」は設定した内容（ヘッダーの定義、表示列の選択、バーコードの有無など）に従って印刷します。

【選択項目】表形式で印刷する／伝票形式で印刷する

・表形式の印刷イメージ

Page.1

伝票No.	品番	指示数	入力数	残数
11111	12345	1	0	1
11111	23456	5	0	5
11111	34567	10	0	10
11111	45678	20	0	20
22222	56789	3	0	3
22222	67890	6	0	6
22222	78901	9	0	9
22222	89012	10	0	10
33333	12345	6	0	6
33333	23456	10	0	10
33333	34567	15	0	15
33333	45678	25	0	25
44444	56789	8	0	8
44444	67890	11	0	11

・伝票形式の印刷イメージ

Page.1

伝票

伝票No. : 11111



品番	指示数	入力数	残数
 12345	1	0	1
 23456	5	0	5
 34567	10	0	10
 45678	20	0	20

表題

「伝票形式で印刷する」を選択したときに設定が有効です。帳票の標題を設定します。

表示項目の選択

「伝票形式で印刷する」を選択したときに設定が有効です。テーブルから伝票のヘッダーやリストに表示する列を選択します。

・指示 No.列の選択

指示 No.ごとに作業リストを印刷するため、「表示項目の選択」で選択した項目から、指示 No.に該当する列を指定します。

表では、「表示項目の選択」で選択した項目の、列名や表示位置やバーコードの有無を設定します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ

名前	BtReportPrintButton_1
位置	614, 2
サイズ	75, 73
バーコード種別	CODE128

名前
各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK キャンセル

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080
バーコード種別	印字するバーコードの種別を設定します。 【選択項目】 CODE128／CODE39／CODE93

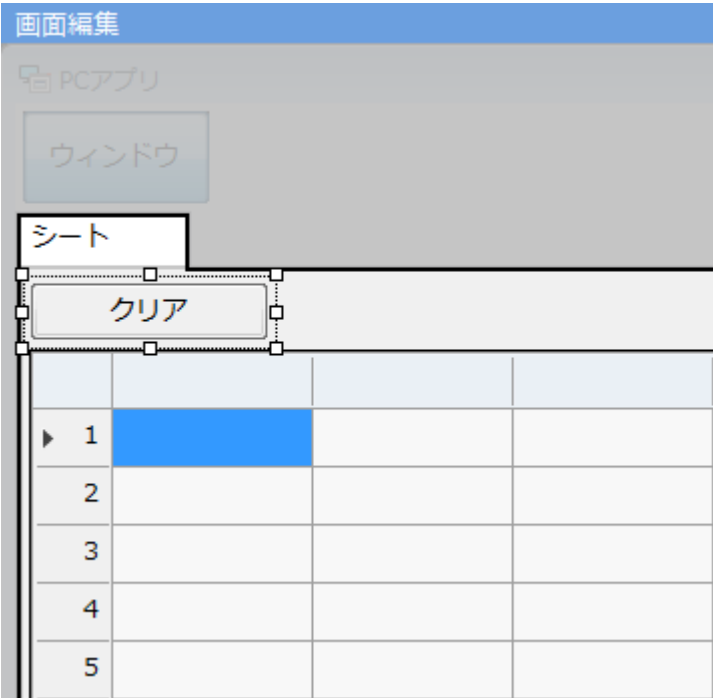
6.3.4. クリアボタン

テーブルの任意の列をクリアします。クリアした列のデータは 0 になります。

■ 選択するパーツ

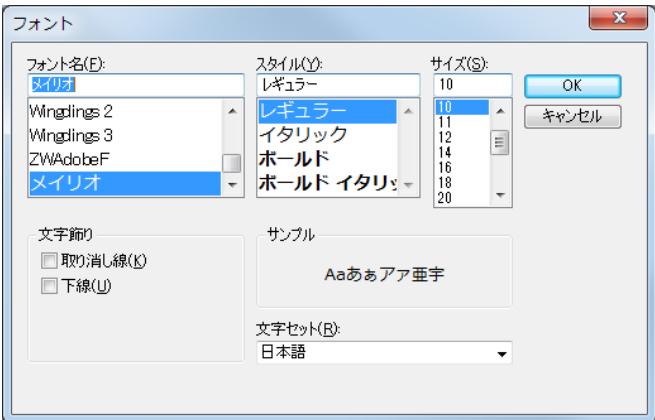
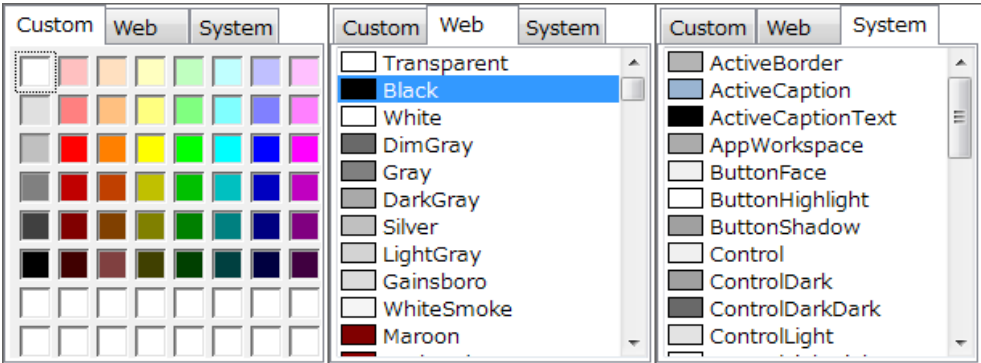
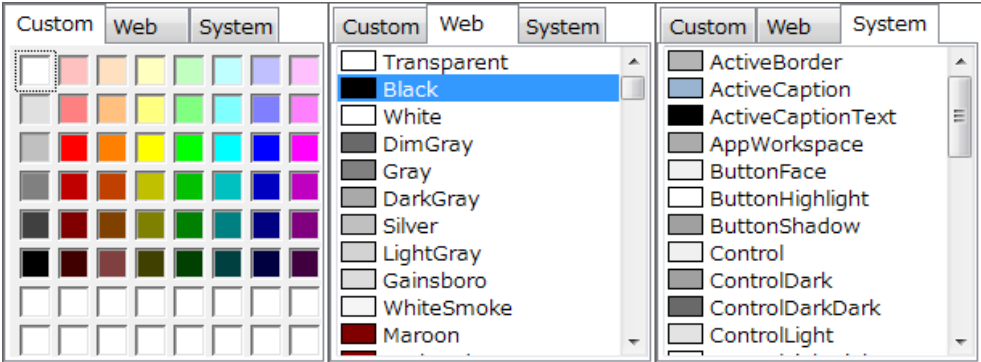


■ 配置したときの画面



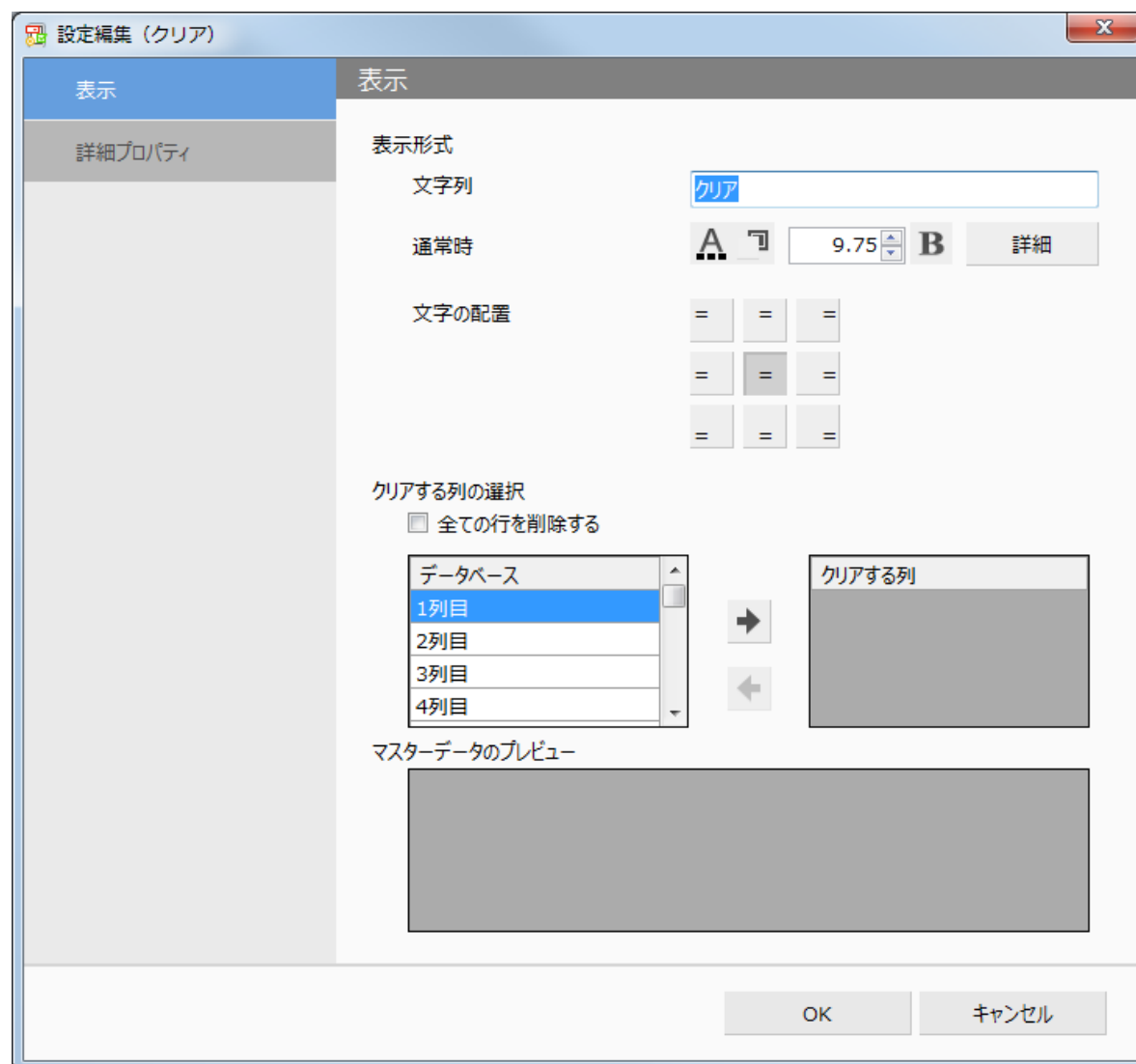
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtClearButton_1
位置	3, 6
サイズ	120, 30
表示文字列	クリア
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ / 上端中央 / 上端右寄せ / 中段左寄せ / 中段中央 / 中段右寄せ / 下段左寄せ / 下段中央 / 下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

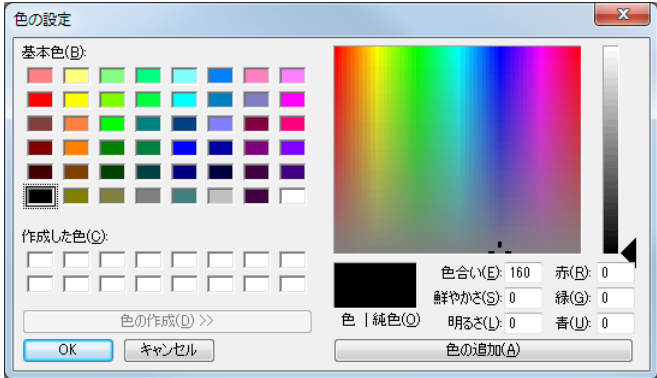
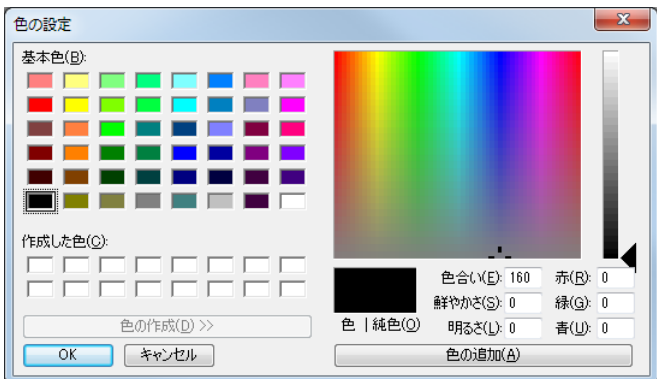
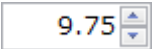
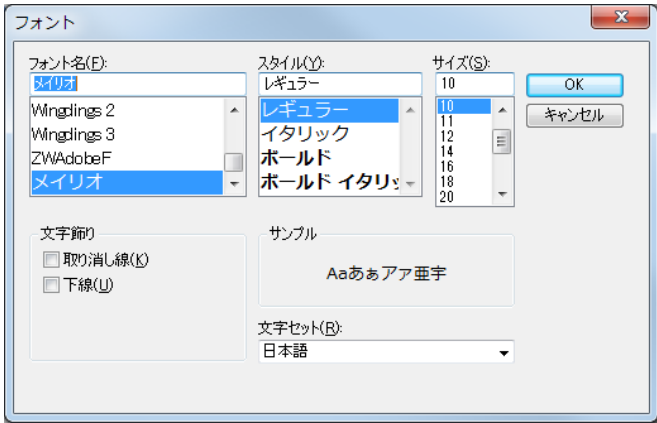
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

	上段左寄せ		上段中央		上段右寄せ
	中段左寄せ		中段中央		中段右寄せ
	下段左寄せ		下段中央		下段右寄せ

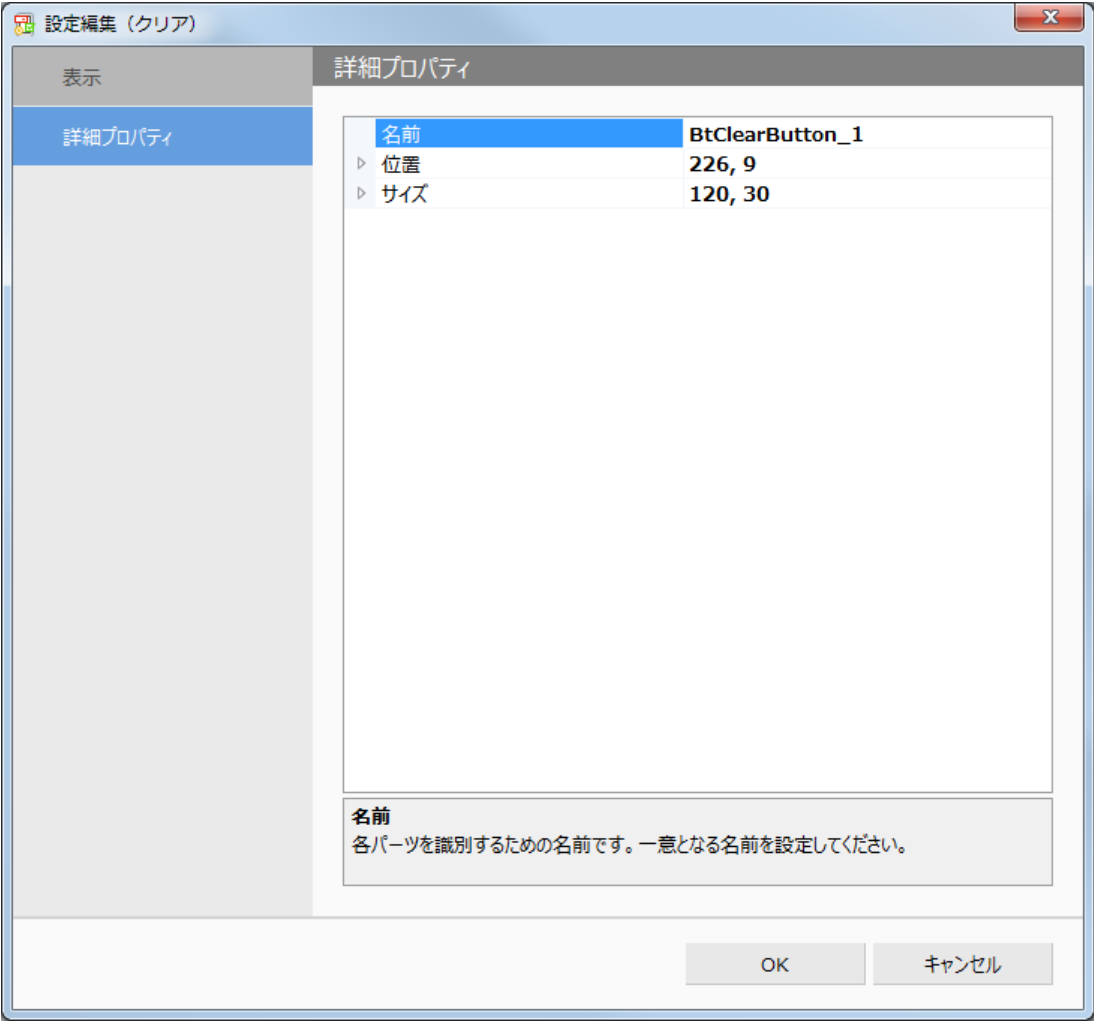
クリアする列の選択

データを 0 にする列を選択します。「全ての行を削除する」にチェックを入れると、テーブルの全レコードを削除します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

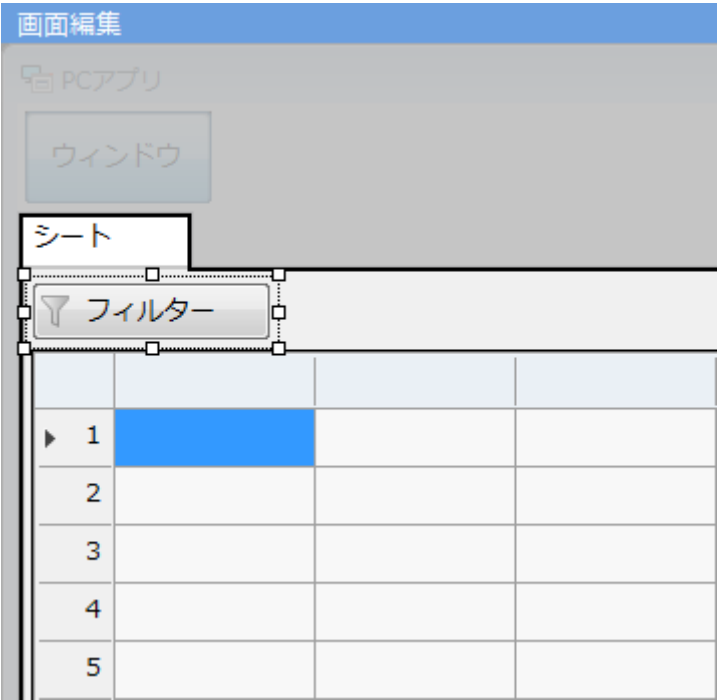
6.3.5. フィルターボタン

テーブルをあらかじめ設定した値と条件で絞り込むパーツです。フィルター条件を設定します。

■ 選択するパーツ

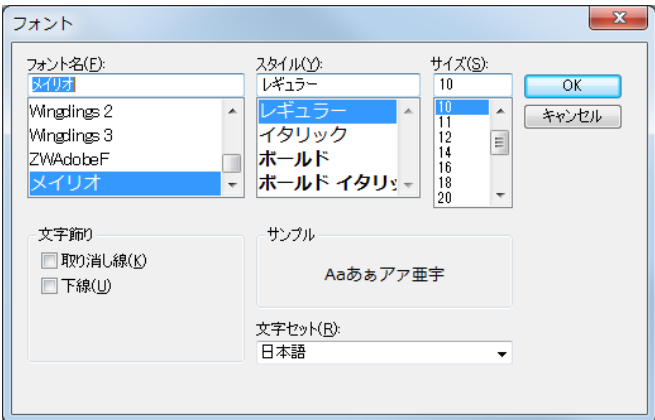
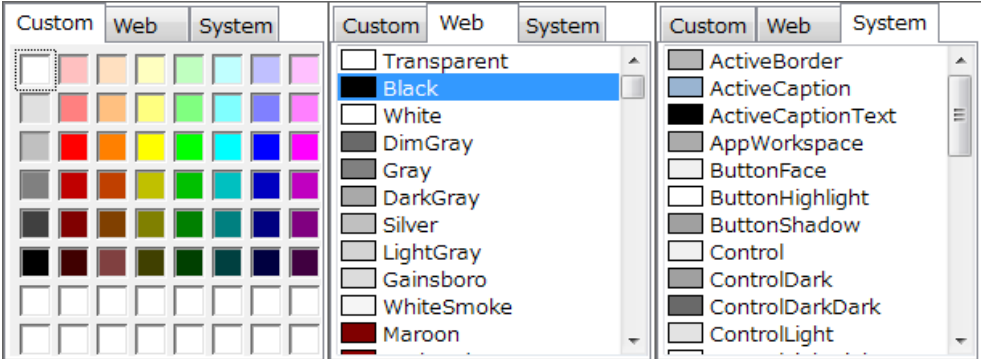


■ 配置したときの画面



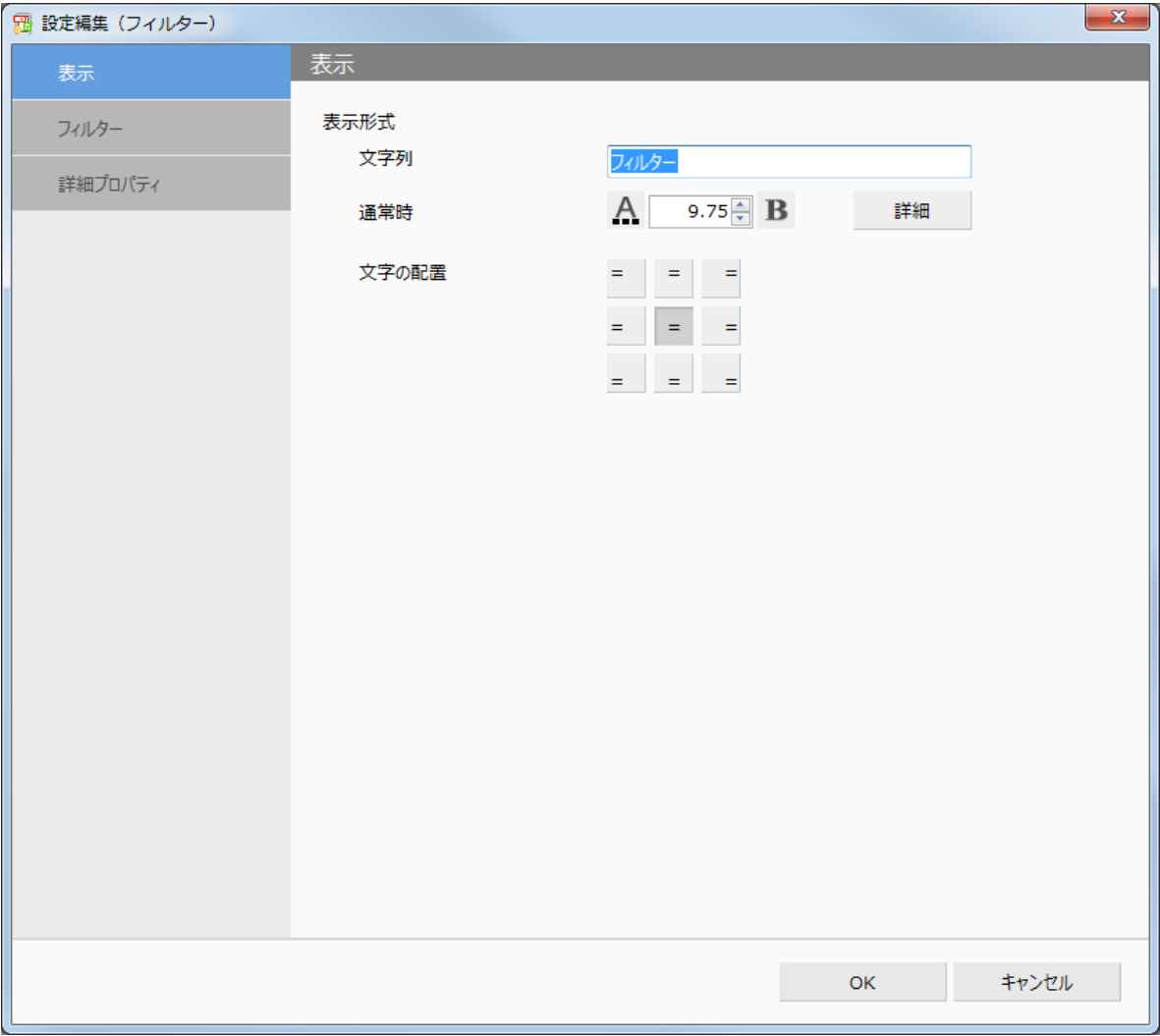
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtFilterButton_1
位置	3, 6
サイズ	120, 30
表示文字列	フィルター
文字の配置	中段中央
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、 Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、 縦幅 : 0~1080
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ／上端中央／上端右寄せ／中段左寄せ／中段中央／中段右寄せ ／下段左寄せ／下段中央／下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。

詳細

フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

フォント

フォント名(E):

メイリオ

スタイル(S):

レギュラー

サイズ(S):

10

Wingdings 2

Wingdings 3

ZWAdobeF

メイリオ

レギュラー

イタリック

ボールド

ボールド イタリ:

10

11

12

14

16

18

20

OK

キャンセル

文字飾り

☐ 取り消し線(K)
 ☐ 下線(U)

サンプル

Aaああアア垂宇

文字セット(B):

日本語

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

=	上段左寄せ	=	上段中央	=	上段右寄せ
=	中段左寄せ	=	中段中央	=	中段右寄せ
=	下段左寄せ	=	下段中央	=	下段右寄せ

■フィルター

設定編集 (フィルター)

表示

フィルター

詳細プロパティ

フィルター

フィルター条件の設定

追加

削除

条件式

上記の条件の

全てが成り立つ場合

データ形式

☒ 文字列
 ☐ 数値
 ☐ 日付

比較対象

入力データ

0.000

小数点以下を設定する

比較条件

演算子および演算値の選択

0

年

マスターデータのプレビュー

OK

キャンセル

302 / 384

フィルター条件の設定

追加した条件式の一覧が表示されます。複数追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合」「いずれかが成り立つ場合」を選択します。

・データ形式

比較するデータの形式を選択します。

【選択項目】文字列／数値／日付

・比較対象

比較対象となる列をマスターデータから選択します。

・入力データ

比較するデータをマスターデータの列から選択、もしくは任意の値を設定します。

・比較条件

比較条件を設定します。「データ形式」によって、選択項目が以下のように変わります。

文字列の場合

【選択項目】と一致する／と前方一致する／と後方一致する／を含む／を含まない

数値の場合

【選択項目】と等しい／と等しくない／より大きい／より小さい／以上／以下

日付の場合

【選択項目】と同じ／と異なる／より後／より前／以降／以前

・演算子と演算値の選択

「比較対象」に演算をしてから、入力データと比較します。演算子と演算値を設定します。

データ形式：数値

データ形式：日付

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ

設定編集 (フィルター)

表示

フィルター

詳細プロパティ

詳細プロパティ

名前

位置

サイズ

BtFilterButton_1

3, 6

120, 30

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

キャンセル

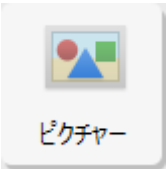
名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、 Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080

6.4. ビュー

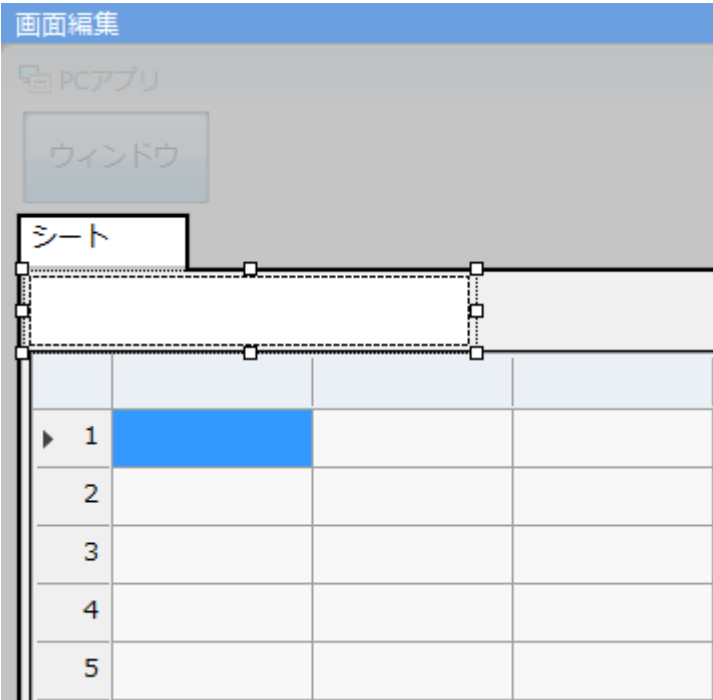
6.4.1. ピクチャービュー

PC アプリ上に画像を表示します。

■ 選択するパーツ

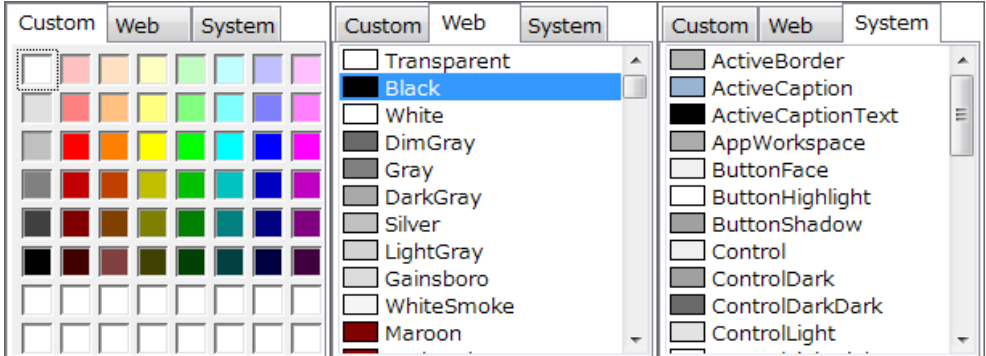


■ 配置したときの画面



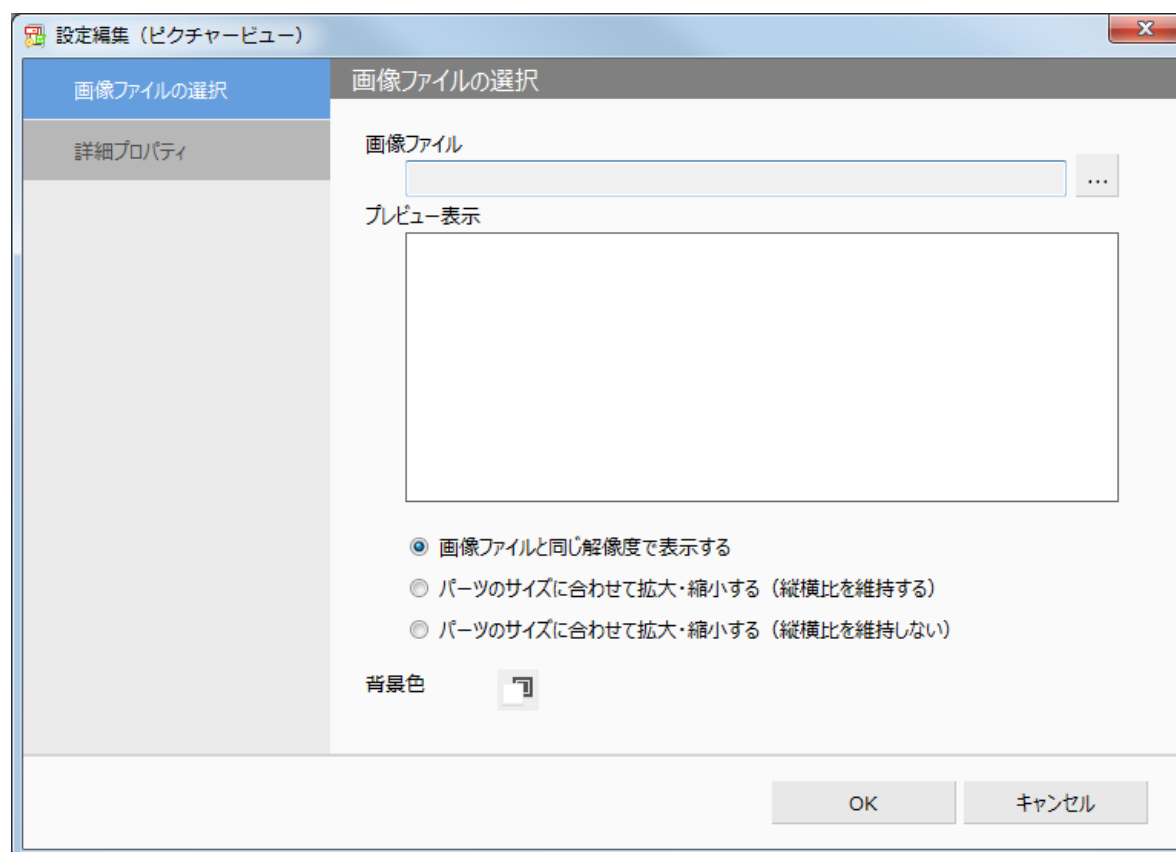
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtPicture_1
位置	3, 3
サイズ	220, 35
背景色	☐ White

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



画像ファイル

画像ファイルをプロジェクトに取り込みます。

プレビュー表示

画像のプレビューを表示します。画像のサイズについては以下の項目から選択できます。

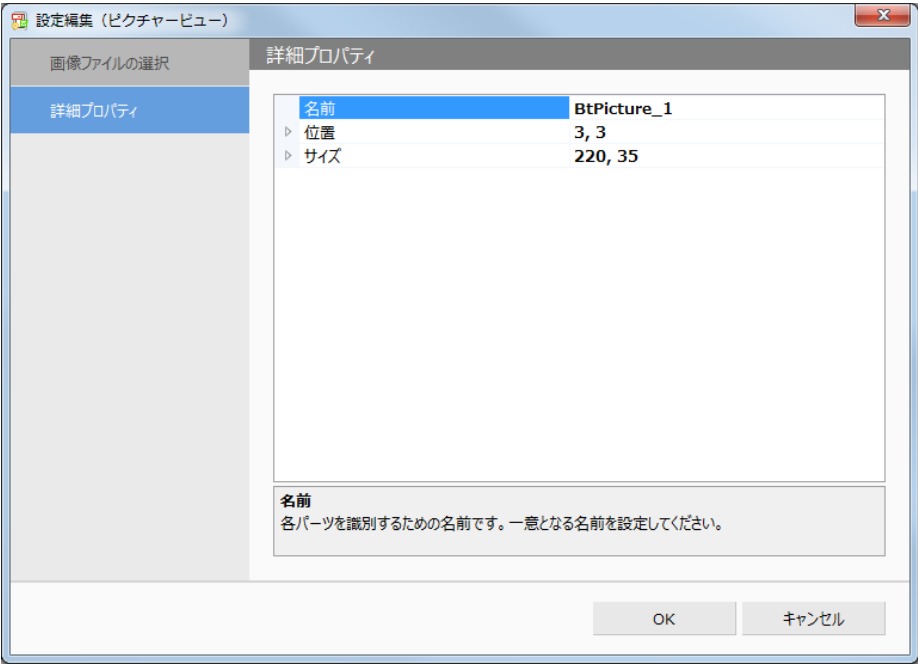
- 【選択項目】
- 画像ファイルと同じ解像度で表示する
- パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持する）
- パーツのサイズに合わせて拡大・縮小する（縦横比を維持しない）

背景色

パーツの背景色を設定します。



■詳細プロパティ

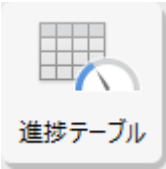


名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

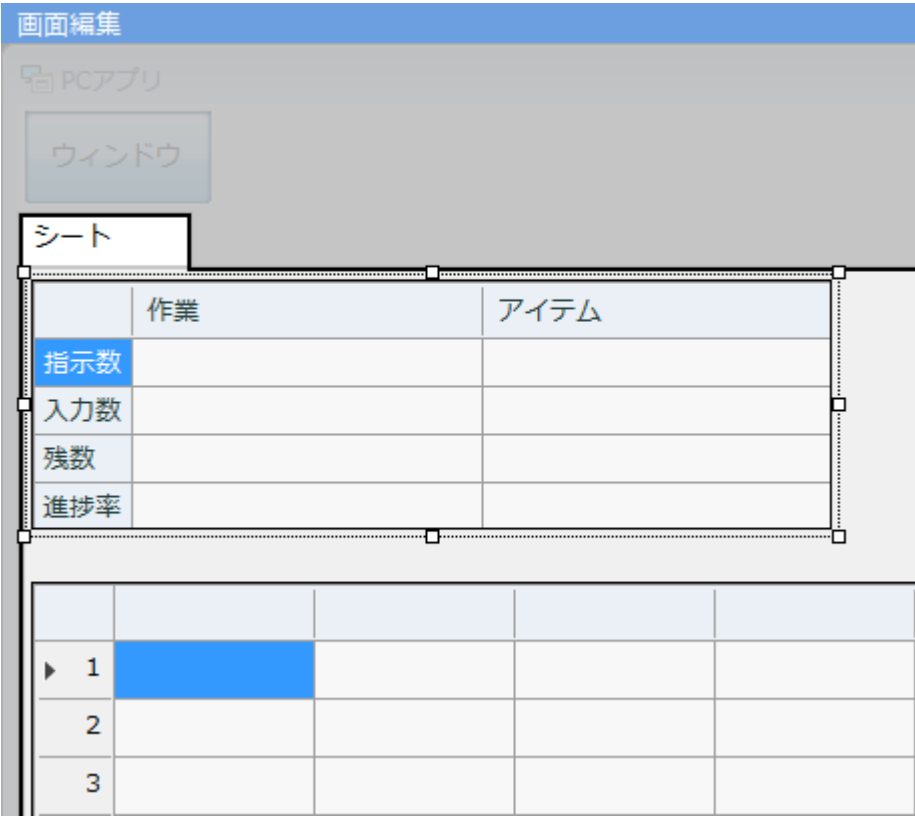
6.4.2. 進捗テーブルビュー

ハンディアプリで「マスター照合コントロール」を使用した場合（ピッキングなど）に、作業進捗の状態を一覧表示できます。

■ 選択するパーツ



■ 配置したときの画面



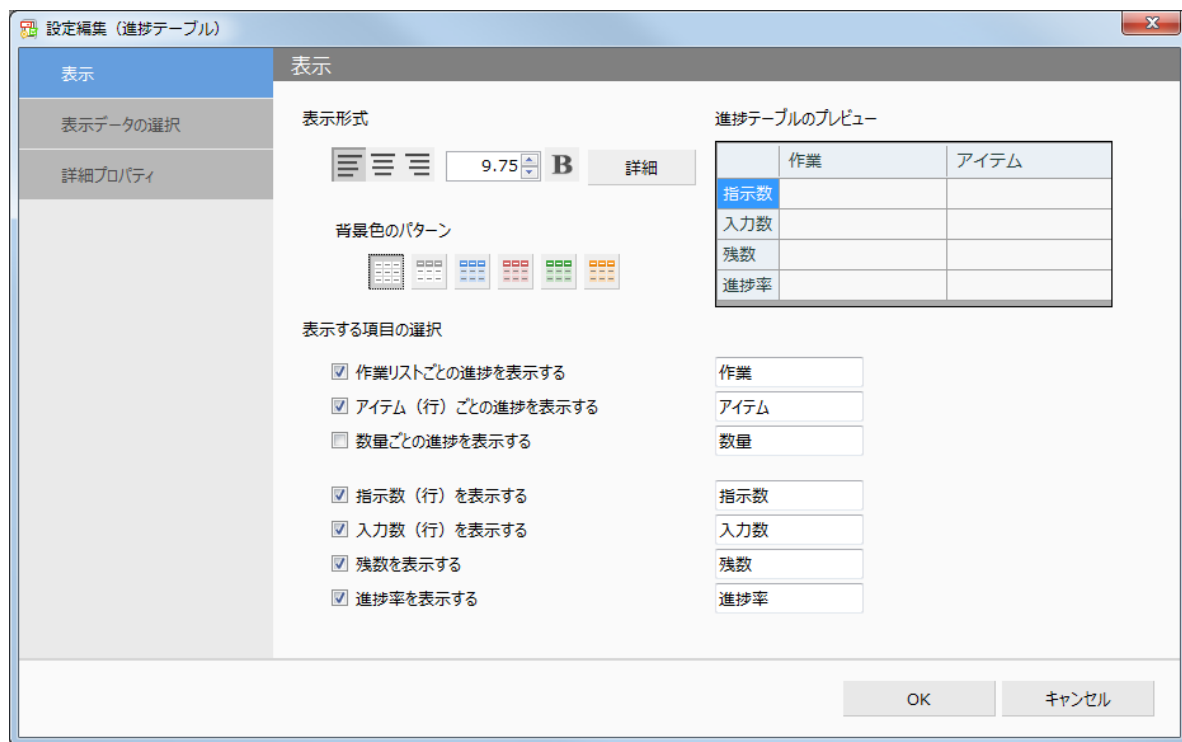
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtProgressTable_1
位置	3, 5
サイズ	400, 125
フォント	Meiryo, 9.75pt

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

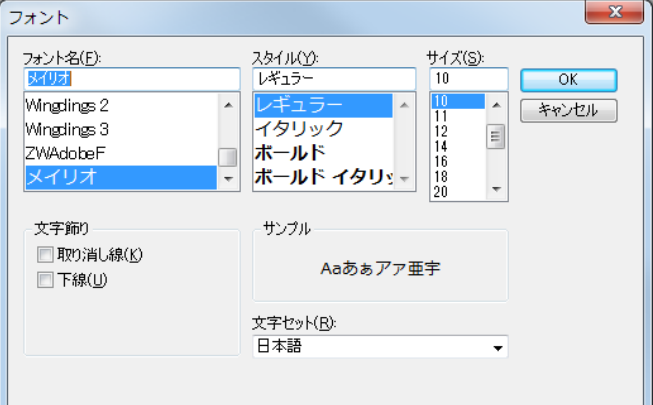
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

	パーツ内の配置を左寄せにします。
	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。

B	文字列を太字にします。
詳細	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・背景色の配色パターン

表の配色パターンを選択します。

【選択項目】 

表示する項目の選択

・作業リストごとの進捗を表示する

チェックを入れると作業リストの進捗をテーブルに表示します。テーブル内の列名も設定できます。

・アイテム（行）ごとの進捗を表示する

チェックを入れるとアイテムの進捗をテーブルに表示します。テーブル内の列名も設定できます。

・数量ごとの進捗を表示する

チェックを入れると数量の進捗をテーブルに表示します。テーブル内の列名も設定できます。

・指示数（行）を表示する

チェックを入れると指示数の行をテーブルに表示します。テーブル内の行名も設定できます。

・入力数（行）を表示する

チェックを入れると入力数の行をテーブルに表示します。テーブル内の行名も設定できます。

・残数を表示する

チェックを入れると残数の行をテーブルに表示します。テーブル内の行名も設定できます。

・進捗率を表示する

チェックを入れると進捗率の行をテーブルに表示します。テーブル内の行名も設定できます。

進捗テーブルのプレビュー

設定中の進捗テーブルのプレビューを確認できます。

■ 表示データの選択

設定編集 (進捗テーブル)

表示

表示データの選択

表示データの選択

作業No. (列) の選択 1列目 (伝票No.)

指示数 (列) の選択 3列目 (指示数)

入力数 (列) の選択 4列目 (入力数)

マスターデータのプレビュー

1列目 (伝票No.)	2列目 (品番)	3列目 (指示数)	4列目 (入力数)
11111	12345	1	0
11111	23456	5	0
11111	34567	10	0
11111	45678	20	0

OK キャンセル

表示データの選択

・ 作業 No. (列) の選択

マスターデータから、進捗テーブルに表示する対象（作業 No.）の列を選択します。

・ 指示数 (列) の選択

マスターデータから、進捗テーブルに表示する対象（指示数）の列を選択します。

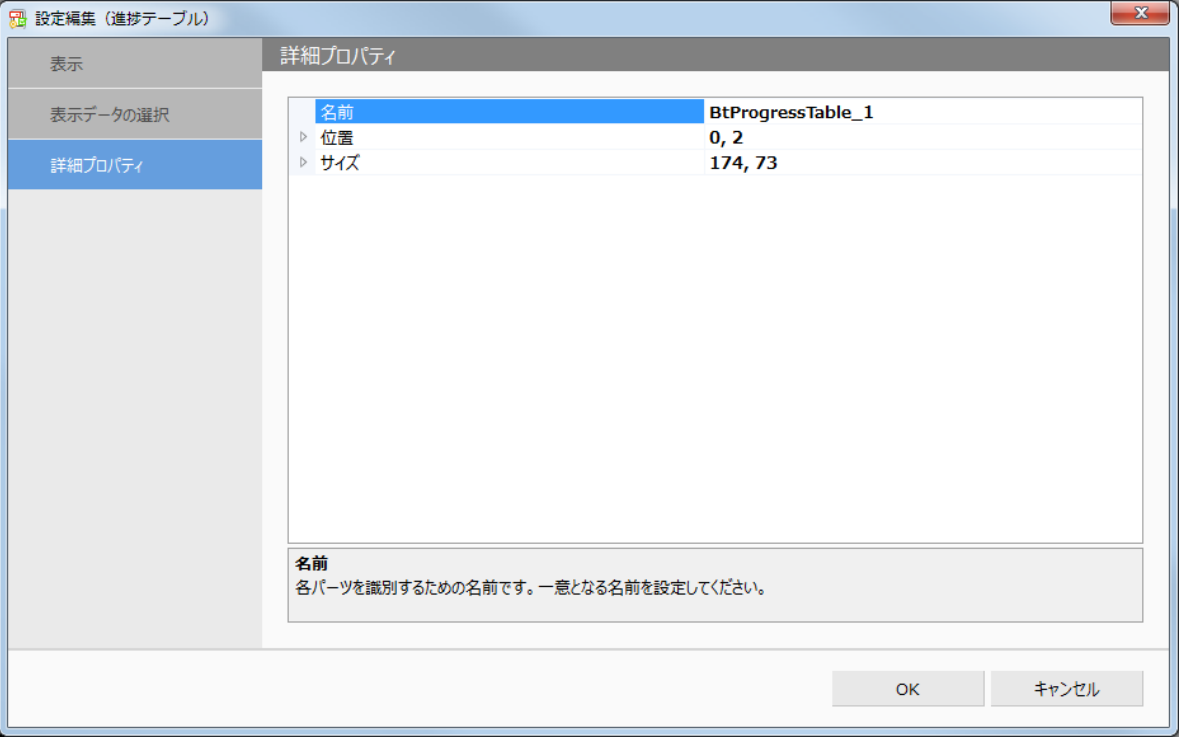
・ 入力数 (列) の選択

マスターデータから、進捗テーブルに表示する対象（入力数）の列を選択します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ

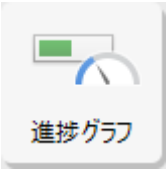


名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0～1920、 Y 座標 : 0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0～1920、縦幅 : 0～1080

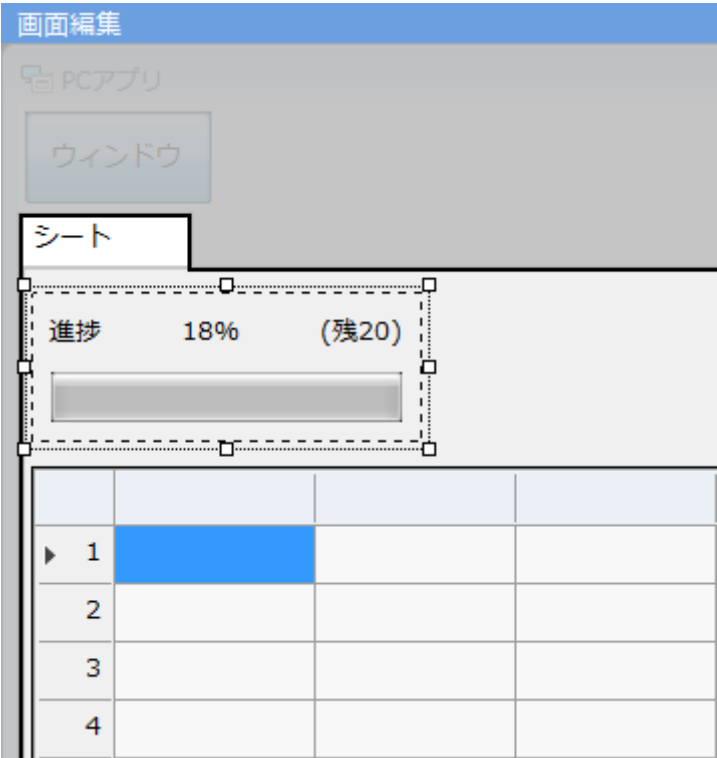
6.4.3. 進捗グラフビュー

ハンディアプリで「マスター照合コントロール」を使用した場合（ピッキングなど）に、作業進捗の状態をグラフ表示できます。

■ 選択するパーツ



■ 配置したときの画面



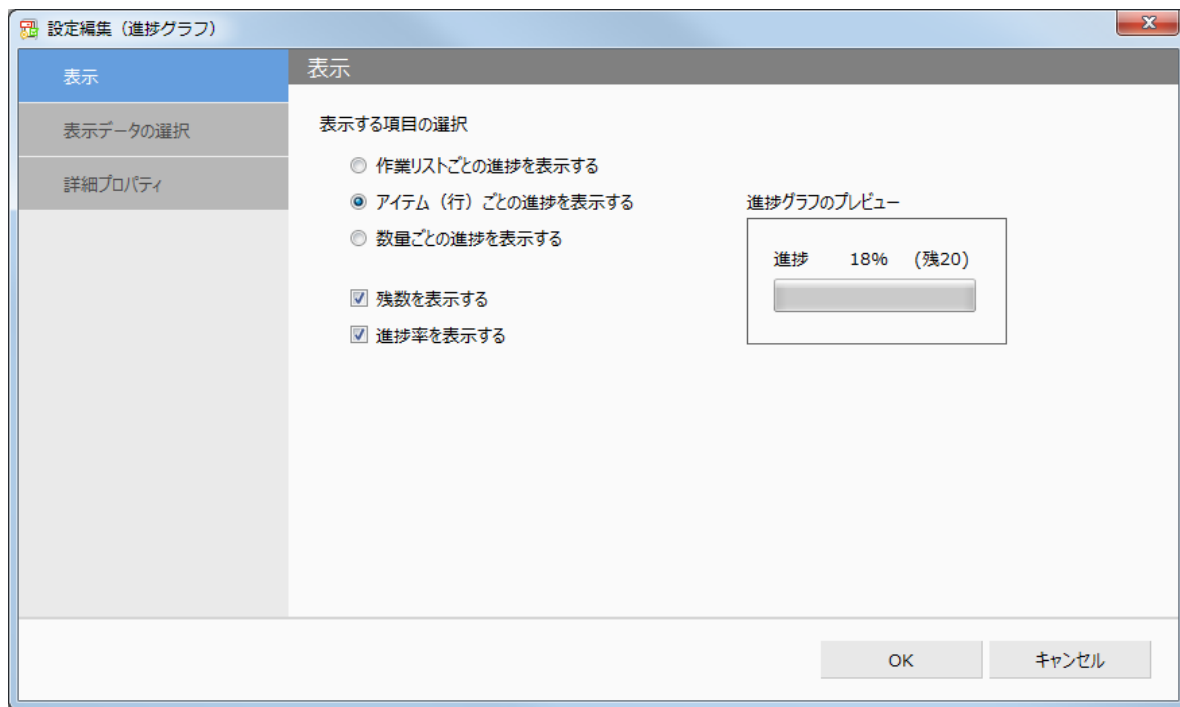
■ 選択したときのプロパティ表示

名前	BtProgressGraph_1
▶ 位置	3, 11
▶ サイズ	195, 75

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示する項目の選択

進捗グラフで表示する対象を選択します。

【選択項目】作業リストごとの進捗を表示する／アイテム（行）ごとの進捗を表示する／数量ごとの進捗を表示する

・残数を表示する

チェックを入れると、進捗グラフ上部に残数を表示します。

・進捗率を表示する

チェックを入れると、進捗グラフ上部に進捗率を表示します。

進捗グラフのプレビュー

設定中の進捗グラフのプレビューを確認できます。

■表示データの選択

設定編集 (進捗グラフ)

表示

表示データの選択

表示データの選択

作業No. (列) の選択 1列目

指示数 (列) の選択 2列目

入力数 (列) の選択 3列目

マスターデータのプレビュー

OK キャンセル

表示データの選択

・作業 No. (列) の選択

マスターデータから、進捗グラフに表示する対象（作業 No.）の列を選択します。

・指示数 (列) の選択

マスターデータから、進捗グラフに表示する対象（指示数）の列を選択します。

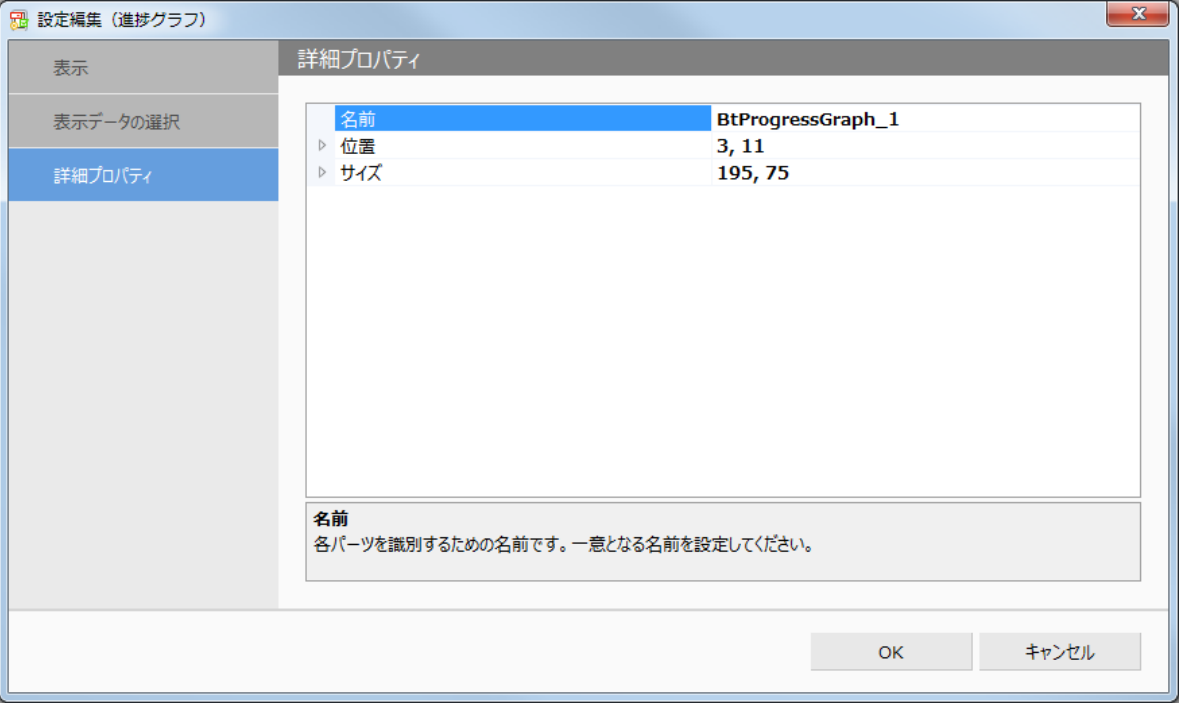
・入力数 (列) の選択

マスターデータから、進捗グラフに表示する対象（入力数）の列を選択します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

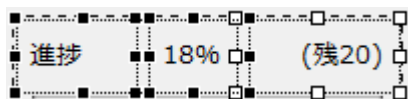
■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X座標,Y座標) 【設定範囲】X座標：0～1920、Y座標：0～1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】横幅：0～1920、縦幅：0～1080

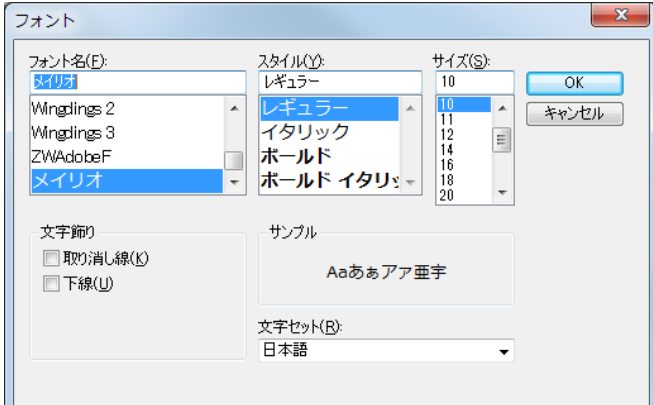
ラベル（内部パーツ）について

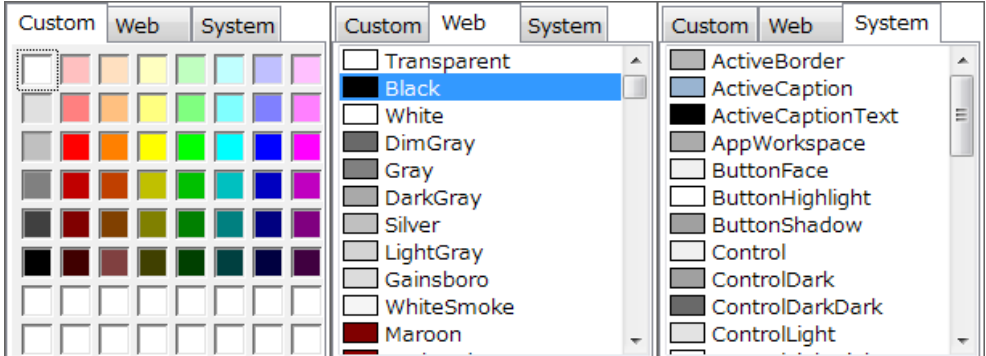
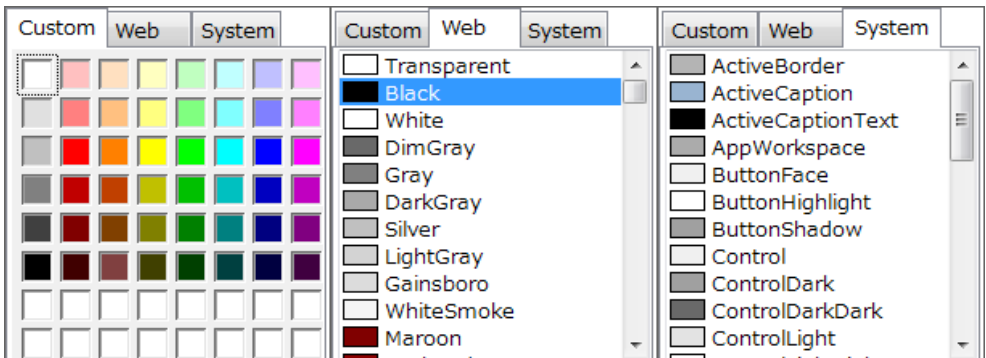
■配置したときの画像



■選択したときのプロパティ表示

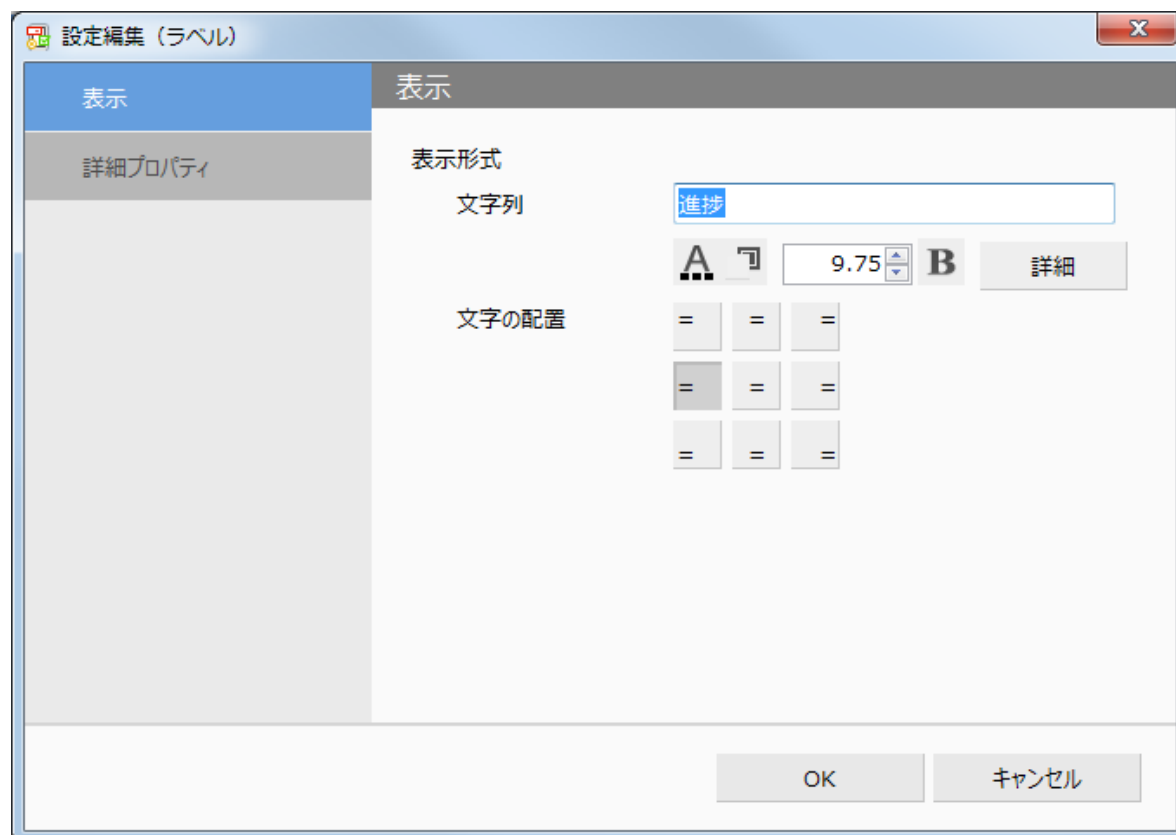
名前	BtProgressionLabel_1
位置	5, 5
サイズ	60, 30
枠線	なし
表示文字列	進捗
文字の配置	中段左寄せ
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText
背景色	□ Control

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体
表示文字列	表示する文字列を設定します。
文字の配置	パーツ内の配置を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。  【選択項目】 上端左寄せ／上端中央／上端右寄せ／中段左寄せ／中段中央／中段右寄せ ／下段左寄せ／下段中央／下段右寄せ
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

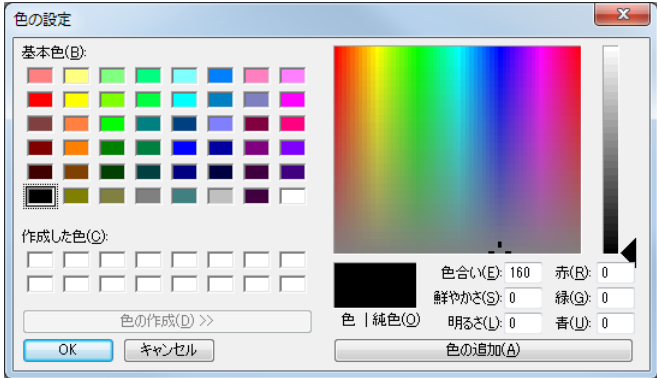
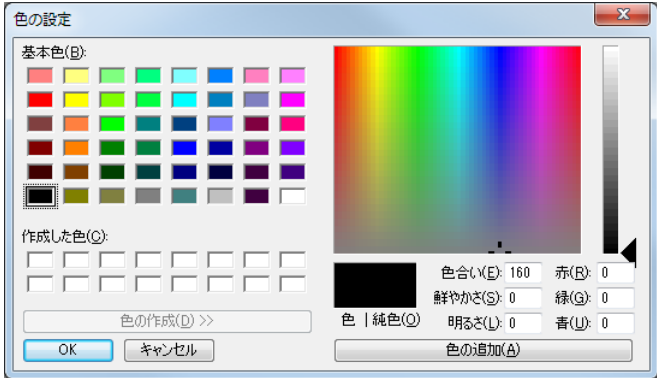
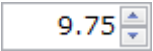
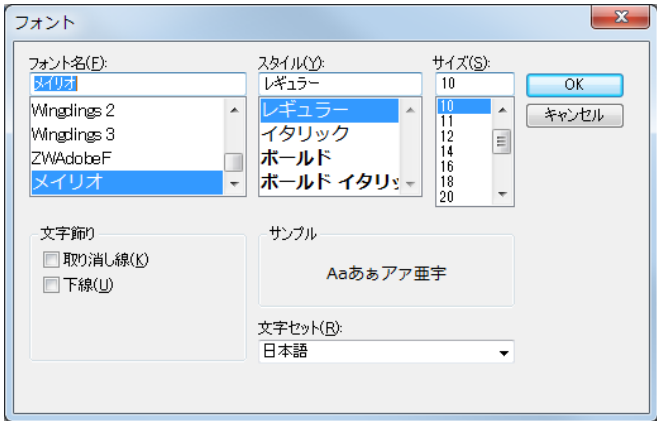
配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

表示する文字列、色、フォントサイズなどを設定します。

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・文字の配置

パーツ内の文字の配置を設定します。

	上段左寄せ		上段中央		上段右寄せ
	中段左寄せ		中段中央		中段右寄せ
	下段左寄せ		下段中央		下段右寄せ

■詳細プロパティ

設定編集 (ラベル)

表示

詳細プロパティ

詳細プロパティ

名前

BtProgressionLabel_1

位置

5, 5

サイズ

60, 30

枠線

なし

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、 Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080
枠線	パーツの枠を設定します。 【選択項目】 なし／線／立体

プログレスバー（内部パーツ）について

■配置したときの画像



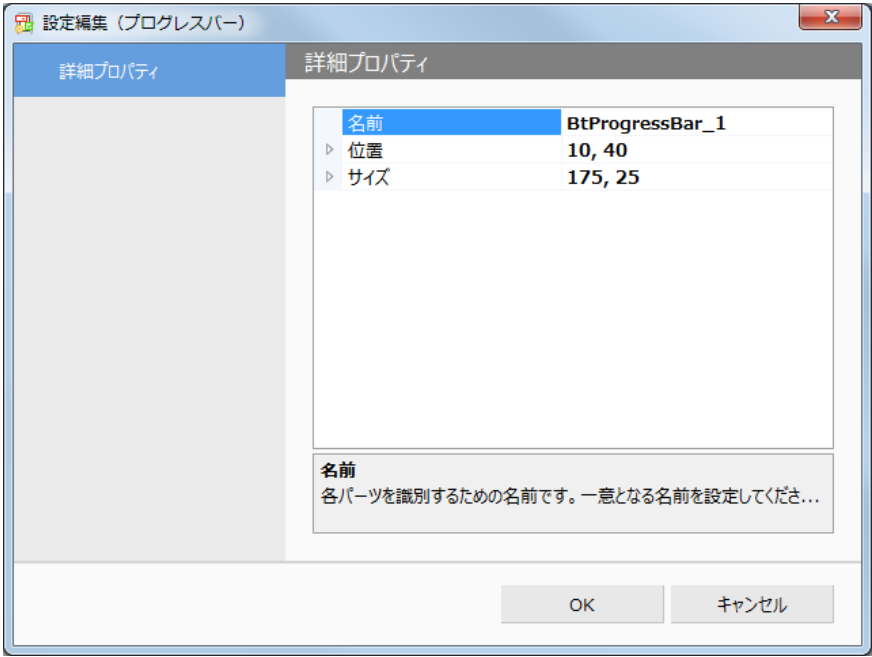
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtProgressBar_1
▶ 位置	10, 40
▶ サイズ	175, 25

名前	パーツの名前を確認します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
位置	パーツの左上の位置を設定します。(X 座標,Y 座標) 【設定範囲】 X 座標 : 0~1920、Y 座標 : 0~1080
サイズ	パーツのサイズを設定します。(横幅,縦幅) 【設定範囲】 横幅 : 0~1920、縦幅 : 0~1080

6.5. 画面構成要素

画面リスト「[4.8.画面リスト \(PC アプリ\)](#)」で、追加できる PC アプリの構成要素について説明します。

6.5.1. ウィンドウ

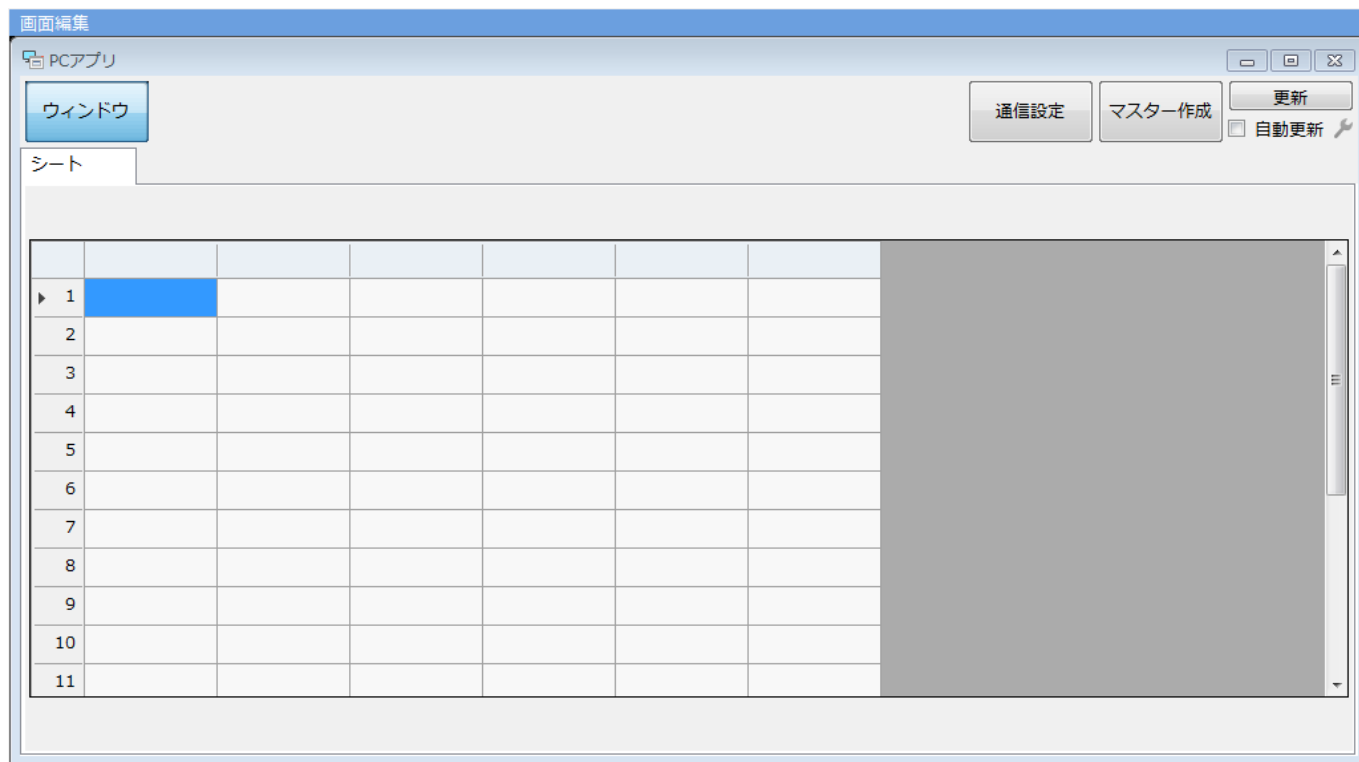
画面リスト「[4.8.画面リスト \(PC アプリ\)](#)」で、「画面」ボタンを押下して「ウィンドウ」を選択すると追加できます。新しく PC アプリの画面を作成するときに使用します。

■選択する項目

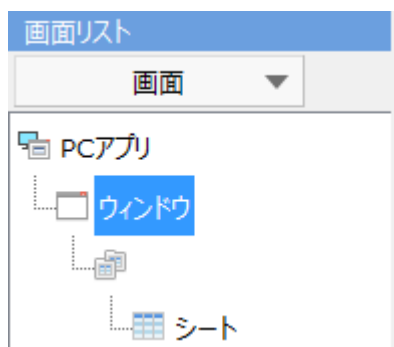


ウィンドウ

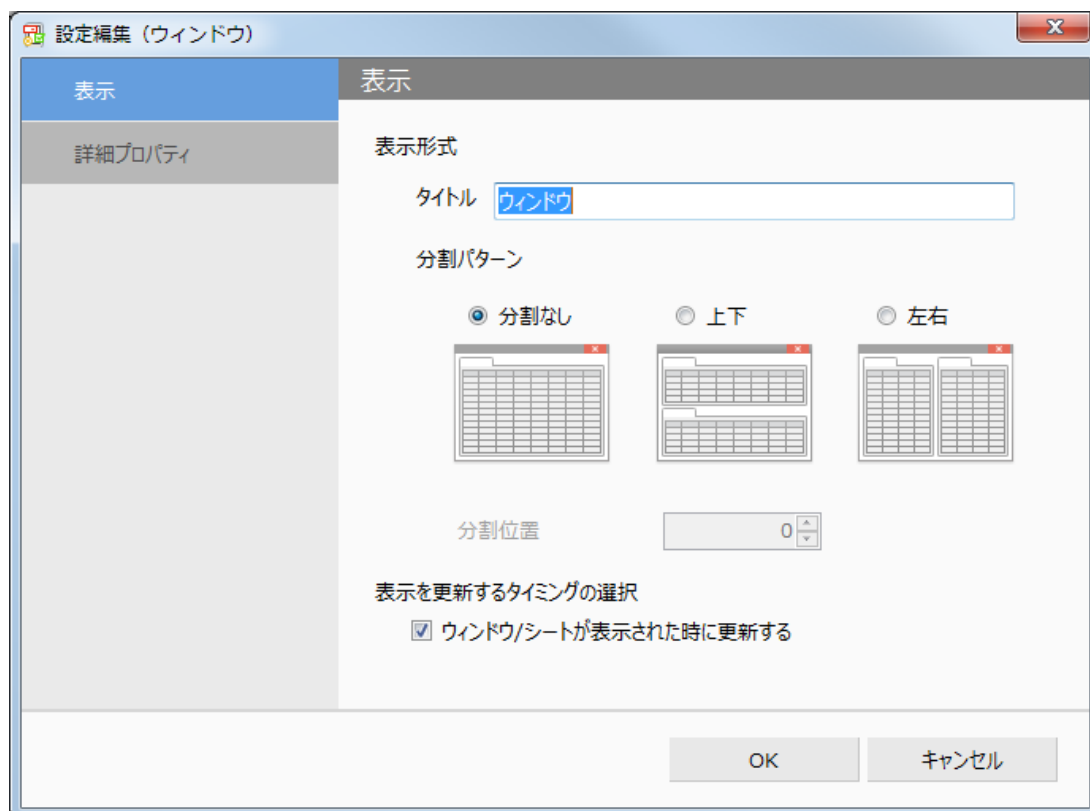
■ウィンドウ



画面リストの「ウィンドウ」をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



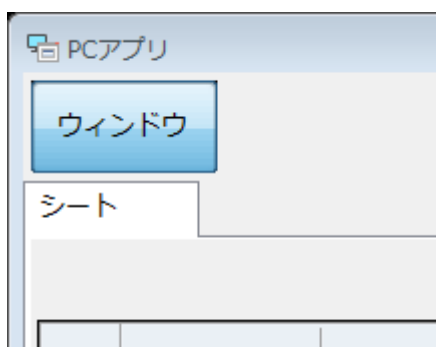
■表示



表示形式

・タイトル

ウィンドウのタイトルを設定します。PC アプリ上部のボタンにもタイトルが反映されます。



・分割パターン

ウィンドウ上に配置するグループの配置パターンを選択します。

※グループについては「[4.9 画面編集 \(PC アプリ\)](#)」を参照してください。

【選択項目】分割なし／上下／左右

・分割位置

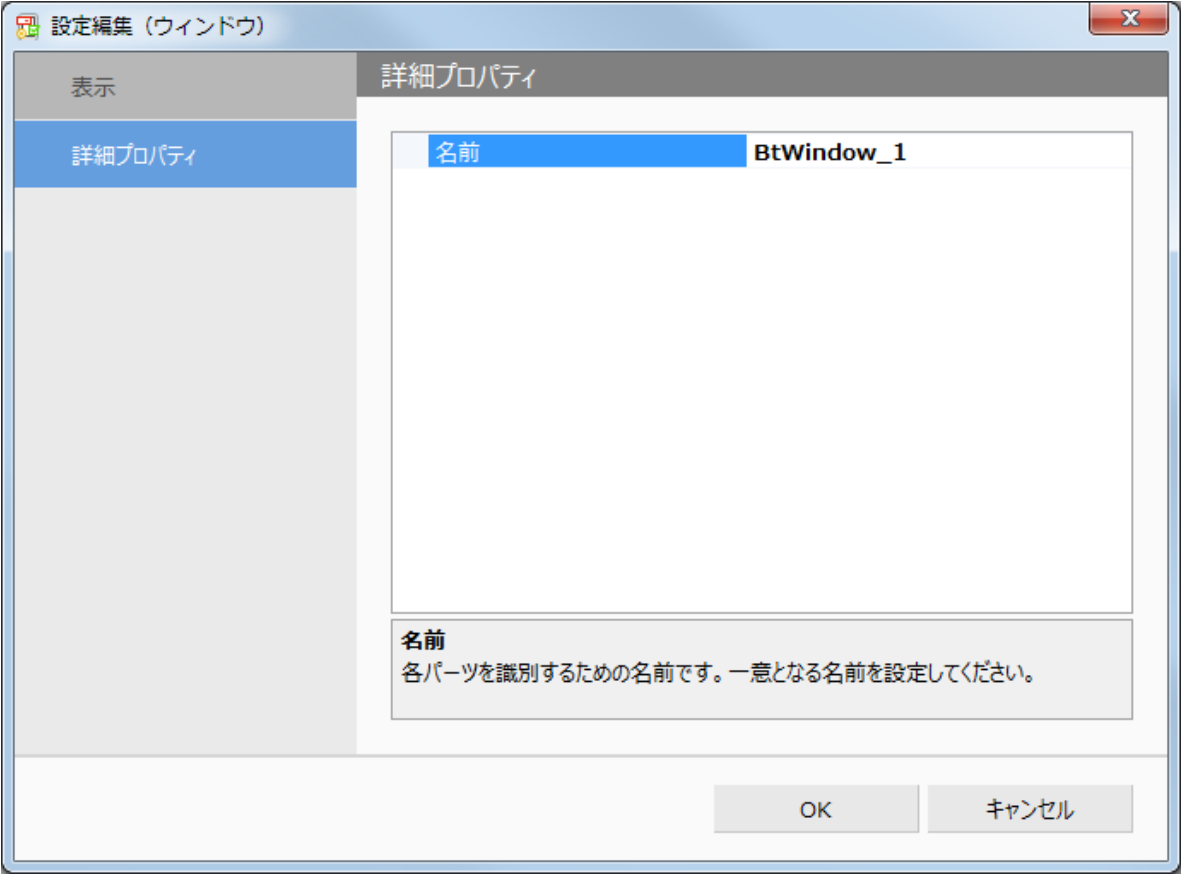
「分割パターン」で上下、もしくは左右を選択した場合の分割位置を設定します。

表示の更新するタイミングの選択

・ウィンドウ/シートが表示された時に更新する

チェックを入れると、PC アプリのウィンドウ／シートが表示された場合に、テーブルの表示を更新します。

■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

6.5.2. シート

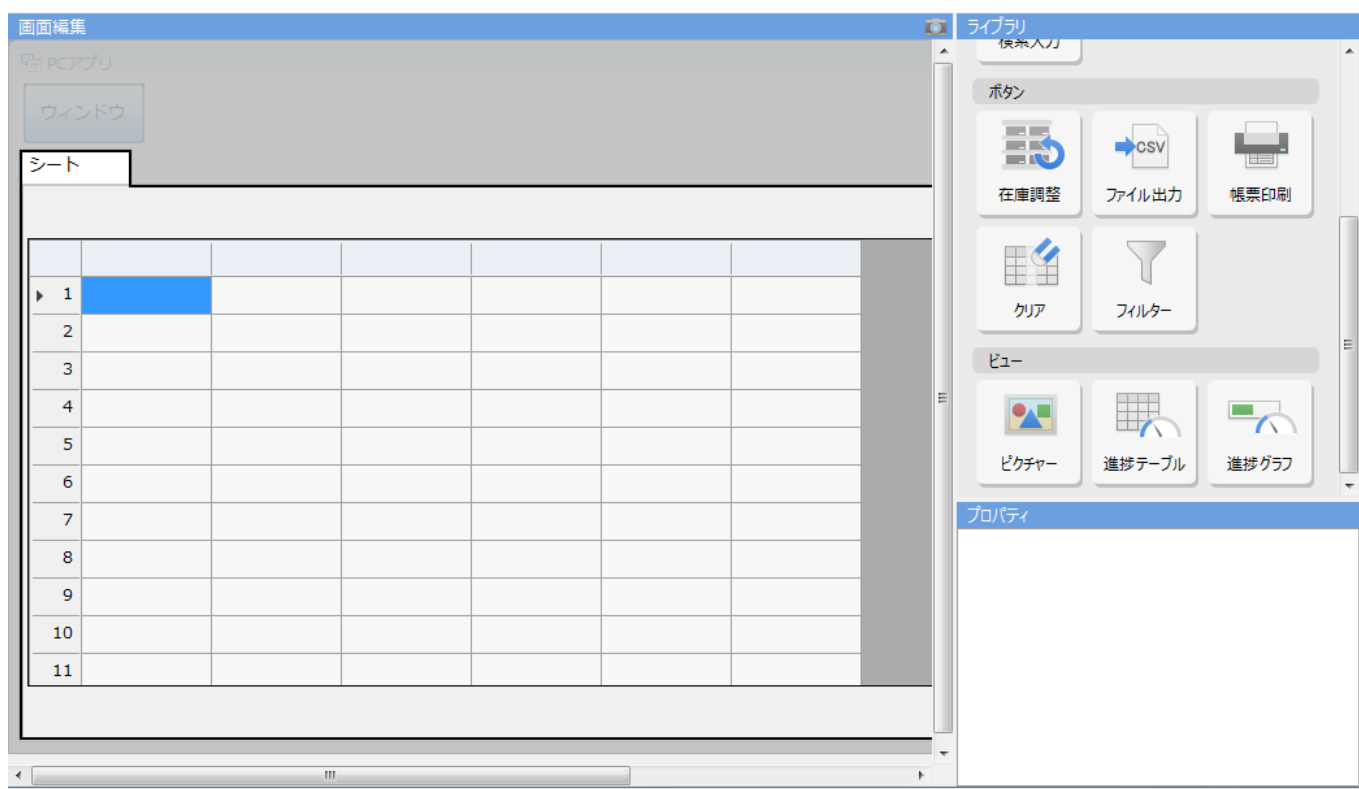
画面リスト「[4.8.画面リスト \(PC アプリ\)](#)」で、「画面」ボタンを押下して「シート」を選択すると追加できます。「[6.5.1.ウィンドウ](#)」上に新しくシートを作成するときに使用します。シートの役割については「[4.9.画面編集 \(PC アプリ\)](#)」を参照してください。

■選択する項目

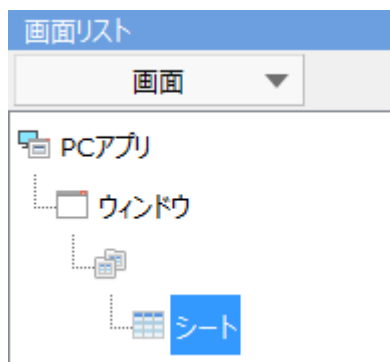


シート

■シート



画面リストの「ウィンドウ」をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



・サイズ変更した時にパーツを固定する位置の選択

マウス操作などで、PC アプリのサイズを変更した場合に、シート上のパーツを固定する位置を選択します。

検索ツリーを表示する

チェックを入れると、シート上に検索ツリービューを表示します。



更新日時を表示する

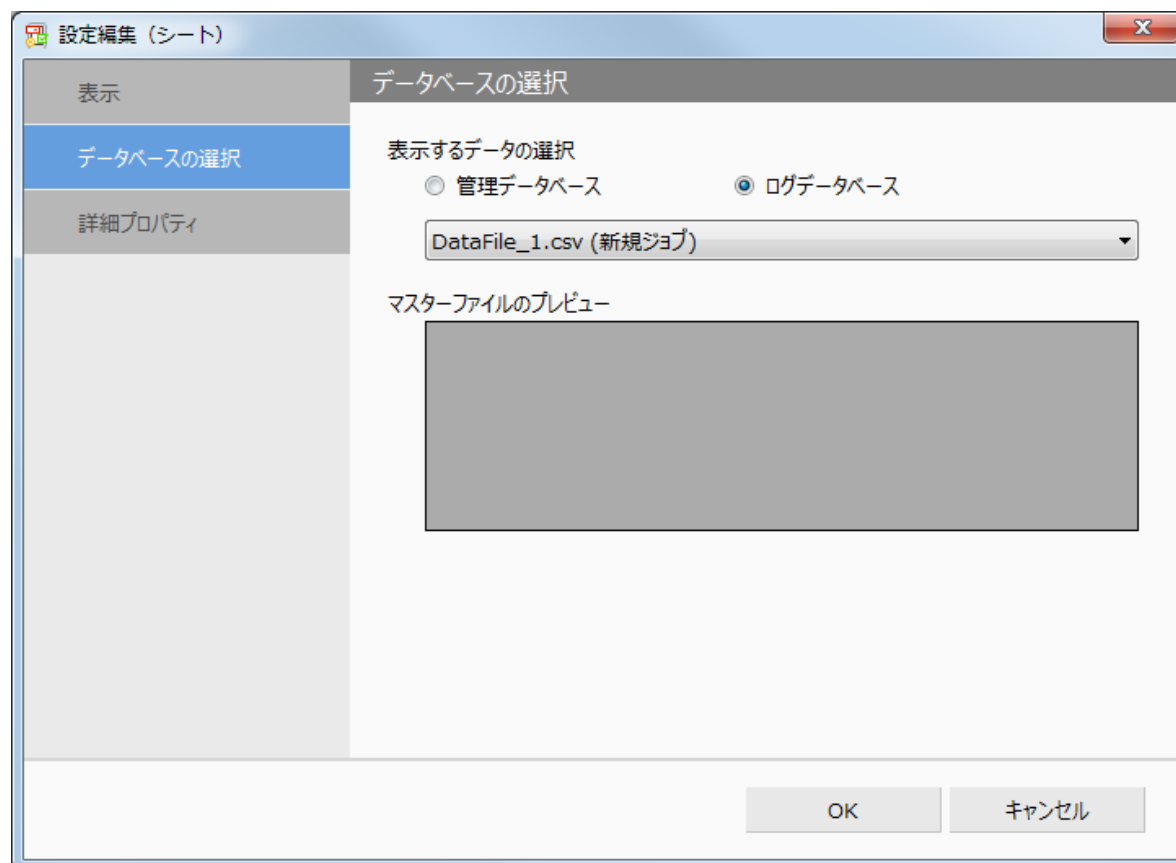
チェックを入れると、PC アプリの最後に表示を更新した日時を表示します。表示フォーマットも設定できます。

【選択項目】「YYYY/MM/DD HH:MM」 / 「YY/MM/DD HH:MM」 / 「MM/DD/YYYY HH:MM」 / 「MM/DD/YY HH:MM」
/ 「DD/MM/YYYY HH:MM」 / 「DD/MM/YY HH:MM」

プレビュー

シートの設定イメージを確認できます。

■データベースの選択



表示するデータの選択

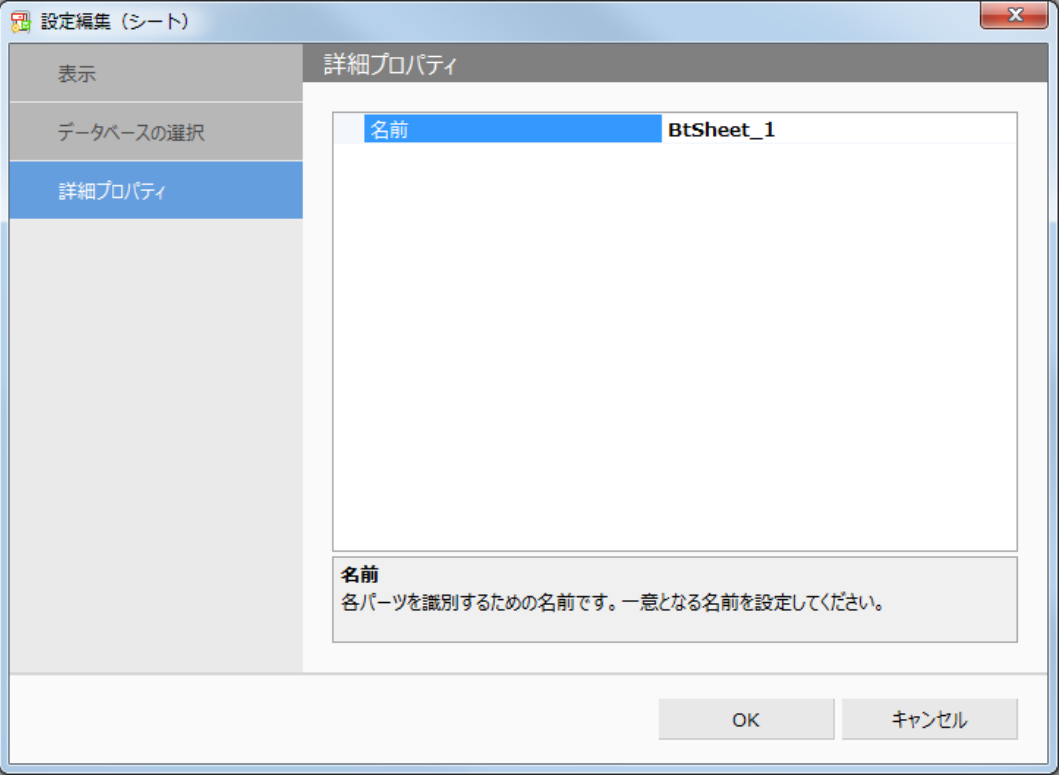
シート上のテーブルに表示するデータベースを選択します。データベースのフォーマットやデータについては、管理データベースは「[4.2.6.運用設定](#)」、ログデータベースは「[4.5.3.データ出力フォーマット](#)」で、設定できます。

【選択項目】管理データベース／ログデータベース

マスターファイルのプレビュー

マスターファイルのプレビューを確認できます。

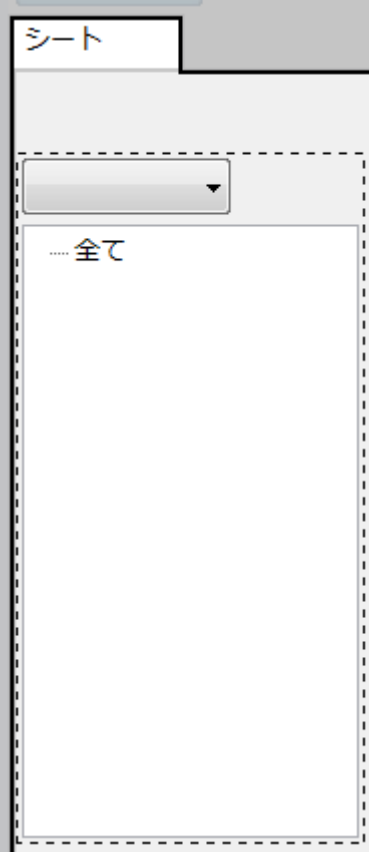
■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

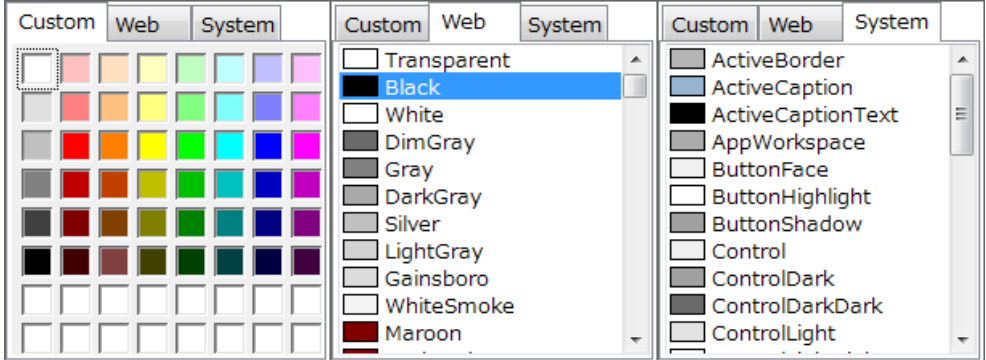
検索ツリー（内部パーツ）について

■配置したときの画像



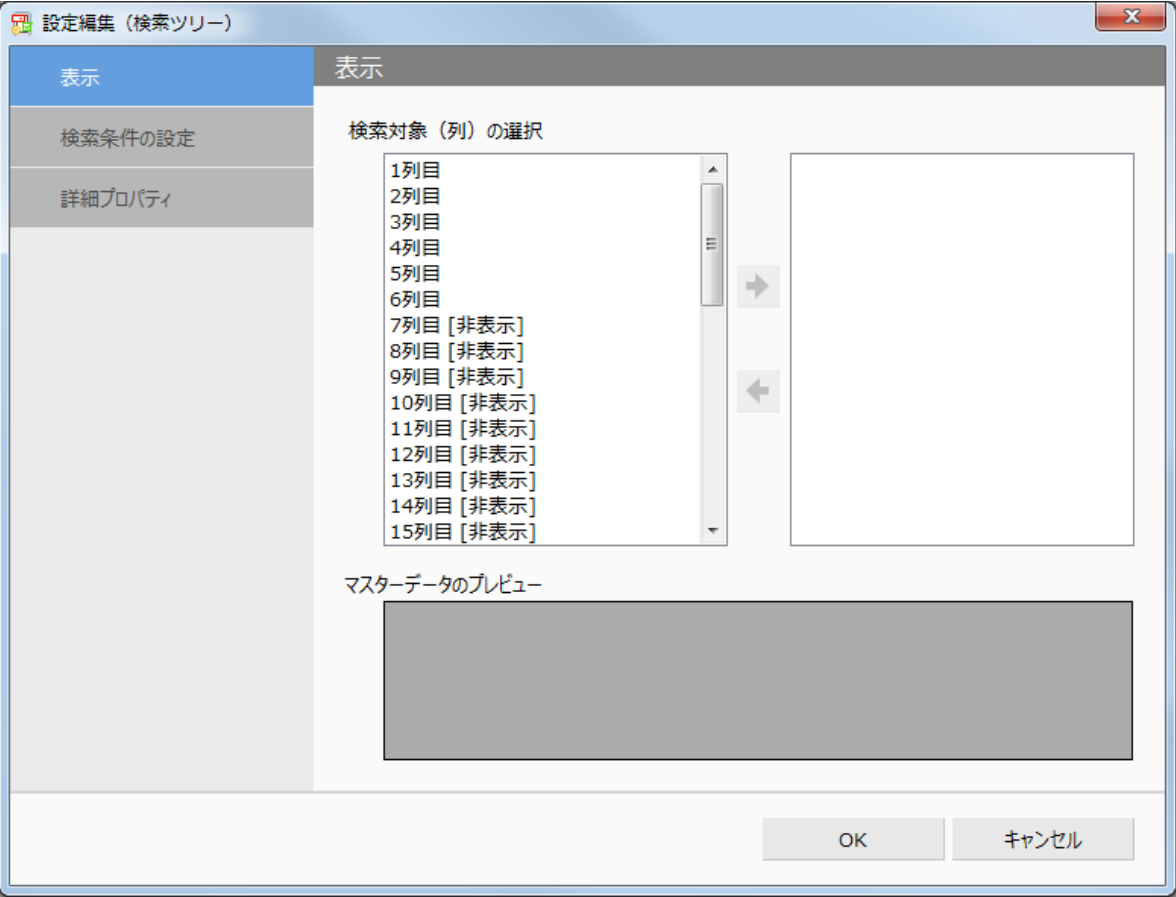
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtSearchTree
背景色	 Control

名前	パーツの名前を確認します。
背景色	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

配置したパーツをダブルクリックするとダイアログボックスが表示されます。

■表示



検索対象（列）の選択

ドロップダウンで選択できる検索対象の列を選択します。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■ 検索条件の設定

設定編集 (検索ツリー)

表示

検索条件の設定

詳細プロパティ

☒ 検索条件を設定する

検索対象 (列) のリスト

2列目 (商品名)

3列目 (単価)

4列目 (理論在庫)

5列目 (実棚数)

検索する文字列:

10

一致する

↓

↑

☒ 検索条件の編集ボタンを表示する

OK

キャンセル

検索条件を設定する

チェックを入れると、検索条件を設定できます。

・ 検索対象（列）のリスト

検索対象の列を選択します。

・ 検索する文字列

検索する文字列を設定し、条件を選択します。

【選択項目】一致する／前方一致する／後方一致する／含む／含まない

・ 検索条件の追加、削除

↓ボタンを押すと、上記で設定した条件を追加します。↑ボタンを押すと、条件を削除します。

・ 検索条件の編集ボタンを表示する

チェックを入れると、上記で設定したような条件を、PC アプリ起動中に編集できるボタンを表示します。



■詳細プロパティ

設定編集 (シート)

表示

データベースの選択

詳細プロパティ

詳細プロパティ

名前

BtSheet_Inventory

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

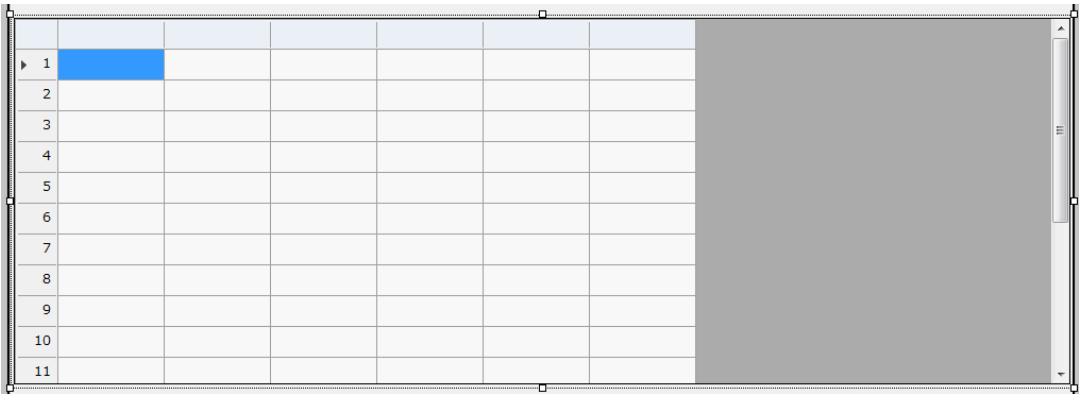
キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

6.5.3. テーブル

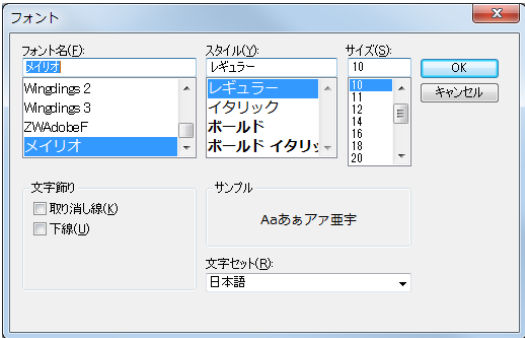
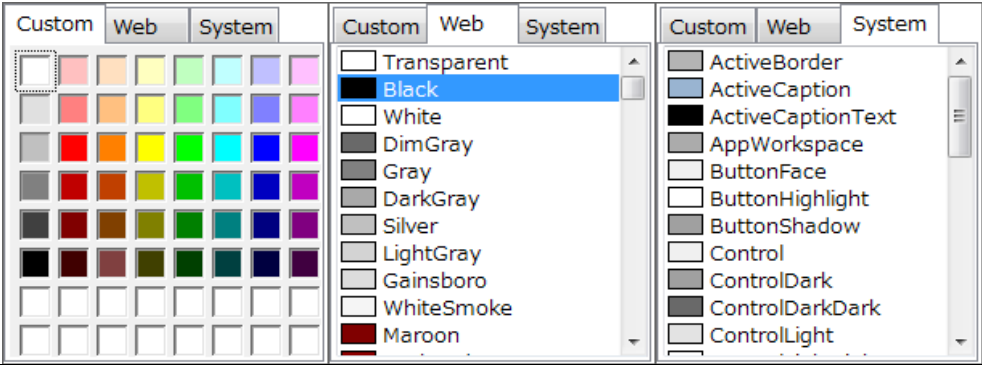
「[6.5.2.シート](#)」に1つ配置され、データベース内のデータを閲覧できます。

■テーブル



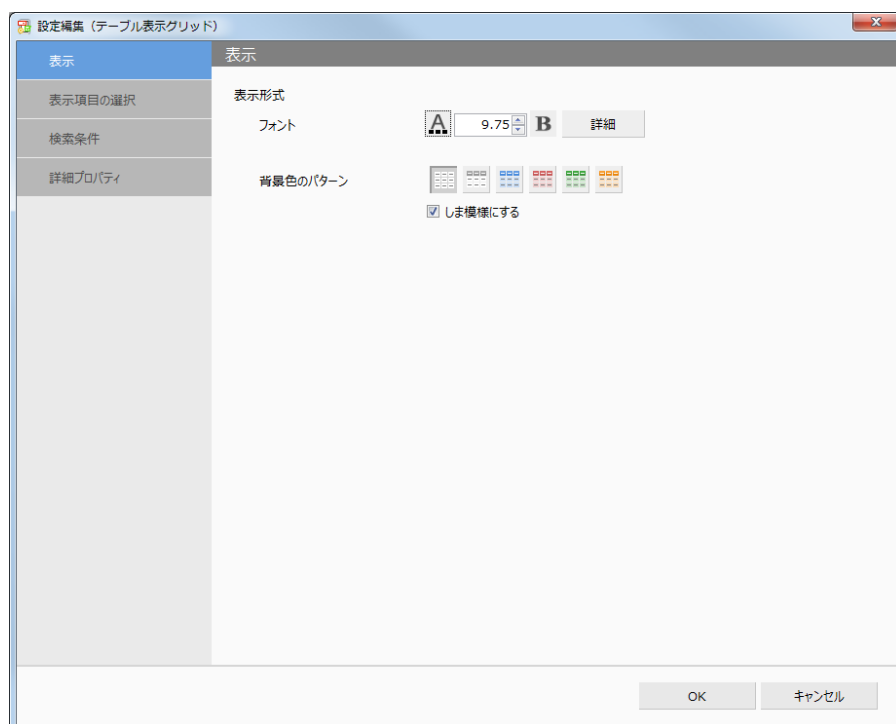
■選択したときのプロパティ表示

名前	BtTableGrid
フォント	Meiryo, 9.75pt
文字色	■ ControlText

名前	パーツの名前を確認します。
フォント	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
文字色	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

「テーブル」をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。

■表示



表示形式

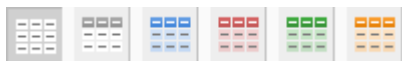
・フォント

	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

・背景色の配色パターン

表の配色パターンを選択します。

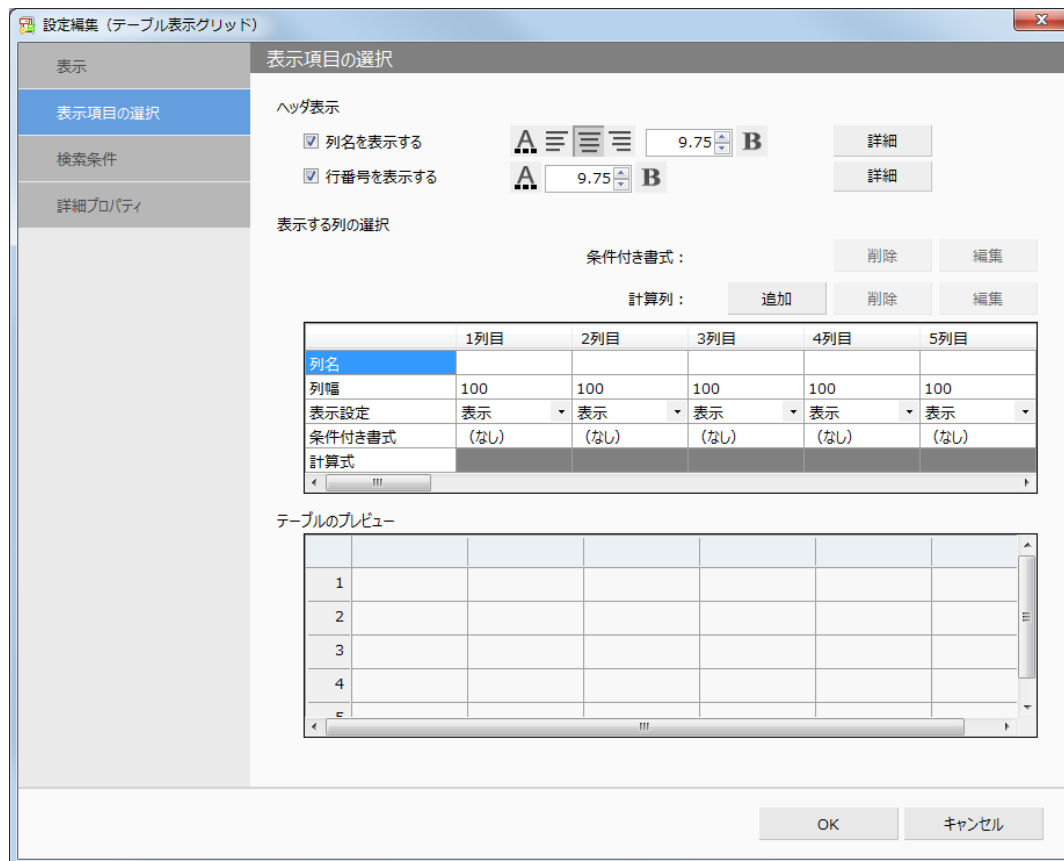
【選択項目】



・しま模様にする

テーブルの奇数行が、上記で選択した配色になります。

■表示項目の選択

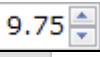
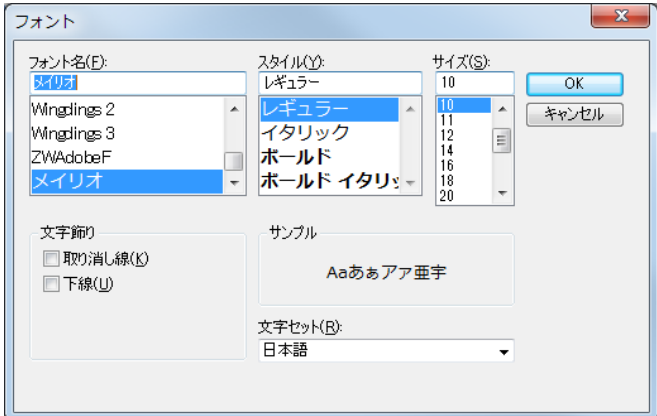


ヘッダ表示

- ・ 列名を表示する

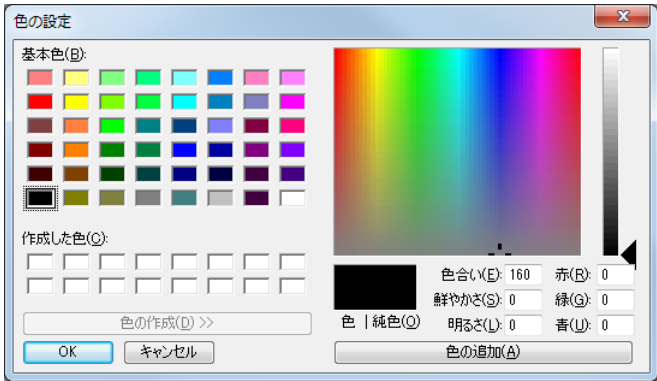
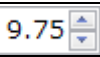
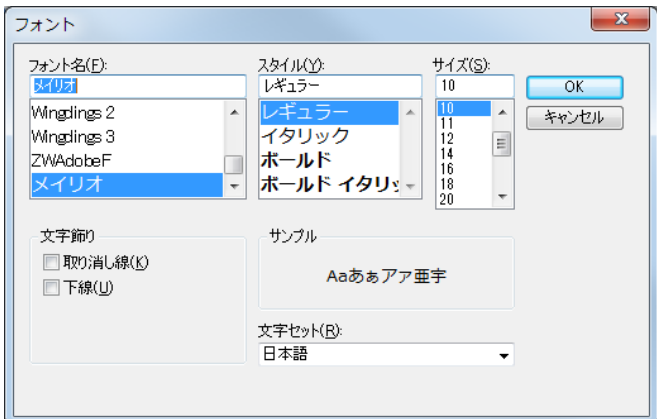
チェックを入れると、テーブルの上部に列名を表示します。



	パーツ内の配置を中央揃えにします。
	パーツ内の配置を右寄せにします。
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
詳細	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

・行番号を表示する

チェックを入れると、テーブルの左側に行番号を表示します。

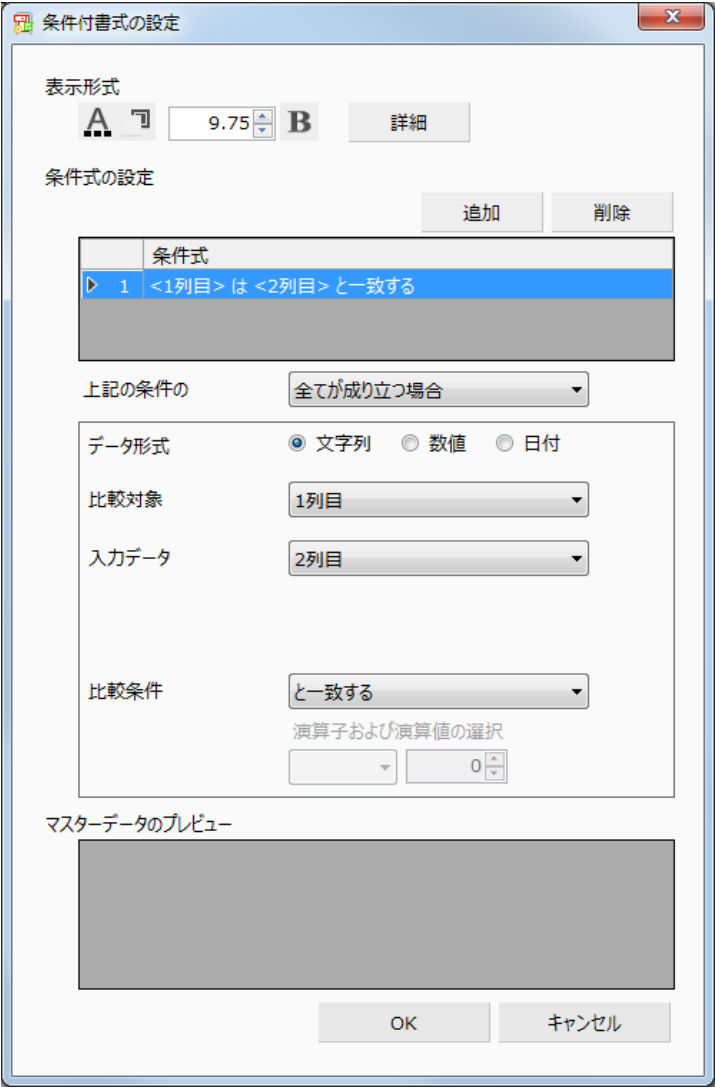
	文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
	フォントサイズを設定します。
	文字列を太字にします。
詳細	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

表示する列の選択

データベースからテーブルに表示する列を選択します。また列幅の設定や、条件付き書式、計算式の設定状況を確認できます。
「列名を表示する」にチェックを入れている場合は、列名を設定できます。

・条件付き書式

列を選択して「編集」ボタンを押下すると、条件と書式を設定するダイアログが表示されます。「削除」ボタンを押下すると、設定中の条件付き書式を削除します。



表示形式

文字色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

色の設定

基本色(B):

作成した色(C):

色の作成(D) >>

色 | 純色(Q)

色合い(X(E): 160

鮮やかさ(S): 0

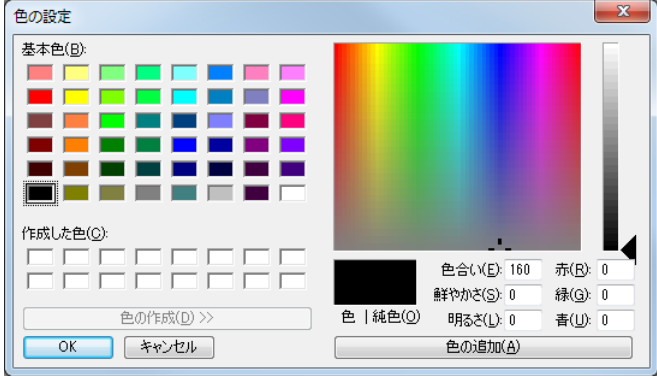
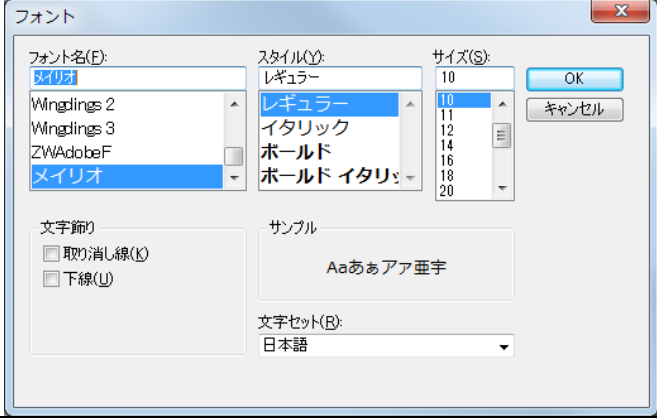
明るさ(L): 0

赤(R): 0

緑(G): 0

青(B): 0

色の追加(A)

	パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 
9.75	フォントサイズを設定します。
B	文字列を太字にします。
詳細	フォントの種類や、サイズなどを設定します。以下のダイアログボックスで設定します。 

条件式の設定

追加した条件式の一覧が表示されます。複数追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合」「いずれかが成り立つ場合」を選択します。

・データ形式

比較するデータの形式を選択します。

【選択項目】文字列／数値／日付

・比較対象

比較対象となる列をマスターデータから選択します。

・入力データ

比較するデータをマスターデータの列から選択、もしくは任意の値を設定します。

・比較条件

比較条件を設定します。「データ形式」によって、選択項目が以下のように変わります。

文字列の場合

【選択項目】と一致する／と前方一致する／と後方一致する／を含む／を含まない

数値の場合

【選択項目】と等しい／と等しくない／より大きい／より小さい／以上／以下

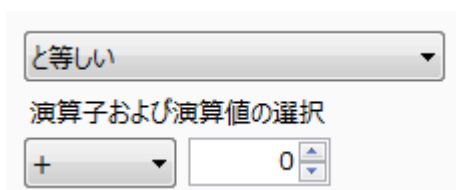
日付の場合

【選択項目】と同じ／と異なる／より後／より前／以降／以前

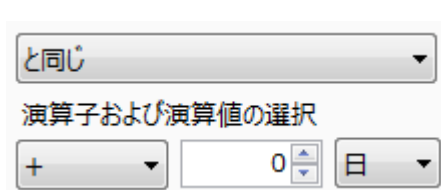
・演算子と演算値の選択

「比較対象」に演算をしてから、入力データと比較します。演算子と演算値を設定します。

データ形式：数値



データ形式：日付

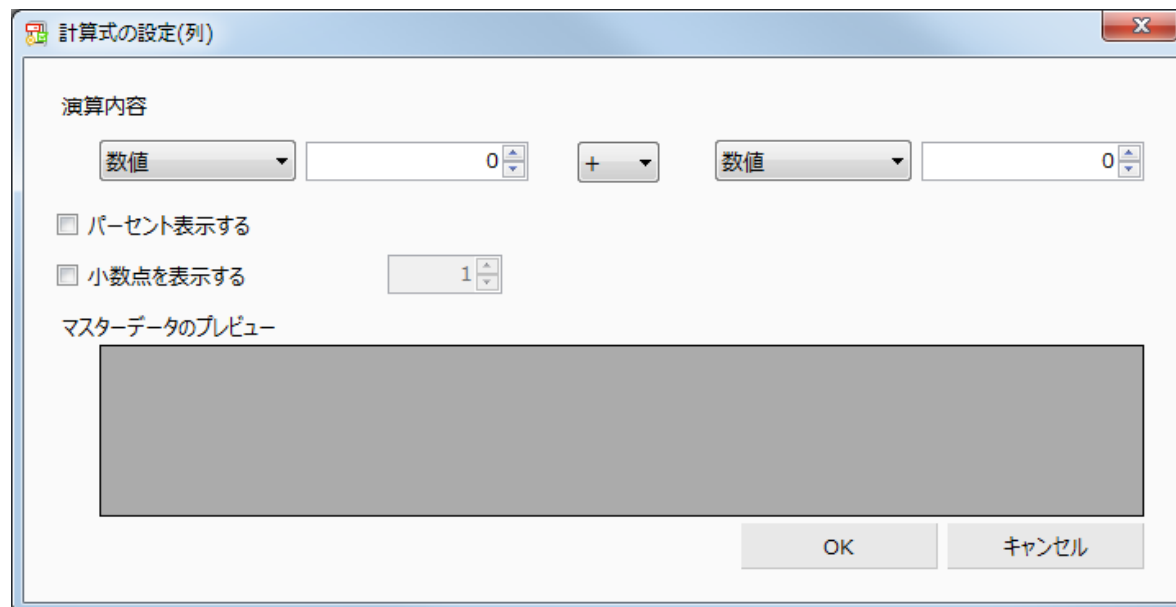


マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

・計算列

任意に演算した結果（列）をテーブルに表示します。「削除」、「編集」ボタンを押下すると、設定中の計算式を削除、編集します。



演算内容

列と列や、列と数値、数値と数値を四則演算します。

パーセントを表示する

チェックを入れると、演算結果をパーセント表示します。

小数点を表示する

チェックを入れると、演算結果の小数点以下の桁数を設定できます。

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■ 検索条件

テーブルに表示する内容を絞り込む検索条件を設定します。

設定編集 (テーブル表示グリッド)

表示

表示項目の選択

検索条件

詳細プロパティ

検索条件

条件式の設定

追加

削除

条件式

1 <1列目> は <2列目> と一致する

上記の条件の

全てが成り立つ場合

データ形式

☒ 文字列 ☐ 数値 ☐ 日付

比較対象

1列目

入力データ

2列目

比較条件

と一致する

演算子および演算値の選択

0

マスターデータのプレビュー

OK

キャンセル

条件式の設定

追加した条件式の一覧が表示されます。複数追加することで条件の組み合わせができます。組み合わせの場合は「全て成り立つ場合」「いずれかが成り立つ場合」を選択します。

・データ形式

比較するデータの形式を選択します。

【選択項目】文字列／数値／日付

・比較対象

比較対象となる列をマスターデータから選択します。

・入力データ

比較するデータをマスターデータの列から選択、もしくは任意の値を設定します。

・比較条件

比較条件を設定します。「データ形式」によって、選択項目が以下のように変わります。

文字列の場合

【選択項目】と一致する／と前方一致する／と後方一致する／を含む／を含まない

数値の場合

【選択項目】と等しい／と等しくない／より大きい／より小さい／以上／以下

日付の場合

【選択項目】と同じ／と異なる／より後／より前／以降／以前

・演算子と演算値の選択

「比較対象」に演算をしてから、入力データと比較します。演算子と演算値を設定します。

データ形式：数値

データ形式：日付

マスターデータのプレビュー

マスターデータのプレビューを確認できます。

■詳細プロパティ

設定編集 (テーブル表示グリッド)

表示

表示項目の選択

検索条件

詳細プロパティ

詳細プロパティ

名前

BtTableGrid

名前

各パーツを識別するための名前です。一意となる名前を設定してください。

OK

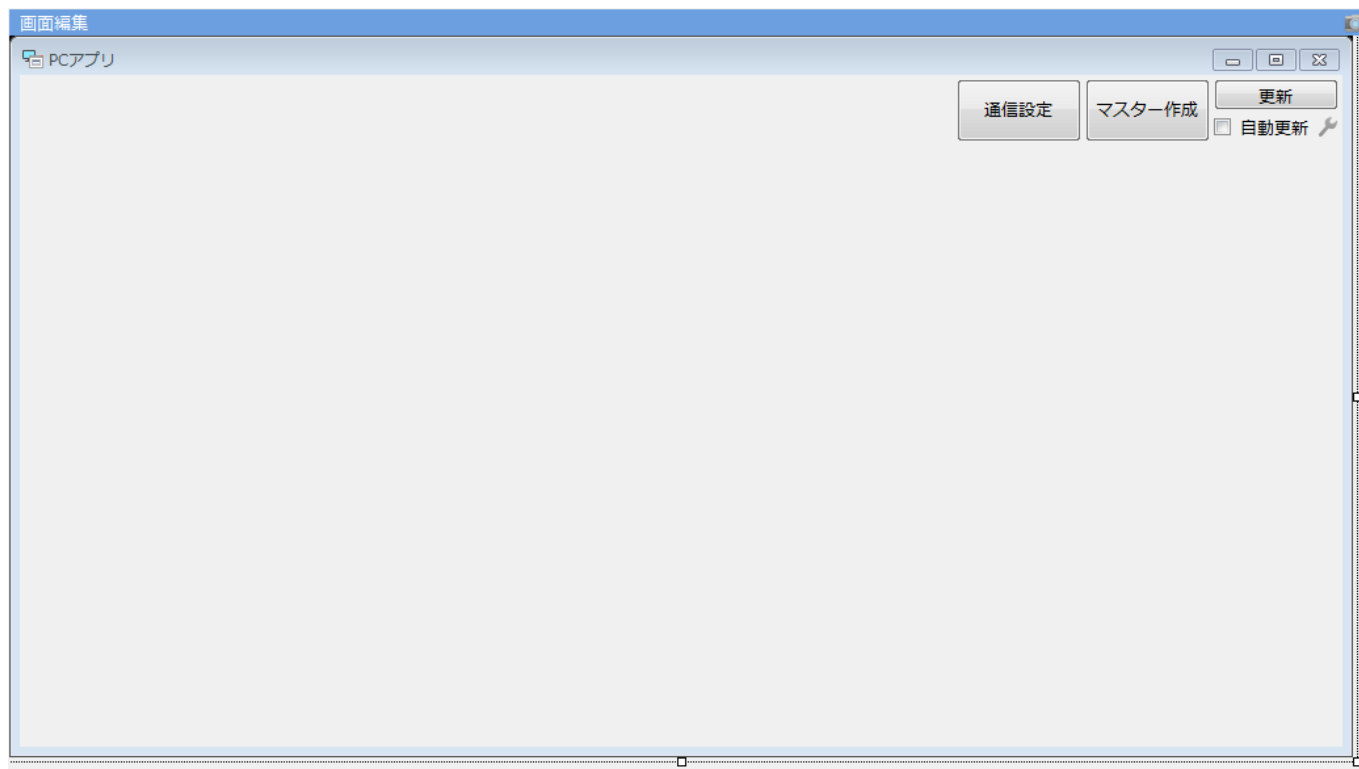
キャンセル

名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

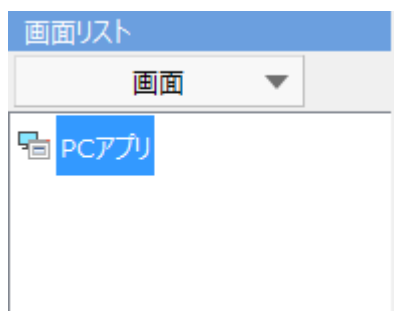
6.5.4. PC アプリ

PC アプリは、プロジェクトに必ず 1 つ存在します。追加、削除はできません。

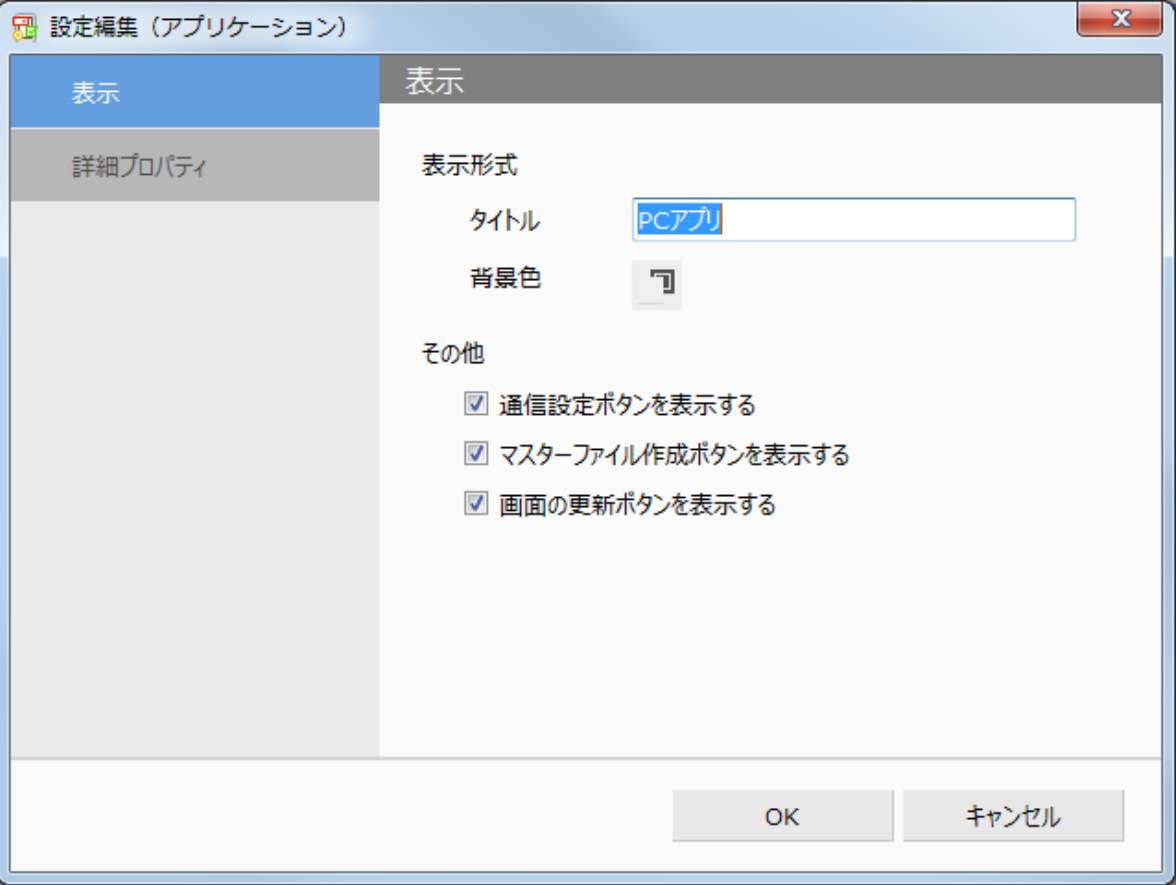
■PC アプリ



画面リストの「PC アプリ」をダブルクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。



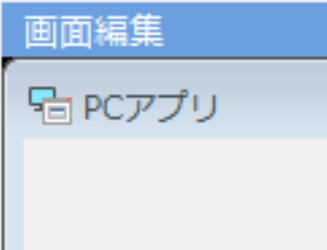
■表示



表示形式

・タイトル

PC アプリのタイトルを設定します。画面の最上段にもタイトルが反映されます。





パーツの背景色を設定します。以下のダイアログボックスで設定します。

色の設定

基本色(B):

色1	色2	色3	色4	色5	色6	色7	色8	色9	色10
色11	色12	色13	色14	色15	色16	色17	色18	色19	色20
色21	色22	色23	色24	色25	色26	色27	色28	色29	色30
色31	色32	色33	色34	色35	色36	色37	色38	色39	色40

作成した色(C):

色1	色2	色3	色4	色5	色6	色7	色8	色9	色10
色11	色12	色13	色14	色15	色16	色17	色18	色19	色20

色の作成(D) >>

OK キャンセル

色 | 純色(Q) 色合い(E): 160 赤(R): 0 鮮やかさ(S): 0 緑(G): 0 明るさ(L): 0 青(B): 0

色の追加(A)

その他

・通信設定ボタンを表示する

チェックを入れると、通信設定ボタンを表示します。ハンディターミナルと PC との通信設定をします。通信ソフトが起動します。

※「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」参照



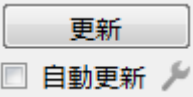
・マスターファイル作成ボタンを表示する

チェックを入れると、マスターファイル作成ボタンを表示します。マスターファイルを作成します。「[7.3.通信ソフトの使用](#)
[方法](#)」の「端末マスターファイル作成」ボタンと同じ機能です。

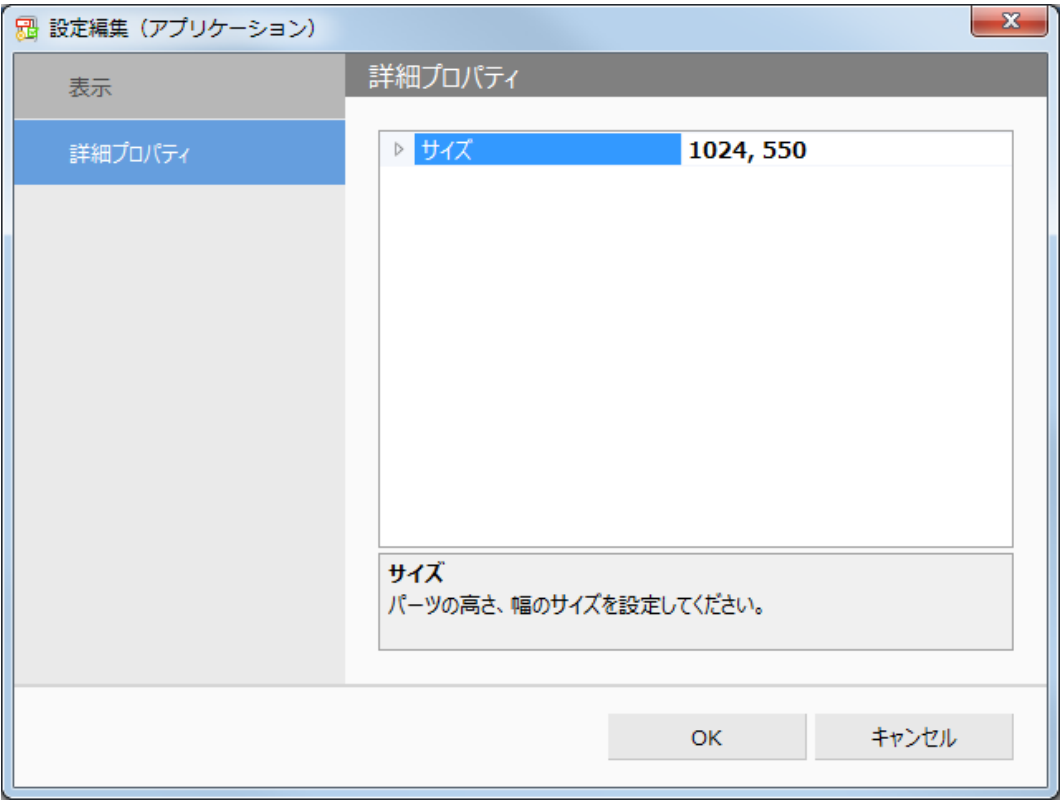


・画面の更新ボタンを表示する

チェックを入れると、更新ボタンを表示します。PC アプリ上のテーブルなどの表示を更新します。自動更新にチェックを入れると、任意の更新周期（30～600 秒）で更新します。また、管理データベースと同名の CSV ファイルを「PC アプリ起動
フォルダー > PC フォルダー > Import フォルダー」に配置して更新することで、CSV ファイルをテーブルに反映できます。



■詳細プロパティ



名前	パーツの名前を設定します。
----	---------------

7. 作成したアプリの使用方法

BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリ、PC アプリの使用方法について説明します。

7.1. ハンディアプリの使用方法

7.1.1. BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズ

■ハンディアプリの展開方法

2 種類の展開方法があります。

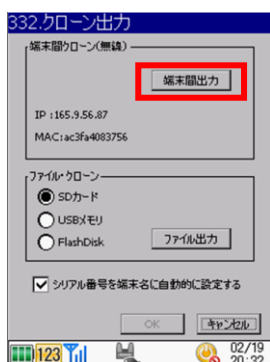
BT 開発・運用ツールからハンディターミナル 1 台ずつ転送する。

転送方法は「[4.2.5.アプリ転送](#)」を参照してください。

ハンディターミナルの端末間クローン機能を使用して転送する。

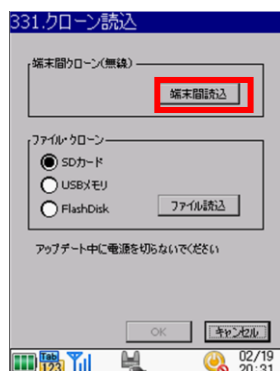
1 台の親機から同時に複数台の子機に対して、全てのデータ、設定をコピーできます。手順は以下となります。

1. 親機のデスクトップ画面にて、「スタートメニュー ⇒ プログラム ⇒ BT システムメニュー」を起動します。
2. システムメニューの「332.クローン出力」で「端末間出力」ボタンを押下します。



3. 「クローンファイル作成中」から「クローン待受中」の状態になるのを待ちます。

4. 子機のシステムメニューを起動し、「331.クローン読込」で「端末間読込」ボタンを押下します。



※無線 LAN や LAN 通信ユニットで使用する場合は、クローン後 IP アドレスを個別に変更してください。

■ハンディアプリの起動方法

「[3.1.3.端末設定](#)」の「アプリ起動方法」の選択により起動方法は異なります。

「デスクトップ画面からショートカット起動」を選択した場合

1. ハンディターミナルの「PW」キーを押下して電源起動します。

2. デスクトップ画面の「HTApplication」を実行します。

※「[4.2.10.オプション](#)」の「ファイル設定」—「端末アプリ」で設定した名前が表示されます。



3. ハンディアプリが起動します。

※デスクトップ画面の「HTApplication」がない場合は、「[4.2.5.アプリ転送](#)」の「端末設定／端末アプリケーション転送後に端末を再起動する」を選択して、アプリ転送を実施していない可能性があります。

「キオスクモード」を選択した場合

1. ハンディターミナルの「PW」キーを押下して電源起動します。

2. しばらく待つと、ハンディアプリが起動します。Windows 画面は表示されません。

※キオスクモードの動作については「[3.1.3.端末設定](#)」を参照してください。

■ハンディターミナルの操作方法

BT-W80 シリーズを例に、ハンディターミナルの基本的な操作方法について説明します。



ハンディアプリそのものの動きや機能については、BT 開発・運用ツールの設定により異なります。

基本的な動作は「[8.テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

7.1.2. BT-600／1000 シリーズ

■ハンディアプリの展開方法

2 種類の展開方法があります。

BT 開発・運用ツールからハンディターミナル 1 台ずつ転送する。

転送方法は「[4.2.5.アプリ転送](#)」を参照してください。

ハンディターミナルの端末間クローン機能を使用して転送する。

1 台の親機から 1 台の子機に対して、全てのデータ、設定をコピーできます。手順は以下となります。

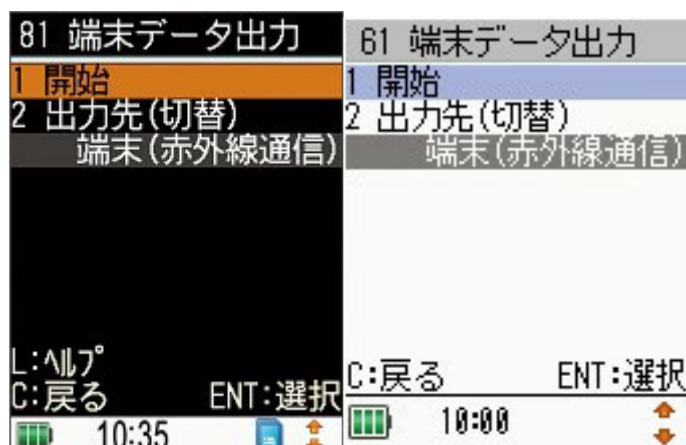
1. ハンディターミナルを通信待ち受けの状態にします。

電源を切った状態で、L キーと 2 キーを押しながら PW キーを押して、システムメニューを起動します。

2. システムメニューの「81 端末データ出力」で「端末（赤外線通信）」を選択し、「1 開始」を押下します。

【BT-1000 シリーズ】

【BT-600】



3. 子機のシステムメニューを起動し、「82 端末データ読み込み」で「端末（赤外線通信）」を選択し、「1 開始」を押下します。

【BT-1000 シリーズ】

【BT-600】



※無線 LAN や LAN 通信ユニットで使用する場合は、クローン後 IP アドレスを個別に変更してください。

■ハンディアプリの起動方法

ハンディアプリを転送後、PW キーを押下して電源を切り、再度 PW キーを押下して電源を入れてください。

■ハンディターミナルの操作方法

BT-1000 シリーズを例に、ハンディターミナルの基本的な操作方法について説明します。



ハンディアプリそのものの動きや機能については、BT 開発・運用ツールの設定により異なります。

基本的な動作は「[8.テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

7.2. PC アプリの使用方法

■PC アプリの展開方法

「[4.2.9.PC アプリ出力](#)」で出力した PC アプリを USB メモリーなどのメディアで、運用 PC に配布します。

■PC アプリの起動方法

1. ZIP ファイルを解凍します。
2. 解凍したフォルダー内の PCApplication.exe を起動します。「[4.2.6.運用設定](#)」の選択により、起動する PC アプリは異なります。

「端末データファイルを CSV 出力して運用する」を選択した場合

通信ソフトが起動します。使用方法は「[7.3 通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。

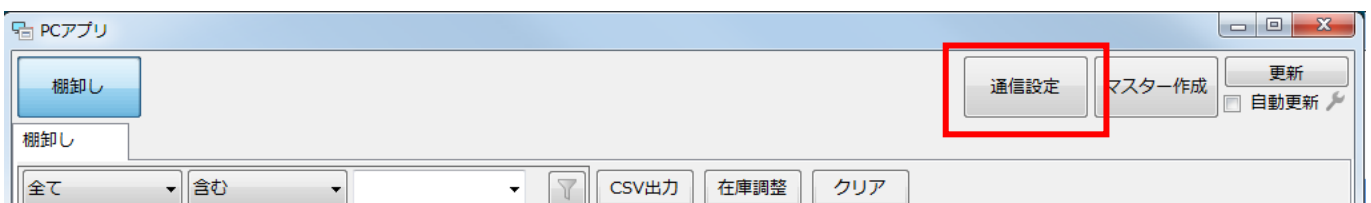
「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（テンプレート）」もしくは

「端末データファイルをデータベースにアップロードして運用する（カスタマイズ）」を選択した場合

PC アプリが起動します。次の【PC アプリの操作方法】を参照してください。

■PC アプリの操作方法

PC アプリのトップメニューが起動します。ハンディアプリに追加したテンプレートに対応して、メニューが作成されます。最初にハンディターミナルと PC との通信設定をする必要があります。通信設定の方法については「[7.3 通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。



それぞれのメニューボタンを押下すると、以下のような画面が立ち上がります。(例：棚卸しテンプレート)

PCアプリ

棚卸し

通信設定 マスター作成 更新 自動更新

管理データベース

全て 含む

CSV出力 在庫調整 クリア

品番	品番	商品名	単価	理論在庫	実棚数	2016/08/31	(差分)	棚卸し結果2
BT-W1000	大画面レー...	310000	4	0	4	-6		
BT-W1550	大画面カメ...	350000	1	0	1	-14		
BT-WUC10U	大画面用US...	60000	5	0	5	4		
BT-WUC10U	大画面用LA...	60000	2	0	2	2		

総在庫金額: 3,670,000 円 総数: 21 件 更新日時: 2016/08/31 20:11

棚卸しログ

ログデータベース

全て 含む

全て 期間 2016/08/31 ~ 2016/08/31

日付	時刻	シリアル番号	担当者	品番	数量	更新結果
2016-08-31	20:09:44	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-WUC10U	2	OK
2016-08-31	20:09:46	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	1	OK

更新日時: 2016/08/31 20:10

ログデータベース

今まで送信されたデータを全て蓄積、表示しています。

・絞り込み表示

検索列と一致方法を指定して、文字列もしくは日付で絞り込み表示できます。

全て 含む

全て 期間 2016/08/31 ~ 2016/08/31

管理データベース

ハンディアプリの「[4.2.6.運用設定](#)」の定義に従って、ログデータベースの内容を集計したデータが表示されます。

・絞り込み表示

検索列と一致方法を指定して、文字列で絞り込み表示できます。

全て 含む

・絞り込み表示登録

検索列と検索する値を指定して、絞り込み表示の登録ができます。

品番

全て

BT-1200

BT-1700

※PC アプリはテンプレートによって異なります。上記とあわせて「[8.テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

7.3. 通信ソフトの使用方法

通信ソフトの使用方法について説明します。

■運用設定



運用方法の選択

・端末からの通信を待ち受ける

ハンディターミナルからデータファイル送信、マスターファイル受信などの通信を、常に待ち受けるモードです。

画面左側の「共通」「ファイル通信待ち受け」が有効になります。

・指定日時に PC アプリから通信を開始する

スケジュールと通信内容を決めて、PC からデータファイル受信、マスターファイル送信などの通信を開始するモードです。

「[4.2.3.端末設定](#)」の「電源オフ時のモード」で WakeUp モードを選択してください。

画面左側の「共通」「スケジュール通信」が有効になります。

・端末からの通信を待ち受ける、かつ指定日時に PC アプリから通信を開始する

上記の両方の通信を併用するモードです。

画面左側の「共通」「ファイル通信待ち受け」「スケジュール通信」が有効になります。

詳細設定（上級者向け）

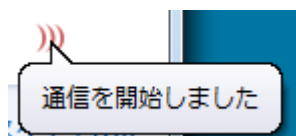
チェックを入れると、画面左側の「その他」「通信ログ」が有効になります。

「端末マスターファイル作成」ボタン

送信フォルダーに配置されている CSV ファイルを、端末用のマスターファイルに変換します。変換後のマスターファイルも送信フォルダーに配置されます。「[5.5.4.マスター照合コントロール](#)」で使用する CSV ファイルの変換には、HTMasterFileInfo.ini の配置が必要です。HTMasterFileInfo.ini は、プロジェクトフォルダー内に生成されます。

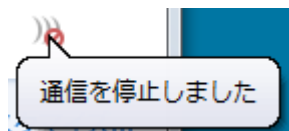
「通信開始」ボタン

通信を開始します。タスクトレイに以下のように表示されます。



「通信停止」ボタン

通信を停止します。タスクトレイに以下のように表示されます。



「設定保存」ボタン

通信の設定内容を保存します。

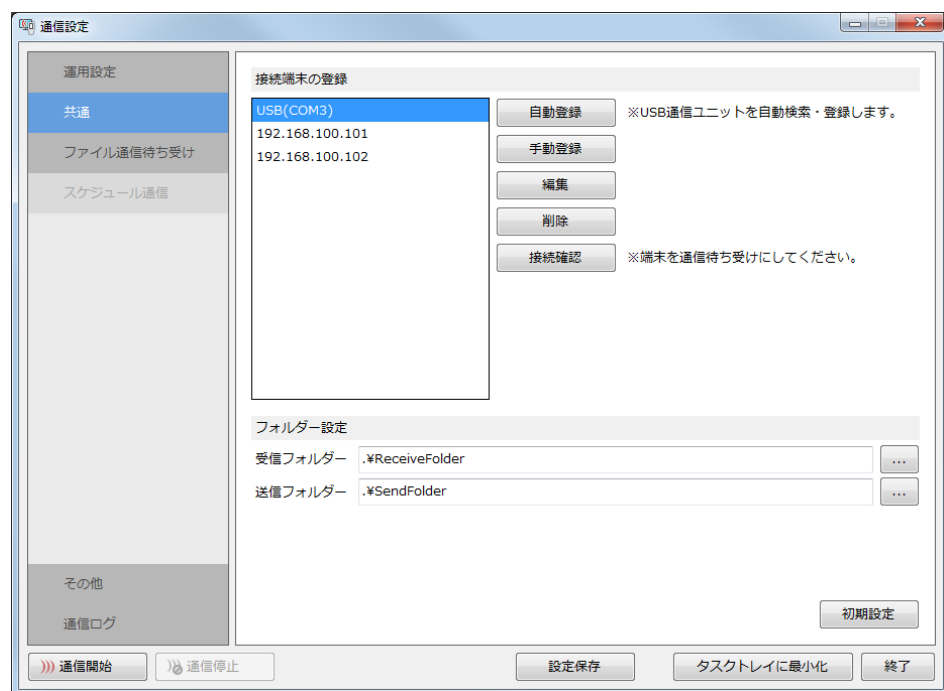
「タスクトレイに最小化」ボタン

通信の設定内容を保存して、通信ソフトをタスクトレイに最小化します。タスクトレイのアイコンを、左クリックすると通信ソフト画面が再度表示されます。右クリックして「終了」を選択し、通信ソフトを終了することもできます。

「終了」ボタン

通信を終了し、通信ソフトを終了します。

■ 共通



接続端末の登録

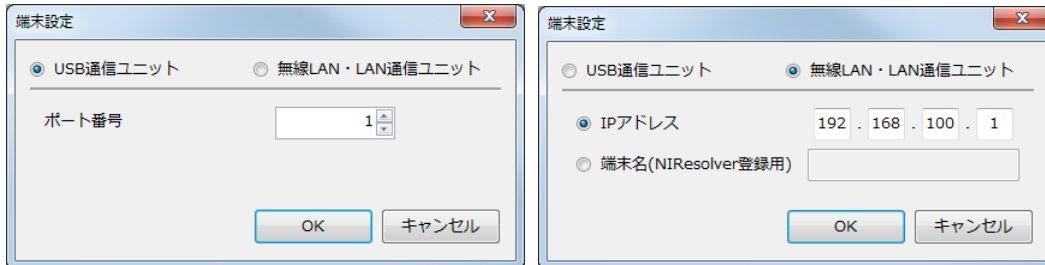
登録されている USB ポートや IP アドレスの一覧を確認できます。

・「自動登録」ボタン

接続されている USB 通信ユニットを自動検索、登録します。

・「手動登録」ボタン

以下のダイアログボックスで、USB ポートや IP アドレスを手動で登録します。



※端末名（NIResolver 登録用）について

BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズは BT システムメニュー「27.通信ミドルウェア」、BT-600/1000 シリーズはシステムメニュー「211 端末設定」で設定した端末名を登録します。DHCP 環境下で使用するには NIResolver のインストールが必要です。詳細については「[4.2.9.PC アプリ出力](#)」をご確認ください。

・「編集」ボタン

「手動登録」と同様のダイアログボックスで、USB ポートや IP アドレスを手動で編集します。

・「削除」ボタン

登録されている USB ポートや IP アドレスを削除します。

・「接続確認」ボタン

選択した機器に対して接続確認します。ハンディターミナル側は通信待ち受けにしてください。

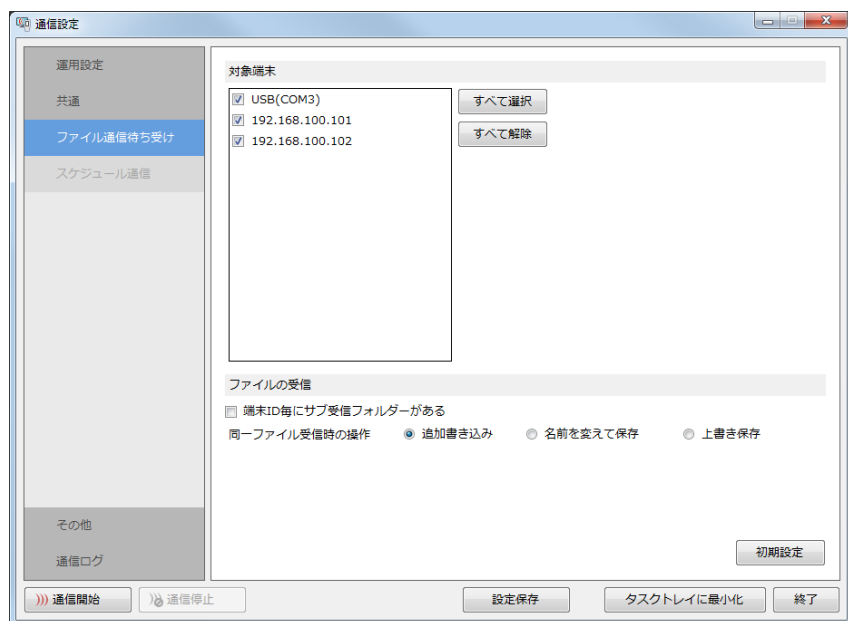
フォルダー設定

ファイルを受信するフォルダー、またはファイルを送信するフォルダーを設定します。

「初期設定」ボタン

この画面の設定を、初期設定に戻します。

■ファイル通信待ち受け



对象端末

通信対象の USB ポートや IP アドレスにチェックを入れます。

・「すべて選択」ボタン

一覧に表示されている USB ポートや、IP アドレス全てにチェックを入れます。

・「すべて解除」ボタン

一覧に表示されている USB ポートや、IP アドレス全てのチェックをはずします。

ファイルの受信

- ・ 端末 ID 毎にサブ受信フォルダーがある

チェックを入れると、受信フォルダーにハンディターミナルに設定されている端末 ID のフォルダーを作成し、その中に受信したファイルを保存します。BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズは BT システムメニュー「27.通信ミドルウェア」、BT-600/1000 シリーズはシステムメニュー「111 端末 ID」で、端末 ID を設定できます。

・同一ファイル受信時の操作

同一名のファイルを受信したときの、処理内容を選択します。

【選択項目】 追加書き込み／名前を変えて保存／上書き保存

追加書き込み . . . ファイルのデータの末尾に新しいデータを追加して保存します。

名前を変えて保存

- ・・・ファイル名の末尾に数字を追加して、新しいファイルとして保存します。

ファイル名を「InventoryLog.csv」とした場合、「InventoryLog~1.csv」から順番に「InventoryLog~2.csv」「InventoryLog~3.csv」・・・のようにファイル名を変えて保存します。

上書き保存 ... 以前のファイルに上書き保存します。

「初期設定」ボタン

この画面の設定を、初期設定に戻します。

■スケジュール通信

スケジュールは最大 3 つまで登録できます。それぞれのスケジュールに対して、以下の設定が必要です。

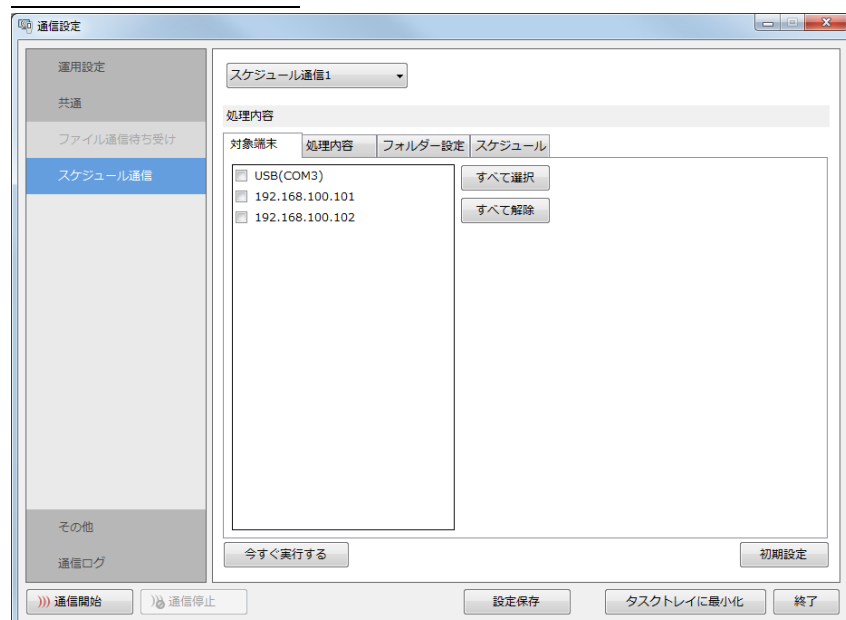
「今すぐ実行する」ボタン

スケジュール通信で設定した内容を、すぐに実行します。

「初期設定」ボタン

スケジュール設定を、初期設定に戻します。

処理内容（対象端末タブ）



通信対象の USB ポートや IP アドレスにチェックを入れます。

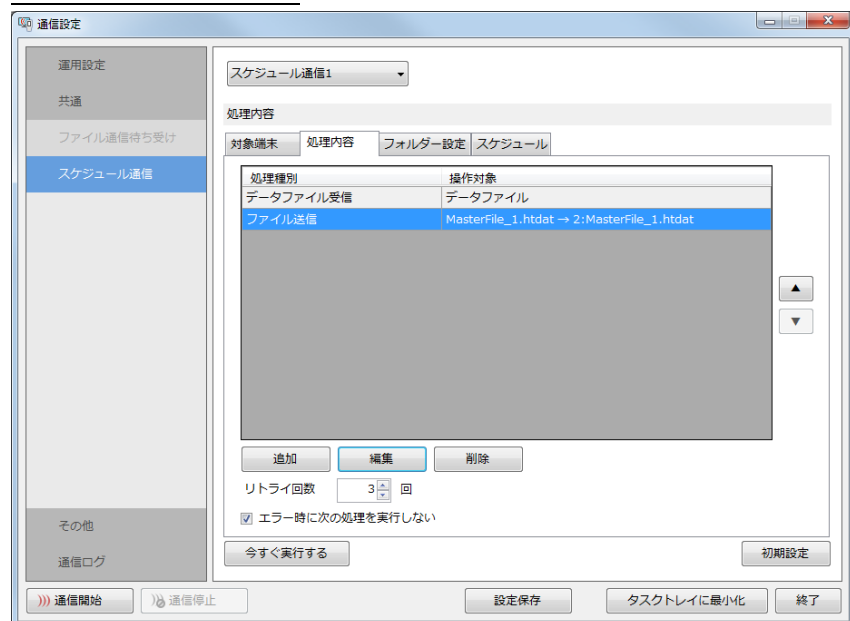
・「すべて選択」ボタン

一覧に表示されている USB ポートや、IP アドレス全てにチェックを入れます。

・「すべて解除」ボタン

一覧に表示されている USB ポートや、IP アドレス全てのチェックをはずします。

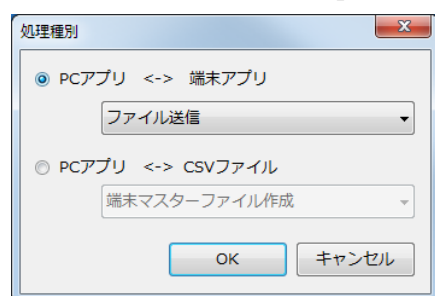
処理内容（処理内容タブ）



処理内容を設定します。処理は複数登録できます。画面右側の「↑」「↓」ボタンで処理の順序を変更できます。

・「追加」ボタン

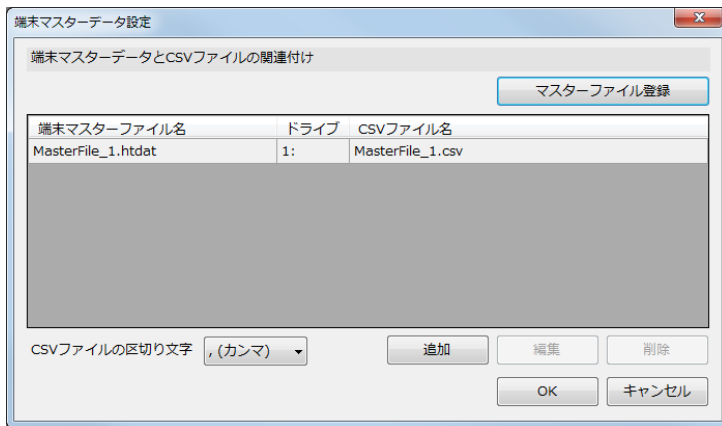
処理内容を追加します。「追加」ボタンを押下すると、以下のダイアログボックスが表示されます。



PC アプリ <-> 端末アプリ

【選択項目】ファイル送信／ファイル受信／データファイル受信／ファイル名変更／ファイル削除
／端末マスターファイル送信／作業リスト送信

- | | |
|--------------|--|
| ファイル送信 | ・・・ハンディターミナルにファイルを送信します。 |
| ファイル受信 | ・・・ハンディターミナルからファイルを受信します。 |
| データファイル受信 | ・・・ハンディターミナルに保存されている全てのデータファイルを受信します。 |
| ファイル名変更 | ・・・ハンディターミナル内のファイル名を変更します。 |
| ファイル削除 | ・・・ハンディターミナル内のファイルを削除します。 |
| 端末マスターファイル送信 | ・・・送信フォルダーに配置されている CSV ファイルを、端末用のマスターファイルに変換、送信します。選択後に表示される以下のダイアログで、端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けが必要です。 |



- ・「マスターファイル登録」ボタン

プロジェクトで使用されているマスターファイルを、全てリストアップして関連付けます。

- ・CSV ファイルの区切り文字

関連付けする CSV ファイルの、区切り文字を指定します。

- ・「追加」ボタン

端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けの定義を追加します。

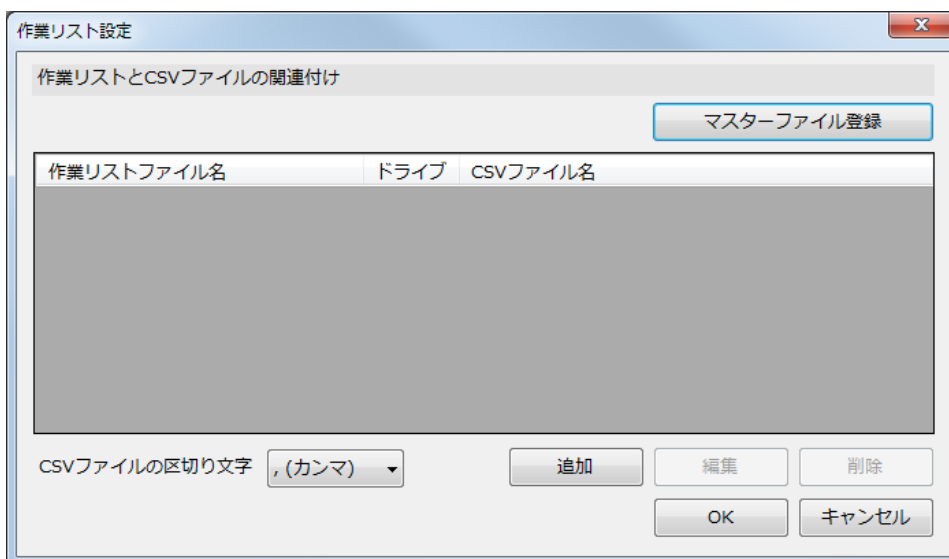
- ・「編集」ボタン

選択されている関連付けの定義を編集します。

- ・「削除」ボタン

選択されている関連付けの定義を削除します。

作業リスト送信 ……送信フォルダーに配置されている「[5.5.4.マスター照合コントロール](#)」で使用する CSV ファイルを、端末用のマスターファイルに変換、送信します。選択後に表示される以下のダイアログで、端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けが必要です。



- ・「マスターファイル登録」ボタン

プロジェクトで使用されているマスターファイルを、全てリストアップして関連付けます。

- ・ CSV ファイルの区切り文字

関連付けする CSV ファイルの、区切り文字を指定します。

- ・「追加」ボタン

端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けの定義を追加します。

- ・「編集」ボタン

選択されている関連付けの定義を編集します。

- ・「削除」ボタン

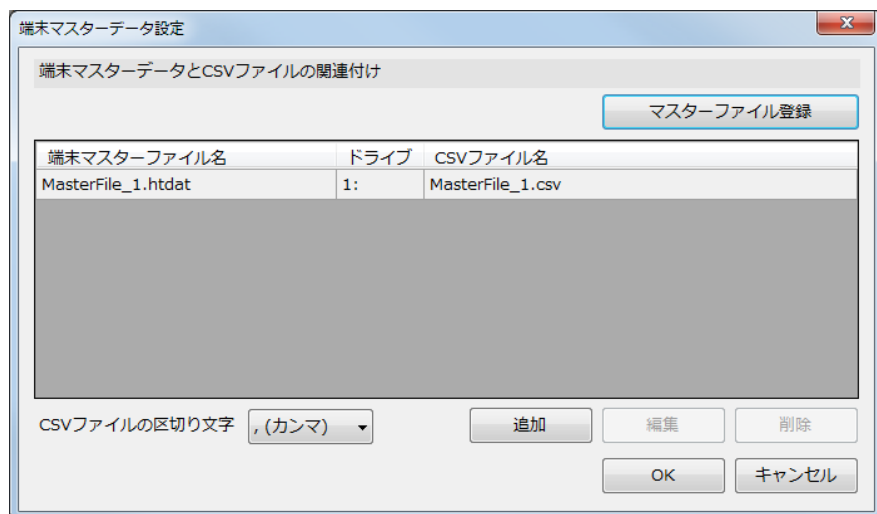
選択されている関連付けの定義を削除します。

PC アプリ <-> CSV ファイル

【選択項目】 端末マスターファイル作成／管理データベース出力（CSV）／管理データベース読込（CSV）
／作業リスト作成

端末マスターファイル作成

・・・送信フォルダーに配置されている CSV ファイルを、端末用のマスターファイルに変換します。選択後に表示される以下のダイアログで、端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けが必要です。



- ・「マスターファイル登録」ボタン

プロジェクトで使用されているマスターファイルを、全てリストアップして関連付けます。

- ・ **CSV ファイルの区切り文字**

関連付けする CSV ファイルの、区切り文字を指定します。

- ・ **「追加」 ボタン**

端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けの定義を追加します。

- ・ **「編集」 ボタン**

選択されている関連付けの定義を編集します。

- ・ **「削除」 ボタン**

選択されている関連付けの定義を削除します。

作業リスト作成

- ・・・送信フォルダーに配置されている「[5.5.4.マスター照合コントロール](#)」で使用する CSV ファイルを、端末用のマスターファイルに変換します。
選択後に表示される以下のダイアログで、端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けが必要です。

作業リスト設定

作業リストとCSVファイルの関連付け

マスターファイル登録

作業リストファイル名	ドライブ	CSVファイル名
------------	------	----------

CSVファイルの区切り文字: (カンマ)

追加 編集 削除

OK キャンセル

- ・ **「マスターファイル登録」 ボタン**

プロジェクトで使用されているマスターファイルを、全てリストアップして関連付けます。

- ・ **CSV ファイルの区切り文字**

関連付けする CSV ファイルの、区切り文字を指定します。

- ・ **「追加」 ボタン**

端末マスターデータと CSV ファイルの関連付けの定義を追加します。

- ・ **「編集」 ボタン**

選択されている関連付けの定義を編集します。

- ・ **「削除」 ボタン**

選択されている関連付けの定義を削除します。

管理データベース出力（CSV）・・・管理データベースに保存されているデータを、CSV ファイルに出力します。

管理データベース読込（CSV）・・・CSV ファイルから管理データベースを読み込みます。

※「[4.2.6.運用設定](#)」で「端末データファイルを CSV 出力して運用する」を選択した場合など、通信ソフト単体で起動する場合には、「管理データベース出力（CSV）」「管理データベース読込（CSV）」は、選択できません。

・「編集」ボタン

選択されている処理内容を編集します。

・「削除」ボタン

選択されている処理内容を削除します。

・リトライ回数

通信エラー時のリトライ回数を設定します。

【設定範囲】0～10 回

・エラー時に次の処理を実行しない

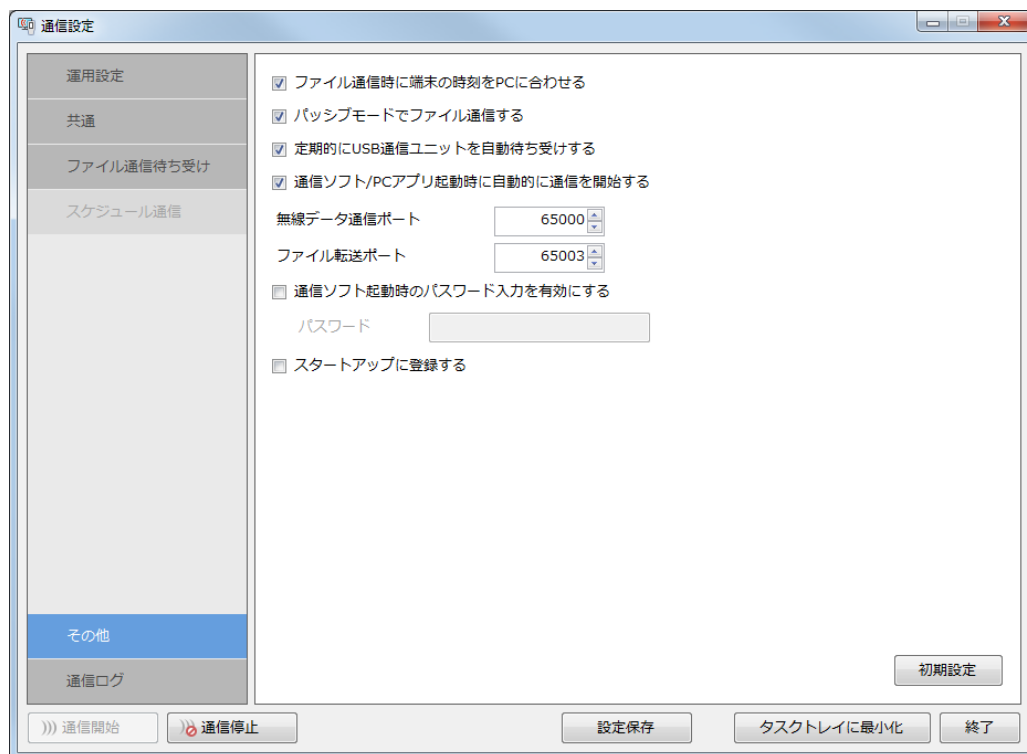
チェックを入れると、通信エラー時に後続の処理をキャンセルします。（複数の処理内容を設定している場合）

処理内容（スケジュールタブ）

処理を実行するスケジュールを設定します。任意の時間毎、日数毎、週毎、月毎に処理をするか設定できます。

■その他

※詳細設定（上級者向け）に、チェックを入れた場合のみ有効になります。



ファイル通信時に端末の時刻を PC に合わせる

通信時にハンディターミナルの時刻を、通信先 PC の時刻と同期します。

パッシブモードで通信を行う

パッシブモードで通信します。BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリとの通信は、パッシブモードとなりますのでチェックをはずさないでください。

定期的に USB 通信ユニットを自動待ち受けする

定期的に USB 通信ユニットを検索します。通信中でも、新しく接続した USB 通信ユニットは、自動的に登録され通信できる状態になります。

通信ソフト／PC アプリ起動時に自動的に通信を開始する

通信ソフト／PC アプリ起動時に自動的に通信を開始します。あわせて通信ソフト／PC アプリのショートカットを、Windows のスタートアップに登録しておくことで、PC 起動時に無操作で通信待ち受けの状態にできます。

無線データ通信ポート

無線 LAN 経由でのデータ通信ポートを設定します。

【設定範囲】 0～65535

ファイル転送ポート番号 (LAN)

LAN 通信ユニット、無線 LAN 経由でのファイル転送ポートを設定します。

【設定範囲】 0～65535

通信ソフト起動時のパスワード入力を有効にする

通信ソフト起動時にパスワード入力を有効にし、パスワードを設定します。

スタートアップに登録する

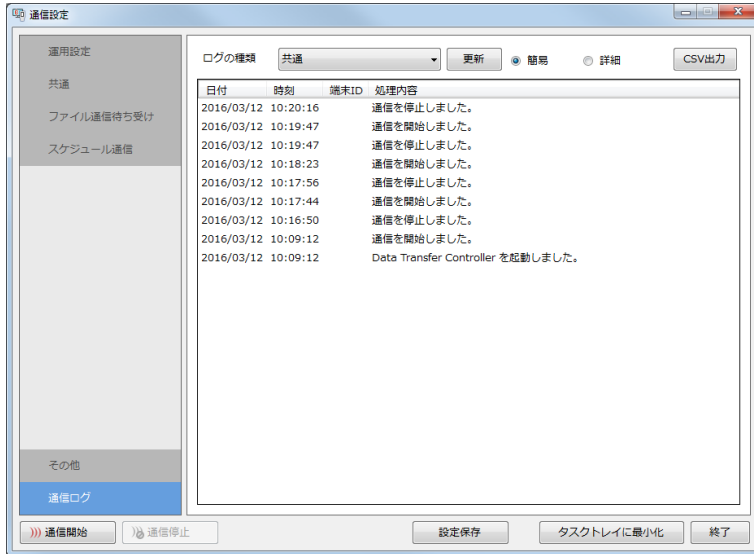
通信ソフトをスタートアップに登録します。運用 PC を起動すると、通信ソフトが自動的にタスクトレイに最小化された状態で起動します。

「初期設定」ボタン

この画面の設定を、初期設定に戻します。

■通信ログ

※詳細設定（上級者向け）に、チェックを入れた場合のみ有効になります。



通信ソフトの操作履歴や通信履歴を確認できます。

ログの種類

表示するログの種類を選択します。

【選択項目】共通／ファイル通信待ち受け／スケジュール通信／PC アプリエラー

「更新」ボタン

ログの表示を更新します。

表示の種類

表示するログの種類を選択します。

【選択項目】簡易／詳細

「CSV 出力」ボタン

ログの内容を、任意のフォルダーに CSV ファイルとして出力します。

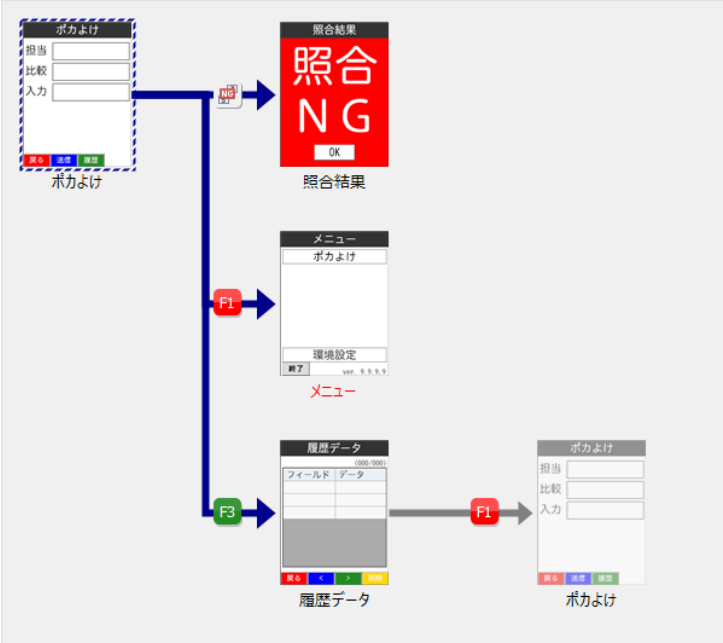
8. テンプレートの使用方法

テンプレートの使用方法を説明します。

8.1. ポカよけ

8.1.1. ハンディアプリ

■画面遷移



■ポカよけ画面

ポカよけ	
担当	123 ①
比較	123456789 ②
入力	123456789 ③
戻る 送信 履歴	

以下の順番で入力します。③を入力後、②に戻ります。

①担当者コードを入力

②比較対象のコードを入力

③データを入力し、②と照合

照合 OK・・・OK データを出力して②に戻ります。

照合 NG・・・照合 NG 画面に遷移します。

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

■照合 NG 画面



画面が色の反転表示を繰り返し、ブザー、バイブ、LED も同時に動作してオペレーターに注意喚起します。

「OK」ボタンを押下すると、NG データを出力してポカよけ画面に戻ります。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/1)	
フィールド	データ
日付	2016/03/12
時刻	14:47:40
担当者	123
比較	123456789
入力	123456789
照合結果	OK
戻る	< > 削除

出力したデータの履歴を確認できます。

画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・ポカよけ画面に戻ります。

「<」・・・1 件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1 件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1 件か全件削除するか選択できます。

8.1.2. PC アプリ

PC アプリの基本的な使用方法は、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■PC アプリ画面

PCアプリ

ポカよけ

通信設定

マスター作成

更新
自動更新

ポカよけ

全て 含む

全て 期間

2016/09/01 ~ 2016/09/01

日付	時刻	シリアル番号	担当者	比較	入力	比較結果	更新結果
2016-09-01	09:56:54	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	BT-W1550	OK	None
2016-09-01	09:56:56	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	BT-W800	NG	None
2016-09-01	09:56:58	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	BT-W1550	OK	None
2016-09-01	09:56:58	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W800	OK	None
2016-09-01	09:56:59	BT-W85T_#5...	123	BT-W850	BT-W850	OK	None
2016-09-01	09:57:00	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W800	OK	None
2016-09-01	09:57:01	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W1550	NG	None
2016-09-01	09:57:03	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W800	OK	None
2016-09-01	09:57:04	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	BT-W1000	OK	None
2016-09-01	09:57:05	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	BT-W1000	OK	None
2016-09-01	09:57:06	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W800	OK	None
2016-09-01	09:57:07	BT-W85T_#5...	123	BT-W850	BT-W850	OK	None
2016-09-01	09:57:08	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	BT-W800	OK	None
2016-09-01	09:57:08	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	BT-W1550	OK	None
2016-09-01	09:57:09	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	BT-W1000	OK	None

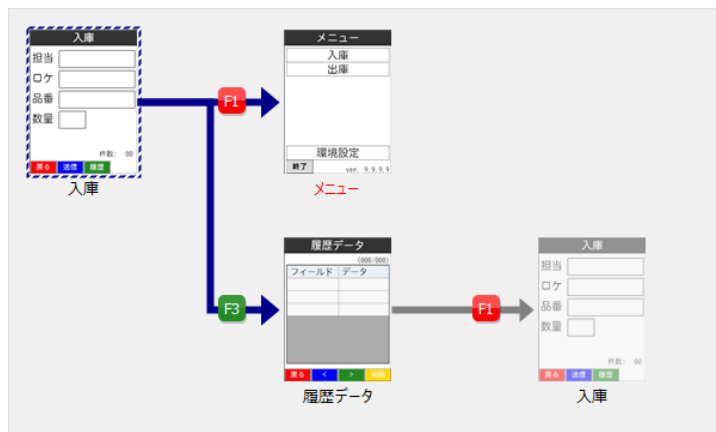
更新日時： 2016/09/01 09:57

ポカよけの PC アプリはログデータベースのみで管理します。ハンディアプリから送信されたデータが蓄積されます。

8.2. 入出庫

8.2.1. ハンディアプリ

■画面遷移（入庫）



■入庫画面

入庫	
担当	123 ①
ロケ	11111 ②
品番	123456789 ③
数量	1 ④
件数: 1	
戻る 送信 履歴	

以下の順番で入力します。④を入力後、②に戻ります。

- ①担当者コードを入力
- ②ロケーションコードを入力
- ③品番コードを入力
- ④数量を入力

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/1)	
フィールド	データ
日付	2016/03/12
時刻	15:22:02
担当者	123
ロケーション	11111
品番	1234567890
入庫数	1
戻る < > 削除	

出力したデータの履歴を確認できます。

画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

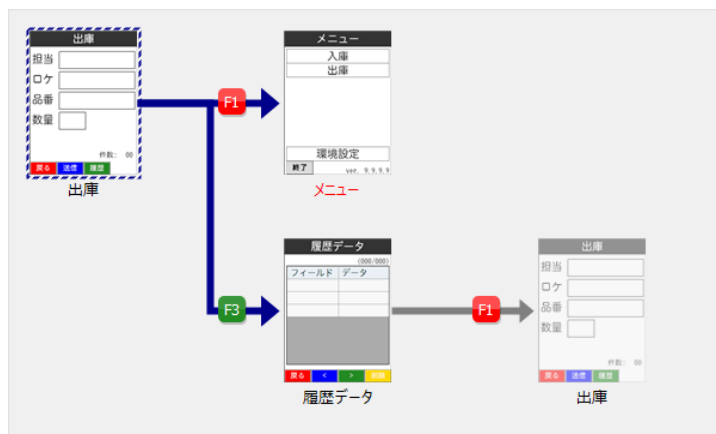
「戻る」・・・入庫画面に戻ります。

「<」・・・1件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1件か全件削除するか選択できます。

■画面遷移（出庫）



■出庫画面

出庫	
担当	123 ①
ロケ	11111 ②
品番	1234567890 ③
数量	1 ④
件数: 1	
戻る 送信 履歴	

以下の順番で入力します。④を入力後、②に戻ります。

- ①担当者コードを入力
- ②ロケーションコードを入力
- ③品番コードを入力
- ④数量を入力

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/1)	
フィールド	データ
日付	2016/03/12
時刻	15:25:39
担当者	123
ロケーショ	11111
品番	1234567890
出庫数	1
戻る < > 削除	

出力したデータの履歴を確認できます。

テーブルを選択すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・出庫画面に戻ります。

「<」・・・1件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1件か全件削除するか選択できます。

8.2.2. PC アプリ

PC アプリの基本的な使用方法は、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■PC アプリ画面

PCアプリ

入出庫

通信設定

マスター作成

更新
自動更新

在庫管理マスター

発注リスト

全て

含む

CSV出力

ロケーション

ロケーション

品番

商品名

単価

在庫

発注点

全て

B-3

A-1

A-1	BT-W1000	大画面レー...	310000	11	5
A-1	BT-W1550	大画面力メ...	350000	16	5
A-1	BT-WUC10U	大画面用US...	60000	1	2
A-1	BT-WUC10L	大画面用LA...	60000	5	3

総在庫金額: 33,440,000 円

総数: 21 件

更新日時: 2016/09/01 09:16

入庫ログ

出庫ログ

全て

含む

全て

期間

2016/09/01

~

2016/09/01

日付	時刻	シリアル番号	担当者	ロケーション	品番	数量	更新結果
2016-09-01	09:15:57	BT-W85T_#5...	123	A-1	BT-W1000	1	OK
2016-09-01	09:15:59	BT-W85T_#5...	123	A-1	BT-W1550	1	OK
2016-09-01	09:16:02	BT-W85T_#5...	123	A-2	BT-W800	2	OK
2016-09-01	09:16:05	BT-W85T_#5...	123	A-2	BT-W850	2	OK

更新日時: 2016/09/01 09:16

入庫ログ

ハンディアプリの入庫で取得したデータが蓄積されます。

出庫ログ

ハンディアプリの出庫で取得したデータが蓄積されます。

発注リスト

在庫管理マスターで、発注点を下回っているデータを発注リストに表示します。

「CSV 出力」ボタン

テーブルの内容を CSV ファイルに出力します。CSV ファイルは、「PC アプリ起動フォルダー > PC フォルダー > Export フォルダー」に保存されます。

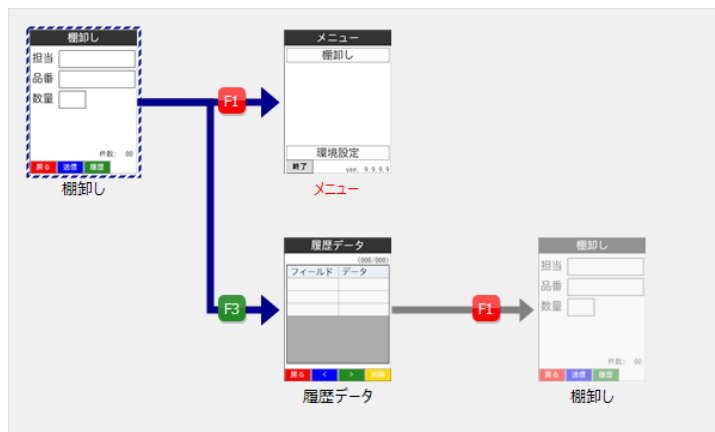
※CSV ファイルを在庫管理マスターに取り込む方法について

「PC アプリ起動フォルダー > PC フォルダー > Import フォルダー」に、「DepositoryMaster.csv」を配置し「更新」ボタンを押すと、「在庫管理マスター」シートのテーブルに反映されます。

8.3. 棚卸し

8.3.1. ハンディアプリ

■画面遷移



■棚卸し画面

棚卸し	
担当	123 ①
品番	1234567890 ②
数量	1 ③
件数: 1	
戻る	送信 履歴

以下の順番で入力します。③を入力後、②に戻ります。

①担当者コードを入力

②品番コードを入力

③数量を入力

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/2)	
フィールド	データ
日付	2016/02/25
時刻	15:28:04
担当者	123
品番	12345678
数量	5
戻る	< > 削除

出力したデータの履歴を確認できます。

画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・棚卸し画面に戻ります。

「<」・・・1件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1件か全件削除するか選択できます。

カウントアップ機能

数量入力時、同じバーコードデータを読み込んだ場合に、数量を自動的にカウントアップします。

数量入カスキップ機能

数量入力時、前回と異なるバーコードデータを読み取りした場合は、数量入力をスキップします。

8.3.2. PC アプリ

PC アプリの基本的な使用方法は、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■PC アプリ画面

PC アプリ

棚卸し

通信設定 マスター作成 更新 自動更新

棚卸し

全て 含む

CSV出力 在庫調整 クリア

品番	品番	商品名	単価	理論在庫	実棚数	2016/08/31	(差分)	棚卸し結果2
BT-W1000	大画面レー...	310000	4	0	4	-6		
BT-W1550	大画面力メ...	350000	1	0	1	-14		
BT-WUC10U	大画面用US...	60000	5	0	5	4		
BT-WUC10U	大画面用IA	60000	2	0	2	-2		

総在庫金額: 3,670,000 円 総数: 21 件 更新日時: 2016/08/31 20:11

棚卸しログ

全て 含む

全て 期間 2016/08/31 ~ 2016/08/31

日付	時刻	シリアル番号	担当者	品番	数量	更新結果
2016-08-31	20:09:44	BT-W85T_#5...	123	BT-W1000	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-W1550	1	OK
2016-08-31	20:09:45	BT-W85T_#5...	123	BT-WUC10U	2	OK
2016-08-31	20:09:46	BT-W85T_#5...	123	BT-W800	1	OK

更新日時: 2016/08/31 20:10

「在庫調整」ボタン

理論在庫と実棚数の比較結果を管理データベースに記録し、理論在庫に実棚数を反映します。

「クリア」ボタン

実棚数を削除します。

「CSV 出力」ボタン

テーブルの内容を CSV ファイルに出力します。CSV ファイルは、「PC アプリ起動フォルダー > PC フォルダー > Export フォルダー」に保存されます。

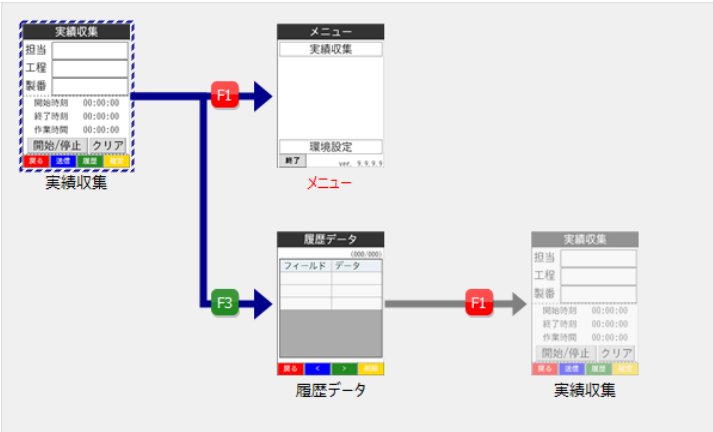
※CSV ファイルを棚卸しの理論在庫マスターに取り込む方法について

「PC アプリ起動フォルダー > PC フォルダー > Import フォルダー」に、「InventoryMaster.csv」を配置し「更新」ボタンを押すと、理論在庫マスターのテーブルに反映されます。

8.4. 実績収集

8.4.1. ハンディアプリ

■画面遷移



■実績収集画面

実績収集	
担当	123 ①
工程	111 ②
製番	123456789 ③
開始時刻	16:07:00
終了時刻	16:07:10
④ 作業時間	00:00:10
開始/停止 クリア	
戻る	送信 履歴 確定 ⑤

以下の順番で入力します。⑤から②に戻ります。

- ①担当者コードを入力
- ②工程番号を入力
- ③製品番号を入力
- ④ストップウォッチを開始／終了
- ⑤F4 キー／確定ボタンで、データを出力します。

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。
「送信」・・・データファイルを送信します。
「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。
「確定」・・・画面の内容で決定し、データを出力します。
「クリア」・・・ストップウォッチの表示データをクリアします。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/2)	
フィールド	データ
日付	2016/03/12
時刻	16:06:54
担当者	123
工程	222
製番	23456
開始時刻	16:06:42
戻る	< > 削除

出力したデータの履歴を確認できます。
画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・実績収集画面に戻ります。
「<」・・・1 件後の履歴データを表示します。
「>」・・・1 件前の履歴データを表示します。
「削除」・・・履歴データを削除します。1 件か全件削除するか選択できます。

8.4.2. PC アプリ

PC アプリの基本的な使用方法は、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■PC アプリ画面

PCアプリ

実績収集

実績収集

全て

含む

全て

期間

2016/09/01

~

2016/09/01

更新日時： 2016/09/01 10:49

通信設定

マスター作成

更新

自動更新

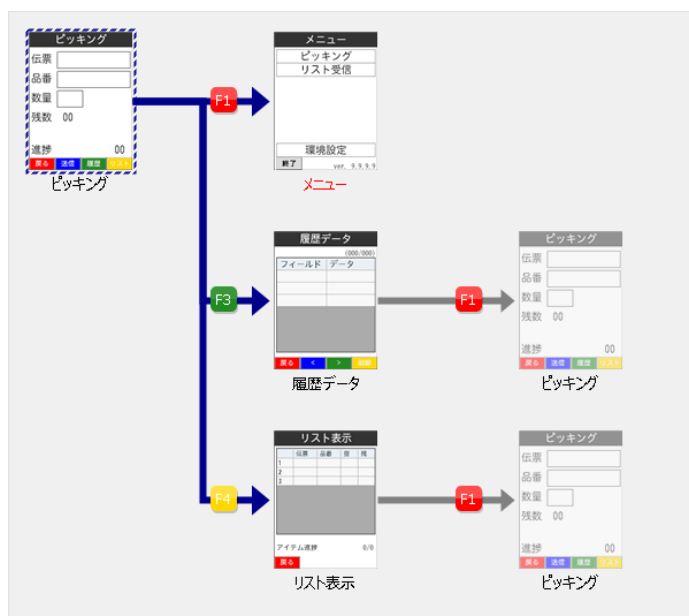
日付	時刻	シリアル番号	担当者	工程	製番	開始時刻	終了時刻	経過時間
2016-09-01	10:45:20	BT-W85T_#5...	0001	A-1	11111	10:45:07	10:45:17	00:00:10
2016-09-01	10:45:41	BT-W85T_#5...	0001	A-1	22222	10:45:33	10:45:40	00:00:07
2016-09-01	10:45:57	BT-W85T_#5...	0001	A-1	33333	10:45:48	10:45:55	00:00:07
2016-09-01	10:46:10	BT-W85T_#5...	0001	A-1	44444	10:46:01	10:46:09	00:00:08
2016-09-01	10:46:25	BT-W85T_#5...	0001	A-1	55555	10:46:15	10:46:25	00:00:10
2016-09-01	10:46:41	BT-W85T_#5...	0001	A-1	66666	10:46:29	10:46:40	00:00:11
2016-09-01	10:46:54	BT-W85T_#5...	0001	A-1	77777	10:46:46	10:46:53	00:00:07
2016-09-01	10:47:19	BT-W85T_#5...	0001	A-1	88888	10:47:03	10:47:14	00:00:11
2016-09-01	10:47:32	BT-W85T_#5...	0001	A-1	99999	10:47:27	10:47:31	00:00:04
2016-09-01	10:47:47	BT-W85T_#5...	0001	A-2	11111	10:47:39	10:47:47	00:00:08
2016-09-01	10:48:04	BT-W85T_#5...	0001	A-2	22222	10:47:57	10:48:02	00:00:05
2016-09-01	10:48:19	BT-W85T_#5...	0001	A-2	33333	10:48:13	10:48:18	00:00:05
2016-09-01	10:48:32	BT-W85T_#5...	0001	A-2	44444	10:48:25	10:48:31	00:00:07
2016-09-01	10:48:49	BT-W85T_#5...	0001	A-2	55555	10:48:36	10:48:45	00:00:09
2016-09-01	10:48:59	BT-W85T_#5...	0001	A-2	66666	10:48:55	10:48:58	00:00:03

実績収集の PC アプリはログデータベースのみで管理します。ハンディアプリから送信されたデータが蓄積されます。

8.5. ピッキング

8.5.1. ハンディアプリ

■画面遷移(ピッキング)



■ピッキング画面

ピッキング	
伝票	①
品番	②
数量	③
残数	00
進捗	00
戻る	送信
履歴	リスト

以下の順番で入力します。ハンディターミナル内に持たせたマスターファイルと入力データを照合して、ピッキング作業します。③を入力後、②に戻ります。

①伝票コードを入力

②品番コードを入力

③数量を入力

「戻る」・・・トップメニューに戻ります。

「送信」・・・データファイルを送信します。

「履歴」・・・履歴データ画面に遷移します。

「リスト」・・・リスト表示画面に遷移します。

■履歴データ画面

履歴データ	
(1/2)	
フィールド	データ
日付	2016/02/25
時刻	15:28:04
担当者	123
品番	12345678
数量	5
戻る	<
>	削除

出力したデータの履歴を確認できます。

画面中央のテーブルを選択し、ENT キーを押下すると、テーブル内の項目を選択できます。任意の項目を選択し、ENT キーを押下すると「データ」の編集ができます。

「戻る」・・・ピッキング画面に戻ります。

「<」・・・1件後の履歴データを表示します。

「>」・・・1件前の履歴データを表示します。

「削除」・・・履歴データを削除します。1件か全件削除するか選択できます。

■リスト表示画面

リスト表示				
	伝票	品番	指	残
1				
2				
3				

アイテム進捗 0/0

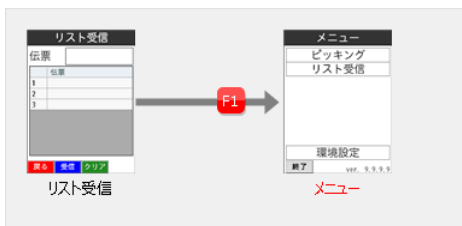
戻る

マスターファイルのデータを一覧で表示します。

ピッキングの残り作業や、その件数などを確認できます。

「戻る」・・・ピッキング画面に戻ります。

■画面遷移(リスト受信)



■リスト受信画面

リスト受信	
伝票	
伝票	
1	
2	
3	

戻る 受信 クリア

マスター照合パーツで設定したマスターファイルを受信できます。

伝票 No を読み込んで、作業するピッキングリストを絞り込むこともできます。

「戻る」・・・ピッキング画面に戻ります。

「受信」・・・伝票 No で絞り込んだピッキングリストを受信します。

伝票 No を読み込まずに押下した場合は、絞り込まずに受信します。

「クリア」・・・伝票 No のリストを消去します。

8.5.2. PC アプリ

PC アプリの基本的な使用方法は、「[7.2.PC アプリの使用方法](#)」を参照してください。

■PC アプリ画面

The screenshot displays the 'PC アプリ' (PC Application) window. At the top, there are buttons for '通信設定' (Communication Settings), 'マスター作成' (Master Creation), and '更新' (Update). Below these, the 'ピッキング' (Picking) section is active, showing a table with columns for '作業' (Work), 'アイテム' (Item), '指示数' (Instruction Count), and '残数' (Remaining Count). The table shows 6 instructions and 22 remaining items. To the right, a progress bar indicates 8% completion (22 remaining). Below the table, there is a '伝票No.' (Invoice No.) dropdown menu and a 'ピッキングログ' (Picking Log) section. The log table shows details for each picking operation, including date, time, serial number, invoice number, item number, quantity, and update result. The log shows four entries for 2016-09-01, all with 'OK' results. At the bottom right, the '更新日時' (Update Date/Time) is shown as 2016/09/01 11:25.

作業	アイテム	指示数	残数
6	24	6	22

伝票No.	品番	指示数	完了数	残数
11111	12345	1	1	0
11111	23456	5	5	0
11111	34567	10	5	5
11111	45678	20	15	5

日付	時刻	シリアル番号	伝票No.	品番	数量	更新結果
2016-09-01	11:24:08	BT-W85T_#5...	11111	12345	1	OK
2016-09-01	11:24:14	BT-W85T_#5...	11111	23456	5	OK
2016-09-01	11:24:19	BT-W85T_#5...	11111	34567	5	OK
2016-09-01	11:24:28	BT-W85T_#5...	11111	45678	15	OK

「進捗テーブル」ビュー

伝票数やアイテム数の指示数や完了数を表示して、作業の進捗を確認できます。

「進捗グラフ」ビュー

アイテム数の作業進捗状況を、プログレスバーで表示します。

「マスター作成」ボタン

通信ソフトで設定した送信フォルダーの CSV ファイルを、ハンディターミナルで使うマスターファイルに変換します。ハンディアプリで「リスト受信」する前に実行します。

※詳細については「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。

※CSV ファイルをピッキングマスターに取り込む方法について

「PC アプリ起動フォルダー > PC フォルダー > Import フォルダー」に、「PickingMaster.csv」を配置し「更新」ボタンを押すと、ピッキングのテーブルに反映されます。

「印刷」ボタン

伝票 No ごとのピッキング指示伝票を作成・印刷します。

Page.1

伝票



伝票No. : 11111

品番	指示数	入力数	残数
 12345	1	0	1
 23456	5	0	5
 34567	10	0	10
 45678	20	0	20

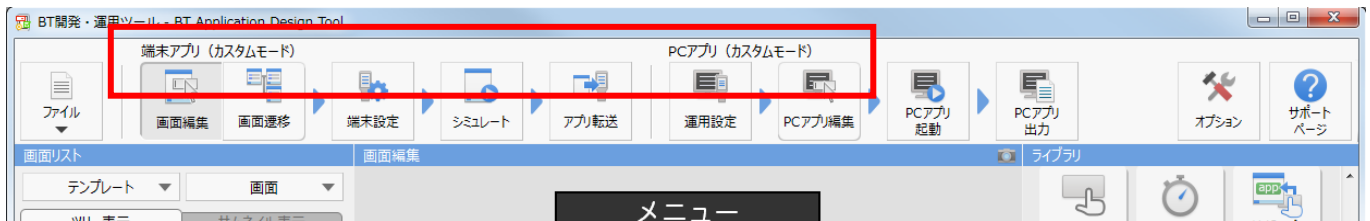
9. 技術 Tips

9.1. カスタムモード

BT 開発・運用ツールで作成したハンディアプリ、PC アプリをコード出力して、プログラム開発するモードです。ハンディアプリ、PC アプリそれぞれで、カスタムモードの有効／無効が設定できます。「[4.2.10.オプション](#)」で有効にしたときの操作方法について説明します。

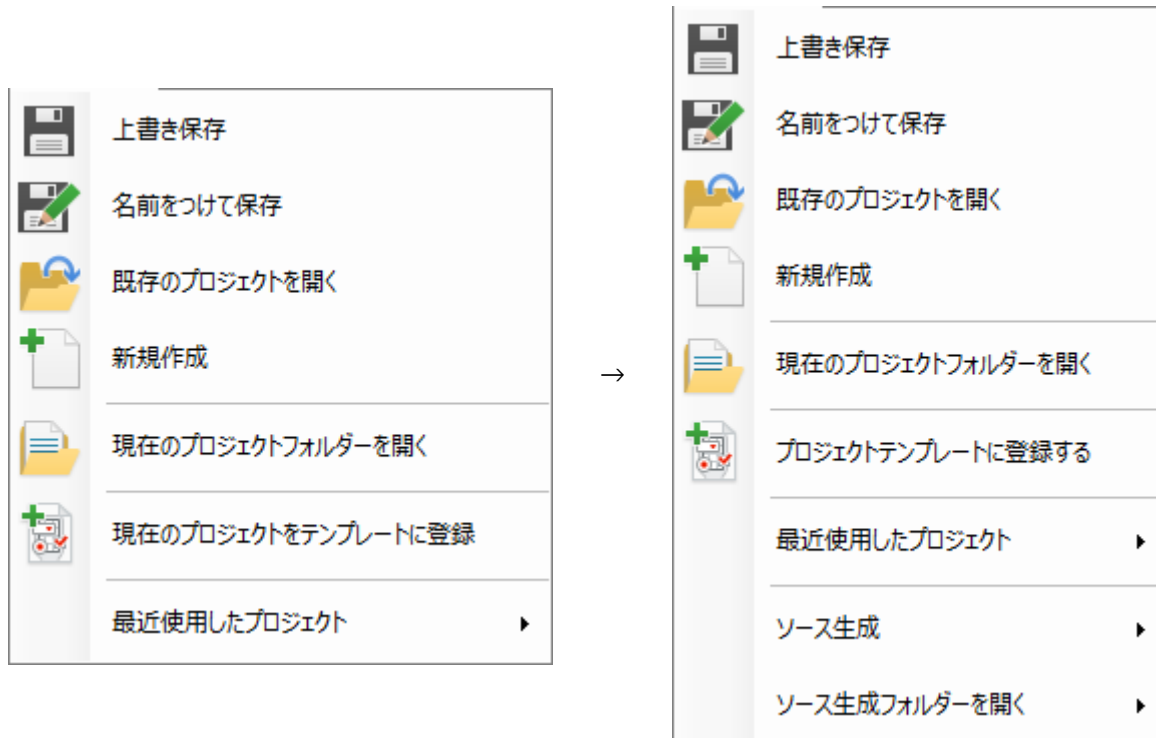
■画面の変化について

「[4.2.10.オプション](#)」でカスタムモードを有効にすると、端末アプリと PC アプリのそれぞれの表記に「(カスタムモード)」が付加されます。



■ファイルメニューの変化について

「[4.2.1.ファイル](#)」をクリックした時に表示されるメニューが、下記のように変化します。



ソース生成

端末アプリと PC アプリのソースを、「[4.2.10.オブション](#)」で選択しているプログラム言語で生成されます。

ソース生成フォルダーを開く

「ソース生成」で生成されたソースが保存されているフォルダーを開きます。

■コンパイルについて

端末アプリは「シミュレート」もしくは「アプリ転送」を実行したタイミングでコンパイルされます。PC アプリは「PC アプリ起動」もしくは「PC アプリ出力」を実行したタイミングでコンパイルされます。

■注意点

- ・カスタムモードでプログラム変更したプロジェクトは、その後、全てプログラムで開発していかなければなりません。
BT 開発・運用ツールの画面編集、PC アプリ編集に戻れなくなります。
- ・カスタムモード中に、端末アプリの「画面編集」、PC アプリの「PC アプリ編集」で設定変更しても、アプリケーションには反映されません。
- ・カスタムモードでプログラム変更中に「ソース生成」すると、修正中のプログラムが上書きされます。
誤って操作しないように、ご注意ください。

※シミュレートについて

「[4.2.10.オブション](#)」のプログラム言語に「Microsoft Visual Basic .NET」を選択した場合、シミュレートは実行できません。
実機で動作を確認してください。「キーエンススクリプト」を選択した場合は、シミュレートで動作確認できます。

※プログラム開発について

Microsoft Visual Basic .NET のコーディング方法につきましては、一般書籍や Web などをご参考ください。キーエンススクリプトについては、別途「BT 開発・運用ツール(BT-H1A) スクリプトリファレンス」をご確認ください。

9.2. BT-H10W で開発したアプリケーションを呼び出す方法

BT-H10W の BT アプリケーションビルダーで開発されたアプリケーションを、BT 開発・運用ツールで呼び出す方法について説明します。

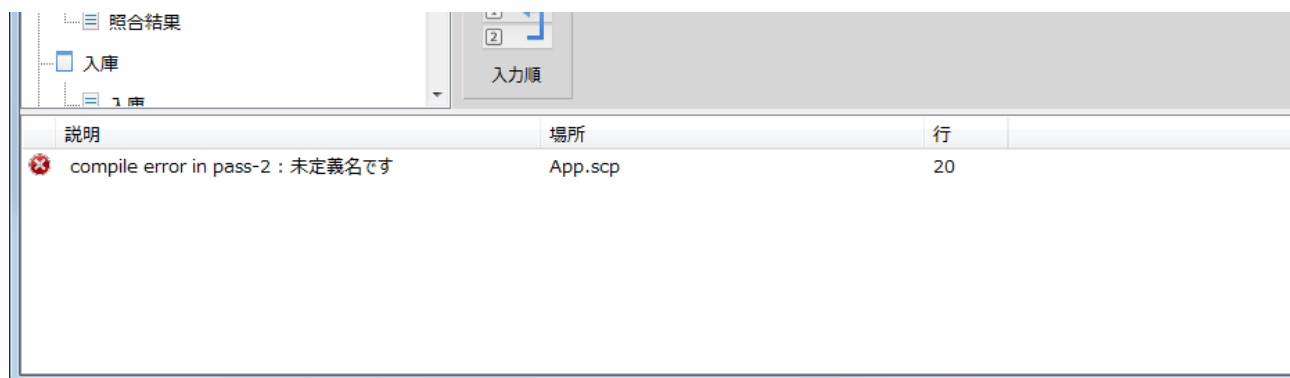
■設定方法

①BT-H10W の BT アプリケーションビルダーで開発していたスクリプトファイルを用意します。スクリプトファイルが無い場合は、事前に BT アプリケーションビルダーでソース生成する必要があります。

②BT 開発・運用ツールで外部アプリ実行ボタンを配置し、①で用意したスクリプトファイルを指定します。

※設定方法の詳細は「[5.3.3.外部アプリ実行ボタン](#)」を参照してください。

③「シミュレート」や「アプリ転送」を実行する際にコンパイルされます。コンパイルエラーが発生した場合は、下記のように出力されますので、該当箇所を修正してください。



説明	場所	行
compile error in pass-2 : 未定義名です	App.scp	20

■注意点

- BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズで、BT-3000 シリーズ以外のスクリプトを呼び出す場合は、エミュレートウィンドウを有効にします。Screen コントロールの compatibleType プロパティも合わせて設定してください。

例) BT-1000 シリーズのスクリプトを呼び出す場合

```
Window<"EMULATE_WINDOW">:visible = true
```

```
Screen:compatibleType = "BT-1000"
```

※BT-H10W の BT アプリケーションビルダーでソース生成した App.scp には、「シミュレート」や「アプリ転送」を実行時に、自動的に上記の修正が入ります。

9.3. 運用シチュエーションに応じた設定方法

9.3.1. 端末マスターファイルの自動更新

「[5.5.3 検索／表示コントロール](#)」などで使用しているマスターファイルを更新する際、事前に運用 PC 上で CSV ファイルを端末用マスターファイルに変換しておく必要があります。変換には通信ソフトの「端末マスターファイル作成」ボタンを、手動で押下して実行する必要がありますが、自動で更新する場合は通信ソフトのスケジュール通信機能を使います。

■設定方法

- ①通信ソフトの「運用方法の選択」で“端末からの通信を待ち受ける、かつ指定日時に PC アプリから通信を開始する”を選択します。
- ②「スケジュール通信」の「処理内容」で“端末マスターファイル作成”を選択します。
- ③マスターファイルの保存先や、スケジュールを指定し設定完了です。

※設定方法の詳細は「[7.3.通信ソフトの使用方法](#)」を参照してください。

9.3.2. WakeUp モードを使用した運用

ハンディターミナルから PC に対して、ファイルを送受信する運用が一般的ですが、PC からハンディターミナルに対して、ファイルを送受信する運用もできます。その場合は WakeUp モードを使用します。

■ハンディアプリの設定方法

- ①「[4.2.3.端末設定](#)」の「電源オフ時のモード」で“WakeUp モード”、「WakeUp モードの通信経路」で任意の通信経路を選択します。
- ②「[4.2.5.アプリ転送](#)」で、BT-W70/W80/W100/W300/W200 シリーズは「端末設定／端末アプリケーション転送後に端末を再起動する」、BT-600/1000 シリーズは「システムソフト／端末アプリケーションを転送する」を選択して転送します。

■PC アプリの設定方法

- ①通信ソフトの「運用方法の選択」で「端末からの通信を待ち受ける、かつ指定日時に PC アプリから通信を開始する」を選択します。
- ②「スケジュール通信」の「処理内容」で““ファイル送信”や“ファイル受信”を選択します。
- ③ファイルの保存先や、スケジュールを指定し設定完了です。

※WakeUp は「WakeUp モードが有効」かつ「電源オフ状態」かつ「端末が通信ユニット上で充電状態」の場合にのみ有効です。通信経路が無線 LAN の場合は、上記の条件に加えて無線 LAN がオープンされている必要があります。

※端末を通信ユニットに置いた直後、WakeUp が有効になるまで 1 分ほど時間がかかる場合があります。